

令和2年度

出雲市男女共同参画市民意識調査

— 報告書 —

令和3年2月

出雲市

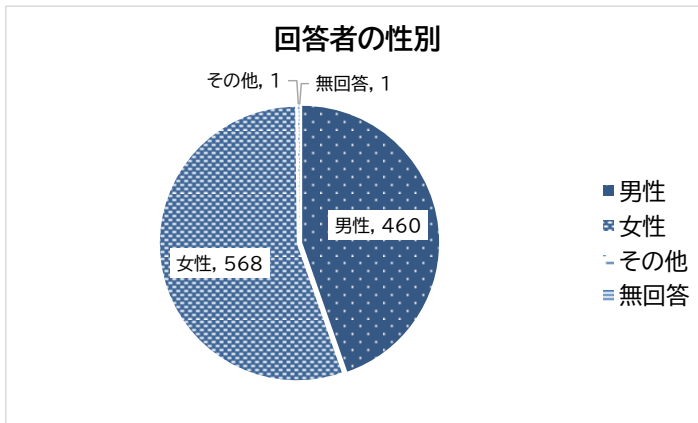
1	調査概要	…	1
2	回答者の属性等	…	2
3	男女の役割	…	5
4	問1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について 数値目標	…	5
5	問2 問1で「(3) あまり好ましくない」「(4) 反対である」と答えた理由	…	9
6	問3 各問であなたのお気持ちに最も近いもの	…	10
7	問4 男女の立場は平等になっていると思いますか 数値目標	…	21
8	仕事と家庭生活・地域活動・個人の生活	…	31
9	問5 女性と仕事についてどうお考えですか	…	31
10	問6 女性が仕事を続けていくことについて、現在社会がどのような状況にあると思いますか 数値目標	…	36
11	問7 問6で「(3) どちらかといえば仕事を続けにくい」「(4) 仕事を続けにくい」と答えた理由	…	38
12	問8 住んでいる地域の活動や共同作業等で、「ある」と思われるもの	…	40
13	問9 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度 数値目標	…	44
14	問10-1 生活の中での、「仕事」、「家庭」、「地域」、「個人の生活」の優先度	…	45
15	問10-2 あなたの現実（現状）に最も近いもの	…	47
16	問11 「家庭」、「地域」、「個人の生活」の時間が十分とれているか 新規設問	…	49
17	問12 家庭生活のなかで実際に行っていること	…	51
18	問13 男性・女性にかかわらず、家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参加するために必要なこと	…	61
19	人権	…	64
20	問14-1 「セクシュアル・ハラスメント」の認知度	…	64
21	問14-2 「セクシュアル・ハラスメント」被害の経験等	…	65
22	問15-1 「ドメスティック・バイオレンス」の認知度	…	66
23	問15-2 「ドメスティック・バイオレンス」被害の経験等	…	67
24	問16-1 「デートDV」の認知度 新規設問	…	67
25	問16-2 「デートDV」被害の経験等 新規設問	…	68
26	問17 ドメスティック・バイオレンスまたはデートDVの講習会の受講 新規設問	…	69
27	問18 女性（男性）に対する暴力などをなくすために、出雲市が行うべきこと	…	71
28	女性の社会参画	…	74
29	問19 市の施策に女性の意見や考え方（女性ならではの視点）が取り入れられていると思いますか。	…	74
30	問20 問19で「(3) あまり取り入れられていない」「(4) ほとんど（全く）取り入れられていない」と答えた理由	…	75
31	男女共同参画社会の実現	…	78
32	問21 男女共同参画社会の実現に重要だと思うこと	…	78
33	問22 自由意見	…	81

1. 調査概要

- (1) 調査名称 男女共同参画に関する市民意識調査
- (2) 調査目的 このアンケート調査は、平成28年度に策定した「第4次出雲市男女共同参画まちづくり行動計画(H29～H33)」の見直しにあたり、市民の皆さまの男女共同参画に関する意識や考えを把握し、今後の男女共同参画のまちづくりをより総合的・効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的に行った。
- (3) 調査方法
- ①調査対象 出雲市在住の満18歳以上の者（外国籍住民を含む）
 - ②標本数 2,000人
 - ③抽出方法 住民基本台帳による層化無作為抽出
 - ④抽出条件 各地域で層化し、年代ごとに人口を比例割当
ただし、男女は同数とし、また、同一世帯からは一人のみとした
 - ⑤調査方法 郵送法
 - ⑥調査期間 調査票発送 令和2年10月23日（金）
最終回答票の到着 令和2年12月14日（月）
- (4) 回答状況
- ①標本数 2,000人
 - ②有効回収数 1,030人（男性460人、女性568人、その他1人、無回答1人）
 - ③有効回収率 51.5%（前回42.5%）
- (5) その他
- ・ 各回答の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100.0%にはならないことがある。また、複数回答が可能な質問は、合計が100.0%を超えることがある。
 - ・ 前々回の調査は平成24年度に、前回の調査は平成28年度に実施している。
 - ・ 今回、調査対象者の年齢を18歳以上に引き下げたため、20歳以上で実施した平成28年度までの調査との比較には注意を要する。
 - ・ 今回、性別の選択で「その他」を設けたが、回答者が少なく分析に適さないため、各回答の回答状況（構成比等）は掲載していない。
 - ・ その他回答、自由意見は原文そのままを記載している。

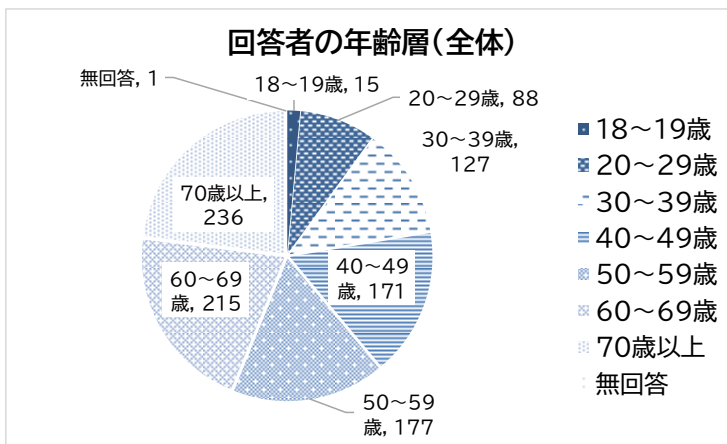
2. 回答者の属性等

(1) 性別 (単位：人)



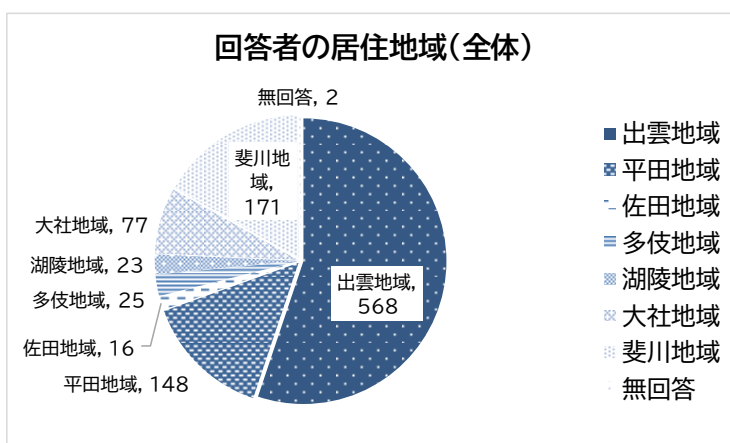
合計	男性	女性	その他	無回答
1,030	460	568	1	1

(2) 年齢 (単位：人)



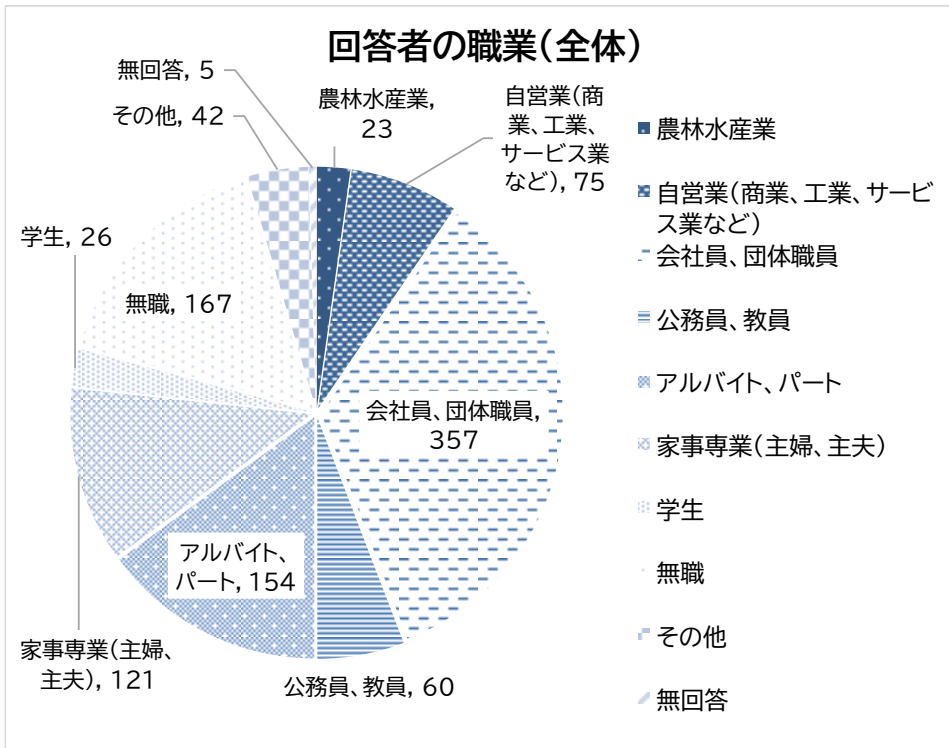
	全体	男性	女性
18～19歳	15	6	9
20～29歳	88	38	50
30～39歳	127	54	72
40～49歳	171	72	98
50～59歳	177	78	99
60～69歳	215	96	119
70歳以上	236	116	120
無回答	1	0	1

(3) 地域 (単位：人)



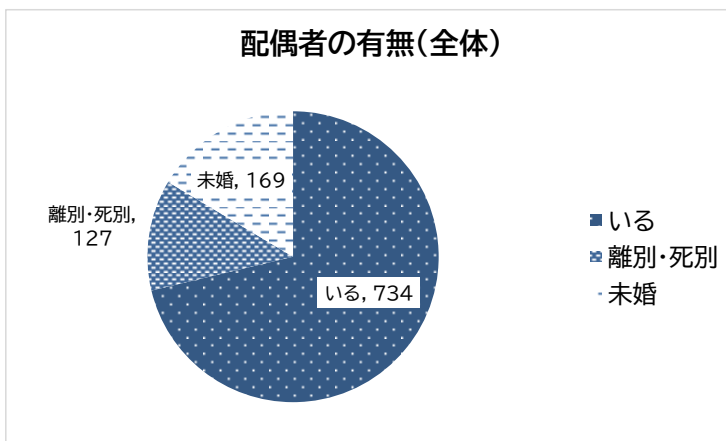
	全体	男性	女性
出雲地域	568	242	324
平田地域	148	71	77
佐田地域	16	7	9
多伎地域	25	12	13
湖陵地域	23	9	14
大社地域	77	36	41
斐川地域	171	83	88
無回答	2	0	2

(4) 職業 (単位：人)



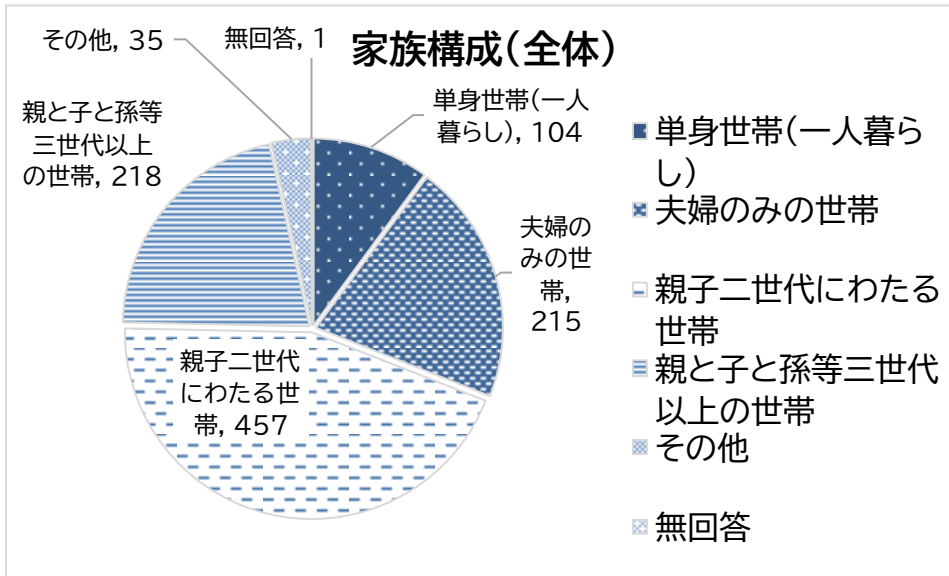
	全体	男性	女性
農林水産業	23	19	4
自営業(商業、工業、サービス業など)	75	43	32
会社員、団体職員	357	208	148
公務員、教員	60	26	34
アルバイト、パート	154	23	130
家事専業(主婦、主夫)	121	3	118
学生	26	15	11
無職	167	100	67
その他	42	21	21
無回答	5	2	3

(5) 配偶者 (パートナー) の有無 (単位：人)



	全体	男性	女性
いる	734	332	401
離別・死別	127	41	86
未婚	169	87	81
無回答	0	0	0

(6) 家族構成 (単位: 人)



	全体	男性	女性
単身世帯(一人暮らし)	104	47	57
夫婦のみの世帯	215	96	119
親子二世代にわたる世帯	457	210	245
親と子と孫等三世代以上の世帯	218	91	127
その他	35	16	19
無回答	1	0	1

3. 男女の役割

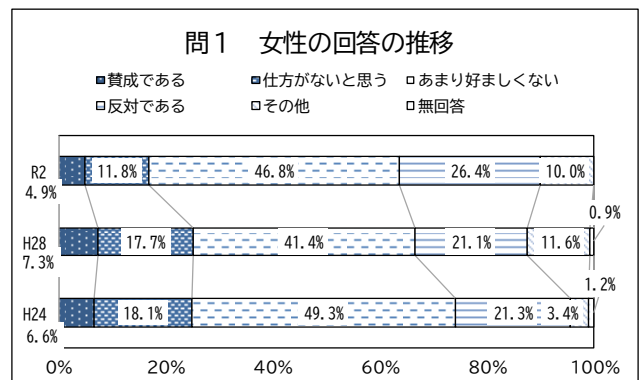
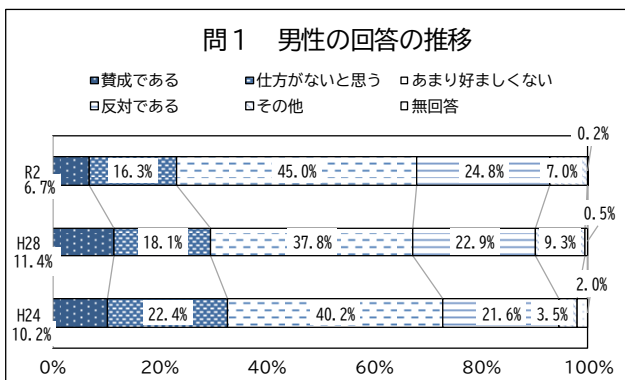
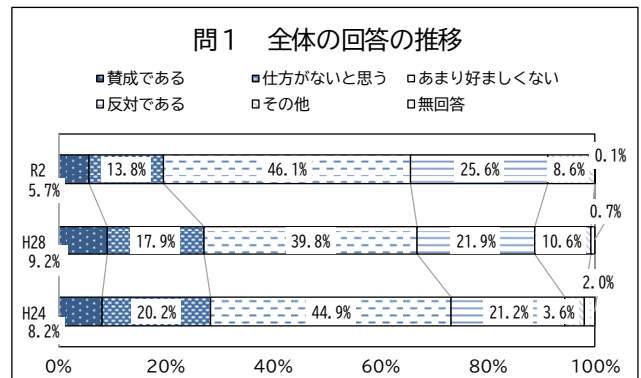
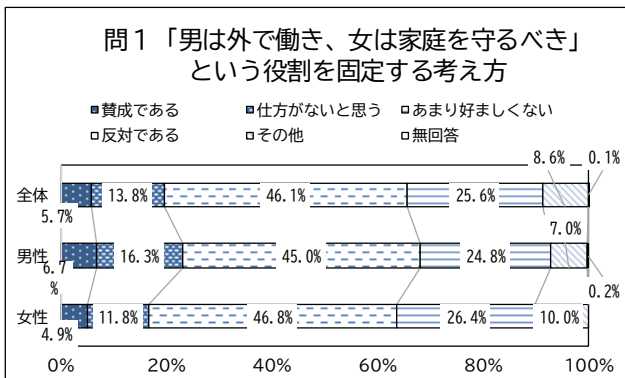
4 問1 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、次の中から、該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 賛成である
- (2) 仕方がないと思う
- (3) あまり好ましくない
- (4) 反対である
- (5) その他

数値目標
R3 目標値 75%

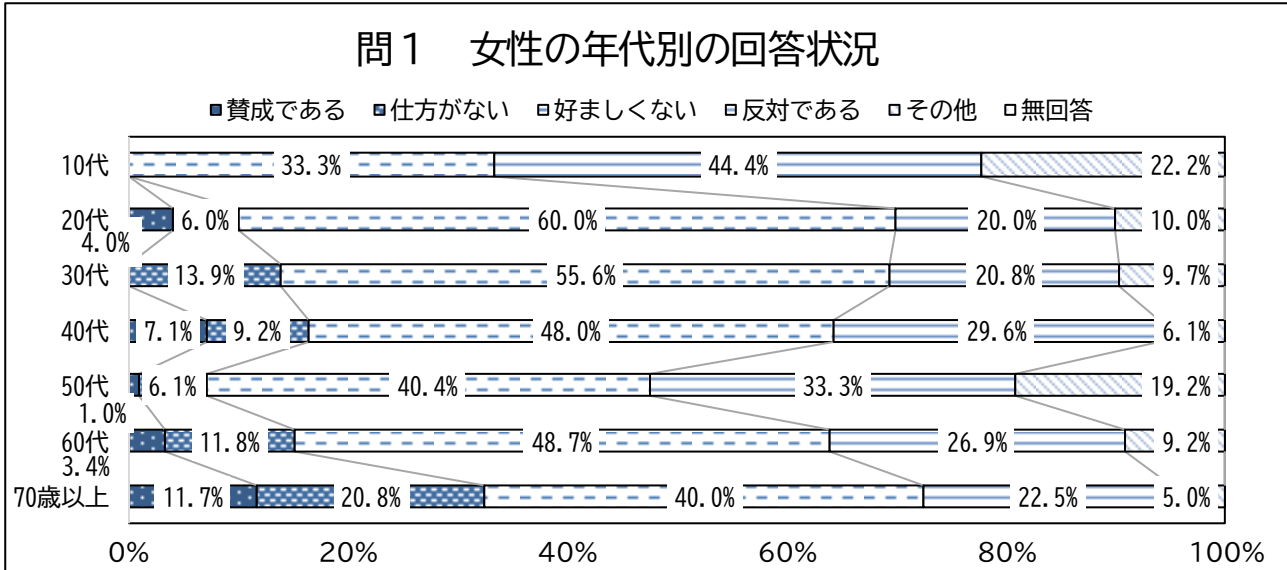
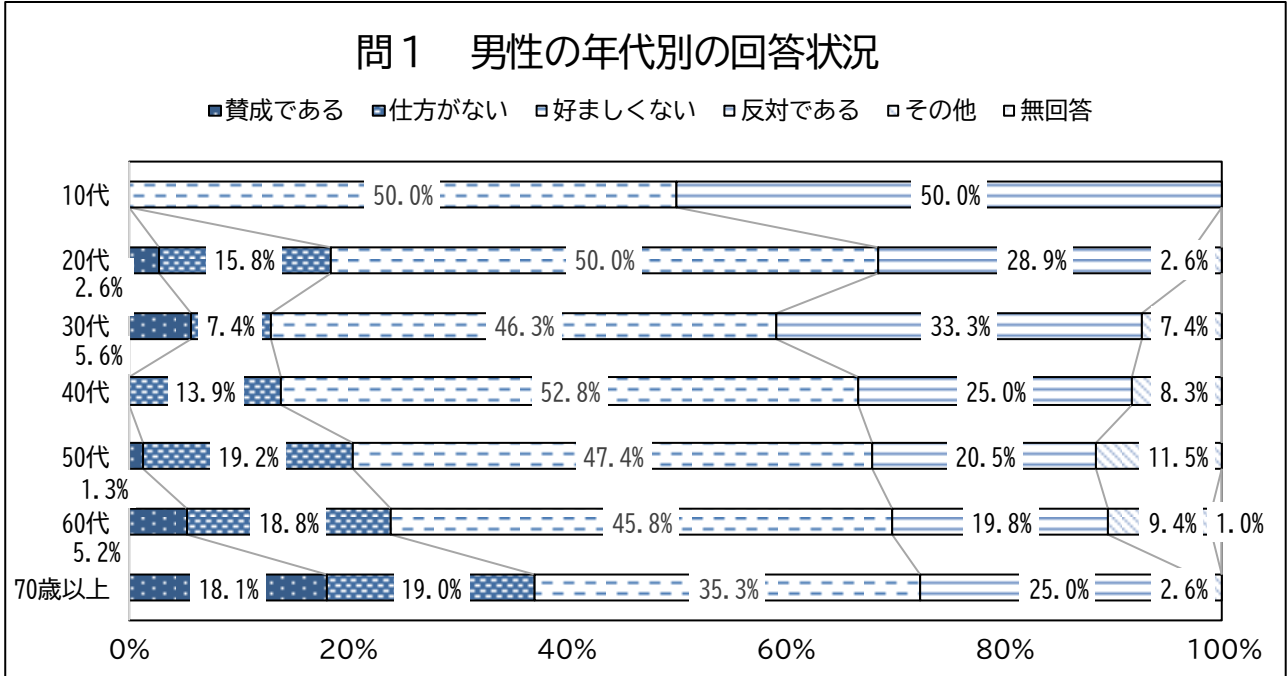
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
賛成である	5.7%	6.7%	4.9%	9.2%	11.4%	7.3%	8.2%	10.2%	6.6%
仕方がないと思う	13.8%	16.3%	11.8%	17.9%	18.1%	17.7%	20.2%	22.4%	18.1%
あまり好ましくない	46.1%	45.0%	46.8%	39.8%	37.8%	41.4%	44.9%	40.2%	49.3%
反対である	25.6%	24.8%	26.4%	21.9%	22.9%	21.1%	21.2%	21.6%	21.3%
その他	8.6%	7.0%	10.0%	10.6%	9.3%	11.6%	3.6%	3.5%	3.4%
無回答	0.1%	0.2%	0.0%	0.7%	0.5%	0.9%	2.0%	2.0%	1.2%



●年代別集計

	男性							女性						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
賛成である	0.0%	2.6%	5.6%	0.0%	1.3%	5.2%	18.1%	0.0%	4.0%	0.0%	7.1%	1.0%	3.4%	11.7%
仕方がない	0.0%	15.8%	7.4%	13.9%	19.2%	18.8%	19.0%	0.0%	6.0%	13.9%	9.2%	6.1%	11.8%	20.8%
好ましくない	50.0%	50.0%	46.3%	52.8%	47.4%	45.8%	35.3%	33.3%	60.0%	55.6%	48.0%	40.4%	48.7%	40.0%
反対である	50.0%	28.9%	33.3%	25.0%	20.5%	19.8%	25.0%	44.4%	20.0%	20.8%	29.6%	33.3%	26.9%	22.5%
その他	0.0%	2.6%	7.4%	8.3%	11.5%	9.4%	2.6%	22.2%	10.0%	9.7%	6.1%	19.2%	9.2%	5.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



分析

- ・男性の方が女性より固定的性別役割分担に肯定的な人（「賛成である」「仕方がない」）の割合が高い。
- ・年々、肯定的な人は男性も女性も減ってきており、前回調査から7.6%減少し19.5%となった。
- ・年代別集計では、10代では肯定的な人は男女とも0%となった。肯定者が増えたのは、20代男性（16.7%⇒18.4%）70歳以上男性（36.6%⇒37.1%）、70歳以上女性（30.7%⇒32.5%）でいずれの年齢もわずかに増加したが、その他の年代では減っている。

・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で、否定的な人（「あまり好ましくない」「反対である」）が71.7%となり、前回調査時61.7%より10%増加したものの、目標値75%にはわずかに及ばなかった。

その他の回答

お金は必要（60歳代・女）
家庭のあり方は個々の考えによりいろいろな「かたち」がある（70歳以上・女）
夫婦共働きで家事を分け合い問題は2人で相談して相手を尊重し合い、助け合いが理想（60歳代・男）
男女平等（50歳代・女）
その家庭にまかせお互い理解の上自由にすれば良い。（70歳以上・男）
賛成・反対ではなく、いろいろな型があつていいと思います。（60歳代・女）
そのような考え方の人もいても良いと思う。決めつける問題ではない。（50歳代・女）
特に決めつけることはない（60歳代・女）
親の介護の為無理をしいられている（50歳代・男）
男女の区別なく、やれる人がやれる事をやる（60歳代・男）
状況により替成（40歳代・女）
人それぞれ事情がある！！（50歳代・男）
賛成反対ではなく、共に得意な事を生かし、共働きしなくては生活出来ない現代では、共存という形が必要だと思う。（60歳代・女）
生計を立てる上では不可能です（共かせぎ）（70歳以上・男）
各自が選べばいい。年齢層にもよる（60歳代・男）
共に生活する上でそれぞれ共有していく（60歳代・女）
賛成とか反対とか言っている時点で視点がおかしい（40歳代・男）
場合によって良いと思う（同意があれば）（40歳代・男）
こだわりはない（50歳代・男）
適切ではない（40歳代・男）
今の生活程度では、夫婦働きが良いかも。子供は親と一緒に良い！（60歳代・男）
考え方は人それぞれだから他人に強制しなければどうでもいいと思う（20歳代・女）
男女平等（30歳代・男）
家庭ごとに都合があるし、賛成か反対か議論することが、そもそもおかしい。（50歳代・男）
どちらでもない（10歳代・女）
男が家庭を守り女が外で働く選択肢も有り（60歳代・男）
できる範囲で協力すれば良い（30歳代・女）
本人次第（70歳以上・男）
性別でなく、出来る方が家事をする（50歳代・男）
男女共に、働ける時に働き、育時は共に行う。（30歳代・女）
個々に考え方があるので（50歳代・女）
良いとか悪いとかでなく、それぞれのスタイルでやればいい（30歳代・男）
女性も働いた方が活気があって良い家庭内ではお互いに協力する事。（70歳以上・女）
時と場合によりどちらが外で働いてもよいと思う病気や失業は考え方とは関係なく訪れる（60歳代・男）
夫婦それぞれの考えがあり、双方が納得する形がベスト（20歳代・女）
それぞれパートナーと意見が一致していればいいと思う。（10歳代・女）
双方がそれを望んでいるのならそれで良いと思います周囲が決めることではないと思います（50歳代・女）
それぞれの家庭の自由であり、考え方は家庭によって違ってよい（50歳代・女）
今はこの様な考え方は古いと思っている（50歳代・女）
今の時代、どちらでも良いと思います（60歳代・男）
環境や状況、立場で、いろいろだと思う。（60歳代・女）
生活にある程度余裕があるならば出来れば女は、家庭を主とし仕事をするとしても、パート位で精神的にも余裕を持った方が良いかな…（70歳以上・女）
昔ながらの古風ある考えであると思います、今は女性もバリバリ外で働く時代でもある。あまり私自身もこの言葉、考えは好ましくなく、自由に自分らしく働けるのが一番であると考えてる。（20歳代・男）
そういう考え方の人がいても別に構わないが全員に強制させたり常識のように扱うのはおかしいと思う。もっと色ん

な多様性を認める社会になれば生きやすいと思う。(20歳代・女)

環境にもよると思う、人それぞれ(60歳代・男)

働き手がいればベースになる家庭を守るのは男女関係なくそれぞれに自分の家庭は守るべき(60歳代・女)

その家庭で決める事(50歳代・男)

多様な考え方があるのでこだわらなくて良いと思う 男性、女性にそれぞれの特性があるのでその特性を尊重し合いお互いに思い合って思いやりの家庭を築く事が理想。(60歳代・女)

家族で決めればよい。(70歳以上・男)

女性も働くべき、共働(70歳以上・男)

当人が良ければどちらでもいい(50歳代・女)

それぞれの家族の考え方で生きれば良い(60歳代・女)

各家庭のスタイルで良いと思う(50歳代・女)

各家庭によりいろいろなので、各家庭でいいようにすればよい。(50歳代・女)

金銭的に余裕があれば良いと思う(60歳代・女)

家庭それぞれで良いと思う「家庭を守る」のは男性も同じ(40歳代・女)

どちらでもない。その家で決めれば良い(50歳代・女)

出来る方が…。協力し合えばよいと思う(50歳代・女)

夫婦の意見が合えば、それが答えであり、正しいとか間違いなどないと思う。(40歳代・女)

現代社会ではそれぞれの家庭で違ってよいと思う(50歳代・女)

考え方の1つと言う認識(30歳代・女)

考えた事が無い(30歳代・女)

夫婦共働きでないと生産(農業であった)できない(70歳以上・女)

子育てをしている時はどちらかがなるべく家庭に居た方がよい(70歳以上・女)

子どもが幼少時代は母親が家庭を守ってほしい。子ども時代は2度とないので子どもを大切に育ててほしいと思う。(70歳以上・女)

個人の自由(30歳代・女)

その家庭に合った働き方を選択したらいいと思う(30歳代・男)

良いと思うが、今現代社会では共働きが当たり前だと思う。(30歳代・女)

各家庭の状況でやればよい。(60歳代・男)

どちらでもない(40歳代・男)

状況による、仕事をしてるかしてないか(40歳代・男)

その家でそれぞれでいいと思う(60歳代・女)

それぞれの家庭で色々な考えがあってもいいと思う。夫婦で同意見であればよいのでは？(40歳代・女)

強制はするべきでないが反対することも多様性の尊重に反する(30歳代・男)

各個人、各家庭の状況により様々であり、決めつけるものではない。(50歳代・女)

それぞれの家庭で事情が違う為(60歳代・女)

人それぞれだから。(30歳代・女)

どちらでもない、それぞれの家庭の経済的なことや考え方は違うので(50歳代・女)

女性で働きたくなく専業主婦がいいという人もいれば働き続けたい人もいるので、いろいろな考え方があるので、複数あるうちの一つの考え方としてとらえる。(無回答・女)

その家庭によって違うので、いいとも悪いとも思わない(50歳代・女)

どちらでもよい各々の家庭にまかすべき(50歳代・男)

2人が納得して各家庭に合えばどっちでもよい(50歳代・女)

どう考えるかは個人の自由(40歳代・女)

職場でも家庭でも男性と女性の役割があると思う。(70歳以上・女)

自由だと思う(40歳代・男)

基本的には賛成ではあるが、必ずしもそうするべきとは思わない(50歳代・女)

男の給与で養う事が出来るなら女は、家庭に在るべき(50歳代・男)

ケースバイケースどっちでもいい(50歳代・男)

どちらが働こうか家事をするかは個々で決めれば良い(60歳代・男)

そうしたければすればいいし、いやならしなければいい自由だ。(20歳代・女)

男女関係なく収入が多い方が外で働く、少ない方が家庭の事を多めにする(どちらも仕事は持って良い)(40歳代・女)

基本的には賛成であるが共働きの世情、状況に応じて家事は均等(50歳代・女)

人それぞれでいいと思う(20歳代・女)

当事者がそう考えれば、それでいいと思う。他人に対して、こうあるべきとは何も思わない (30 歳代 ・ 女)

こうあるべきとの考え方を持っていない (50 歳代 ・ 男)

子供を育てて学校を出すためには収入を得なければならないので夫婦で家事を分担すればよろしいのでは (60 歳代 ・ 女)

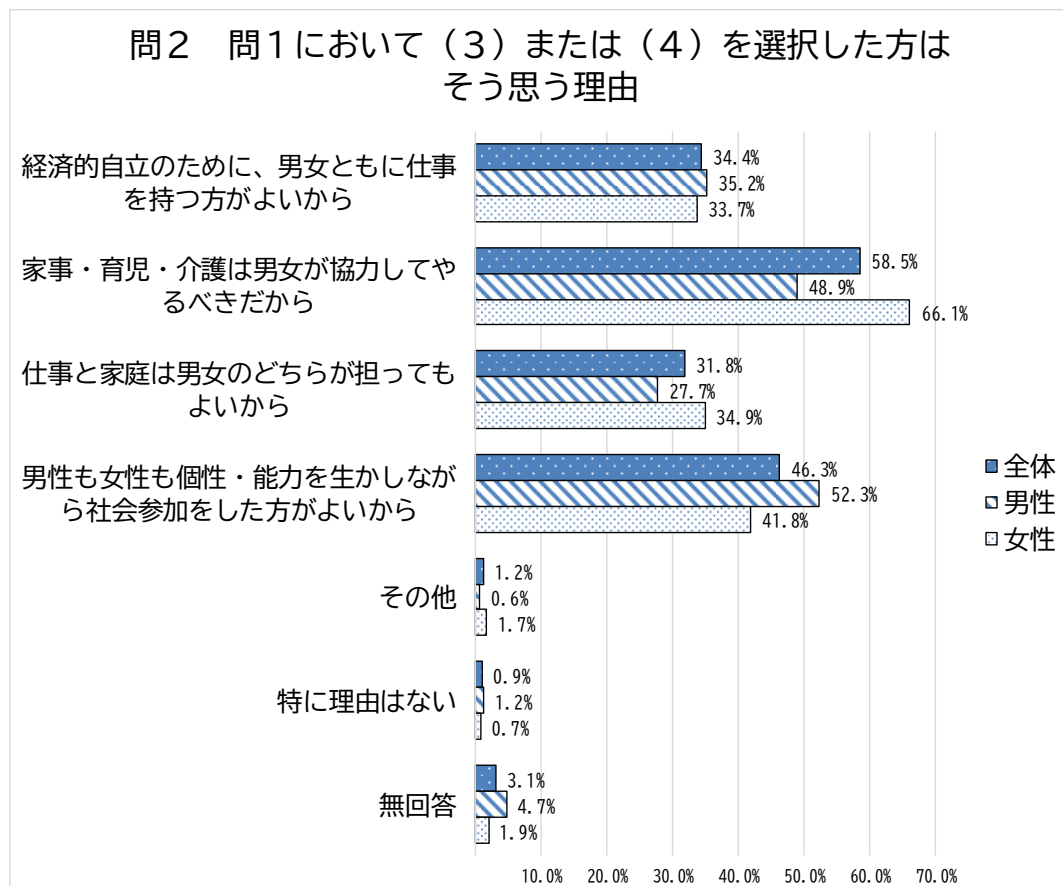
5 問2【問1で「(3) あまり好ましくない」「(4) 反対である」と答えた方のみお答えください。】

そう思う主な理由を次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- (1) 経済的自立のために、男女ともに仕事を持つ方がよいから
- (2) 家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから
- (3) 仕事と家庭は男女のどちらが担ってもよいから
- (4) 男性も女性も個性・能力を生かしながら社会参加をした方がよいから
- (5) その他 (具体的に：)
- (6) 特に理由はない

回答の状況

	全体	男性	女性
経済的自立のために、男女ともに仕事を持つ方がよいから	34.4%	35.2%	33.7%
家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから	58.5%	48.9%	66.1%
仕事と家庭は男女のどちらが担ってもよいから	31.8%	27.7%	34.9%
男性も女性も個性・能力を生かしながら社会参加をした方がよいから	46.3%	52.3%	41.8%
その他	1.2%	0.6%	1.7%
特に理由はない	0.9%	1.2%	0.7%
無回答	3.1%	4.7%	1.9%



分析

- ・ 固定的性別役割分担に反対するする主な理由は、「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」「男性も女性も個性・能力を生かしながら社会参加をした方がよいから」が多く、前回調査と同様の傾向である。
- ・ 女性は特に「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」の割合が多く、家庭での男女共同参画を望んでいる。

その他の回答

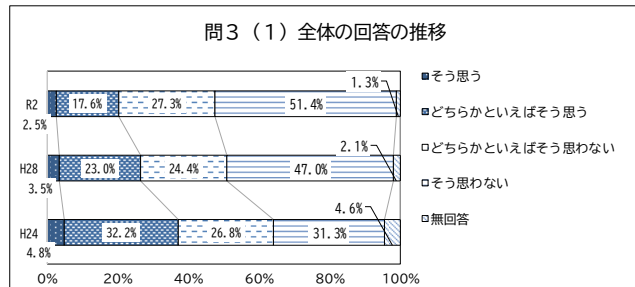
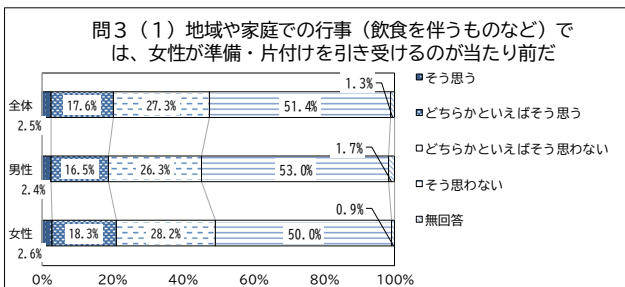
- 問1の考え方は時代遅れ、時代にマッチしていない (50歳代・女)
- 育児の時機は仕方ない (60歳代・男)
- 今の時代、各家庭色々な事情、様々な形があると思うから。 (40歳代・女)
- リスクヘッジ (40歳代・女)
- 両立させる事で輝く女性が多いと思います。男に頼りすぎない事が大切ですよ。 (60歳代・男)
- そもそも、その考え方が古いのでは？ (40歳代・男)
- 仕事も家庭内の事も、男女関係なく協力するべきだから。 (20歳代・女)
- 個人の考えによって決めるべき (30歳代・女)
- 問1に解答済み (70歳以上・女)
- 男性も女性もLGBTの方も個の存在として社会参加する自由と権利を持っているから。 (40歳代・女)
- それぞれの状況に合う分担や、協力できることはお互うすべき、仕事・家庭のことに「性別」を絡めて考えるのは本来すべきじゃない関係ないこと (20歳代・女)

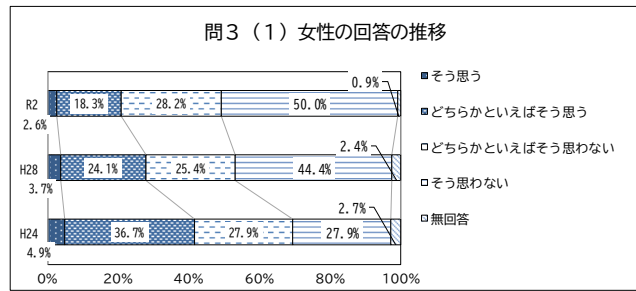
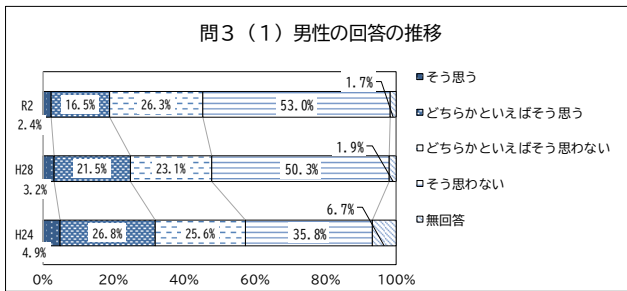
6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(1) 地域や家庭での行事(飲食を伴うものなど)では、女性が準備・片付けを引き受けるのが当たり前だ

回答の状況

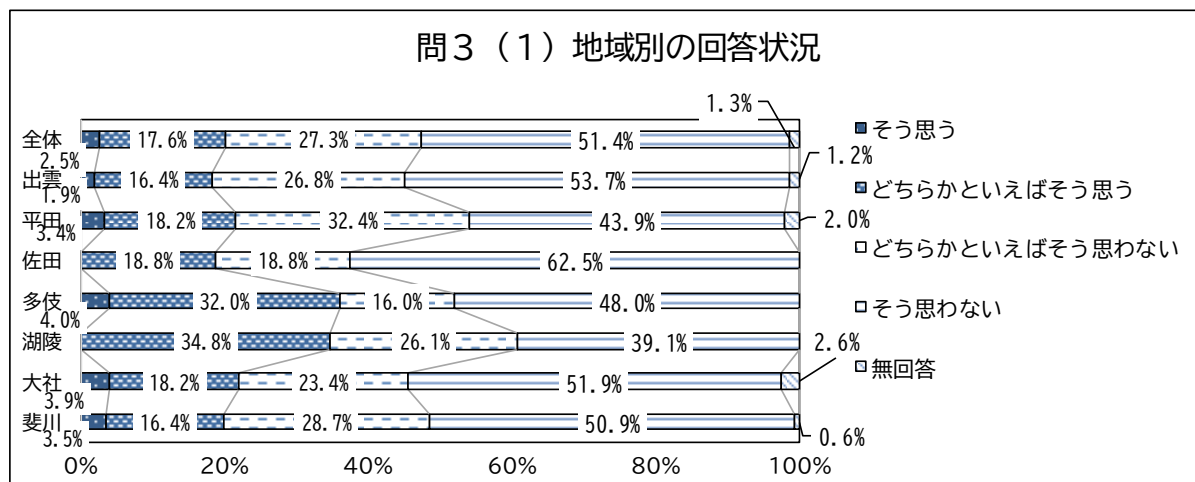
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	2.5%	2.4%	2.6%	3.5%	3.2%	3.7%	4.8%	4.9%	4.9%
どちらかといえばそう思う	17.6%	16.5%	18.3%	23.0%	21.5%	24.1%	32.2%	26.8%	36.7%
どちらかといえばそう思わない	27.3%	26.3%	28.2%	24.4%	23.1%	25.4%	26.8%	25.6%	27.9%
そう思わない	51.4%	53.0%	50.0%	47.0%	50.3%	44.4%	31.3%	35.8%	27.9%
無回答	1.3%	1.7%	0.9%	2.1%	1.9%	2.4%	4.6%	6.7%	2.7%





地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	2.5%	1.9%	3.4%	0.0%	4.0%	0.0%	3.9%	3.5%
どちらかといえばそう思う	17.6%	16.4%	18.2%	18.8%	32.0%	34.8%	18.2%	16.4%
どちらかといえばそう思わない	27.3%	26.8%	32.4%	18.8%	16.0%	26.1%	23.4%	28.7%
そう思わない	51.4%	53.7%	43.9%	62.5%	48.0%	39.1%	51.9%	50.9%
無回答	1.3%	1.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.6%



分析

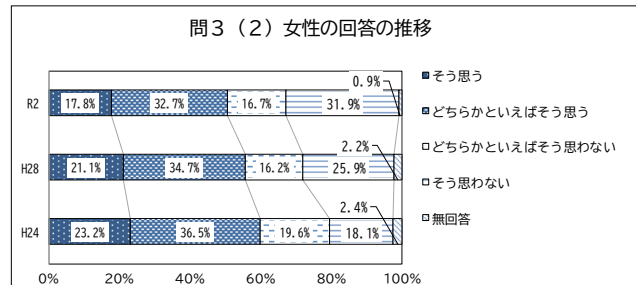
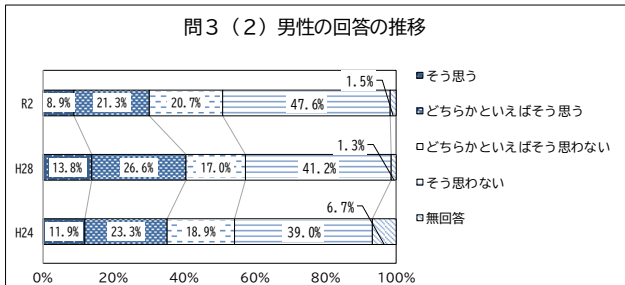
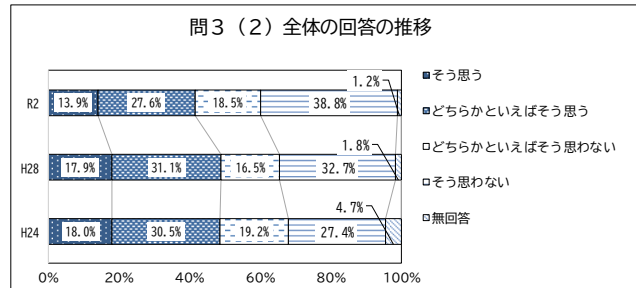
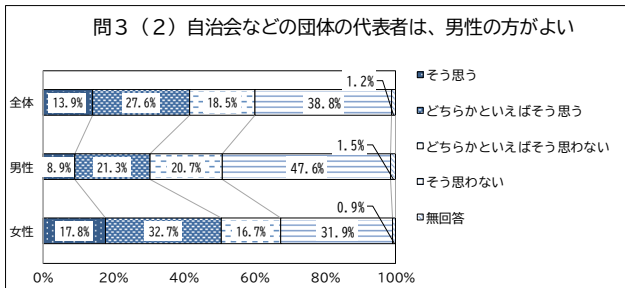
- ・女性が準備・片付けを引き受けるのが当たり前だという意識は、調査をするごとに減ってきている。
- ・今回調査では、男女ともに約8割の人が、女性が準備・片付けを引き受けるのが当たり前という意識に否定的であり、男女で差がほとんどなかった。
- ・地域別の結果では、多伎地域と湖陵地域で肯定的な意見が多かった。

6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(2) 自治会などの団体の代表者は、男性の方がよい

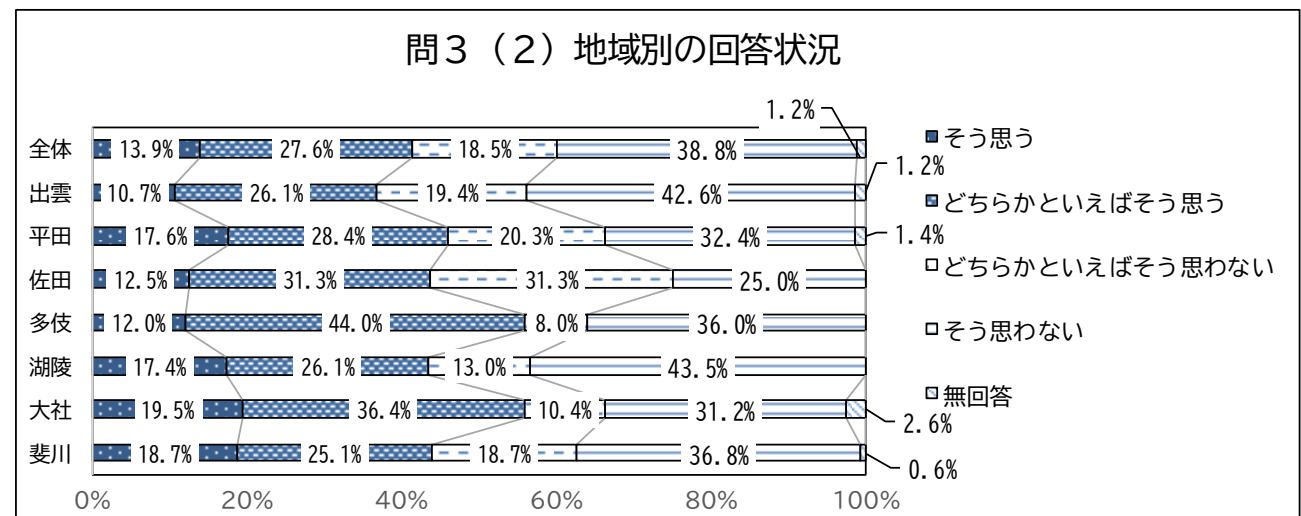
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	13.9%	8.9%	17.8%	17.9%	13.8%	21.1%	18.0%	11.9%	23.2%
どちらかといえばそう思う	27.6%	21.3%	32.7%	31.1%	26.6%	34.7%	30.5%	23.3%	36.5%
どちらかといえばそう思わない	18.5%	20.7%	16.7%	16.5%	17.0%	16.2%	19.2%	18.9%	19.6%
そう思わない	38.8%	47.6%	31.9%	32.7%	41.2%	25.9%	27.4%	39.0%	18.1%
無回答	1.2%	1.5%	0.9%	1.8%	1.3%	2.2%	4.7%	6.7%	2.4%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
■ そう思う	13.9%	10.7%	17.6%	12.5%	12.0%	17.4%	19.5%	18.7%
■ どちらかといえばそう思う	27.6%	26.1%	28.4%	31.3%	44.0%	26.1%	36.4%	25.1%
□ どちらかといえばそう思わない	18.5%	19.4%	20.3%	31.3%	8.0%	13.0%	10.4%	18.7%
□ そう思わない	38.8%	42.6%	32.4%	25.0%	36.0%	43.5%	31.2%	36.8%
□ 無回答	1.2%	1.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.6%



分析

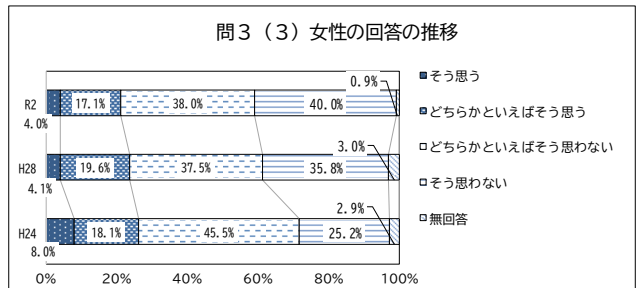
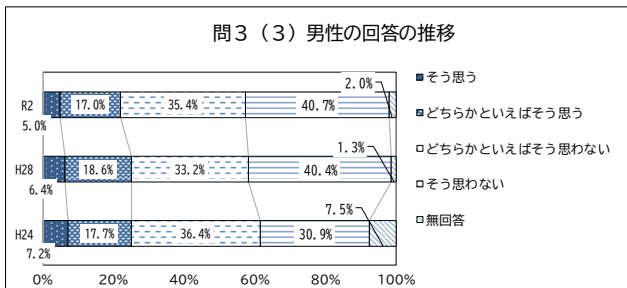
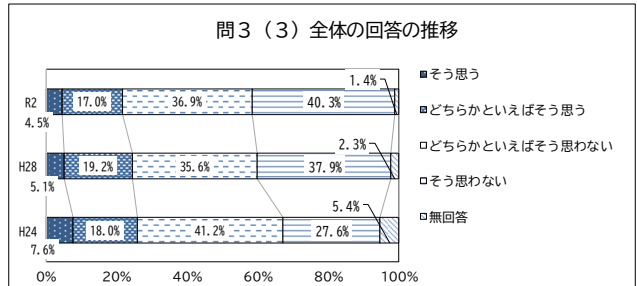
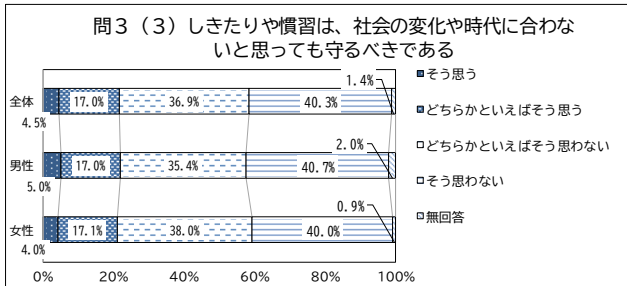
- ・自治会などの団体の代表者に男性になる方がいいという意識は、調査をするごとに減ってきている。
- ・女性は、自治会などの団体の代表者に男性になる方がいいと 50.5%が回答しており、男性の役割と考えている人が多い。
- ・地域別には、多伎、大社地域で、5割を超える人が男性になる方がいいと回答している。

6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(3) しきたりや慣習は、社会の変化や時代に合わないと思っても守るべきである

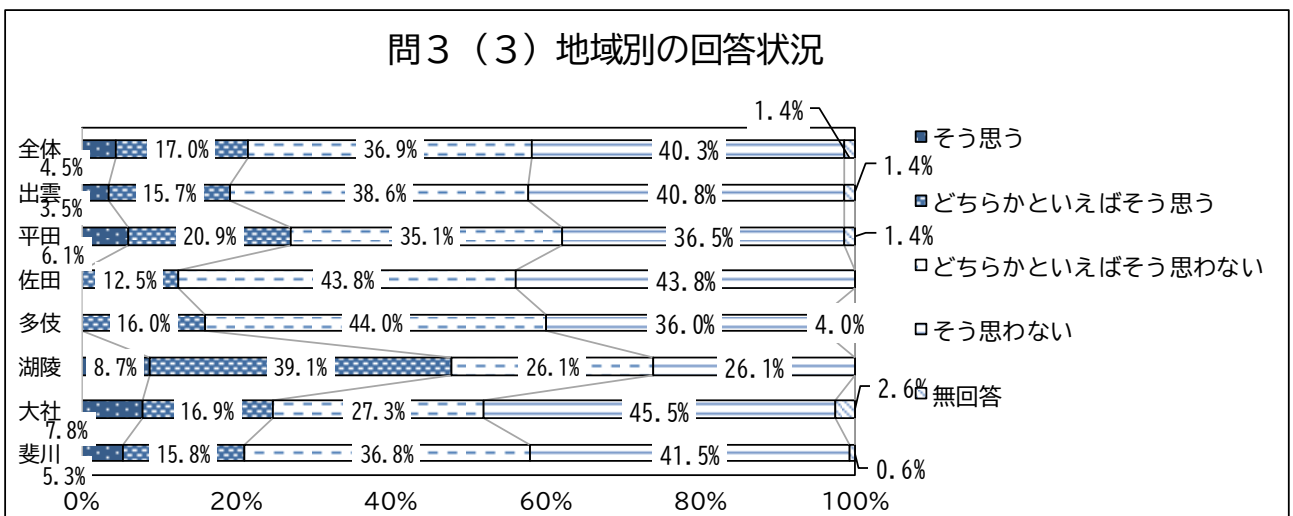
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	4.5%	5.0%	4.0%	5.1%	6.4%	4.1%	7.6%	7.2%	8.0%
どちらかといえばそう思う	17.0%	17.0%	17.1%	19.2%	18.6%	19.6%	18.0%	17.7%	18.1%
どちらかといえばそう思わない	36.9%	35.4%	38.0%	35.6%	33.2%	37.5%	41.2%	36.4%	45.5%
そう思わない	40.3%	40.7%	40.0%	37.9%	40.4%	35.8%	27.6%	30.9%	25.2%
無回答	1.4%	2.0%	0.9%	2.3%	1.3%	3.0%	5.4%	7.5%	2.9%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	4.5%	3.5%	6.1%	0.0%	0.0%	8.7%	7.8%	5.3%
どちらかといえばそう思う	17.0%	15.7%	20.9%	12.5%	16.0%	39.1%	16.9%	15.8%
どちらかといえばそう思わない	36.9%	38.6%	35.1%	43.8%	44.0%	26.1%	27.3%	36.8%
そう思わない	40.3%	40.8%	36.5%	43.8%	36.0%	26.1%	45.5%	41.5%
無回答	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	4.0%	0.0%	2.6%	0.6%



分析

・しきたりや慣習は、社会の変化や時代に合わないと思っても守るべきであるという意識は、調査をするごとに減ってきており、今回は21.5%となった。

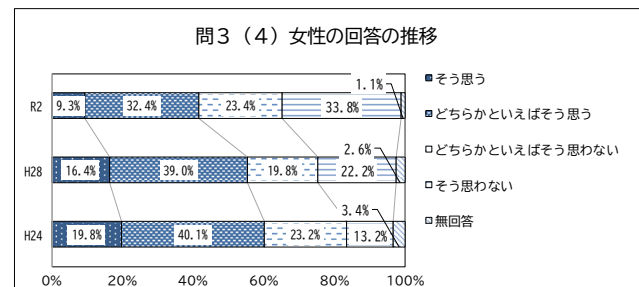
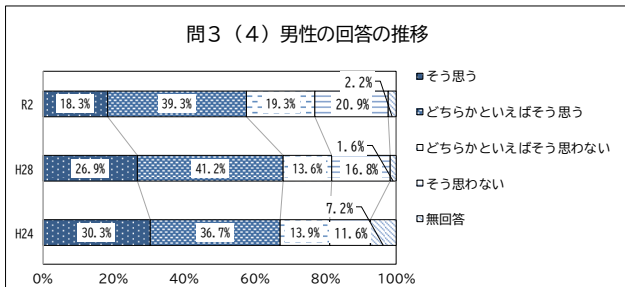
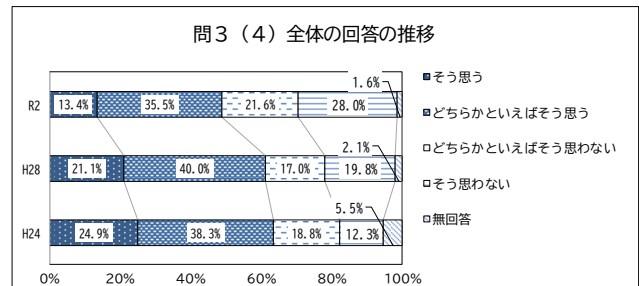
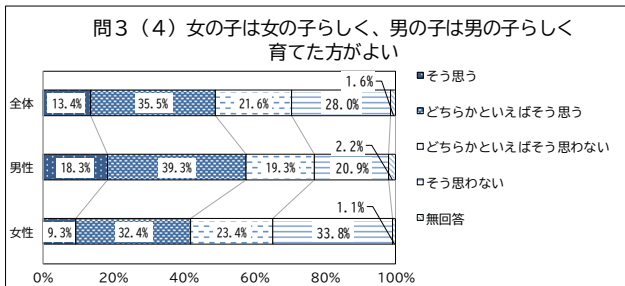
- ・この結果は男女で差がほとんどなく、時代とともに考え方が変わってきたきたものと思われる。
- ・地域別には、湖陵地域で保守的な回答が多かった。

6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(4) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

回答の状況

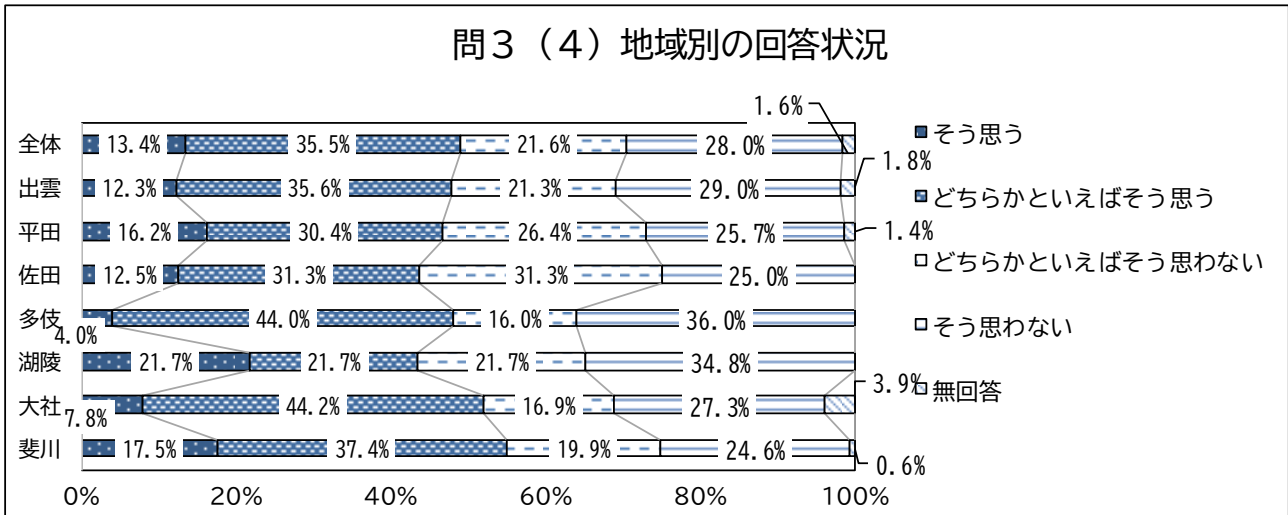
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	13.4%	18.3%	9.3%	21.1%	26.9%	16.4%	24.9%	30.3%	19.8%
どちらかといえばそう思う	35.5%	39.3%	32.4%	40.0%	41.2%	39.0%	38.3%	36.7%	40.1%
どちらかといえばそう思わない	21.6%	19.3%	23.4%	17.0%	13.6%	19.8%	18.8%	13.9%	23.2%
そう思わない	28.0%	20.9%	33.8%	19.8%	16.8%	22.2%	12.3%	11.6%	13.2%
無回答	1.6%	2.2%	1.1%	2.1%	1.6%	2.6%	5.5%	7.2%	3.4%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	13.4%	12.3%	16.2%	12.5%	4.0%	21.7%	7.8%	17.5%
どちらかといえばそう思う	35.5%	35.6%	30.4%	31.3%	44.0%	21.7%	44.2%	37.4%
どちらかといえばそう思わない	21.6%	21.3%	26.4%	31.3%	16.0%	21.7%	16.9%	19.9%
そう思わない	28.0%	29.0%	25.7%	25.0%	36.0%	34.8%	27.3%	24.6%
無回答	1.6%	1.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.6%

問3（4）地域別の回答状況



分析

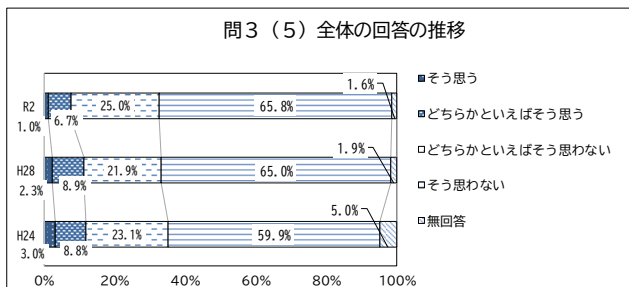
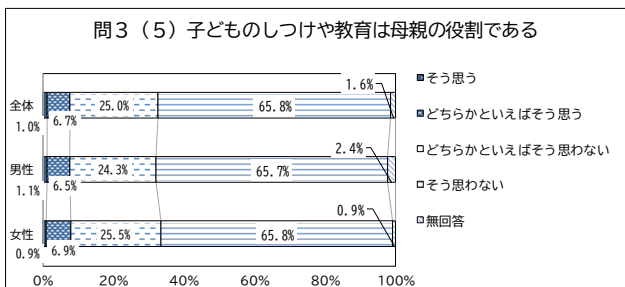
- ・「らしさ」を肯定する人は、前回から10%以上減った（前回61.1%⇒今回48.9%）が、5割弱の人が肯定する結果となった。
- ・「らしさ」を肯定する回答は、男性の方が高い（男性57.6%、女性41.7%）傾向にある。
- ・地域での大きな差はない。

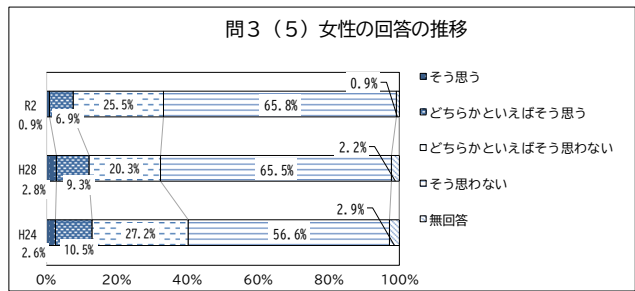
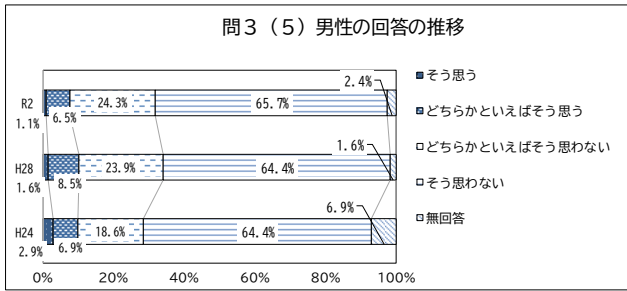
6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(5) 子どものしつけや教育は母親の役割である

回答の状況

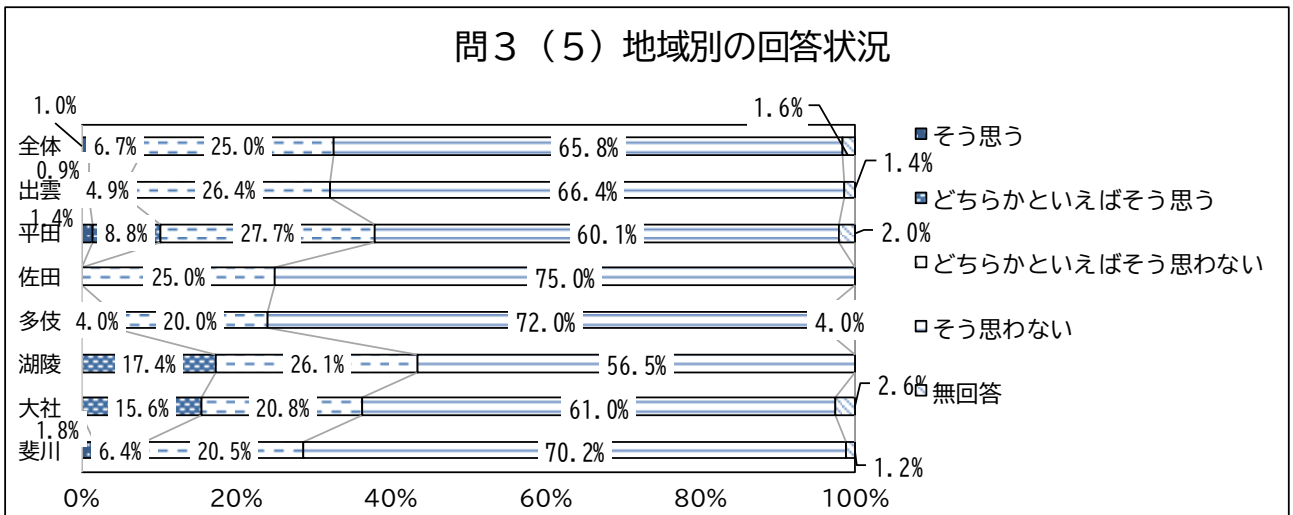
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	1.0%	1.1%	0.9%	2.3%	1.6%	2.8%	3.0%	2.9%	2.6%
どちらかといえばそう思う	6.7%	6.5%	6.9%	8.9%	8.5%	9.3%	8.8%	6.9%	10.5%
どちらかといえばそう思わない	25.0%	24.3%	25.5%	21.9%	23.9%	20.3%	23.1%	18.6%	27.2%
そう思わない	65.8%	65.7%	65.8%	65.0%	64.4%	65.5%	59.9%	64.4%	56.6%
無回答	1.6%	2.4%	0.9%	1.9%	1.6%	2.2%	5.0%	6.9%	2.9%





地域別

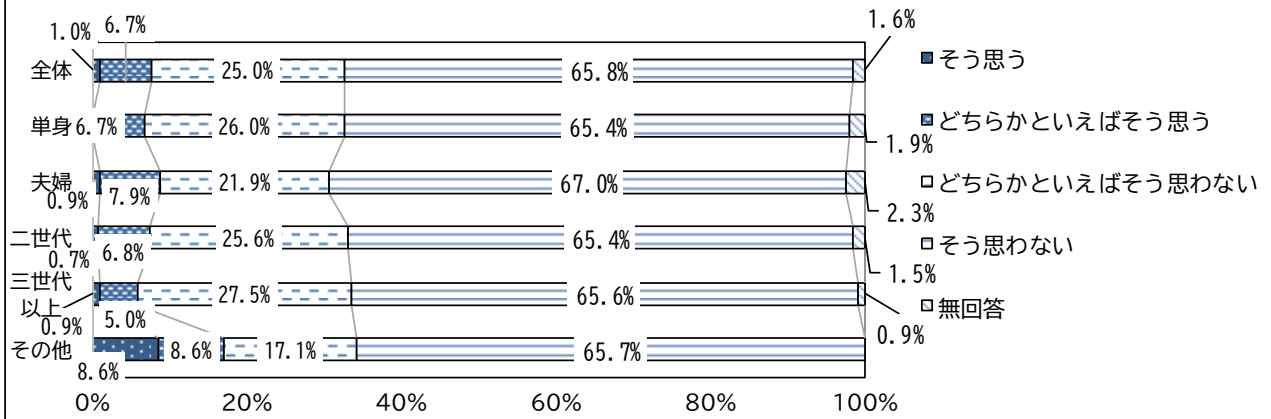
	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	1.0%	0.9%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
どちらかといえばそう思う	6.7%	4.9%	8.8%	0.0%	4.0%	17.4%	15.6%	6.4%
どちらかといえばそう思わない	25.0%	26.4%	27.7%	25.0%	20.0%	26.1%	20.8%	20.5%
そう思わない	65.8%	66.4%	60.1%	75.0%	72.0%	56.5%	61.0%	70.2%
無回答	1.6%	1.4%	2.0%	0.0%	4.0%	0.0%	2.6%	1.2%



世帯構成別

	全体	単身	夫婦	二世帯	三世帯以上	その他
そう思う	1.0%	0.0%	0.9%	0.7%	0.9%	8.6%
どちらかといえばそう思う	6.7%	6.7%	7.9%	6.8%	5.0%	8.6%
どちらかといえばそう思わない	25.0%	26.0%	21.9%	25.6%	27.5%	17.1%
そう思わない	65.8%	65.4%	67.0%	65.4%	65.6%	65.7%
無回答	1.6%	1.9%	2.3%	1.5%	0.9%	0.0%

問3（5）世帯構成別の回答状況



分析

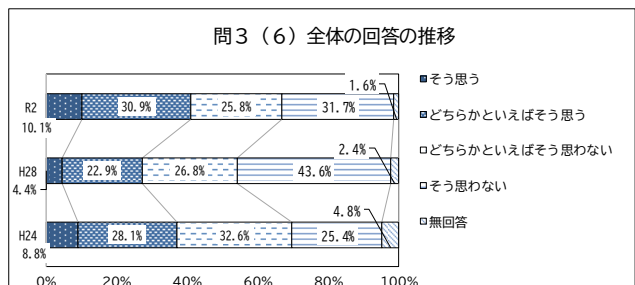
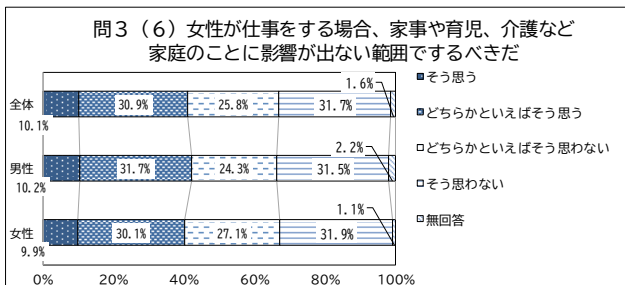
- ・子供のしつけや教育を母親の責任と考えている人は、全体で7.7%となり前回から3.5%減少した。男女とも同様の結果となった。
- ・地域別では、湖陵、大社地域で子供のしつけや教育を母親の責任と考えている人が15%以上あった。
- ・世帯構成別では、その他世帯で子供のしつけや教育を母親の責任と考えている人が17%程度あったが、それ以外は全体と同様の結果となっている。

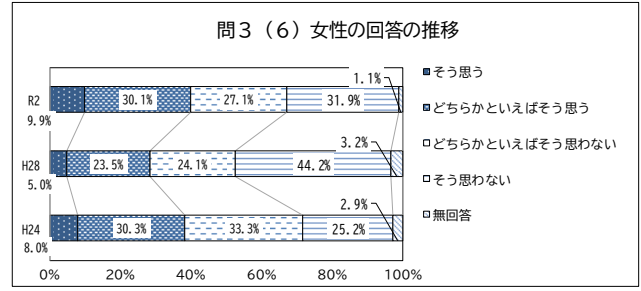
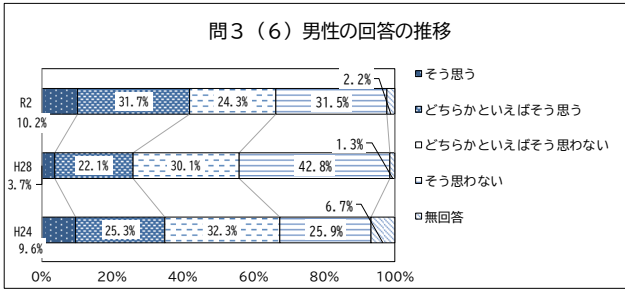
6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(6) 女性が仕事をする場合、家事や育児、介護など家庭のことに影響が出ない範囲ですべきだ

回答の状況

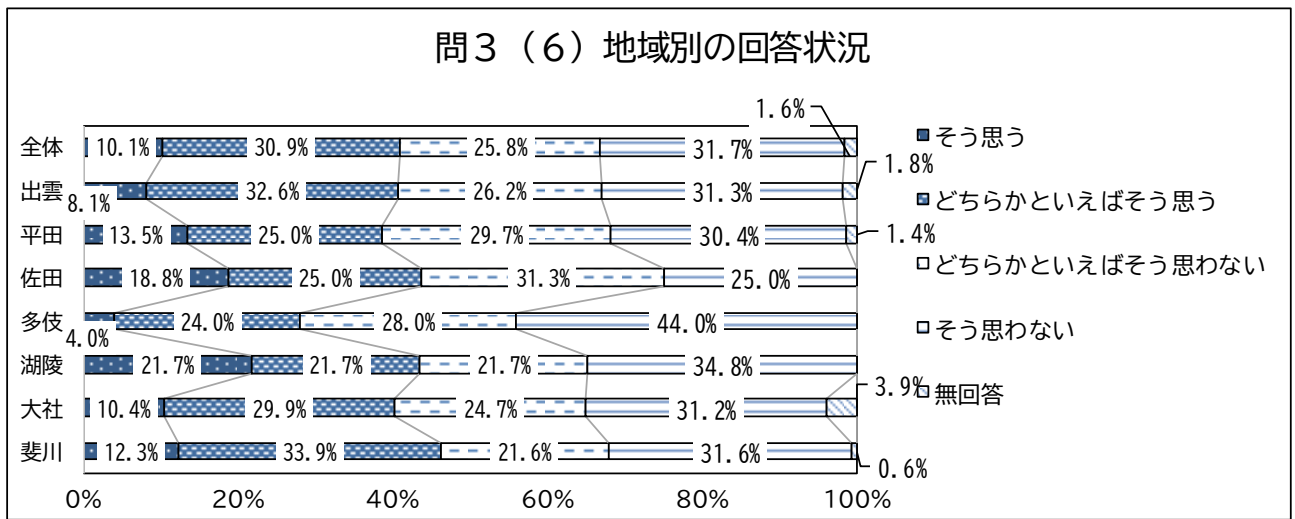
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	10.1%	10.2%	9.9%	4.4%	3.7%	5.0%	8.8%	9.6%	8.0%
どちらかといえばそう思う	30.9%	31.7%	30.1%	22.9%	22.1%	23.5%	28.1%	25.3%	30.3%
どちらかといえばそう思わない	25.8%	24.3%	27.1%	26.8%	30.1%	24.1%	32.6%	32.3%	33.3%
そう思わない	31.7%	31.5%	31.9%	43.6%	42.8%	44.2%	25.4%	25.9%	25.2%
無回答	1.6%	2.2%	1.1%	2.4%	1.3%	3.2%	4.8%	6.7%	2.9%





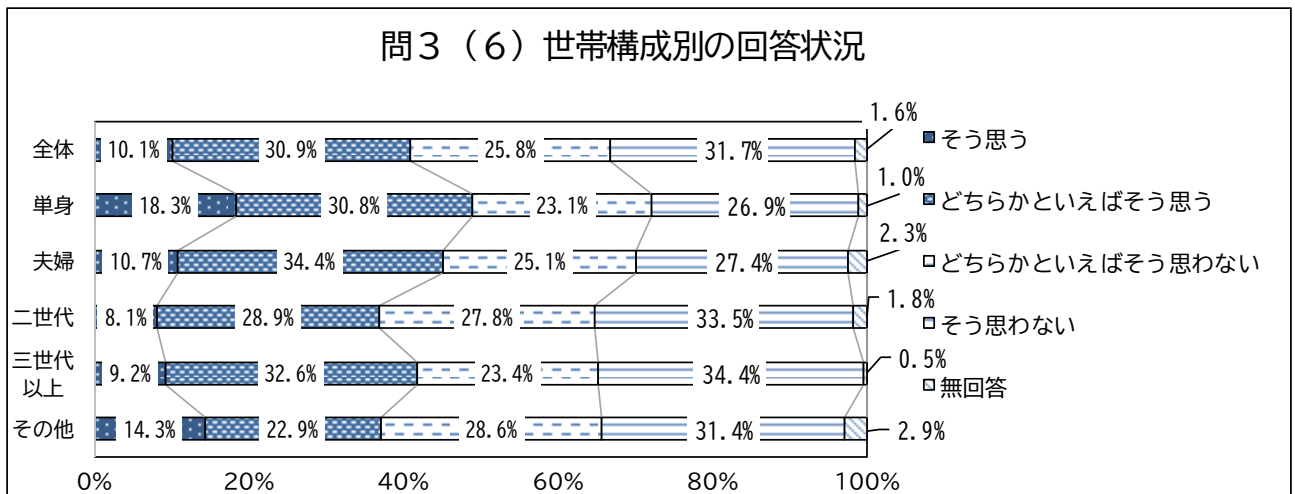
地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	10.1%	8.1%	13.5%	18.8%	4.0%	21.7%	10.4%	12.3%
どちらかといえばそう思う	30.9%	32.6%	25.0%	25.0%	24.0%	21.7%	29.9%	33.9%
どちらかといえばそう思わない	25.8%	26.2%	29.7%	31.3%	28.0%	21.7%	24.7%	21.6%
そう思わない	31.7%	31.3%	30.4%	25.0%	44.0%	34.8%	31.2%	31.6%
無回答	1.6%	1.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	0.6%



世帯構成別

	全体	単身	夫婦	二世帯	三世帯以上	その他
そう思う	10.1%	18.3%	10.7%	8.1%	9.2%	14.3%
どちらかといえばそう思う	30.9%	30.8%	34.4%	28.9%	32.6%	22.9%
どちらかといえばそう思わない	25.8%	23.1%	25.1%	27.8%	23.4%	28.6%
そう思わない	31.7%	26.9%	27.4%	33.5%	34.4%	31.4%
無回答	1.6%	1.0%	2.3%	1.8%	0.5%	2.9%



分析

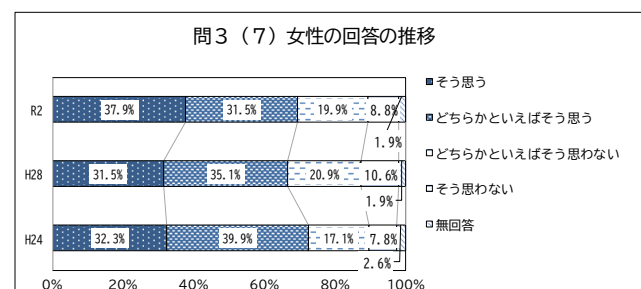
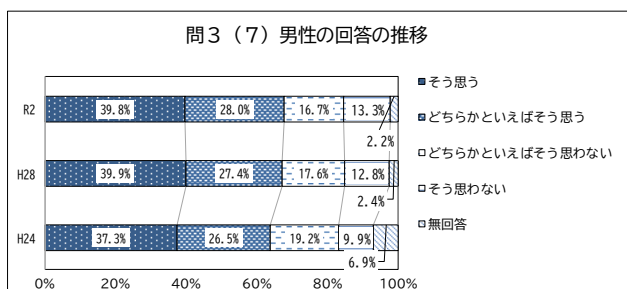
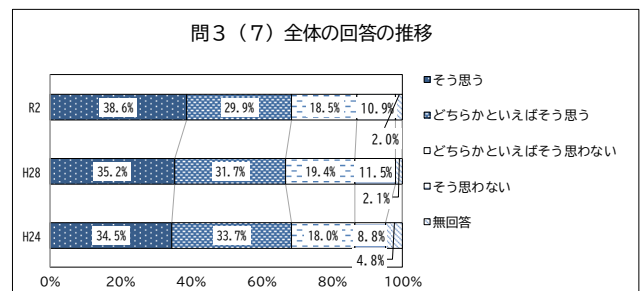
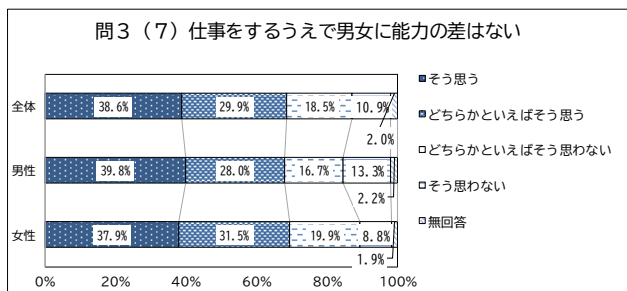
- ・「女性は家庭が優先」という考えに肯定的な人が、前回調査から 13.7%増えて 41%となった。これは、前々回調査H24 調査結果 (36.9%) より高くなっている。
- ・今回調査で設問の表現を変更した影響が出た可能性が考えられる。「女性は家事や育児、介護など家庭のことをしてから仕事に出た方がいい」(H28) だったものを、「女性が仕事をする場合、家事や育児、介護など家庭のことに影響が出ない範囲ですべきだ」(R2) と変更し、はっきりと家庭優先の意識を問うものに変更している。なお、前回 (H28) も、前々回 (H24) とは表現を変更している。
- ・「女性は家庭が優先」とする意識は、性別に関係なく 4 割の人が肯定的であった。
- ・地域別では、多伎地域で「女性は家庭が優先」を否定する回答が他地域より高かった。
- ・世帯構成別では、単身世帯で「そうである」とした回答が 18.3%と特に高かった。

6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(7) 仕事をするうえで男女に能力の差はない

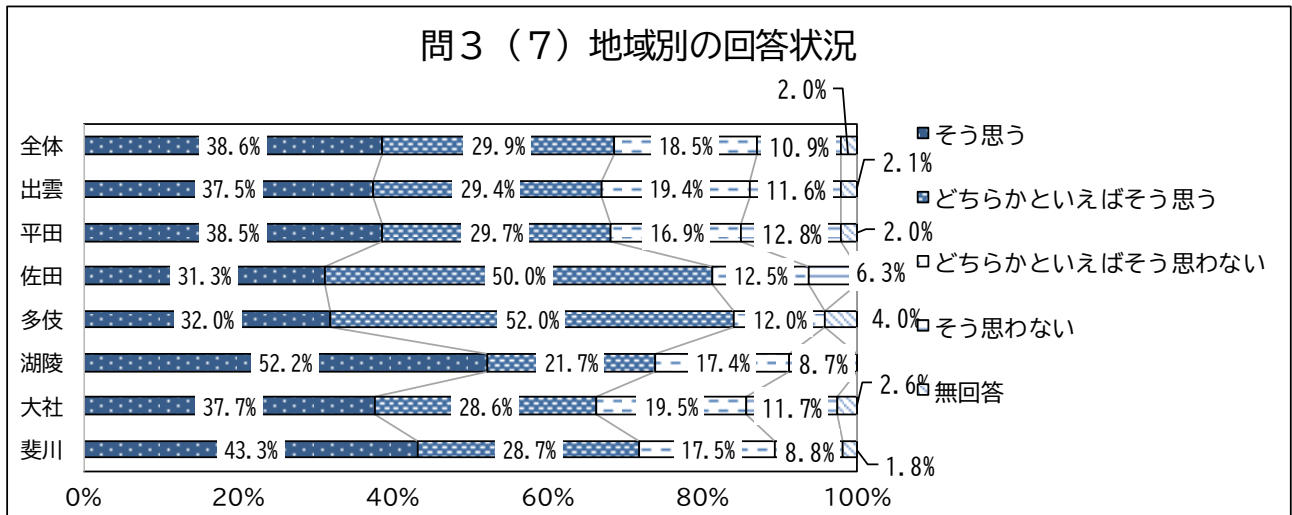
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	38.6%	39.8%	37.9%	35.2%	39.9%	31.5%	34.5%	37.3%	32.3%
どちらかといえばそう思う	29.9%	28.0%	31.5%	31.7%	27.4%	35.1%	33.7%	26.5%	39.9%
どちらかといえばそう思わない	18.5%	16.7%	19.9%	19.4%	17.6%	20.9%	18.0%	19.2%	17.1%
そう思わない	10.9%	13.3%	8.8%	11.5%	12.8%	10.6%	8.8%	9.9%	7.8%
無回答	2.0%	2.2%	1.9%	2.1%	2.4%	1.9%	4.8%	6.9%	2.6%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	38.6%	37.5%	38.5%	31.3%	32.0%	52.2%	37.7%	43.3%
どちらかといえばそう思う	29.9%	29.4%	29.7%	50.0%	52.0%	21.7%	28.6%	28.7%
どちらかといえばそう思わない	18.5%	19.4%	16.9%	12.5%	12.0%	17.4%	19.5%	17.5%
そう思わない	10.9%	11.6%	12.8%	6.3%	0.0%	8.7%	11.7%	8.8%
無回答	2.0%	2.1%	2.0%	0.0%	4.0%	0.0%	2.6%	1.8%



分析

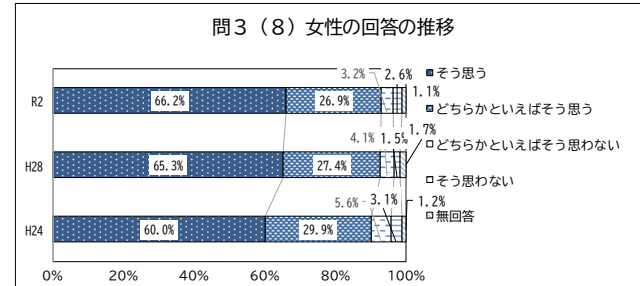
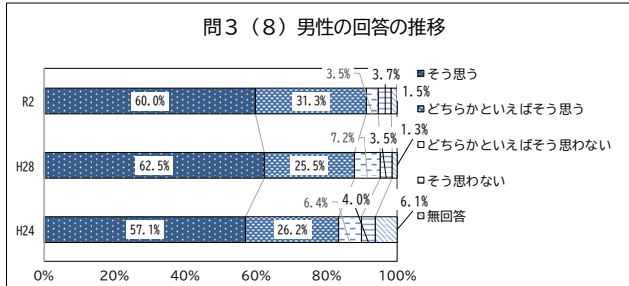
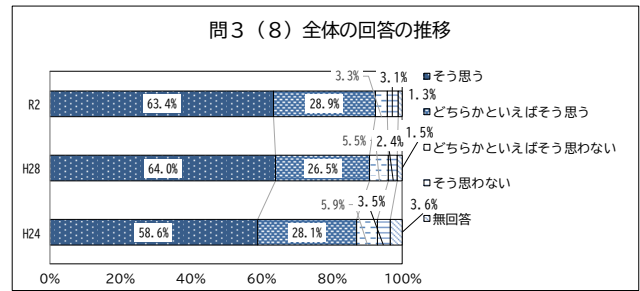
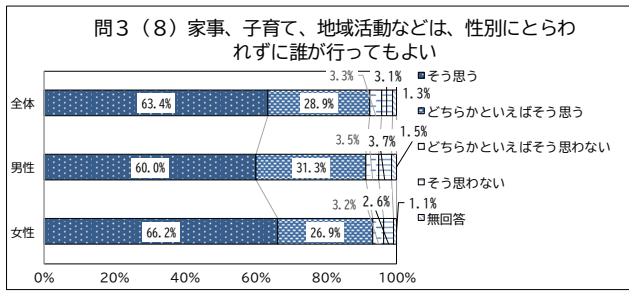
- ・男性は、約7割の人が「男女の能力の差はない」という考えに肯定的で、前回調査と同じ結果となった。女性は、肯定する意見がわずかに増えた。
- ・地域別では、佐田、多伎地域で8割以上が肯定的な意見であった。

6 問3 次の(1)～(8)について、該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(8) 家事、子育て、地域活動などは、性別にとらわれず誰が行ってもよい

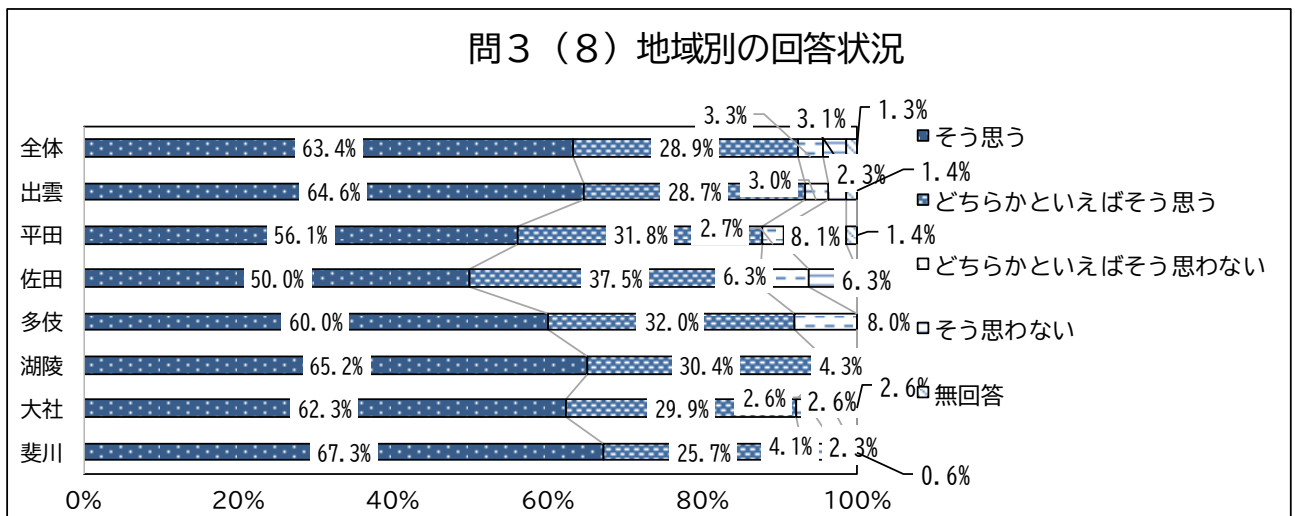
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
そう思う	63.4%	60.0%	66.2%	64.0%	62.5%	65.3%	58.6%	57.1%	60.0%
どちらかといえばそう思う	28.9%	31.3%	26.9%	26.5%	25.5%	27.4%	28.1%	26.2%	29.9%
どちらかといえばそう思わない	3.3%	3.5%	3.2%	5.5%	7.2%	4.1%	5.9%	6.4%	5.6%
そう思わない	3.1%	3.7%	2.6%	2.4%	3.5%	1.5%	3.5%	4.0%	3.1%
無回答	1.3%	1.5%	1.1%	1.5%	1.3%	1.7%	3.6%	6.1%	1.2%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
そう思う	63.4%	64.6%	56.1%	50.0%	60.0%	65.2%	62.3%	67.3%
どちらかといえばそう思う	28.9%	28.7%	31.8%	37.5%	32.0%	30.4%	29.9%	25.7%
どちらかといえばそう思わない	3.3%	3.0%	2.7%	6.3%	8.0%	4.3%	2.6%	4.1%
そう思わない	3.1%	2.3%	8.1%	6.3%	0.0%	0.0%	2.6%	2.3%
無回答	1.3%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.6%



分析

- ・「誰が行ってもよい」に肯定的な意見は全体で 92.3%（前回調査から 1.8%増）。

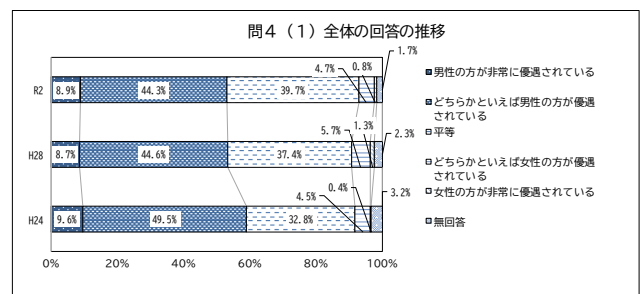
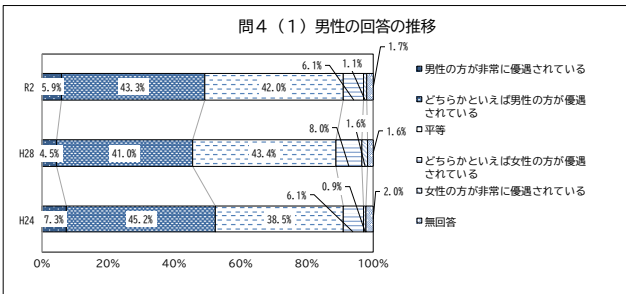
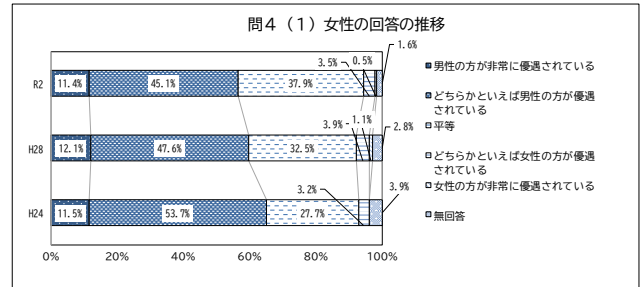
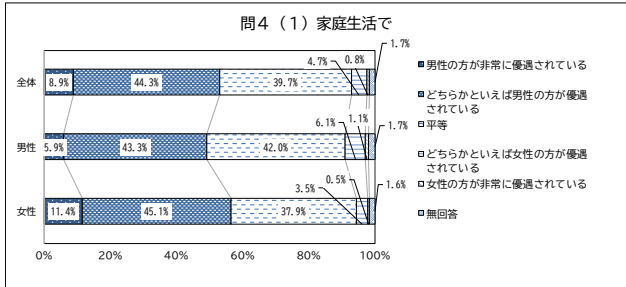
7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。

(1) 家庭生活で

数値目標
R3 目標値 50%

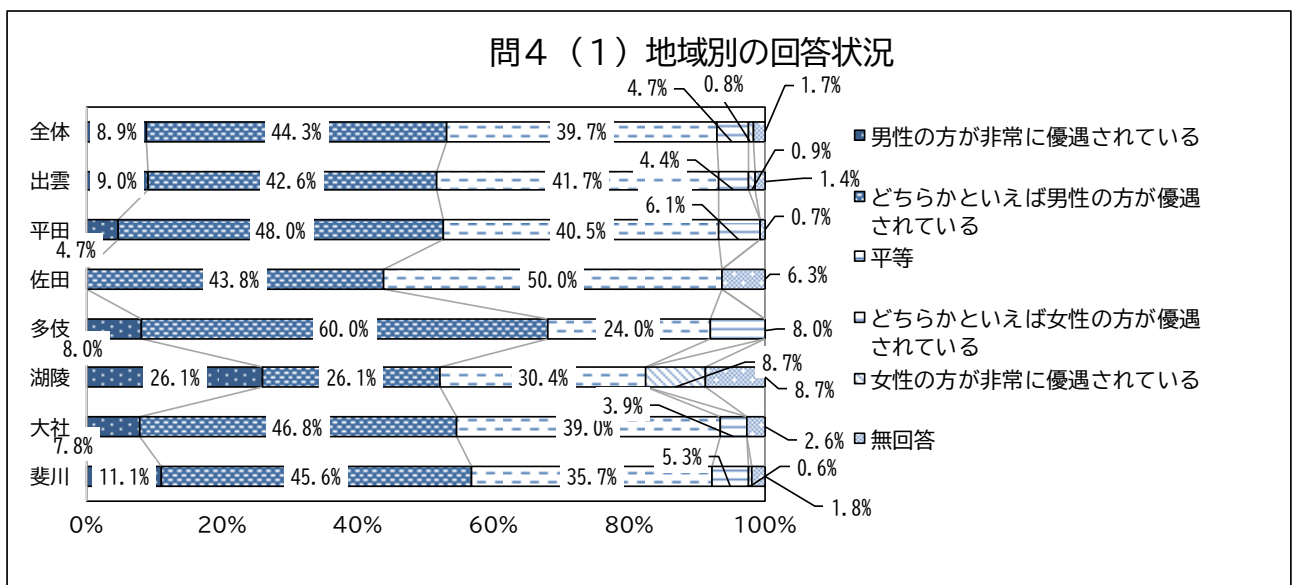
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	8.9%	5.9%	11.4%	8.7%	4.5%	12.1%	9.6%	7.3%	11.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	44.3%	43.3%	45.1%	44.6%	41.0%	47.6%	49.5%	45.2%	53.7%
平等	39.7%	42.0%	37.9%	37.4%	43.4%	32.5%	32.8%	38.5%	27.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.7%	6.1%	3.5%	5.7%	8.0%	3.9%	4.5%	6.1%	3.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.8%	1.1%	0.5%	1.3%	1.6%	1.1%	0.4%	0.9%	0.0%
無回答	1.7%	1.7%	1.6%	2.3%	1.6%	2.8%	3.2%	2.0%	3.9%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	8.9%	9.0%	4.7%	0.0%	8.0%	26.1%	7.8%	11.1%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	44.3%	42.6%	48.0%	43.8%	60.0%	26.1%	46.8%	45.6%
平等	39.7%	41.7%	40.5%	50.0%	24.0%	30.4%	39.0%	35.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.7%	4.4%	6.1%	0.0%	8.0%	0.0%	3.9%	5.3%
女性の方が非常に優遇されている	0.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	0.6%
無回答	1.7%	1.4%	0.7%	6.3%	0.0%	8.7%	2.6%	1.8%



分析

- ・「平等」と感じている人は、女性では37.9%で前回調査から5.4%増えているが、男性では42%で1.4%減っている。
- ・男性が優遇されていると感じている人は、女性では56.5%と前回調査から3.2%減ったが、男性では49.2%と3.7%増えている。
- ・多伎地域で男性が優遇されていると感じている人が7割弱あり他地域より高い。
- ・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で平等と感じている人が39.7%となり、前回調査時から2.3%増えたものの、目標値50%には及ばなかった。

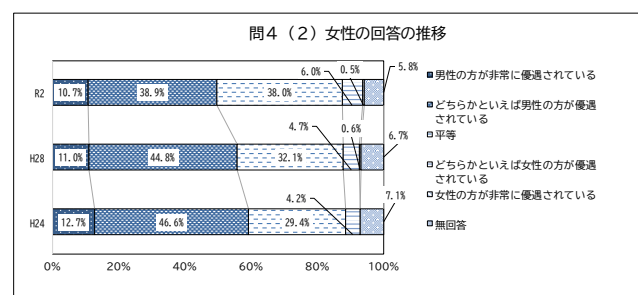
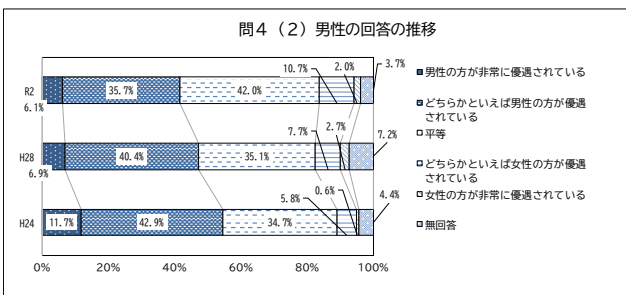
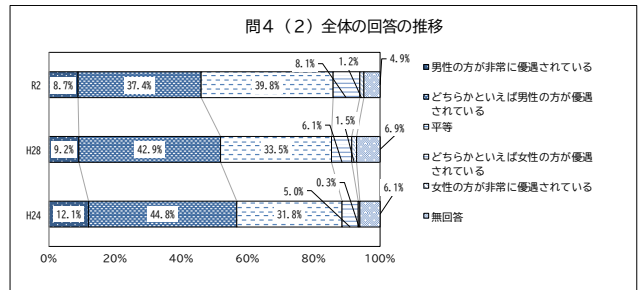
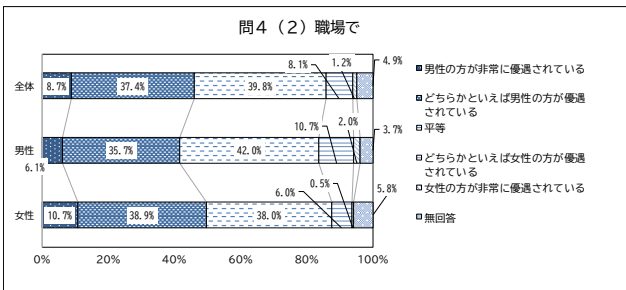
7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。

(2) 職場で

数値目標
R3 目標値 40%

回答の状況

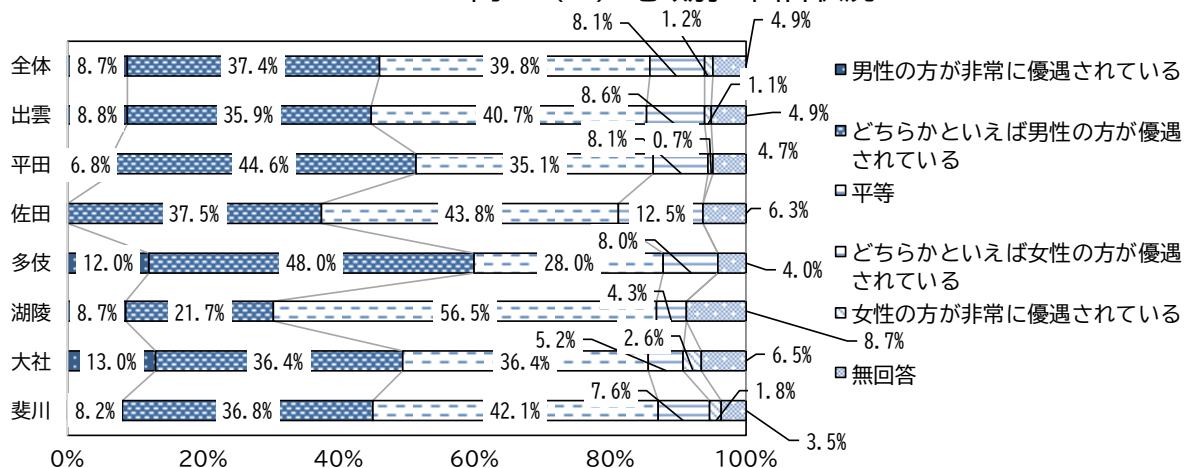
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	8.7%	6.1%	10.7%	9.2%	6.9%	11.0%	12.1%	11.7%	12.7%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	37.4%	35.7%	38.9%	42.9%	40.4%	44.8%	44.8%	42.9%	46.6%
平等	39.8%	42.0%	38.0%	33.5%	35.1%	32.1%	31.8%	34.7%	29.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8.1%	10.7%	6.0%	6.1%	7.7%	4.7%	5.0%	5.8%	4.2%
女性の方が非常に優遇されている	1.2%	2.0%	0.5%	1.5%	2.7%	0.6%	0.3%	0.6%	0.0%
無回答	4.9%	3.7%	5.8%	6.9%	7.2%	6.7%	6.1%	4.4%	7.1%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	8.7%	8.8%	6.8%	0.0%	12.0%	8.7%	13.0%	8.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	37.4%	35.9%	44.6%	37.5%	48.0%	21.7%	36.4%	36.8%
平等	39.8%	40.7%	35.1%	43.8%	28.0%	56.5%	36.4%	42.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	8.1%	8.6%	8.1%	12.5%	8.0%	4.3%	5.2%	7.6%
女性の方が非常に優遇されている	1.2%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	1.8%
無回答	4.9%	4.9%	4.7%	6.3%	4.0%	8.7%	6.5%	3.5%

問4 (2) 地域別の回答状況



分析

- ・「平等」と感じている人は、男女とも増えている。(男性 35.1%⇒42.0%、女性 32.1%⇒38.0%)
- ・多伎地域で男性が優遇されていると感じている人の割合が高い。
- ・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で平等と感じている人が 39.8%となり、前回調査時 33.5%より増えたものの、目標値 40.0%にはわずかに及ばなかった。

7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。

(3) 地域活動で

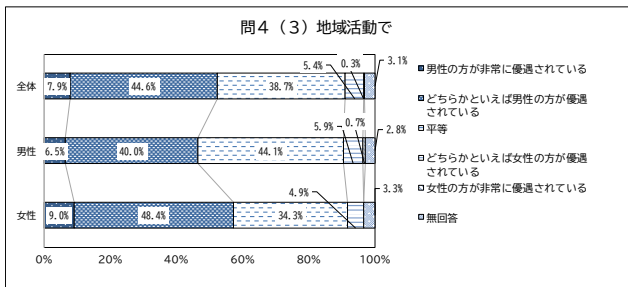
数値目標
R3 目標値 50%

回答の状況

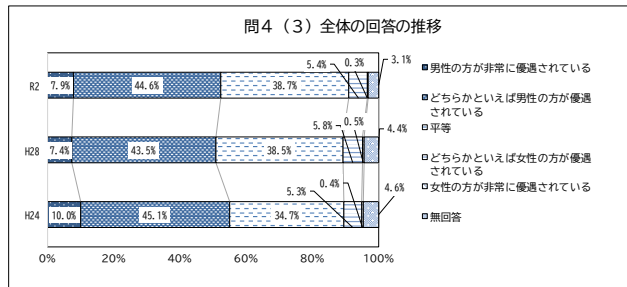
経年比較

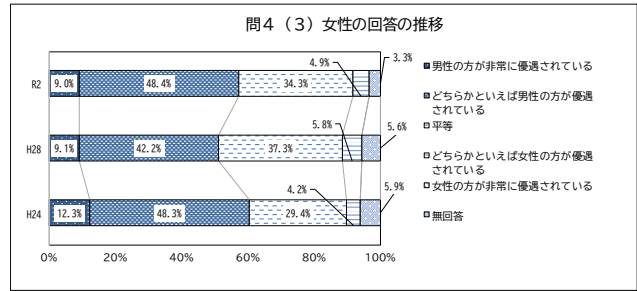
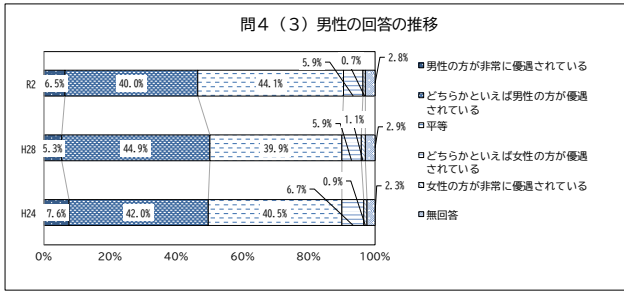
	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	7.9%	6.5%	9.0%	7.4%	5.3%	9.1%	10.0%	7.6%	12.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	44.6%	40.0%	48.4%	43.5%	44.9%	42.2%	45.1%	42.0%	48.3%
平等	38.7%	44.1%	34.3%	38.5%	39.9%	37.3%	34.7%	40.5%	29.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.4%	5.9%	4.9%	5.8%	5.9%	5.8%	5.3%	6.7%	4.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.3%	0.7%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	0.4%	0.9%	0.0%
無回答	3.1%	2.8%	3.3%	4.4%	2.9%	5.6%	4.6%	2.3%	5.9%

問4 (3) 地域活動で



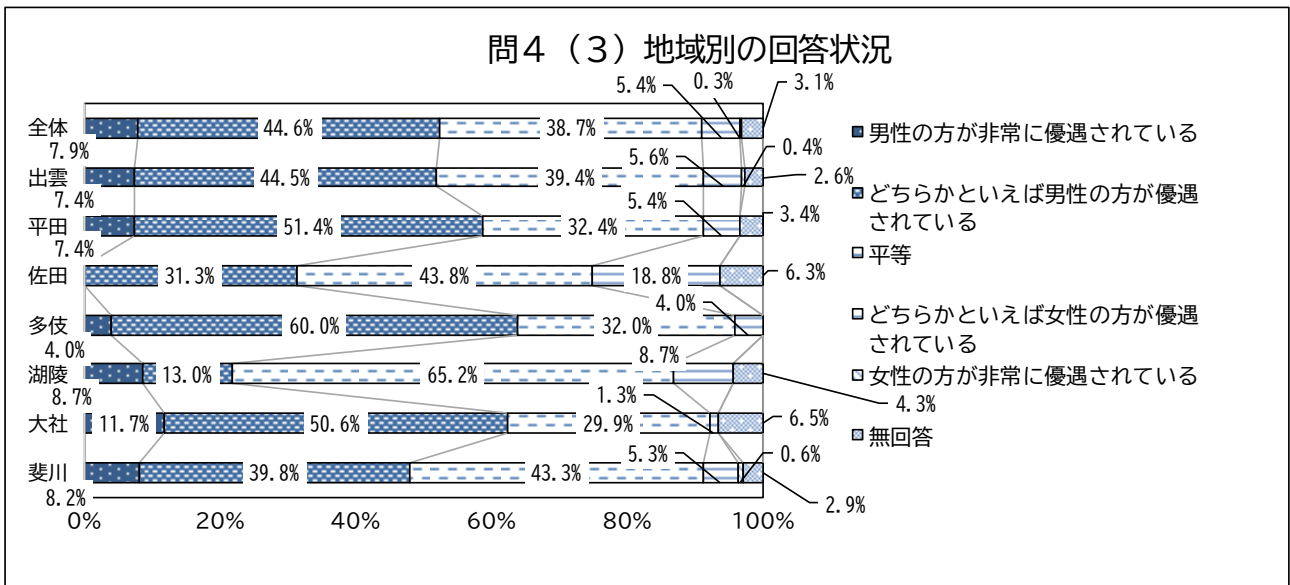
問4 (3) 全体の回答の推移





地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	7.9%	7.4%	7.4%	0.0%	4.0%	8.7%	11.7%	8.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	44.6%	44.5%	51.4%	31.3%	60.0%	13.0%	50.6%	39.8%
平等	38.7%	39.4%	32.4%	43.8%	32.0%	65.2%	29.9%	43.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.4%	5.6%	5.4%	18.8%	4.0%	8.7%	1.3%	5.3%
女性の方が非常に優遇されている	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
無回答	3.1%	2.6%	3.4%	6.3%	0.0%	4.3%	6.5%	2.9%



分析

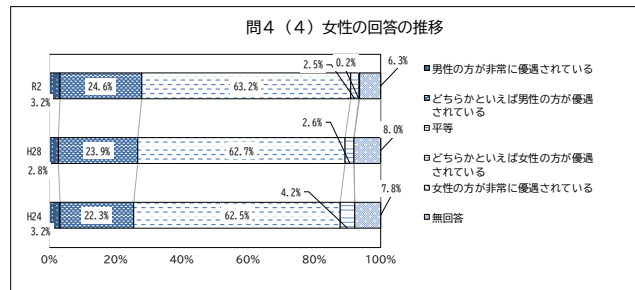
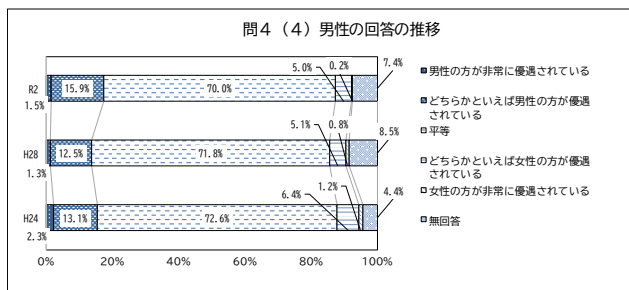
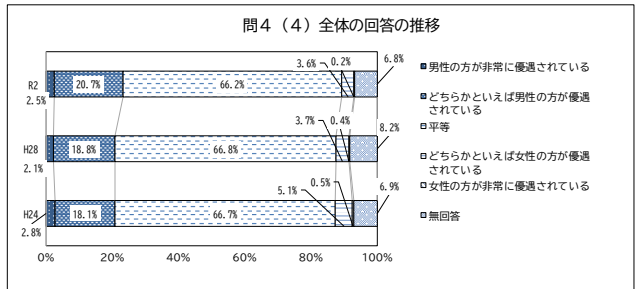
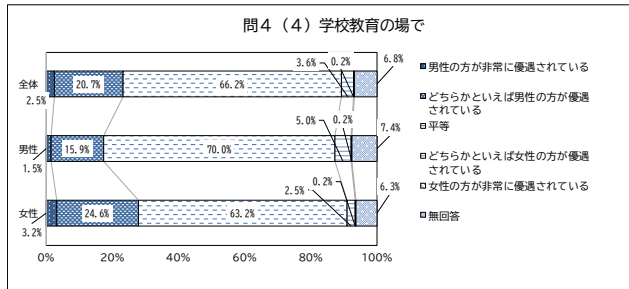
- ・「平等」と感じている人は前回調査とほぼ同じ（38.5%⇒38.7%）であったが、男性が優遇されていると感じている人が、前回調査より増えている（50.9%⇒52.5%）。
- ・佐田、湖陵、斐川地域で平等と感じている人の割合が高く、特に湖陵地域では目標値 50.0%を大きく超えて 65.2%となった。
- ・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で平等と感じている人が 38.7%となり、目標値 50.0%には及ばなかった。

7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。

(4) 学校教育の場で

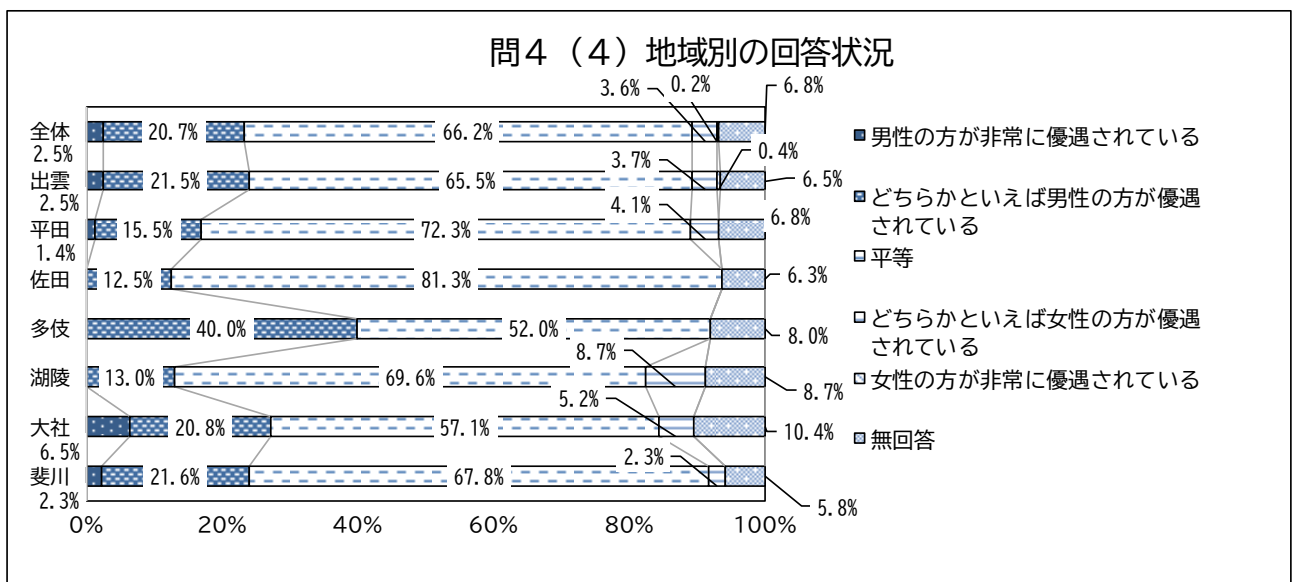
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	2.5%	1.5%	3.2%	2.1%	1.3%	2.8%	2.8%	2.3%	3.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	20.7%	15.9%	24.6%	18.8%	12.5%	23.9%	18.1%	13.1%	22.3%
平等	66.2%	70.0%	63.2%	66.8%	71.8%	62.7%	66.7%	72.6%	62.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.6%	5.0%	2.5%	3.7%	5.1%	2.6%	5.1%	6.4%	4.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.8%	0.0%	0.5%	1.2%	0.0%
無回答	6.8%	7.4%	6.3%	8.2%	8.5%	8.0%	6.9%	4.4%	7.8%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	2.5%	2.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	2.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	20.7%	21.5%	15.5%	12.5%	40.0%	13.0%	20.8%	21.6%
平等	66.2%	65.5%	72.3%	81.3%	52.0%	69.6%	57.1%	67.8%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.6%	3.7%	4.1%	0.0%	0.0%	8.7%	5.2%	2.3%
女性の方が非常に優遇されている	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.8%	6.5%	6.8%	6.3%	8.0%	8.7%	10.4%	5.8%



分析

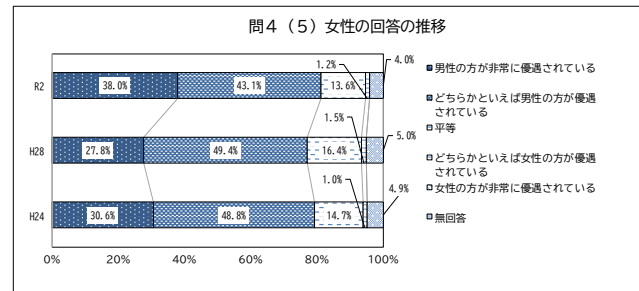
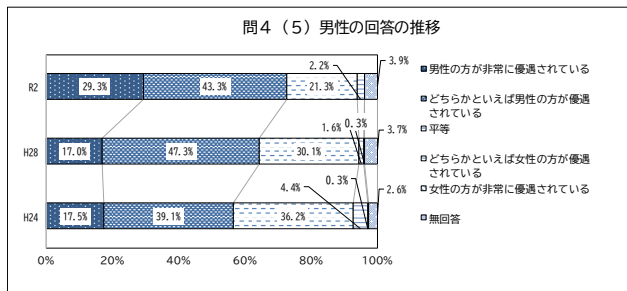
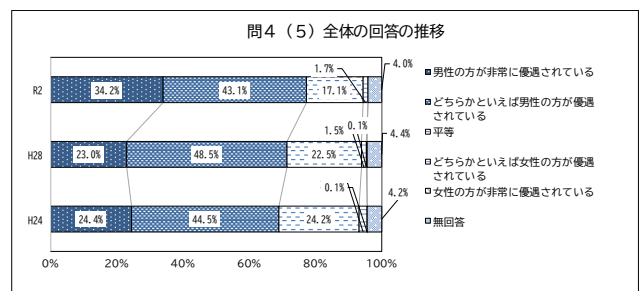
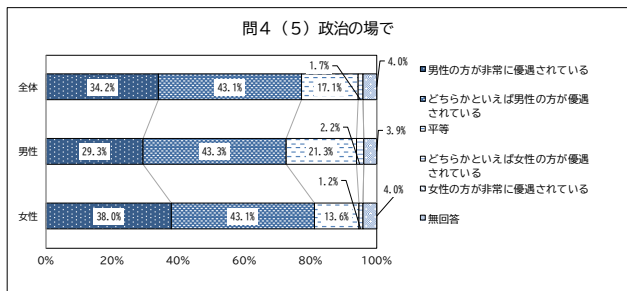
- ・学校教育の現場での平等感は他の分野に比べ割合が高く、前回調査とほぼ同じ割合で推移している。

7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。

(5) 政治の場で

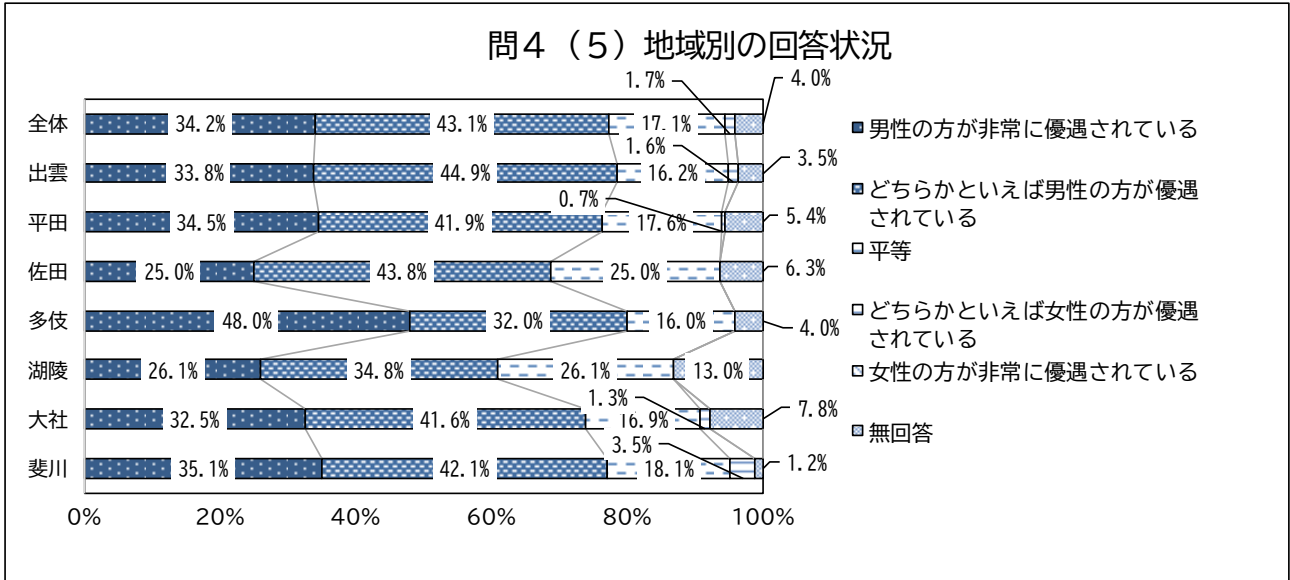
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	34.2%	29.3%	38.0%	23.0%	17.0%	27.8%	24.4%	17.5%	30.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	43.1%	43.3%	43.1%	48.5%	47.3%	49.4%	44.5%	39.1%	48.8%
平等	17.1%	21.3%	13.6%	22.5%	30.1%	16.4%	24.2%	36.2%	14.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.7%	2.2%	1.2%	1.5%	1.6%	1.5%	2.5%	4.4%	1.0%
女性の方が非常に優遇されている	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%
無回答	4.0%	3.9%	4.0%	4.4%	3.7%	5.0%	4.2%	2.6%	4.9%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	34.2%	33.8%	34.5%	25.0%	48.0%	26.1%	32.5%	35.1%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	43.1%	44.9%	41.9%	43.8%	32.0%	34.8%	41.6%	42.1%
平等	17.1%	16.2%	17.6%	25.0%	16.0%	26.1%	16.9%	18.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.7%	1.6%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	3.5%
女性の方が非常に優遇されている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.0%	3.5%	5.4%	6.3%	4.0%	13.0%	7.8%	1.2%



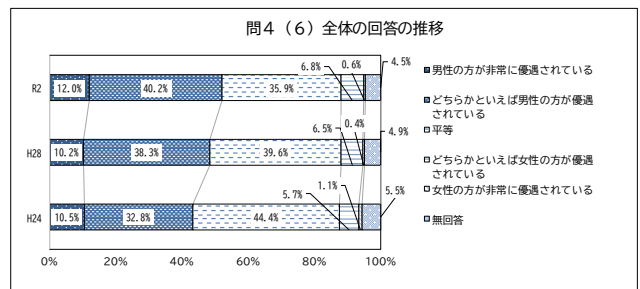
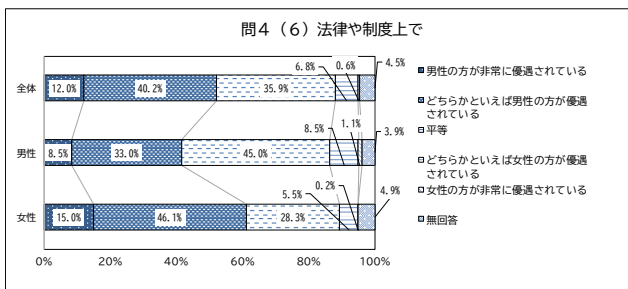
分析

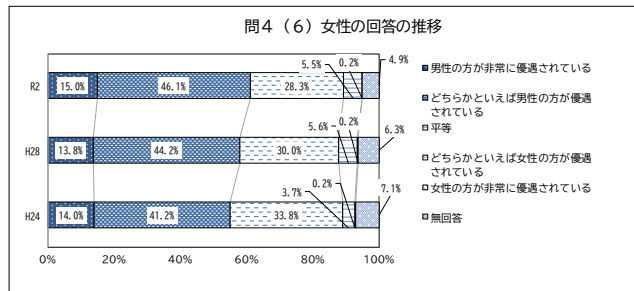
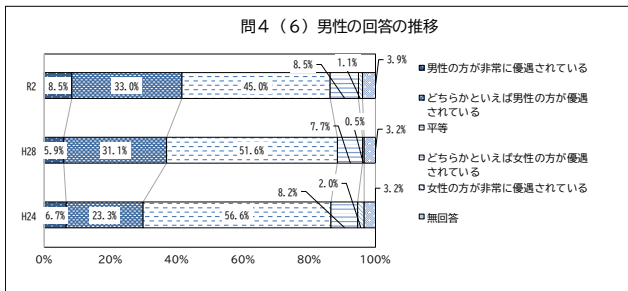
- ・「平等」と感じている人の割合が減少し（22.5%⇒17.1%）、男性が優遇されていると感じている人の割合が増えた（71.5%⇒77.3%）。
- ・男女とも男性が優遇されていると感じている。

7 問4 次の(1)～(7)について、あなたの身の回りで男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。
 (6) 法律や制度上で

回答の状況

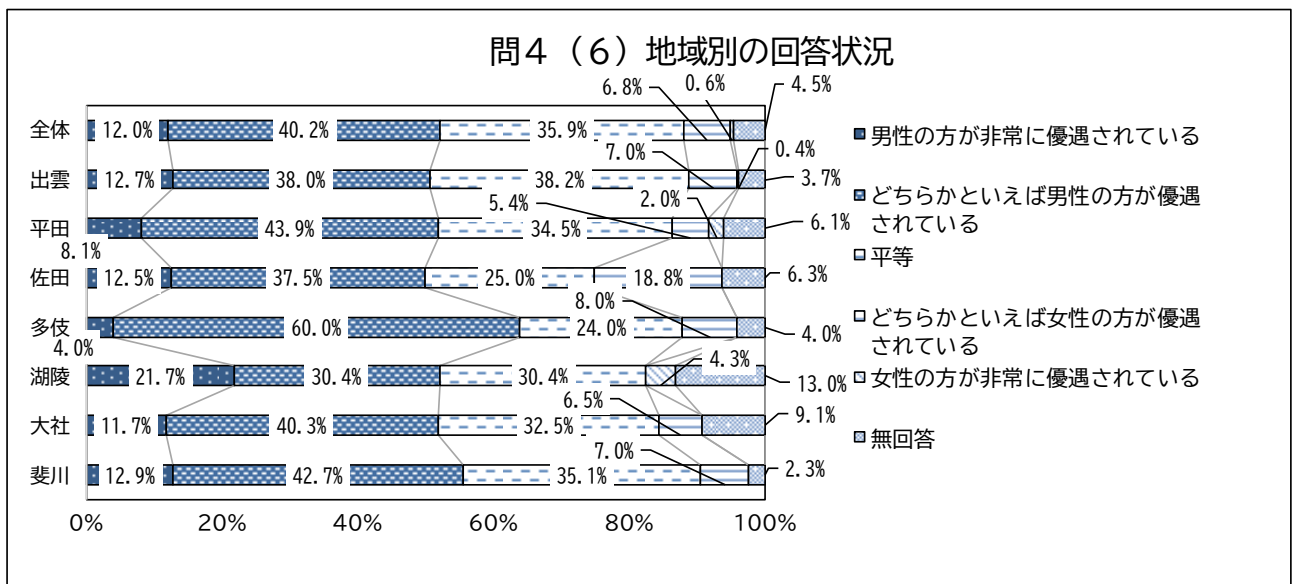
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	12.0%	8.5%	15.0%	10.2%	5.9%	13.8%	10.5%	6.7%	14.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	40.2%	33.0%	46.1%	38.3%	31.1%	44.2%	32.8%	23.3%	41.2%
平等	35.9%	45.0%	28.3%	39.6%	51.6%	30.0%	44.4%	56.6%	33.8%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.8%	8.5%	5.5%	6.5%	7.7%	5.6%	5.7%	8.2%	3.7%
女性の方が非常に優遇されている	0.6%	1.1%	0.2%	0.4%	0.5%	0.2%	1.1%	2.0%	0.2%
無回答	4.5%	3.9%	4.9%	4.9%	3.2%	6.3%	5.5%	3.2%	7.1%





地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	12.0%	12.7%	8.1%	12.5%	4.0%	21.7%	11.7%	12.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	40.2%	38.0%	43.9%	37.5%	60.0%	30.4%	40.3%	42.7%
平等	35.9%	38.2%	34.5%	25.0%	24.0%	30.4%	32.5%	35.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.8%	7.0%	5.4%	18.8%	8.0%	0.0%	6.5%	7.0%
女性の方が非常に優遇されている	0.6%	0.4%	2.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%
無回答	4.5%	3.7%	6.1%	6.3%	4.0%	13.0%	9.1%	2.3%



分析

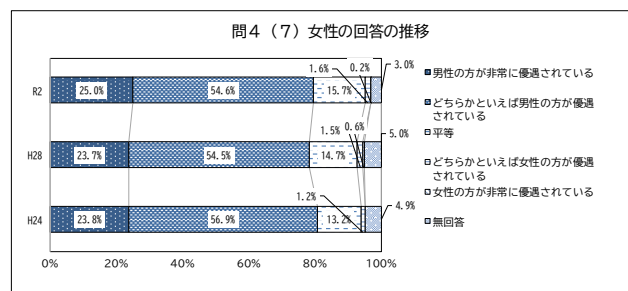
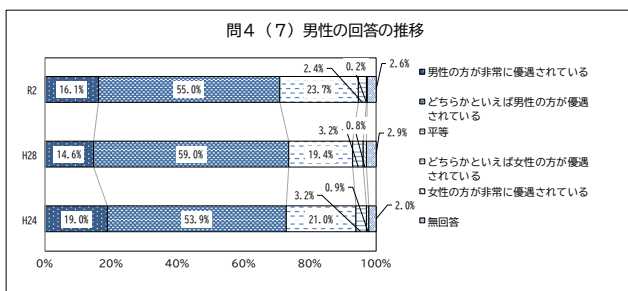
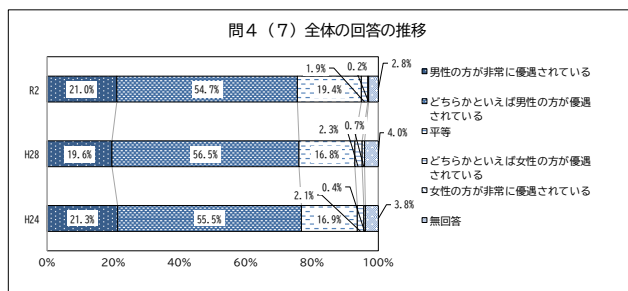
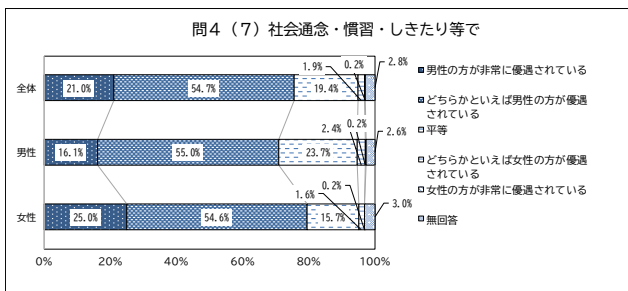
- ・「平等」と感じている人の割合が減少し（39.6%⇒35.9%）、男性が優遇されていると感じている人の割合が増えた（48.5%⇒52.2%）。
- ・男性が優遇されていると感じる人が調査のたびに増えている。これは男女とも同じ傾向。
- ・多伎地域で男性が優遇されている回答が高い。

7 問4 次の（1）～（7）について、あなたの身の回りでの男女の立場は平等になっていると思いますか。該当するものを1つずつ選んで○をつけてください。
 （7）社会通念・慣習・しきたり等で

回答の状況

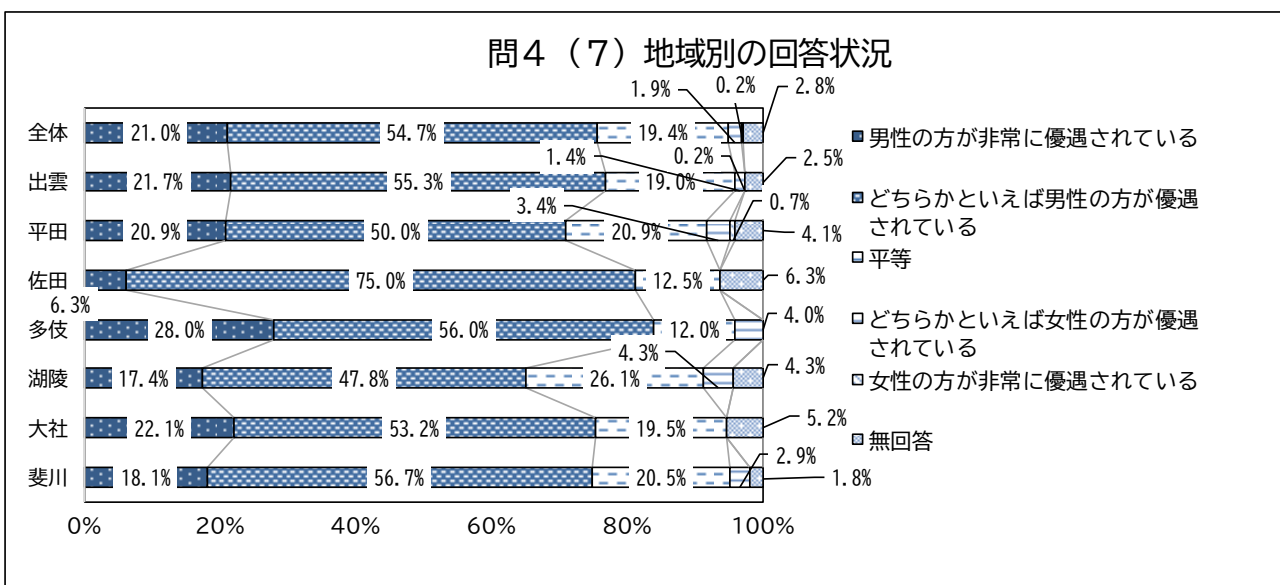
経年比較

	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男性の方が非常に優遇されている	21.0%	16.1%	25.0%	19.6%	14.6%	23.7%	21.3%	19.0%	23.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	54.7%	55.0%	54.6%	56.5%	59.0%	54.5%	55.5%	53.9%	56.9%
平等	19.4%	23.7%	15.7%	16.8%	19.4%	14.7%	16.9%	21.0%	13.2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.9%	2.4%	1.6%	2.3%	3.2%	1.5%	2.1%	3.2%	1.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.2%	0.2%	0.2%	0.7%	0.8%	0.6%	0.4%	0.9%	0.0%
無回答	2.8%	2.6%	3.0%	4.0%	2.9%	5.0%	3.8%	2.0%	4.9%



地域別

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
男性の方が非常に優遇されている	21.0%	21.7%	20.9%	6.3%	28.0%	17.4%	22.1%	18.1%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	54.7%	55.3%	50.0%	75.0%	56.0%	47.8%	53.2%	56.7%
平等	19.4%	19.0%	20.9%	12.5%	12.0%	26.1%	19.5%	20.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.9%	1.4%	3.4%	0.0%	4.0%	4.3%	0.0%	2.9%
女性の方が非常に優遇されている	0.2%	0.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.8%	2.5%	4.1%	6.3%	0.0%	4.3%	5.2%	1.8%



- ・「平等」と感じている人の割合が若干増えた（16.8%⇒19.4%）が、男性が優遇されていると感じている人の割合は依然として高い（75.7%）。
- ・佐田、多伎地域で男性が優遇されていると感じている割合が高く、湖陵地域は低い。

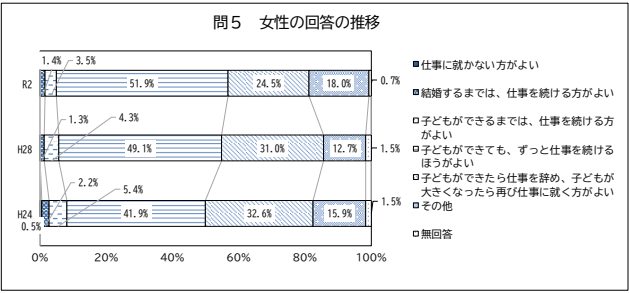
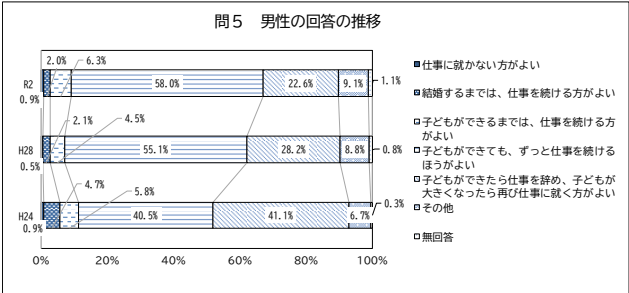
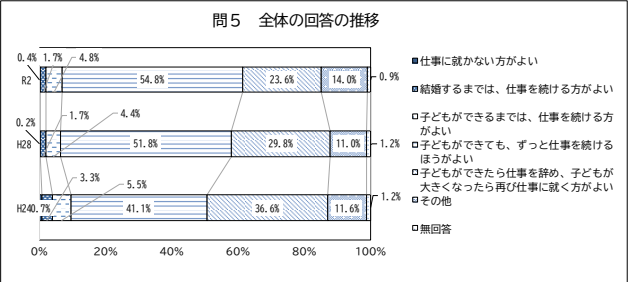
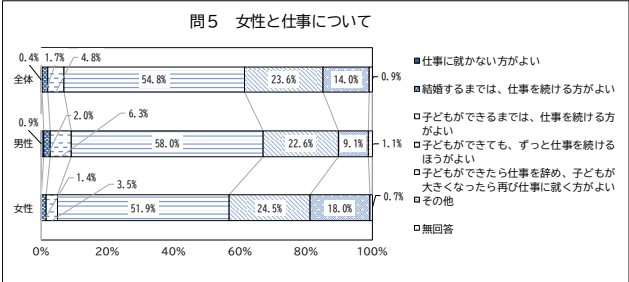
8. 仕事と家庭生活・地域活動・個人の生活

9 問5 女性と仕事について、次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 仕事に就かない方がよい
- (2) 結婚するまでは、仕事を続ける方がよい
- (3) 子どもができるまでは、仕事を続ける方がよい
- (4) 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- (5) 子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい
- (6) その他

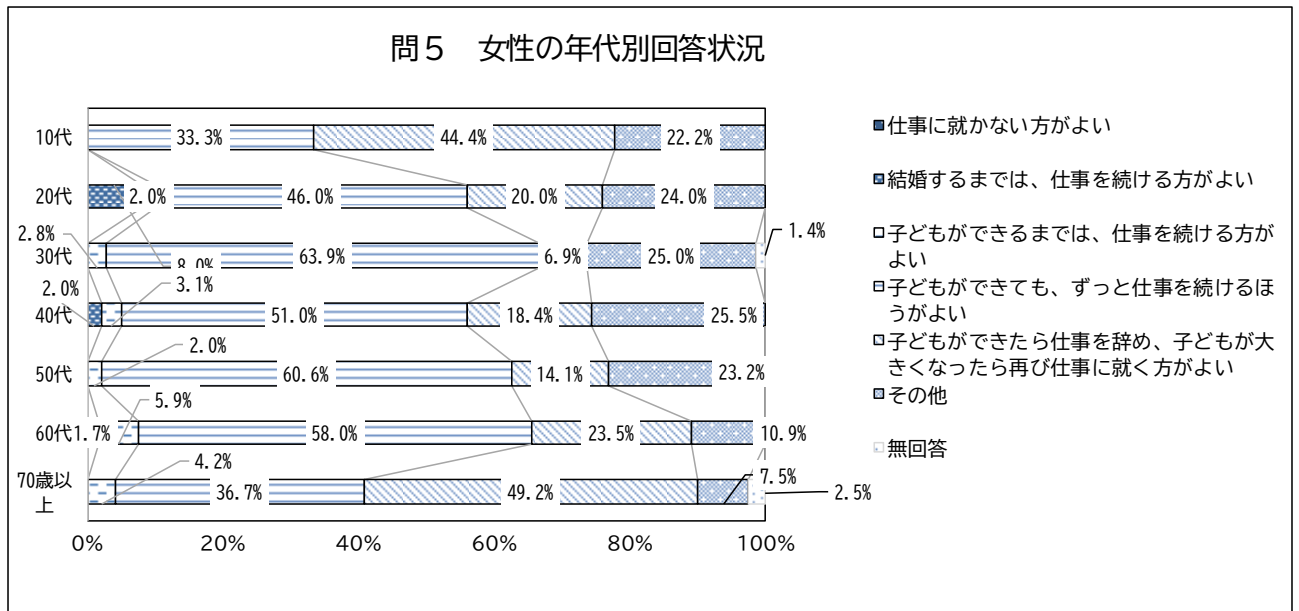
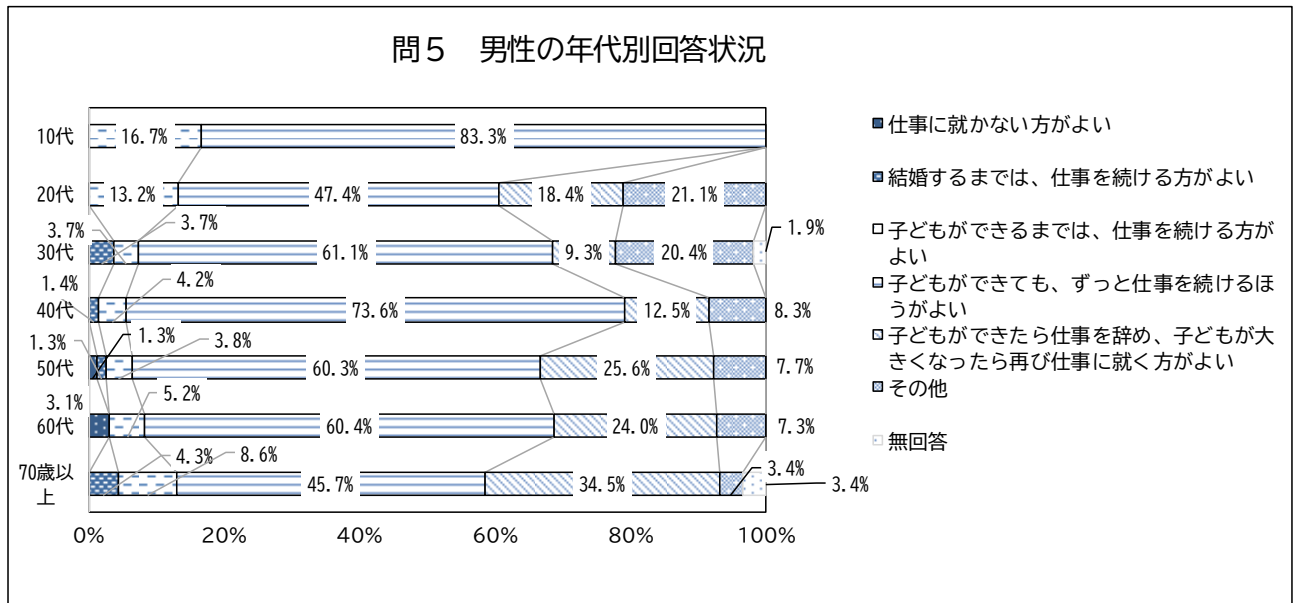
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
仕事に就かない方がよい	0.4%	0.9%	0.0%	0.2%	0.5%	0.0%	0.7%	0.9%	0.5%
結婚するまでは、仕事を続ける方がよい	1.7%	2.0%	1.4%	1.7%	2.1%	1.3%	3.3%	4.7%	2.2%
子どもができるまでは、仕事を続ける方がよい	4.8%	6.3%	3.5%	4.4%	4.5%	4.3%	5.5%	5.8%	5.4%
子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい	54.8%	58.0%	51.9%	51.8%	55.1%	49.1%	41.1%	40.5%	41.9%
子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい	23.6%	22.6%	24.5%	29.8%	28.2%	31.0%	36.6%	41.1%	32.6%
その他	14.0%	9.1%	18.0%	11.0%	8.8%	12.7%	11.6%	6.7%	15.9%
無回答	0.9%	1.1%	0.7%	1.2%	0.8%	1.5%	1.2%	0.3%	1.5%



年代別集計

	男性							女性						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
仕事に就かない方がよい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
結婚するまでは、仕事を続ける方がよい	0.0%	0.0%	3.7%	1.4%	1.3%	0.0%	4.3%	0.0%	8.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.7%	0.0%
子どもができるまでは、仕事を続ける方がよい	16.7%	13.2%	3.7%	4.2%	3.8%	5.2%	8.6%	0.0%	2.0%	2.8%	3.1%	2.0%	5.9%	4.2%
子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい	83.3%	47.4%	61.1%	73.6%	60.3%	60.4%	45.7%	33.3%	46.0%	63.9%	51.0%	60.6%	58.0%	36.7%
子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい	0.0%	18.4%	9.3%	12.5%	25.6%	24.0%	34.5%	44.4%	20.0%	6.9%	18.4%	14.1%	23.5%	49.2%
その他	0.0%	21.1%	20.4%	8.3%	7.7%	7.3%	3.4%	22.2%	24.0%	25.0%	25.5%	23.2%	10.9%	7.5%
無回答	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%



分析

- ・男女ともに、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増え、「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい」の割合が減っている。
- ・「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した割合は男性が女性より高く、特に10代男性は83.3%となった。

- ・男女とも、20代で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が40%台に下がっている。
- ・20代女性では「結婚するまでは、仕事を続ける方がよい」と回答した割合が8%あった。
- ・10代、70歳以上女性では「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事に就く方がよい」の割合が最も高かった。

その他の回答

家族の協力体制により異なる (70歳以上・女)
本人の判断に任せればよい (20歳代・男)
人ソレゾレ (40歳代・女)
女性の能力、生活環境 etc により状況が許せば女性も仕事を続けたがよい (70歳以上・男)
自分のしたいようにすればいい (30歳代・女)
どんなパターンでも当人が良い方を選択すれば良い。 (50歳代・女)
本人の考えで (60歳代・女)
仕事をしたければすればよい (30歳代・女)
家庭にあった形での仕事で良いとおもう。 (40歳代・女)
女性本人の意思を尊重する。 (40歳代・男)
好きなようにすればよい (30歳代・女)
子供の為には家にいたがよいが、経済的にはそうはいかない (60歳代・女)
個人、家庭の考えによる。 (40歳代・女)
家庭の状況や本人の意志 (40歳代・男)
両立出来ると良い (20歳代・女)
妊娠・出産は女性にしかなないが、それ以外は夫婦で相談して決めればよい。それぞれでよい。 (30歳代・女)
子どもがいないので分からない (70歳以上・女)
(5) →家庭の経済状況に応じる (30歳代・男)
自分の思うように (20歳代・男)
状況に応じて女性の意見を尊重する (30歳代・男)
環境に応じて (50歳代・男)
家庭に合ったスタイルで柔軟に対応すればよい。 (40歳代・女)
本人がやりたいようにやるのがよい (40歳代・男)
(他から影響受けず) 本人の意思 (よい、よくないと言い切ることはいできない。) (50歳代・女)
個人の自由にしたほうが良い (40歳代・男)
好きにしたらいい自分で考えて自分に合った生き方をしたらいいと思う (20歳代・女)
出産後仕事を辞め (休み) 子供が2才ぐらいになったら再び仕事に就く (40歳代・女)
どちらでもない (30歳代・男)
キャリアに対しての多様性を認めるべき。色々な経験をすることが仕事に役立つことを否定しているからこんな質問が出る男女とも色々な理由で仕事を中断してもそれが次の仕事に生かされると考えれば続けようが辞めようが自由で認められるべきである。 (60歳代・男)
どっちでもいい (40歳代・女)
それぞれの家庭環境によると思う (30歳代・男)
本人の自由でよいと思う。何がよいとか無い。 (20歳代・女)
本人が考えること (50歳代・男)
祖母が協力してくれるなら仕事続けた方がよい (70歳以上・女)
個人の考えによる (10歳代・女)
それぞれの考え方 (60歳代・女)
夫婦家族で相談し経済的な面、その他考慮し各家庭で決めればよい。 (50歳代・女)
女性が何を選んでも支援してほしい (30歳代・女)
夫・妻の価値感。経済的な問題等々多くの諸問題があります。 (60歳代・男)
できる範囲で行なう (30歳代・女)
人による (60歳代・女)
幼稚園に子どもが入る年齢までは仕事をしない方がよい (30歳代・男)

女性個人の意志で仕事をする、しないを決めた方がよい (30 歳代 ・ 男)

それぞれにあった働き方を選んでいけばよい (20 歳代 ・ 女)

色々な状況によって違ってくると思うから。 (50 歳代 ・ 女)

個々によって事情が違うので同じではない (60 歳代 ・ 女)

個人の自由でよい (30 歳代 ・ 女)

家庭と個人のしたいようにすれば良い (30 歳代 ・ 女)

個人の考えによる (30 歳代 ・ 男)

働ける時に働く。 (30 歳代 ・ 女)

家庭の状況による (30 歳代 ・ 女)

子供に関係なく本人の意思で決めればよい (40 歳代 ・ 女)

子供の小さい頃はパートとして小学生 (小学中学年 3-4 年) くらいになったら正職員として働くのが良いと思う (50 歳代 ・ 女)

その人の個人の考え方で良い (60 歳代 ・ 女)

その人がいいようにしたらよい (40 歳代 ・ 女)

・ 経済的に余裕があれば仕事しなくていい・ 仕事したければ育休後はたらけばいい (60 歳代 ・ 男)

家庭の事情による。(経済的に) (20 歳代 ・ 女)

人それぞれ。生活の状況による。 (10 歳代 ・ 女)

子どもが安心できる環境が整っているのなら仕事を続けても良いのでは。よいかどうかは本人が決めること。 (50 歳代 ・ 女)

何が良いとかいう決まりはなく、本人が決めるのがよいと思う。 (20 歳代 ・ 女)

男女平等が良いと思います (60 歳代 ・ 男)

特に何も思わない。 (30 歳代 ・ 女)

各個人で事情に合わせて決めたらよい考え方も違うので。 (60 歳代 ・ 女)

子育てのやり直しはできない。子供が幼い頃の母親の多忙さは、成長してからも子供の心の傷になった経験がある。 (60 歳代 ・ 女)

非常に難しい問題であると思います。女性=結婚、出産したら退職、職場に戻りにくい環境等色々あるかと思うのでそういった概念、問題からなくしていくべきだと思います。 (20 歳代 ・ 男)

その人しだいでいい。 (20 歳代 ・ 女)

個人の自由。やりたいようにしたらいいと思う。 (20 歳代 ・ 女)

わかりません (60 歳代 ・ 男)

同じ質問を男性にはするのでしょうか? (50 歳代 ・ 女)

仕事に対する考え方で違うと思う。 (50 歳代 ・ 女)

どうしたらいいのか決まっていることは無いと思います。 (50 歳代 ・ 女)

本人の自由だと思う (50 歳代 ・ 女)

相談して決めればよい (50 歳代 ・ 男)

出来れば仕事を続けたい (70 歳以上 ・ 女)

相手の考え次第 (30 歳代 ・ 男)

自分の裁量による (40 歳代 ・ 女)

個々の判断による。 (20 歳代 ・ 男)

その生活状況によって決めていけばよい (40 歳代 ・ 女)

個々の生活レベルよっては何んとも言えない (30 歳代 ・ 男)

自分自身にいい方法であればどれでも良いと思う (40 歳代 ・ 女)

人それぞれの都合に合わせて仕事をすれば良いと思う。(家庭の状況に合わせて) (50 歳代 ・ 女)

1人1人の女性の考えで決めればいい。 (50 歳代 ・ 女)

できれば3才になるくらいまでは母親が育てられるような環境があることが望ましいと思う。 (60 歳代 ・ 女)

本人の都合のいいようにしたらいい (30 歳代 ・ 女)

年で仕事がない。 (60 歳代 ・ 女)

個人の問題 (50 歳代 ・ 女)

どうするのがよいのか?ではなく、その時の状況に応じて判断するのがよいと思う (20 歳代 ・ 男)

家庭によって違うので決められない (50 歳代 ・ 女)

該当するものがありません。 (40 歳代 ・ 女)

やりたい仕事があるのであれば両立する方法を考える。 (50 歳代 ・ 男)

個人、その人の生き方によるので (60 歳代 ・ 女)

本人の意志と能力により選ぶ (70 歳以上 ・ 男)

職場の理解が得られれば(3)である。→問5で職場復帰しても、仕事の内容、スピード等について行けるか、本人は悩むと思う。(70歳以上・女)

どちらでも良い、家庭にはそれぞれの事情がある。(30歳代・女)

本人の好きなようにすればよい(30歳代・女)

家族状況によると思います。(50歳代・女)

出産で仕事を辞めるのではなく、一定期間の育児休暇が今より取りやすくなれば良い。(70歳以上・女)

子育てに支障がない程度(パート)で働き、大きくなったら再び社員として、働く方が良い(50歳代・女)

本人に任せる(30歳代・男)

男性が子育てするなら、仕事を続けてもよいと思う(20歳代・男)

自由に(40歳代・男)

個人の自由で(70歳以上・男)

その家の実体にあった働き方で良いと思う(60歳代・女)

仕事を続けるか続けないかは本人の自由だし、その時の状況にもよるから、決めつける必要はないと思う。(30歳代・女)

本人が仕事をしたかったらすれば良い。(子どもができて、できなくても)(20歳代・男)

その人の価値感によるもの。どちらがよいということではない(40歳代・女)

それぞれ個人の考え方で良いと思う。(50歳代・女)

個人の意思で決定すれば上記のどれでもよい。(40歳代・女)

自由、家庭事情と本人の都合(60歳代・男)

家族の協力度合によると思う(50歳代・女)

本人の自由(60歳代・女)

どれが「よい」ということはない。個々の判断でよい(40歳代・女)

少しの間休職となり、再度、仕事ができるよう仕事に■■出来る環境が必要と思う(70歳以上・男)

当人の意志を重視すべき(20歳代・男)

個人の自由(40歳代・女)

したい様にすればよい(30歳代・男)

家庭生活やパートナーなどの状況に合わせて選択していくと良いと思います。(20歳代・女)

各個人の考え方や能力により自由に選択すればよい(50歳代・女)

その人に合ったライフスタイルがあるので一概には言えない(40歳代・女)

結婚、子ども関係なく、できれば仕事をした方が良い(70歳以上・男)

子育てしながら、できる範囲で仕事をする(30歳代・男)

その時々、各家庭で。どれかをえらぶことでもない。(50歳代・女)

個人の考え方だと思います。(50歳代・女)

祖父母がいる家庭では、子どもを、祖父母に見てもらい自分は、仕事を続ける方が良い(70歳以上・女)

家庭の状況によってことなるのでどちらとも言えないが仕事を続ける家庭状況であれば仕事を続ける方がよい(50歳代・男)

家庭環境による(40歳代・女)

ずっと仕事を続ける条件が地域職場、家庭にあれば続けた方がよい。小さい時は親の愛情・スキンシップが大事だと思う。(70歳以上・女)

家庭にあった選択(40歳代・男)

家庭の状況で一概に言えないが、子供が小さいうちはやはり子育てに専念した方がよいと思う(50歳代・女)

子どものことは最優先だと思うが仕事はやめなくていいと考える(20歳代・女)

経済的に余裕があるなら、子育てが終わるまでなければ子育て支援の充実を計って働らく(50歳代・男)

子育てと仕事を両立できない人もいるので、無理せずその本人にあった決めつけない方がよいがやはり社会とのつながりは必要だと思います。(60歳代・女)

まわりの環境が整っているなら(4)(60歳代・男)

家庭の状況により仕事を続けようが辞めようが…(20歳代・女)

疲労やストレスが溜まらない程度なら仕事を続ける方がよい(40歳代・女)

本人の状況や気持ちによると思う(40歳代・女)

それぞれの家庭に合った仕事となればよい(30歳代・女)

状況によって変わる。こうあるべきはないと思う。(30歳代・女)

人それぞれでいい(20歳代・女)

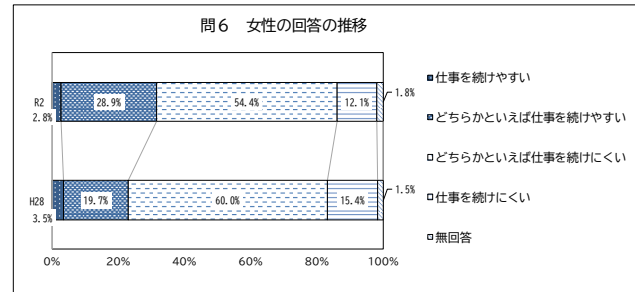
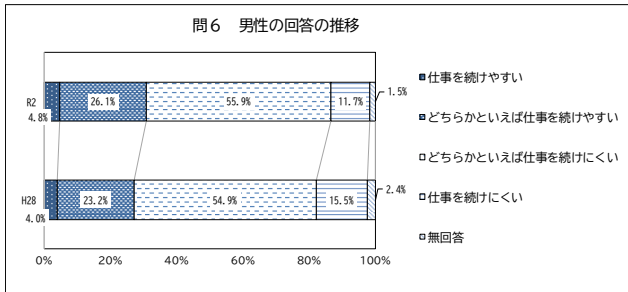
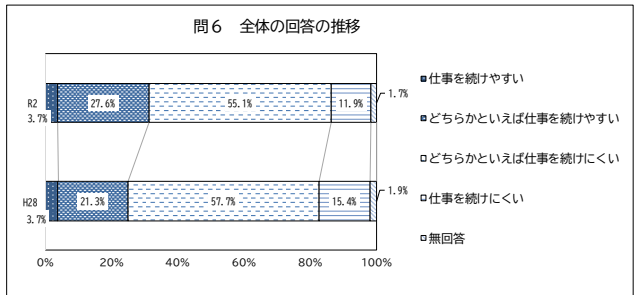
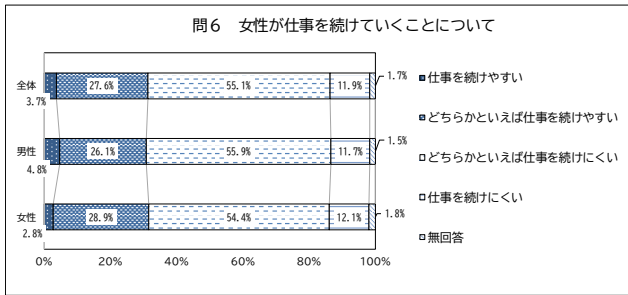
10 問6 女性が仕事を続けていくことについて、現在社会がどのような状況にあると思いますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 仕事を続けやすい
- (2) どちらかといえば仕事を続けやすい
- (3) どちらかといえば仕事を続けにくい
- (4) 仕事を続けにくい

数値目標
R3 目標値 40%

回答の状況

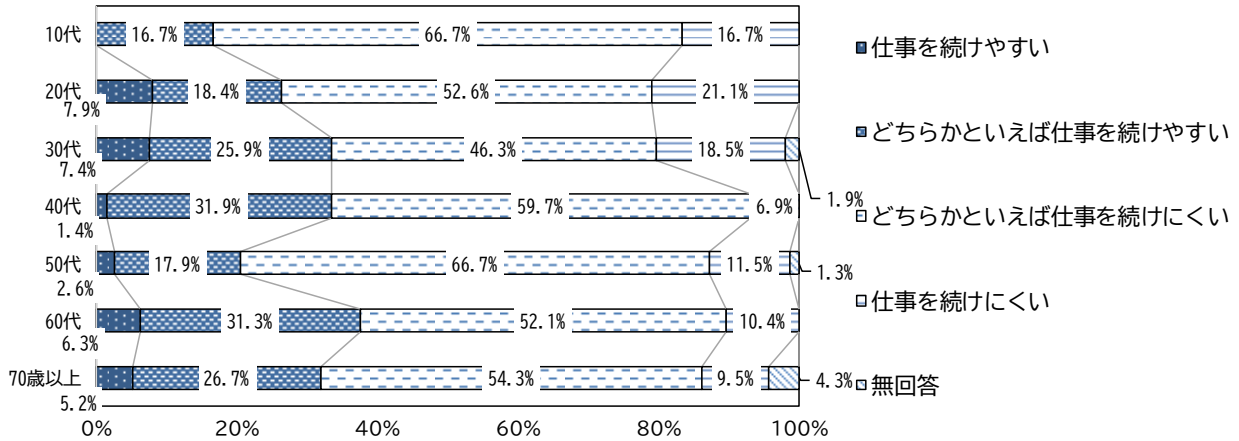
経年比較	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
仕事を続けやすい	3.7%	4.8%	2.8%	3.7%	4.0%	3.5%
どちらかといえば仕事を続けやすい	27.6%	26.1%	28.9%	21.3%	23.2%	19.7%
どちらかといえば仕事を続けにくい	55.1%	55.9%	54.4%	57.7%	54.9%	60.0%
仕事を続けにくい	11.9%	11.7%	12.1%	15.4%	15.5%	15.4%
無回答	1.7%	1.5%	1.8%	1.9%	2.4%	1.5%



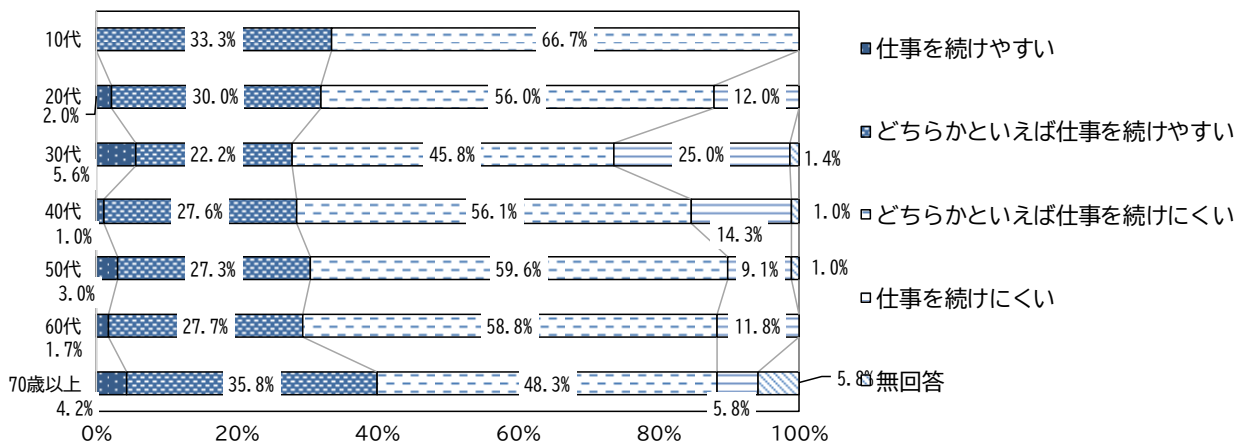
年代別集計

	男性							女性						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
仕事を続けやすい	0.0%	7.9%	7.4%	1.4%	2.6%	6.3%	5.2%	0.0%	2.0%	5.6%	1.0%	3.0%	1.7%	4.2%
どちらかといえば仕事を続けやすい	16.7%	18.4%	25.9%	31.9%	17.9%	31.3%	26.7%	33.3%	30.0%	22.2%	27.6%	27.3%	27.7%	35.8%
どちらかといえば仕事を続けにくい	66.7%	52.6%	46.3%	59.7%	66.7%	52.1%	54.3%	66.7%	56.0%	45.8%	56.1%	59.6%	58.8%	48.3%
仕事を続けにくい	16.7%	21.1%	18.5%	6.9%	11.5%	10.4%	9.5%	0.0%	12.0%	25.0%	14.3%	9.1%	11.8%	5.8%
無回答	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	1.3%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	1.4%	1.0%	1.0%	0.0%	5.8%

問6 男性の年代別回答状況



問6 女性の年代別回答状況



分析

- ・回答は男女とも同様の割合となっている。
- ・前回調査から男女ともに「どちらかといえば仕事を続けやすい」と回答した人が増えた。
- ・ただし、否定的な意見（「どちらかといえば仕事を続けにくい」「仕事を続けにくい」）は全体でも67%ある。
- ・年代別で見ると、男性は10代と50代で否定的な意見が多く約80%となった。
- ・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で肯定的な人（「仕事を続けやすい」「どちらかといえば仕事を続けやすい」）が31.3%となり、前回調査時25%より増えたものの、目標値40%には及ばなかった。

1 1 問7【問6で「(3) どちらかといえば仕事を続けにくい」「(4) 仕事を続けにくい」と答えた方のみお答えください。】

女性が仕事を続けていくうえで、妨げとなっているのはどのようなことだと思いますか。

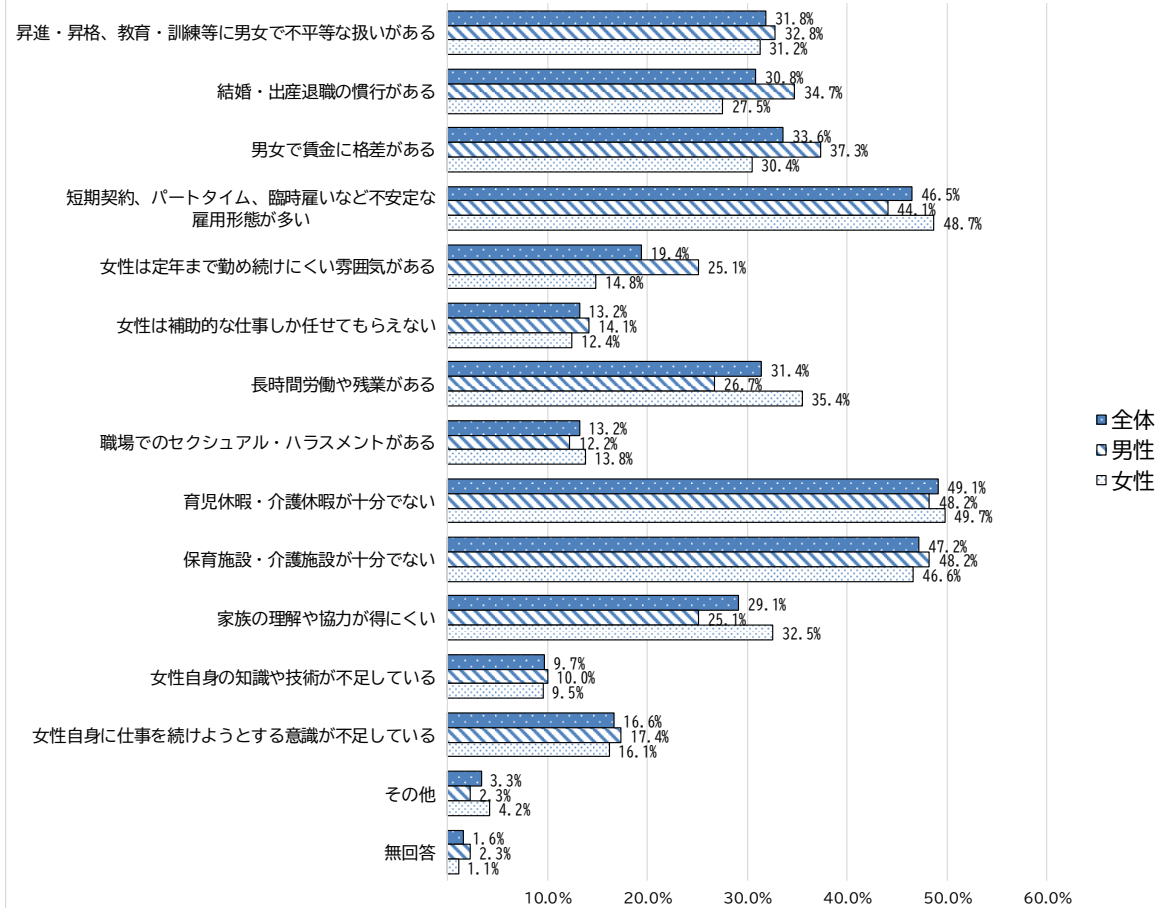
次の(1)～(14)該当するもの全てに○をつけてください。

- (1) 昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある
- (2) 結婚・出産退職の慣行がある
- (3) 男女で賃金に格差がある
- (4) 短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い
- (5) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
- (6) 女性は補助的な仕事しか任せてもらえない
- (7) 長時間労働や残業がある
- (8) 職場でのセクシュアル・ハラスメントがある
- (9) 育児休暇・介護休暇が十分でない
- (10) 保育施設・介護施設が十分でない
- (11) 家族の理解や協力が得にくい
- (12) 女性自身の知識や技術が不足している
- (13) 女性自身に仕事を続けようとする意識が不足している
- (14) その他

回答の状況

	全体	男性	女性
(1)昇進・昇格、教育・訓練等に男女で不平等な扱いがある	8.5%	8.6%	8.3%
(2)結婚・出産退職の慣行がある	8.2%	9.1%	7.4%
(3)男女で賃金に格差がある	8.9%	9.8%	8.1%
(4)短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い	12.3%	11.6%	13.0%
(5)女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	5.2%	6.6%	4.0%
(6)女性は補助的な仕事しか任せてもらえない	3.5%	3.7%	3.3%
(7)長時間労働や残業がある	8.3%	7.0%	9.5%
(8)職場でのセクシュアル・ハラスメントがある	3.5%	3.2%	3.7%
(9)育児休暇・介護休暇が十分でない	13.0%	12.7%	13.3%
(10)保育施設・介護施設が十分でない	12.5%	12.7%	12.4%
(11)家族の理解や協力が得にくい	7.7%	6.6%	8.7%
(12)女性自身の知識や技術が不足している	2.6%	2.6%	2.5%
(13)女性自身に仕事を続けようとする意識が不足している	4.4%	4.6%	4.3%
(14)その他	0.9%	0.6%	1.1%
無回答	0.4%	0.6%	0.3%

問7 女性が仕事を続けていくうえで、妨げとなっているのはどのようなことだと思いますか



分析

・男女ともに「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い」「育児休暇・介護休暇が十分でない」「保育施設・介護施設が十分でない」と感じている。

その他の回答

- 男女どうけんでない (70 歳以上 ・男)
- 育児や家事は、やはり女性の能力が高く、男性が平等に行うには限界がある。(40 歳代 ・女)
- 仕事をしている母親へのサポートが必要 (30 歳代 ・女)
- 休暇を取った場合の職場のフォロー (人の補充) (60 歳代 ・男)
- (11)職場での理解や協力が得にくい。(各権利を執行していく際に) (9) 休暇を取得しにくい (60 歳代 ・女)
- 配偶者の職場環境で負担がかわってくる (40 歳代 ・女)
- 育児との両立が難しい。休みがとれてもその分仕事をする時間がなくなる。(40 歳代 ・女)
- 学校などの面談が 17 時まで。急な体調不良での呼び出し早退をすることが多い。他の方への迷惑が続くと勤めにくくなる。(40 歳代 ・女)
- 問 5 でも書きましたが同じ仕事を長く続けることだけがキャリアを高めることではないその考えがなくなる限り女性には不利である (60 歳代 ・男)
- 一般的な休暇がとりにくい (60 歳代 ・女)
- 勤務形態に早番や夜勤などがある (30 歳代 ・女)
- 乳幼児がいる場合、母親の負担が大きい→社会復帰しづらい状況が起きやすい。(50 歳代 ・男)
- 子どもが病気になった時看る人がいない時、母親が仕事を休む事になる。(50 歳代 ・女)
- 要支援 2 の義父、要介護 4 の義母の介護で退職。介護サービスがあっても利用をいやがったりでなかなか介護する側の思い通りにはならない。(50 歳代 ・女)
- 育児は女性が主という社会全体の意識- (保育園の迎え・発熱での早退) ←母の役目? (30 歳代 ・女)
- 体力的に大変なこともあるので (20 歳代 ・男)
- モラルハラスメントがある。(30 歳代 ・女)
- 家庭の事情 (出産・育児・介護) で仕事を時短にしたり休んだりしたときの、職場理解が低い (30 歳代 ・女)

育児と仕事の両立をするには業務をへらすしかなく、昇進が遅れる。(30歳代・女)

仕事を続けていく上において、各企業で何が問題なのか？一人一人が考え改善していくことが大切と思う。(70歳以上・男)

ジョブ型雇用でない企業体質(30歳代・男)

社会の意識がやめさせやすい(40歳代・女)

夫の転勤に左右される、育児を担う割合が大きい(50歳代・女)

早番遅番があるため続けにくいし、シフト制で1人休むと必ず穴うめがあるので気をつかう(20歳代・女)

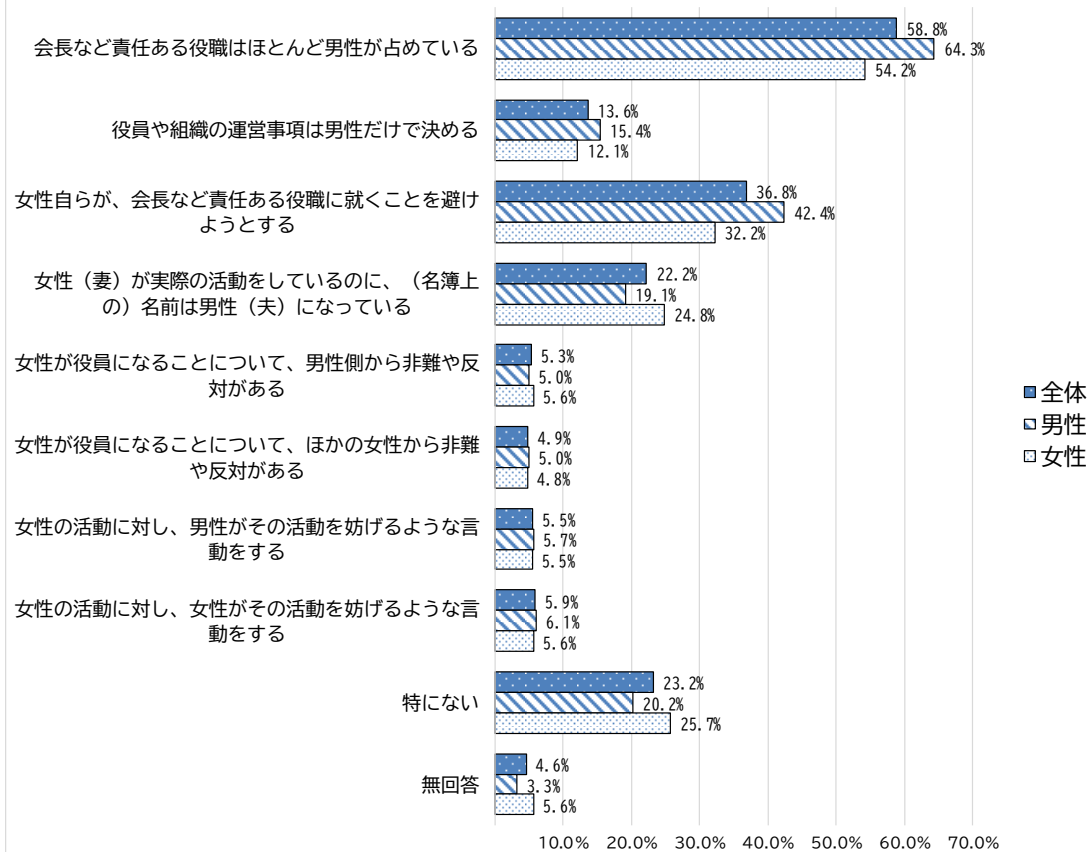
12問8 地域でのさまざまな活動(自治会、PTA、子ども会、高齢者クラブ等)や共同作業等で、次のようなことがありますか。該当するものを全てに○をつけてください。

- (1) 会長など責任ある役職はほとんど男性が占めている
- (2) 役員や組織の運営事項は男性だけで決める
- (3) 女性自らが、会長など責任ある役職に就くことを避けようとする
- (4) 女性(妻)が実際の活動をしているのに、(名簿上の)名前は男性(夫)になっている
- (5) 女性が役員になることについて、男性側から非難や反対がある
- (6) 女性が役員になることについて、ほかの女性から非難や反対がある
- (7) 女性の活動に対し、男性がその活動を妨げるような言動をする
- (8) 女性の活動に対し、女性がその活動を妨げるような言動をする
- (9) 特にない

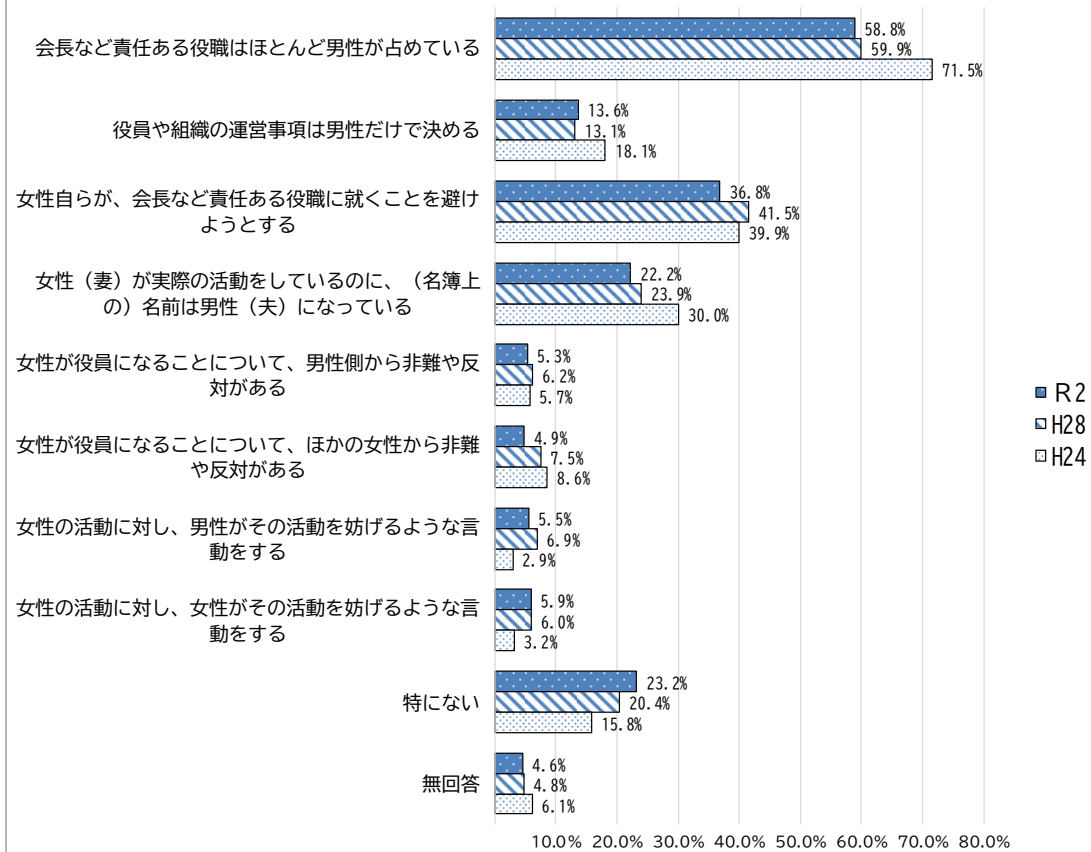
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
会長など責任ある役職はほとんど男性が占めている	58.8%	64.3%	54.2%	59.9%	65.2%	55.6%	71.5%	76.2%	67.2%
役員や組織の運営事項は男性だけで決める	13.6%	15.4%	12.1%	13.1%	16.0%	10.8%	18.1%	19.2%	17.2%
女性自らが、会長など責任ある役職に就くことを避けようとする	36.8%	42.4%	32.2%	41.5%	45.7%	38.1%	39.9%	41.5%	38.2%
女性(妻)が実際の活動をしているのに、(名簿上の)名前は男性(夫)になっている	22.2%	19.1%	24.8%	23.9%	19.9%	27.2%	30.0%	26.4%	32.8%
女性が役員になることについて、男性側から非難や反対がある	5.3%	5.0%	5.6%	6.2%	6.4%	6.0%	5.7%	3.4%	7.6%
女性が役員になることについて、ほかの女性から非難や反対がある	4.9%	5.0%	4.8%	7.5%	7.4%	7.5%	8.6%	8.6%	8.6%
女性の活動に対し、男性がその活動を妨げるような言動をする	5.5%	5.7%	5.5%	6.9%	5.6%	8.0%	2.9%	2.6%	3.2%
女性の活動に対し、女性がその活動を妨げるような言動をする	5.9%	6.1%	5.6%	6.0%	5.9%	6.0%	3.2%	3.2%	2.9%
特にない	23.2%	20.2%	25.7%	20.4%	16.5%	23.5%	15.8%	14.9%	16.2%
無回答	4.6%	3.3%	5.6%	4.8%	5.1%	4.5%	6.1%	5.2%	6.4%

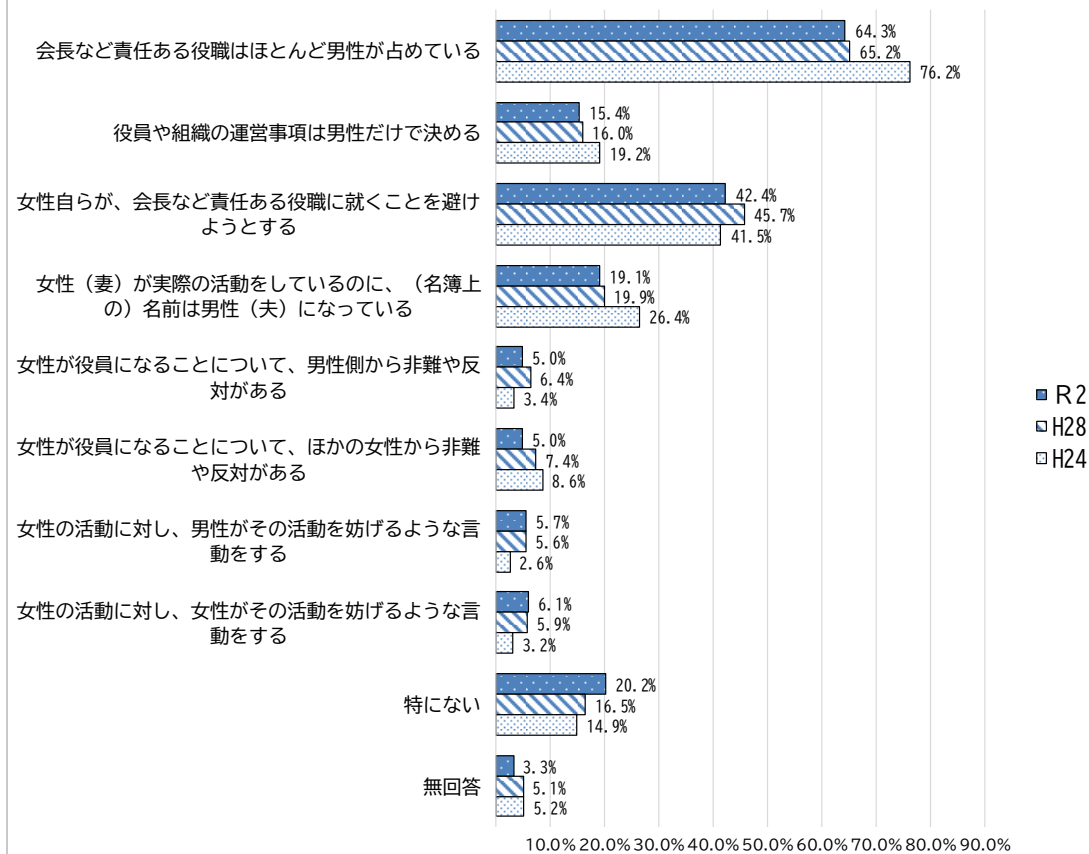
問8 地域でのさまざまな活動や共同作業等のなかであるもの



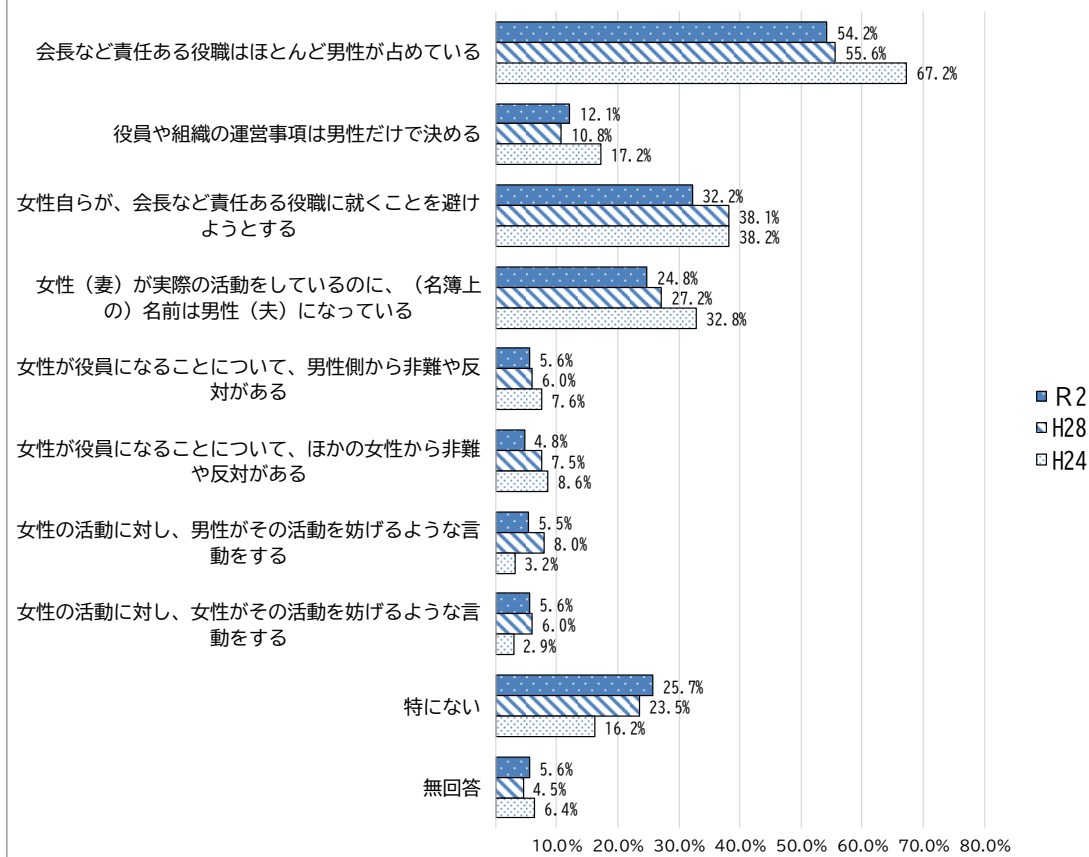
問8 全体の回答の推移



問8 男性の回答の推移

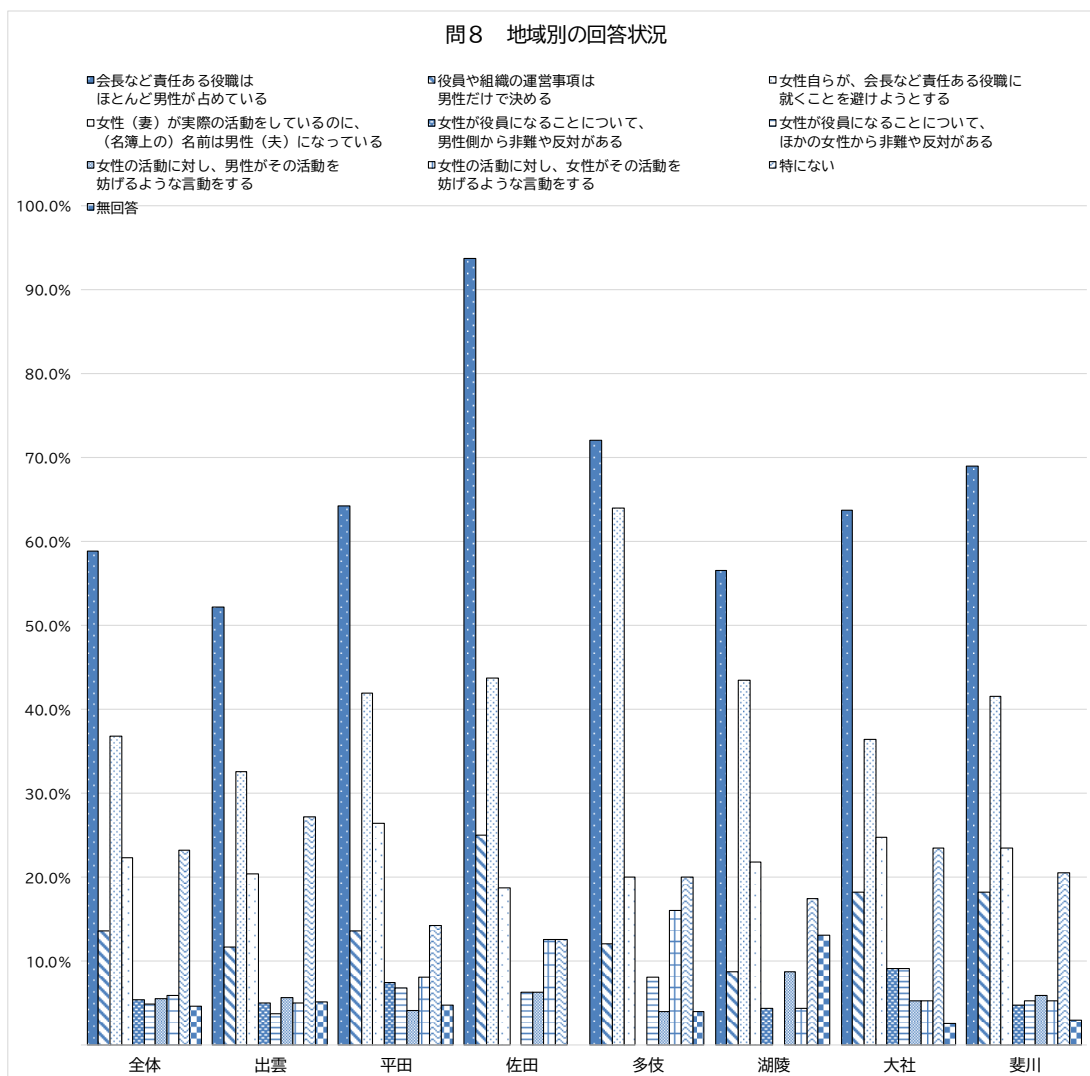


問8 女性の回答の推移



地域別の回答状況

	全体	出雲	平田	佐田	多伎	湖陵	大社	斐川
会長など責任ある役職はほとんど男性が占めている	58.8%	52.1%	64.2%	93.8%	72.0%	56.5%	63.6%	69.0%
役員や組織の運営事項は男性だけで決める	13.6%	11.6%	13.5%	25.0%	12.0%	8.7%	18.2%	18.1%
女性自らが、会長など責任ある役職に就くことを避けようとする	36.8%	32.6%	41.9%	43.8%	64.0%	43.5%	36.4%	41.5%
女性(妻)が実際の活動をしているのに、(名簿上の)名前は男性(夫)になっている	22.2%	20.4%	26.4%	18.8%	20.0%	21.7%	24.7%	23.4%
女性が役員になることについて、男性側から非難や反対がある	5.3%	4.9%	7.4%	0.0%	0.0%	4.3%	9.1%	4.7%
女性が役員になることについて、ほかの女性から非難や反対がある	4.9%	3.7%	6.8%	6.3%	8.0%	0.0%	9.1%	5.3%
女性の活動に対し、男性がその活動を妨げるような言動をする	5.5%	5.6%	4.1%	6.3%	4.0%	8.7%	5.2%	5.8%
女性の活動に対し、女性がその活動を妨げるような言動をする	5.9%	4.9%	8.1%	12.5%	16.0%	4.3%	5.2%	5.3%
特にない	23.2%	27.1%	14.2%	12.5%	20.0%	17.4%	23.4%	20.5%
無回答	4.6%	5.1%	4.7%	0.0%	4.0%	13.0%	2.6%	2.9%



分析

・「役員や組織の運営事項は男性だけで決める」の割合が、女性で前回調査から増加しているが、他の項目では、男女とも減っている。

・「会長など責任ある役職はほとんど男性が占めている」は6割の人が、「女性自らが、会長など責任ある役職に就くことを避けようとする」は約4割の人がそう思っており、地域活動における女性の参画を進める啓発が必要である。

・地域別では、佐田地域では90%以上（全体では58.8%）が「会長など責任ある役職はほとんど男性が占めている」と思っており、多伎地域では64%（全体では36.8%）が「女性自らが、会長など責任ある役職に就くことを避けようとする」と思っており、突出している。

13 問9 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。

次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

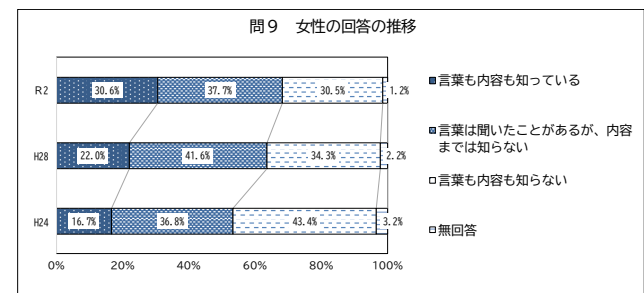
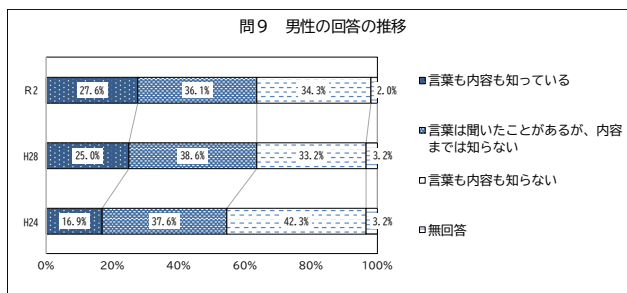
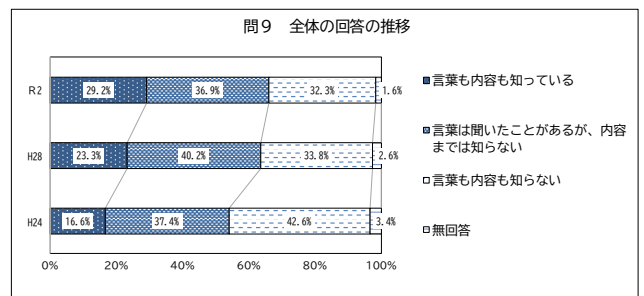
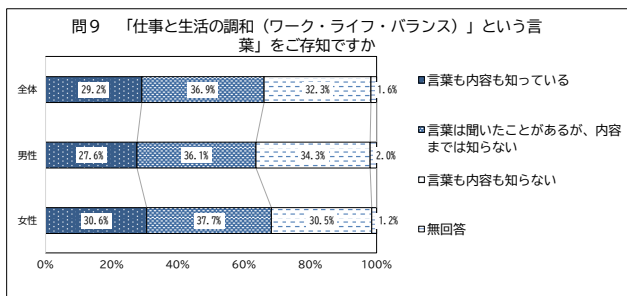
- (1) 言葉も内容も知っている
- (2) 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- (3) 言葉も内容も知らない

※「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」とは、国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。（内閣府 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章から）

数値目標
R3 目標値 70%

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
言葉も内容も知っている	29.2%	27.6%	30.6%	23.3%	25.0%	22.0%	16.6%	16.9%	16.7%
言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	36.9%	36.1%	37.7%	40.2%	38.6%	41.6%	37.4%	37.6%	36.8%
言葉も内容も知らない	32.3%	34.3%	30.5%	33.8%	33.2%	34.3%	42.6%	42.3%	43.4%
無回答	1.6%	2.0%	1.2%	2.6%	3.2%	2.2%	3.4%	3.2%	3.2%



分析

- ・男女ともに、「言葉も内容も知っている」の割合が前回調査より増え、女性は30.6%となった。
- ・この設問は数値目標の対象としており、今回の調査で知っている人（「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」）が66.1%となり、前回調査時63.5%より増えたものの、目標値70%には及ばなかった。

14 生活の中での、「仕事」、「家庭」、「地域」、「個人の生活」の優先度についておうかがいします。

以下の質問における用語の意味は次のとおりです。

- 「仕事」・・・自営業主、家族従業者、雇用者として、週1時間以上働いていること。
- 「家庭」・・・家族と過ごすこと、家事、育児、介護、看護など
- 「地域」・・・自治会活動、ボランティア活動、など
- 「個人の生活」・・・学習、研究、趣味、娯楽、交際など

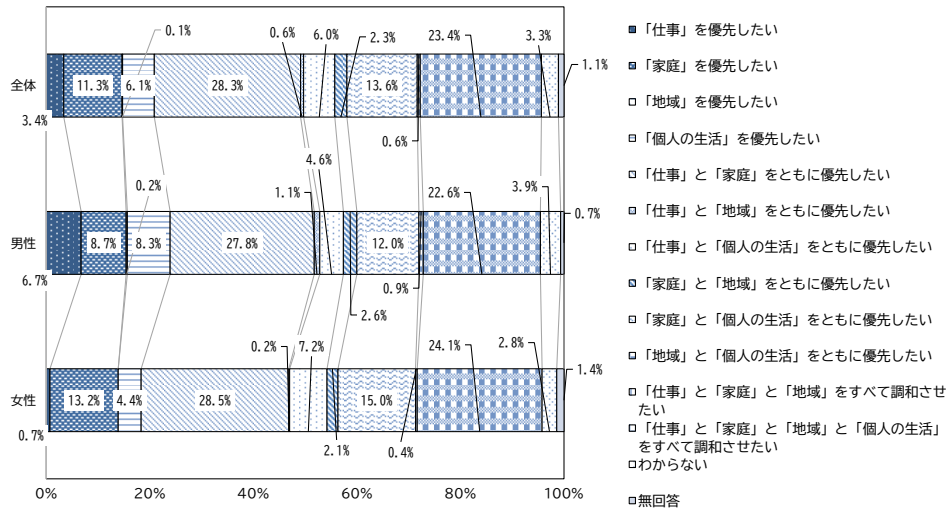
問10-1 次の(1)～(12)から、該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1)「仕事」を優先したい
- (2)「家庭」を優先したい
- (3)「地域」を優先したい
- (4)「個人の生活」を優先したい
- (5)「仕事」と「家庭」をともに優先したい
- (6)「仕事」と「地域」をともに優先したい
- (7)「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
- (8)「家庭」と「地域」をともに優先したい
- (9)「家庭」と「個人の生活」をともに優先したい
- (10)「地域」と「個人の生活」をともに優先したい
- (11)「仕事」と「家庭」と「地域」と「個人の生活」をすべて調和させたい
- (12)わからない

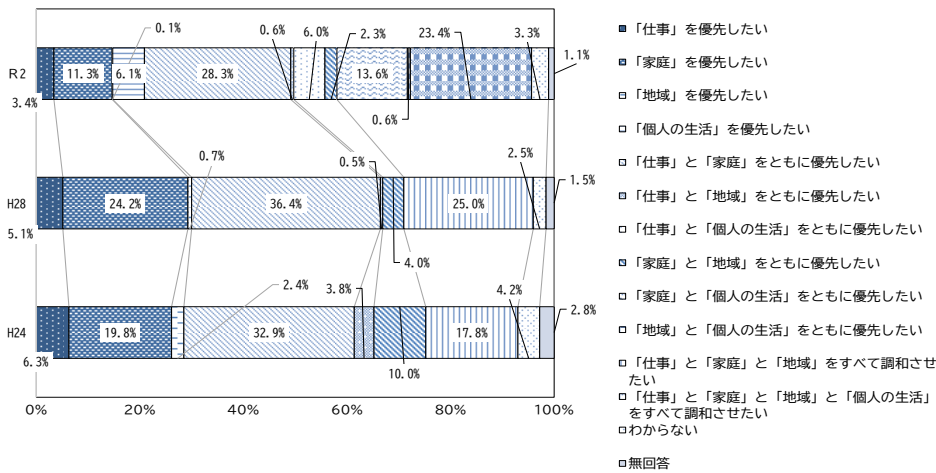
回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
「仕事」を優先したい	3.4%	6.7%	0.7%	5.1%	8.5%	2.4%	6.3%	11.1%	2.5%
「家庭」を優先したい	11.3%	8.7%	13.2%	24.2%	15.2%	31.5%	19.8%	13.7%	25.2%
「地域」を優先したい	0.1%	0.2%	0.0%	0.7%	0.8%	0.6%	2.4%	1.7%	2.9%
「個人の生活」を優先したい	6.1%	8.3%	4.4%						
「仕事」と「家庭」をともに優先したい	28.3%	27.8%	28.5%	36.4%	38.6%	34.7%	32.9%	33.5%	31.6%
「仕事」と「地域」をともに優先したい	0.6%	1.1%	0.2%	0.5%	1.1%	0.0%	3.8%	6.1%	2.0%
「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい	6.0%	4.6%	7.2%						
「家庭」と「地域」をともに優先したい	2.3%	2.6%	2.1%	4.0%	4.5%	3.7%	10.0%	8.5%	11.5%
「家庭」と「個人の生活」をともに優先したい	13.6%	12.0%	15.0%						
「地域」と「個人の生活」をともに優先したい	0.6%	0.9%	0.4%						
「仕事」と「家庭」と「地域」をすべて調和させたい				25.0%	27.9%	22.6%	17.8%	19.2%	16.9%
「仕事」と「家庭」と「地域」と「個人の生活」をすべて調和させたい	23.4%	22.6%	24.1%						
わからない	3.3%	3.9%	2.8%	2.5%	1.9%	3.0%	4.2%	3.5%	4.9%
無回答	1.1%	0.7%	1.4%	1.5%	1.6%	1.5%	2.8%	2.6%	2.5%

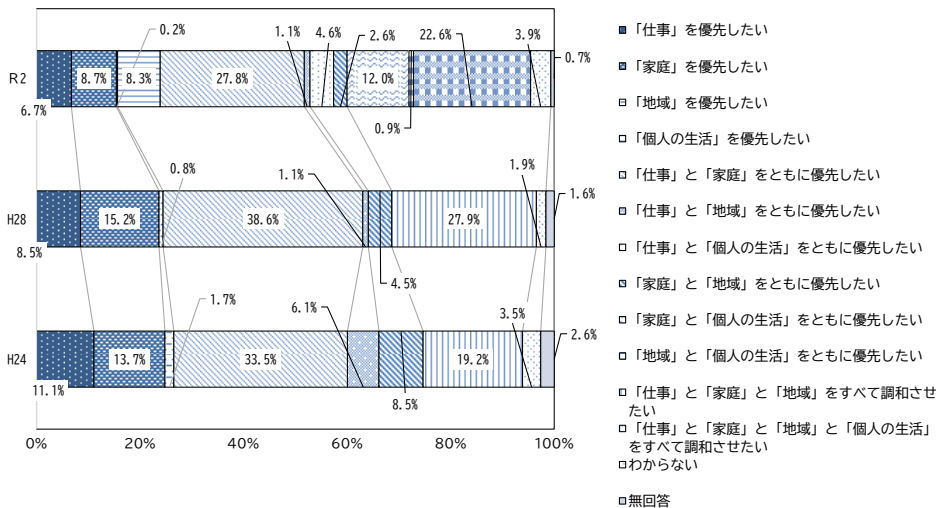
問10-1 生活の中での、「仕事」、「家庭」、「地域」、「個人の生活」の希望優先度について



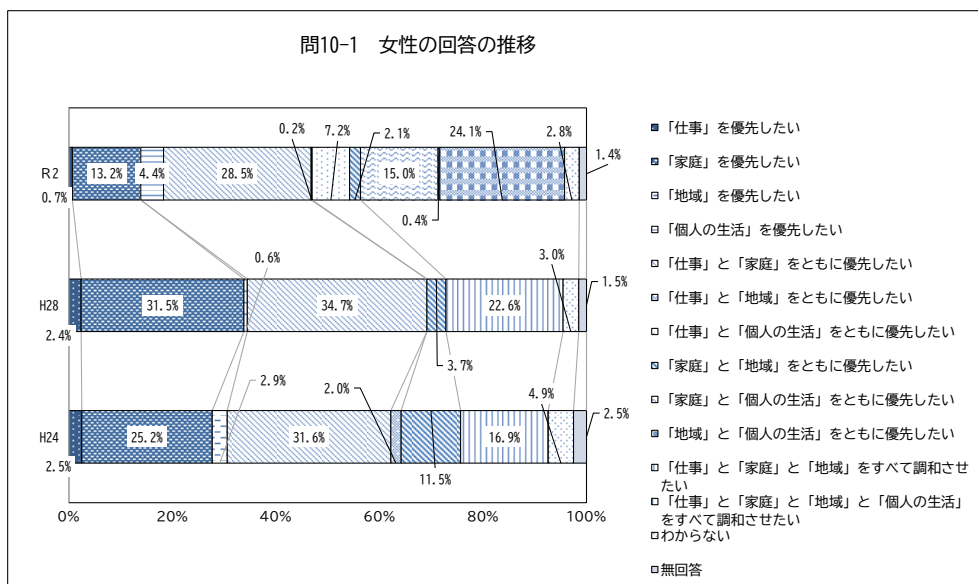
問10-1 全体の回答の推移



問10-1 男性の回答の推移



問10-1 女性の回答の推移



分析

- ・今回調査で設問を一部変更し、選択項目に「個人の生活」を追加し、「仕事」、「家庭」、「地域」とあわせた4項目とした。
- ・前回調査で回答が多かったのが、「仕事と家庭の優先」が36.4%、「すべてを調和させたい」が25%、「家庭の優先」24.2%であったのが、今回、1番多かったのが「仕事と家庭の優先」で28.3%、2番目が「すべてを調和させたい」で23.4%、3番目が「家庭と個人の生活」が13.6%あった。この順位は男女とも同じ傾向であった。
- ・前回調査で3番目に多かった「家庭の優先」24.2%は、今回調査の「家庭の優先」11.3%と「家庭と個人の生活の優先」13.6%に選択がわかれたと思われる。

15 問10-2 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。

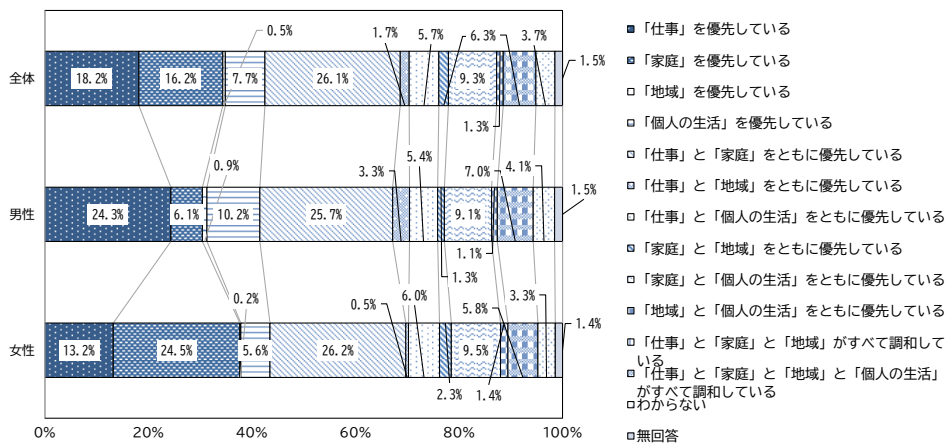
- (1) 「仕事」を優先している
- (2) 「家庭」を優先している
- (3) 「地域」を優先している
- (4) 「個人の生活」を優先している
- (5) 「仕事」と「家庭」をともに優先している
- (6) 「仕事」と「地域」をともに優先している
- (7) 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
- (8) 「家庭」と「地域」をともに優先している
- (9) 「家庭」と「個人の生活」をともに優先している
- (10) 「地域」と「個人の生活」をともに優先している
- (11) 「仕事」と「家庭」と「地域」と「個人の生活」がすべて調和している
- (12) わからない

回答の状況

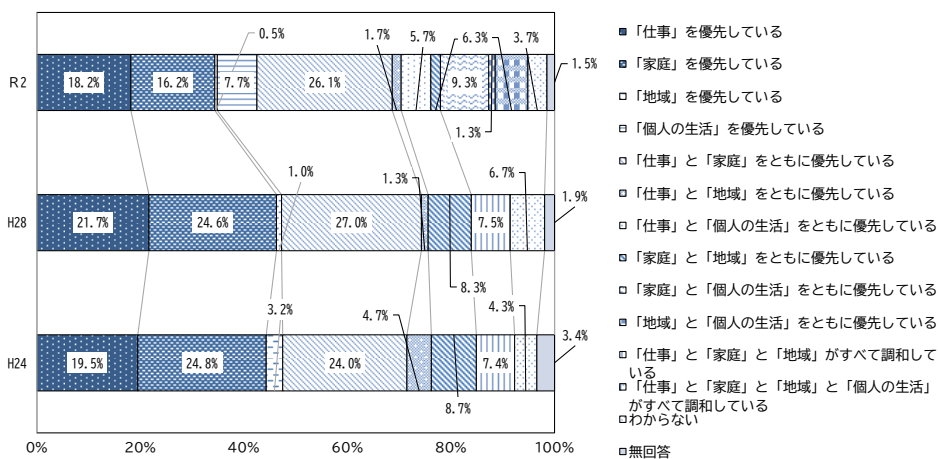
経年比較

	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
「仕事」を優先している	18.2%	24.3%	13.2%	21.7%	25.8%	18.3%	19.5%	25.4%	14.5%
「家庭」を優先している	16.2%	6.1%	24.5%	24.6%	13.6%	33.6%	24.8%	16.6%	31.9%
「地域」を優先している	0.5%	0.9%	0.2%	1.0%	1.3%	0.6%	3.2%	4.4%	2.2%
「個人の生活」を優先している	7.7%	10.2%	5.6%						
「仕事」と「家庭」をともに優先している	26.1%	25.7%	26.2%	27.0%	26.9%	27.2%	24.0%	22.2%	25.5%
「仕事」と「地域」をともに優先している	1.7%	3.3%	0.5%	1.3%	2.4%	0.4%	4.7%	8.7%	1.2%
「仕事」と「個人の生活」をともに優先している	5.7%	5.4%	6.0%						
「家庭」と「地域」をともに優先している	1.8%	1.3%	2.3%	8.3%	9.0%	7.8%	8.7%	7.6%	9.8%
「家庭」と「個人の生活」をともに優先している	9.3%	9.1%	9.5%						
「地域」と「個人の生活」をともに優先している	1.3%	1.1%	1.4%						
「仕事」と「家庭」と「地域」がすべて調和している				7.5%	10.9%	4.7%	7.4%	9.0%	6.1%
「仕事」と「家庭」と「地域」と「個人の生活」がすべて調和している	6.3%	7.0%	5.8%						
わからない	3.7%	4.1%	3.3%	6.7%	8.0%	5.6%	4.3%	3.2%	5.4%
無回答	1.5%	1.5%	1.4%	1.9%	2.1%	1.7%	3.4%	2.9%	3.4%

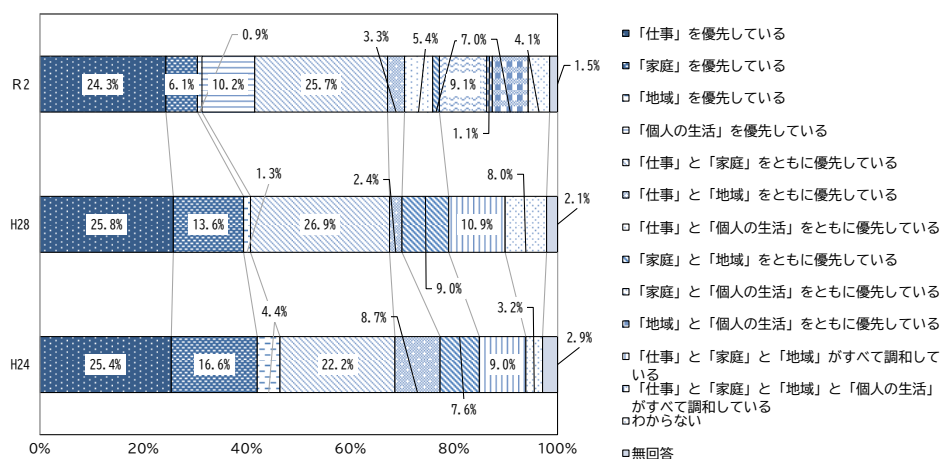
問10-2 あなたの現実（現状）に最も近いもの



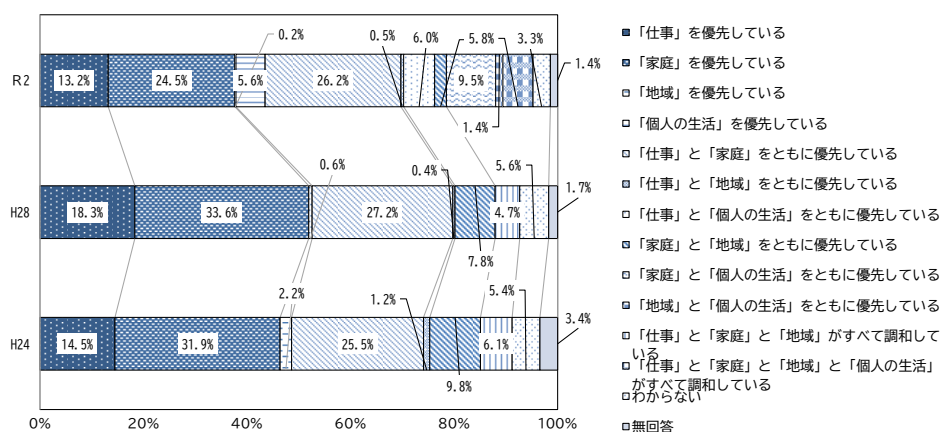
問10-2 全体の回答の推移



問10-2 男性の回答の推移



問10-2 女性の回答の推移



分析

- ・今回調査で設問を変更し、選択項目に「個人の生活」を追加し、「仕事」、「家庭」、「地域」の4項目とした。
- ・「仕事と家庭を優先」する回答が最も多く26.1%で、男女とも前回ともその割合は変わらなかった。
- ・2番目に多かった回答は「仕事を優先」で、男性では前回とほとんど変わらなかった。
- ・前回調査で2番目に多かった「家庭を優先」24.6%は、今回調査の「家庭を優先」16.2%と「家庭と個人の生活を優先」9.3%に選択がわかれたと思われる。

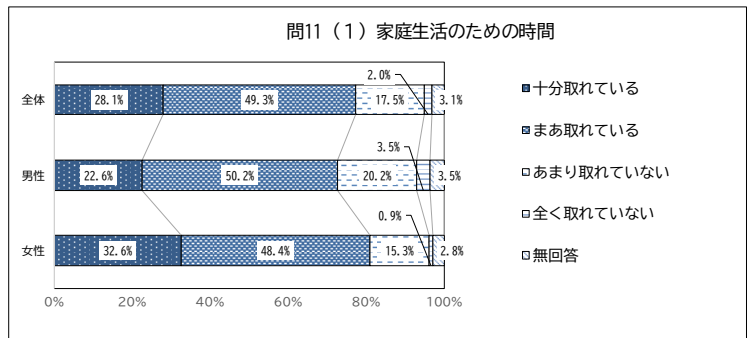
16 問11 あなたは(1)～(4)について、十分時間が取れていますか。該当するものを、それぞれ1つつつ選んで○をつけてください。

(1) 家庭生活のための時間

新規設問

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
十分取れている	28.1%	22.6%	32.6%
まあ取れている	49.3%	50.2%	48.4%
あまり取れていない	17.5%	20.2%	15.3%
全く取れていない	2.0%	3.5%	0.9%
無回答	3.1%	3.5%	2.8%



分析

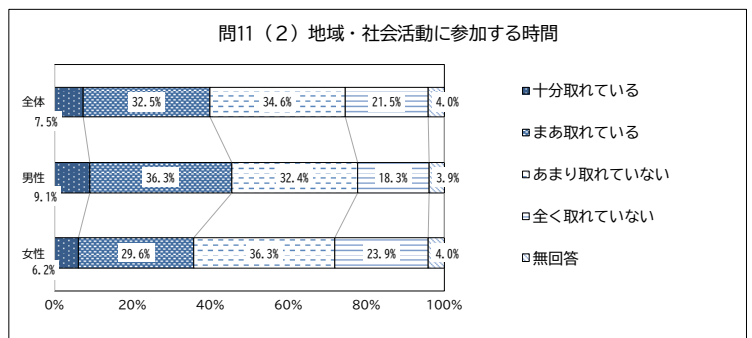
- ・今回新たな設問
- ・取れている（「十分とれている」と「まあとれている」を含めたもの）との回答は、全体で77.4%あったが、男性は72.8%でやや低い結果となった。

16 問11 あなたは(1)～(4)について、十分時間が取れていますか。該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。
(2) 地域・社会活動に参加する時間

新規設問

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
十分取れている	7.5%	9.1%	6.2%
まあ取れている	32.5%	36.3%	29.6%
あまり取れていない	34.6%	32.4%	36.3%
全く取れていない	21.5%	18.3%	23.9%
無回答	4.0%	3.9%	4.0%



分析

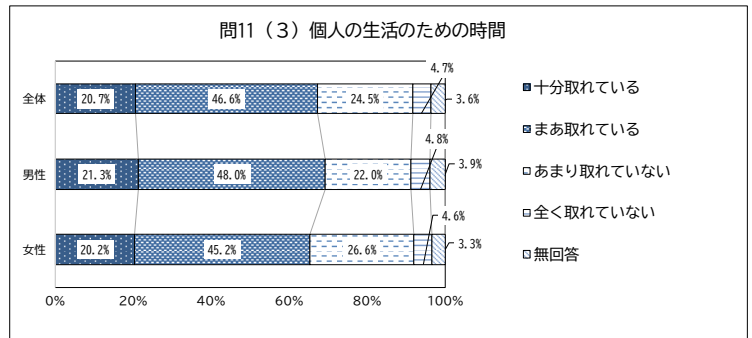
- ・今回新たな設問
- ・取れている（「十分とれている」と「まあとれている」を含めたもの）との回答は、全体で40%あったが、女性は35.8%でやや低い結果となった。

16 問11 あなたは(1)～(4)について、十分時間が取れていますか。該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。
(3) 個人の生活のための時間

新規設問

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
十分取れている	20.7%	21.3%	20.2%
まあ取れている	46.6%	48.0%	45.2%
あまり取れていない	24.5%	22.0%	26.6%
全く取れていない	4.7%	4.8%	4.6%
無回答	3.6%	3.9%	3.3%



分析

- ・今回新たな設問
- ・取れている（「十分とれている」と「まあとれている」を含めたもの）との回答は、全体で**67.3%**あったが、女性は**65.4%**でやや低い結果となった。

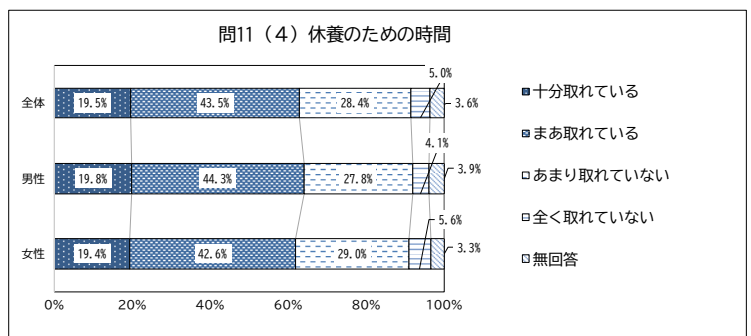
16 問11 あなたは(1)～(4)について、十分時間が取れていますか。該当するものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

(4) 休養のための時間

新規設問

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
十分取れている	19.5%	19.8%	19.4%
まあ取れている	43.5%	44.3%	42.6%
あまり取れていない	28.4%	27.8%	29.0%
全く取れていない	5.0%	4.1%	5.6%
無回答	3.6%	3.9%	3.3%



分析

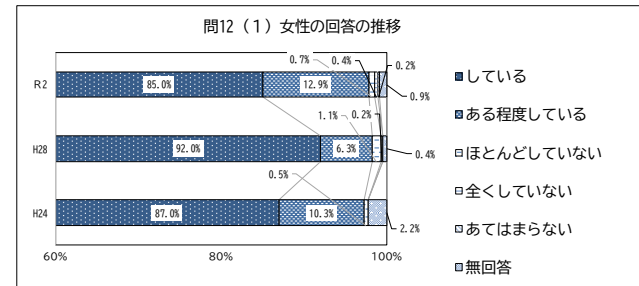
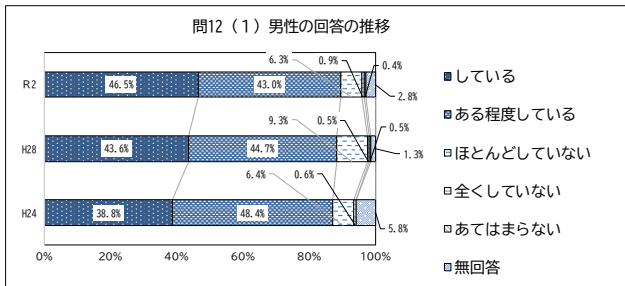
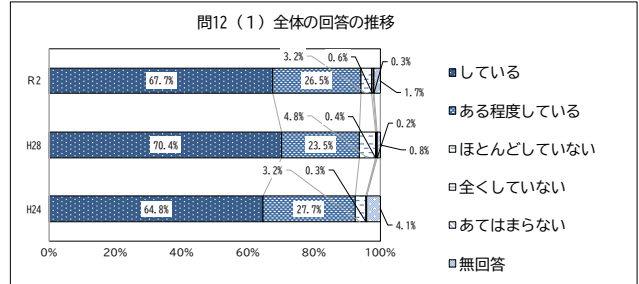
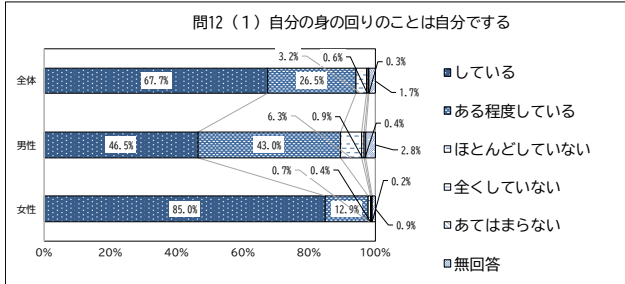
- ・今回新たな設問
- ・取れている（「十分とれている」と「まあとれている」を含めたもの）との回答は、全体で**63%**あり男女差はほとんどなかった。

17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。

(1) 自分の身の回りのことは自分でする

回答の状況

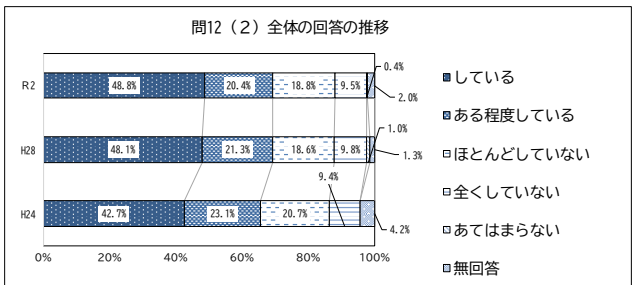
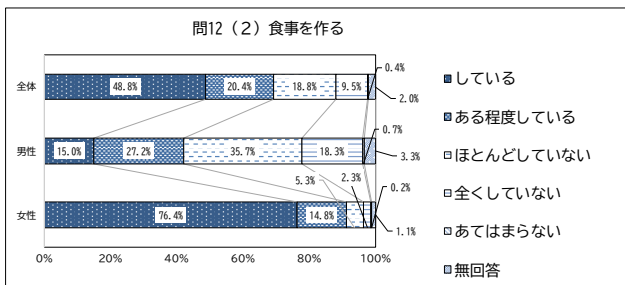
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	67.7%	46.5%	85.0%	70.4%	43.6%	92.0%	64.8%	38.8%	87.0%
ある程度している	26.5%	43.0%	12.9%	23.5%	44.7%	6.3%	27.7%	48.4%	10.3%
ほとんどしていない	3.2%	6.3%	0.7%	4.8%	9.3%	1.1%	3.2%	6.4%	0.5%
全くしていない	0.6%	0.9%	0.4%	0.4%	0.5%	0.2%	0.3%	0.6%	0.0%
あてはまらない	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.7%	2.8%	0.9%	0.8%	1.3%	0.4%	4.1%	5.8%	2.2%

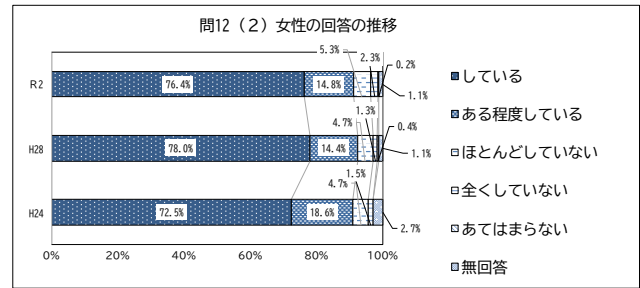
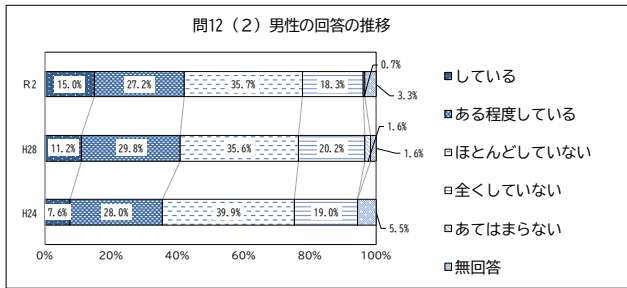


17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (2) 食事を作る

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	48.8%	15.0%	76.4%	48.1%	11.2%	78.0%	42.7%	7.6%	72.5%
ある程度している	20.4%	27.2%	14.8%	21.3%	29.8%	14.4%	23.1%	28.0%	18.6%
ほとんどしていない	18.8%	35.7%	5.3%	18.6%	35.6%	4.7%	20.7%	39.9%	4.7%
全くしていない	9.5%	18.3%	2.3%	9.8%	20.2%	1.3%	9.4%	19.0%	1.5%
あてはまらない	0.4%	0.7%	0.2%	1.0%	1.6%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.0%	3.3%	1.1%	1.3%	1.6%	1.1%	4.2%	5.5%	2.7%

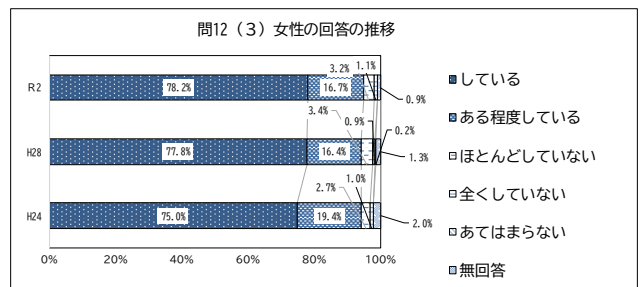
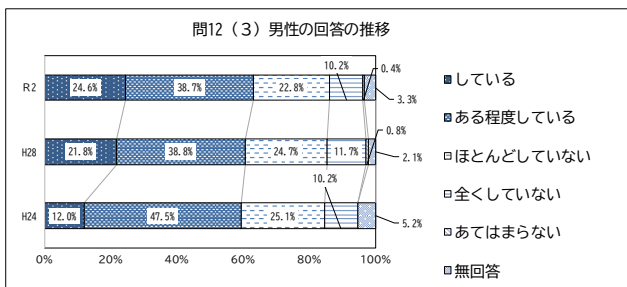
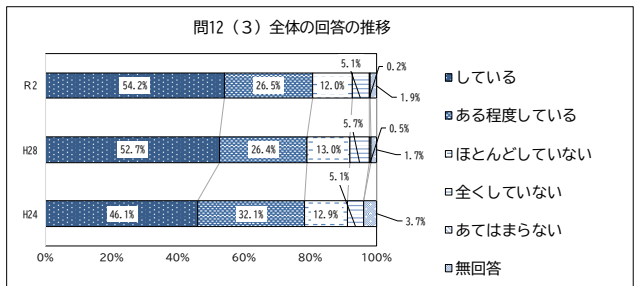
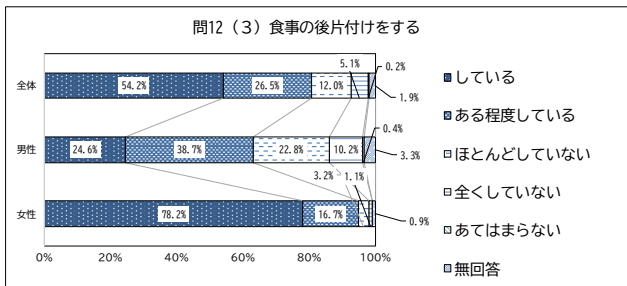




17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (3) 食事の後片付けをする

回答の状況

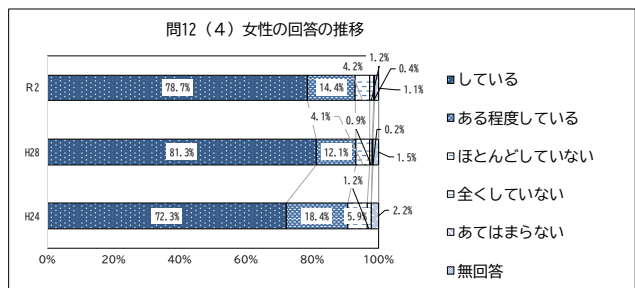
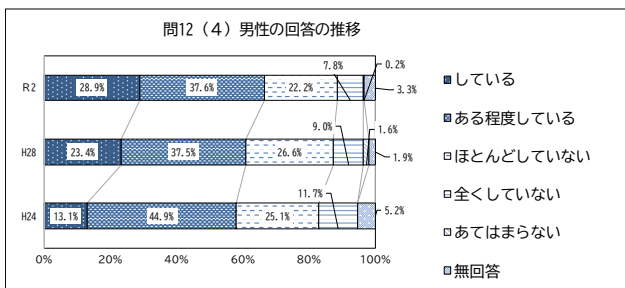
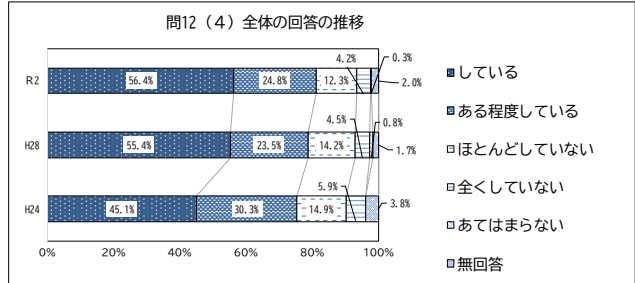
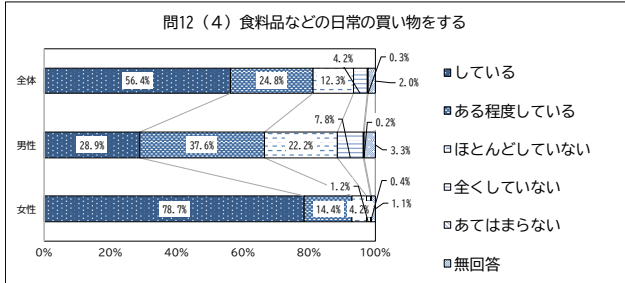
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	54.2%	24.6%	78.2%	52.7%	21.8%	77.8%	46.1%	12.0%	75.0%
ある程度している	26.5%	38.7%	16.7%	26.4%	38.8%	16.4%	32.1%	47.5%	19.4%
ほとんどしていない	12.0%	22.8%	3.2%	13.0%	24.7%	3.4%	12.9%	25.1%	2.7%
全くしていない	5.1%	10.2%	1.1%	5.7%	11.7%	0.9%	5.1%	10.2%	1.0%
あてはまらない	0.2%	0.4%	0.0%	0.5%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.9%	3.3%	0.9%	1.7%	2.1%	1.3%	3.7%	5.2%	2.0%



17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (4) 食料品など日常の買い物をする

回答の状況

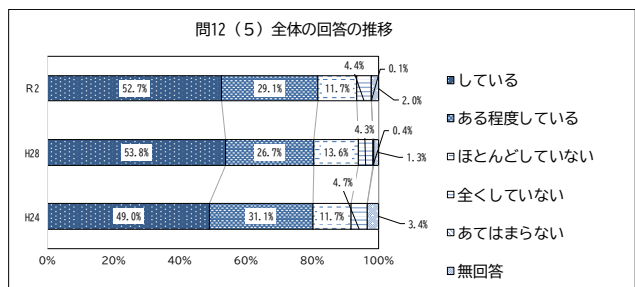
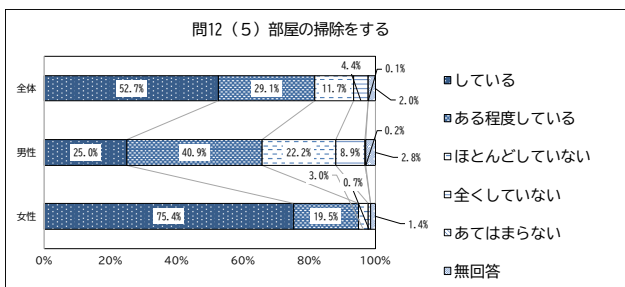
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	56.4%	28.9%	78.7%	55.4%	23.4%	81.3%	45.1%	13.1%	72.3%
ある程度している	24.8%	37.6%	14.4%	23.5%	37.5%	12.1%	30.3%	44.9%	18.4%
ほとんどしていない	12.3%	22.2%	4.2%	14.2%	26.6%	4.1%	14.9%	25.1%	5.9%
全くしていない	4.2%	7.8%	1.2%	4.5%	9.0%	0.9%	5.9%	11.7%	1.2%
あてはまらない	0.3%	0.2%	0.4%	0.8%	1.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.0%	3.3%	1.1%	1.7%	1.9%	1.5%	3.8%	5.2%	2.2%

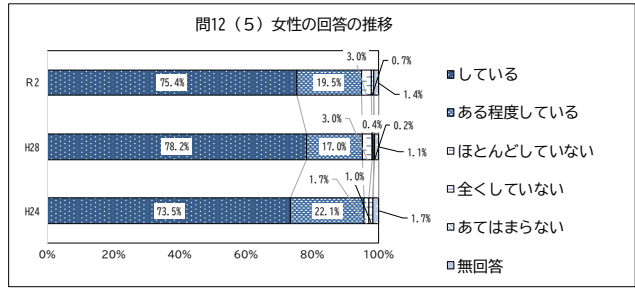
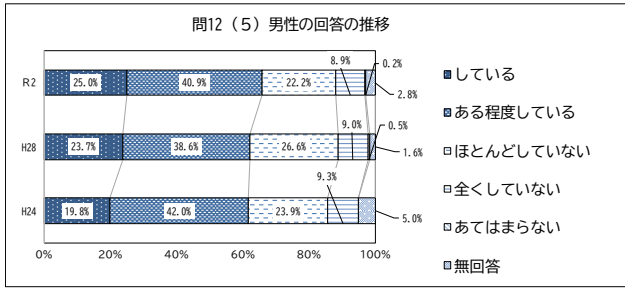


17 問12 次の中から、あなたの現実(現状)に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (5) 部屋の掃除をする

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	52.7%	25.0%	75.4%	53.8%	23.7%	78.2%	49.0%	19.8%	73.5%
ある程度している	29.1%	40.9%	19.5%	26.7%	38.6%	17.0%	31.1%	42.0%	22.1%
ほとんどしていない	11.7%	22.2%	3.0%	13.6%	26.6%	3.0%	11.7%	23.9%	1.7%
全くしていない	4.4%	8.9%	0.7%	4.3%	9.0%	0.4%	4.7%	9.3%	1.0%
あてはまらない	0.1%	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.0%	2.8%	1.4%	1.3%	1.6%	1.1%	3.4%	5.0%	1.7%

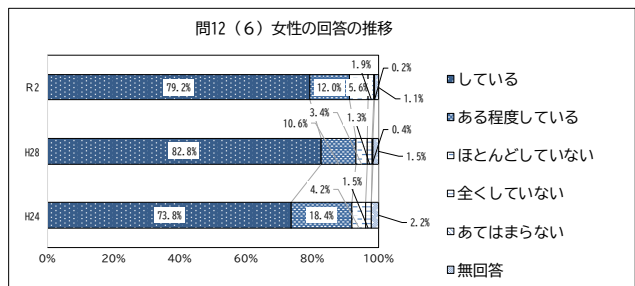
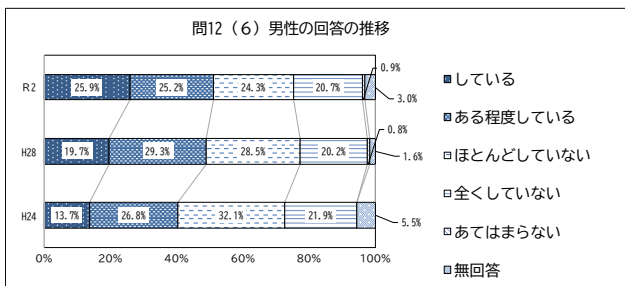
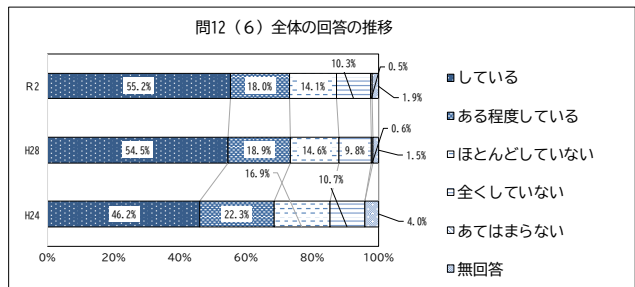
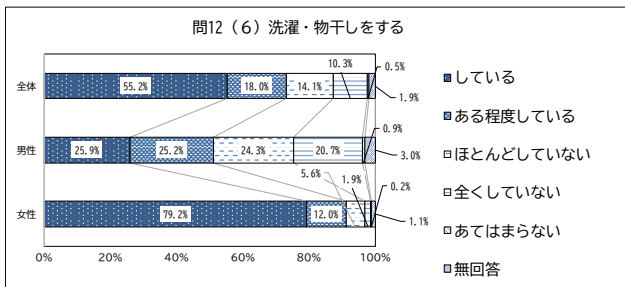




17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (6) 洗濯・物干しをする

回答の状況

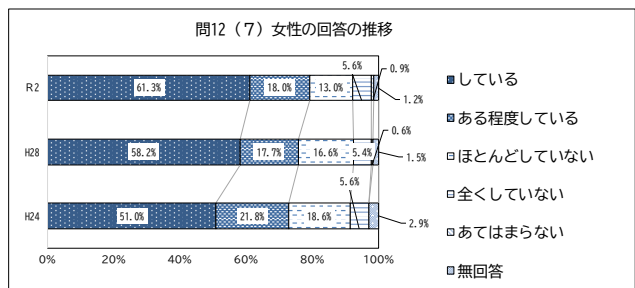
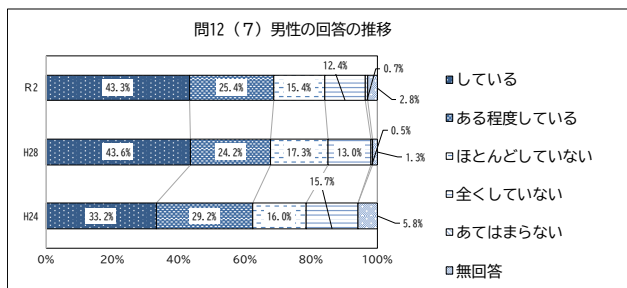
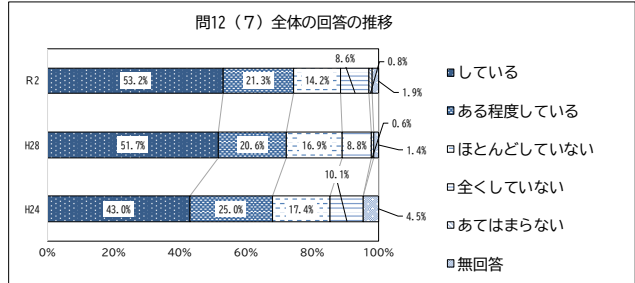
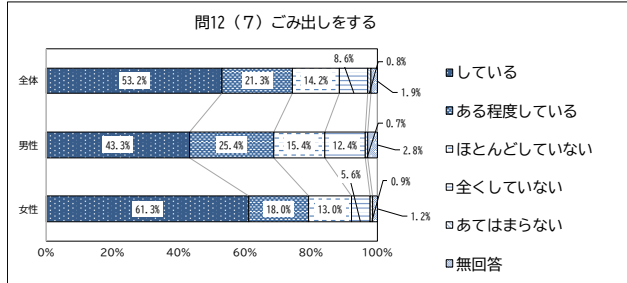
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	55.2%	25.9%	79.2%	54.5%	19.7%	82.8%	46.2%	13.7%	73.8%
ある程度している	18.0%	25.2%	12.0%	18.9%	29.3%	10.6%	22.3%	26.8%	18.4%
ほとんどしていない	14.1%	24.3%	5.6%	14.6%	28.5%	3.4%	16.9%	32.1%	4.2%
全くしていない	10.3%	20.7%	1.9%	9.8%	20.2%	1.3%	10.7%	21.9%	1.5%
あてはまらない	0.5%	0.9%	0.2%	0.6%	0.8%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.9%	3.0%	1.1%	1.5%	1.6%	1.5%	4.0%	5.5%	2.2%



17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (7) ごみ出しをする

回答の状況

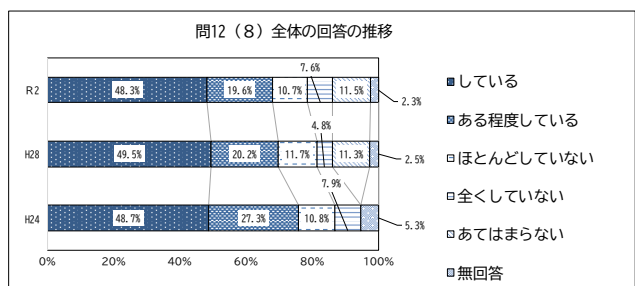
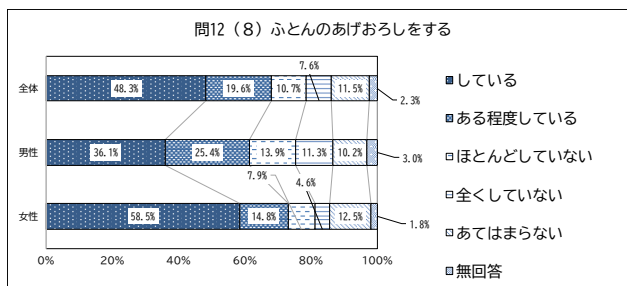
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	53.2%	43.3%	61.3%	51.7%	43.6%	58.2%	43.0%	33.2%	51.0%
ある程度している	21.3%	25.4%	18.0%	20.6%	24.2%	17.7%	25.0%	29.2%	21.8%
ほとんどしていない	14.2%	15.4%	13.0%	16.9%	17.3%	16.6%	17.4%	16.0%	18.6%
全くしていない	8.6%	12.4%	5.6%	8.8%	13.0%	5.4%	10.1%	15.7%	5.6%
あてはまらない	0.8%	0.7%	0.9%	0.6%	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.9%	2.8%	1.2%	1.4%	1.3%	1.5%	4.5%	5.8%	2.9%

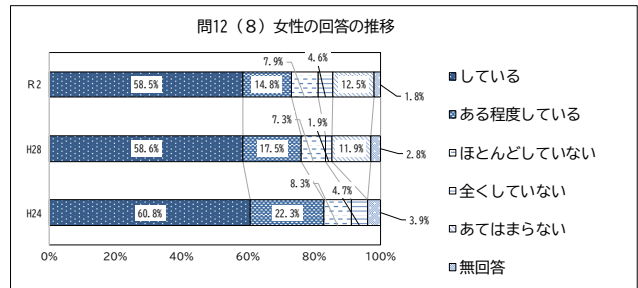
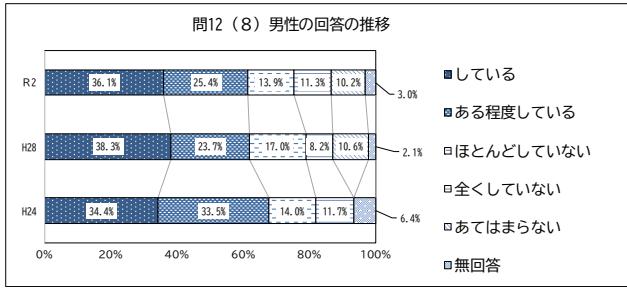


17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (8) ふとんのあげおろしをする

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	48.3%	36.1%	58.5%	49.5%	38.3%	58.6%	48.7%	34.4%	60.8%
ある程度している	19.6%	25.4%	14.8%	20.2%	23.7%	17.5%	27.3%	33.5%	22.3%
ほとんどしていない	10.7%	13.9%	7.9%	11.7%	17.0%	7.3%	10.8%	14.0%	8.3%
全くしていない	7.6%	11.3%	4.6%	4.8%	8.2%	1.9%	7.9%	11.7%	4.7%
あてはまらない	11.5%	10.2%	12.5%	11.3%	10.6%	11.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.3%	3.0%	1.8%	2.5%	2.1%	2.8%	5.3%	6.4%	3.9%

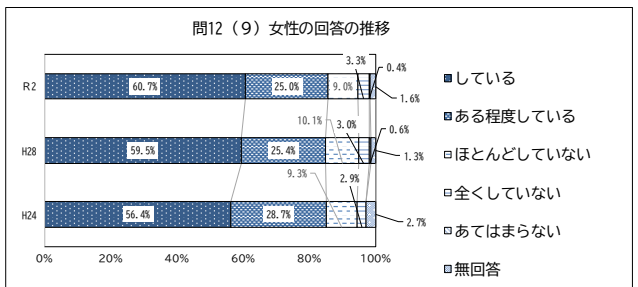
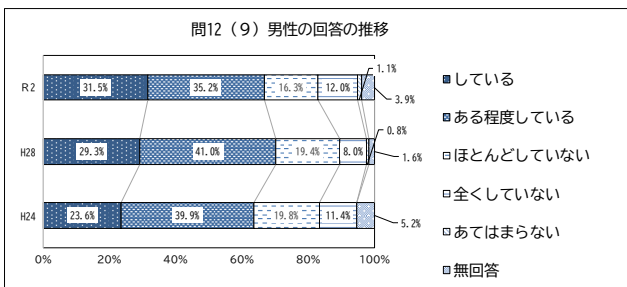
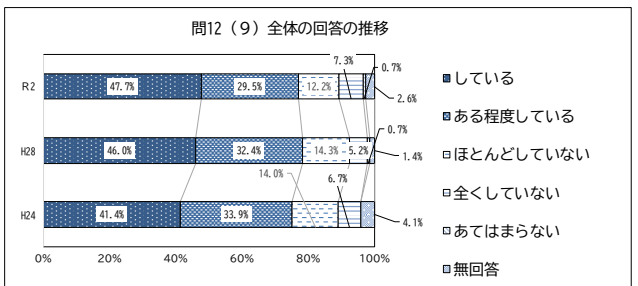
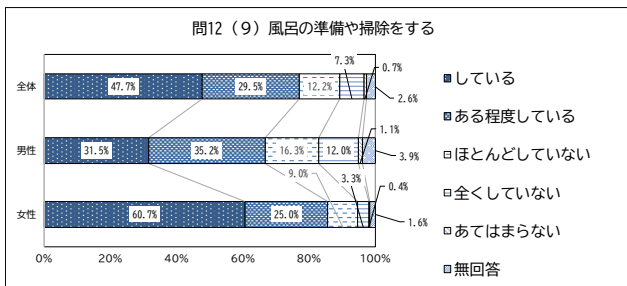




17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (9) 風呂の準備や掃除をする

回答の状況

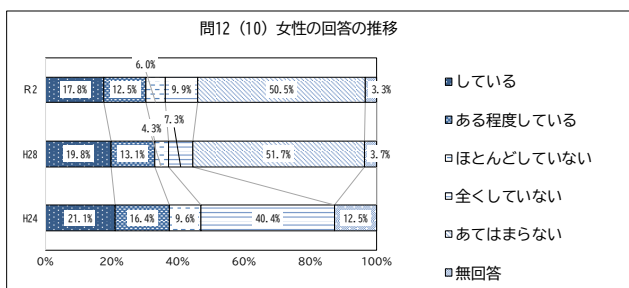
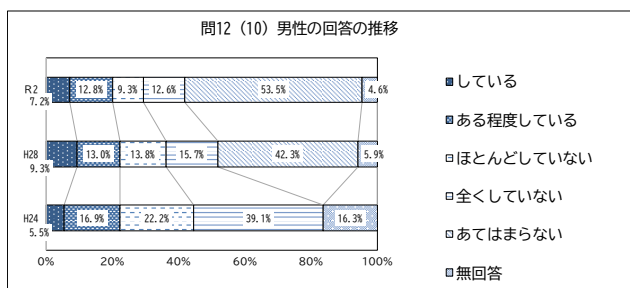
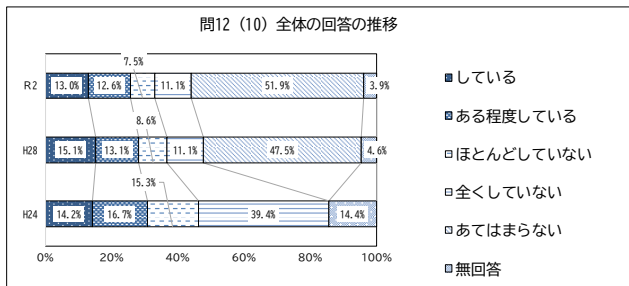
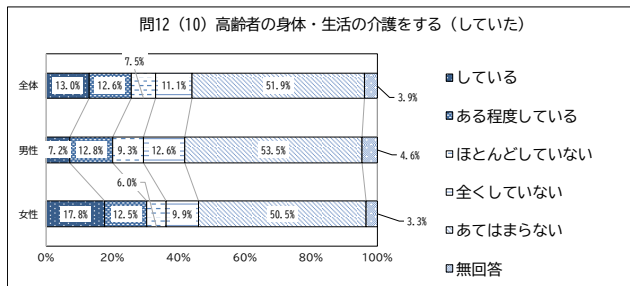
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	47.7%	31.5%	60.7%	46.0%	29.3%	59.5%	41.4%	23.6%	56.4%
ある程度している	29.5%	35.2%	25.0%	32.4%	41.0%	25.4%	33.9%	39.9%	28.7%
ほとんどしていない	12.2%	16.3%	9.0%	14.3%	19.4%	10.1%	14.0%	19.8%	9.3%
全くしていない	7.3%	12.0%	3.3%	5.2%	8.0%	3.0%	6.7%	11.4%	2.9%
あてはまらない	0.7%	1.1%	0.4%	0.7%	0.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.6%	3.9%	1.6%	1.4%	1.6%	1.3%	4.1%	5.2%	2.7%



17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (10) 高齢者の身体・生活の介護をする（していた）

回答の状況

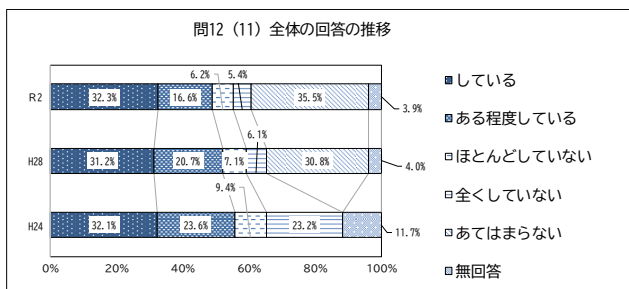
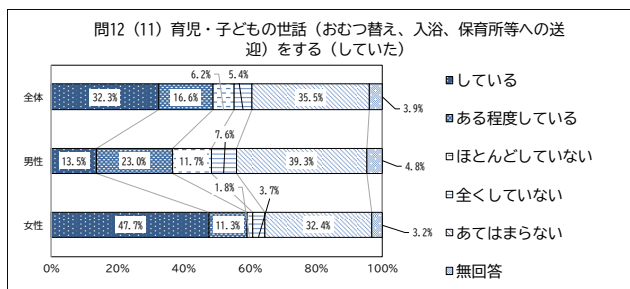
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	13.0%	7.2%	17.8%	15.1%	9.3%	19.8%	14.2%	5.5%	21.1%
ある程度している	12.6%	12.8%	12.5%	13.1%	13.0%	13.1%	16.7%	16.9%	16.4%
ほとんどしていない	7.5%	9.3%	6.0%	8.6%	13.8%	4.3%	15.3%	22.2%	9.6%
全くしていない	11.1%	12.6%	9.9%	11.1%	15.7%	7.3%	39.4%	39.1%	40.4%
あてはまらない	51.9%	53.5%	50.5%	47.5%	42.3%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.9%	4.6%	3.3%	4.6%	5.9%	3.7%	14.4%	16.3%	12.5%

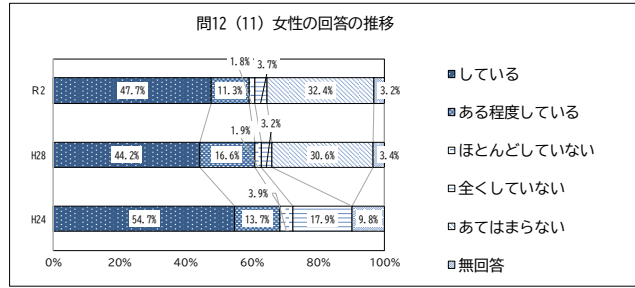
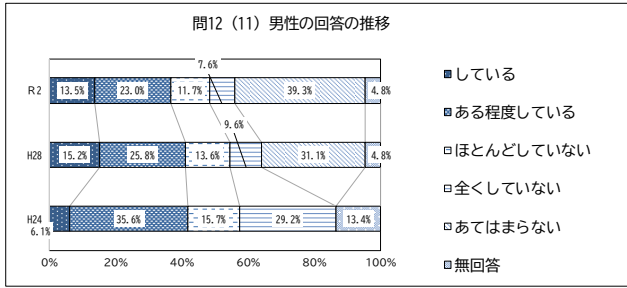


17 問12 次の中から、あなたの現実 (現状) に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (11) 育児・子どもの世話 (おむつ替え、入浴、保育所等への送迎) をする (していた)

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	32.3%	13.5%	47.7%	31.2%	15.2%	44.2%	32.1%	6.1%	54.7%
ある程度している	16.6%	23.0%	11.3%	20.7%	25.8%	16.6%	23.6%	35.6%	13.7%
ほとんどしていない	6.2%	11.7%	1.8%	7.1%	13.6%	1.9%	9.4%	15.7%	3.9%
全くしていない	5.4%	7.6%	3.7%	6.1%	9.6%	3.2%	23.2%	29.2%	17.9%
あてはまらない	35.5%	39.3%	32.4%	30.8%	31.1%	30.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.9%	4.8%	3.2%	4.0%	4.8%	3.4%	11.7%	13.4%	9.8%

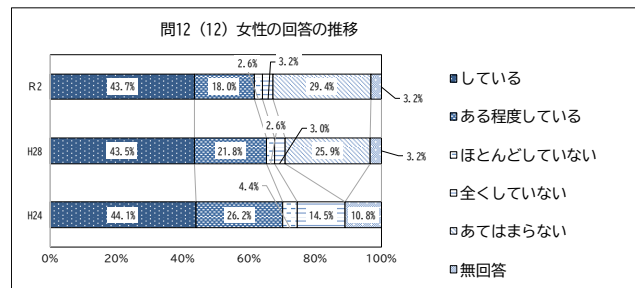
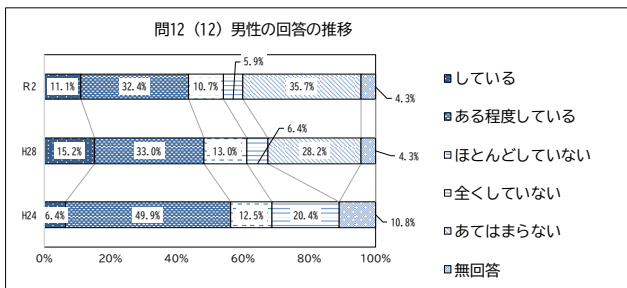
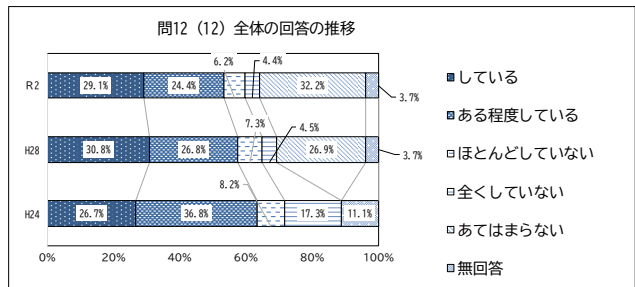
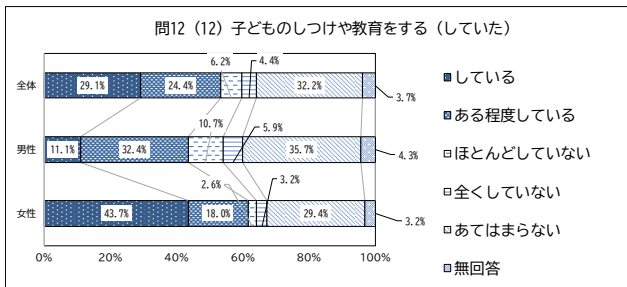




17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (12) 子どものしつけや教育をする（していた）

回答の状況

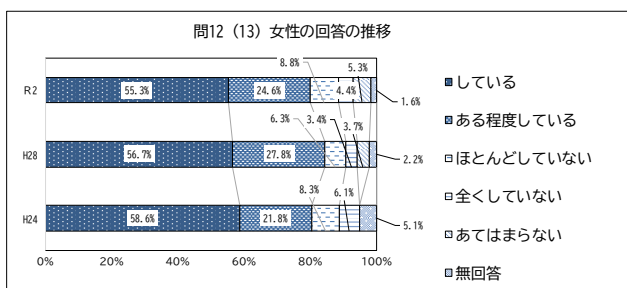
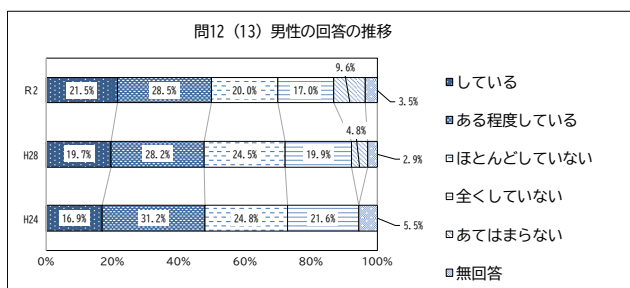
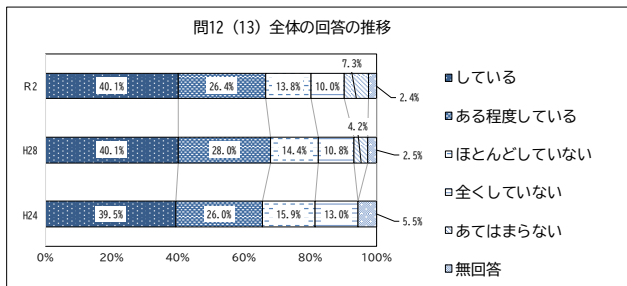
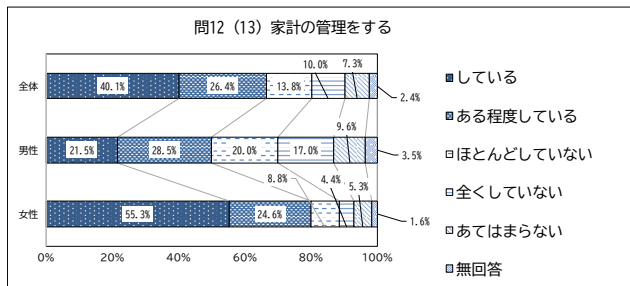
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	29.1%	11.1%	43.7%	30.8%	15.2%	43.5%	26.7%	6.4%	44.1%
ある程度している	24.4%	32.4%	18.0%	26.8%	33.0%	21.8%	36.8%	49.9%	26.2%
ほとんどしていない	6.2%	10.7%	2.6%	7.3%	13.0%	2.6%	8.2%	12.5%	4.4%
全くしていない	4.4%	5.9%	3.2%	4.5%	6.4%	3.0%	17.3%	20.4%	14.5%
あてはまらない	32.2%	35.7%	29.4%	26.9%	28.2%	25.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.7%	4.3%	3.2%	3.7%	4.3%	3.2%	11.1%	10.8%	10.8%



17 問12 次の中から、あなたの現実（現状）に該当するものを1つ選んで○をつけてください。
 (13) 家計の管理をする

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
している	40.1%	21.5%	55.3%	40.1%	19.7%	56.7%	39.5%	16.9%	58.6%
ある程度している	26.4%	28.5%	24.6%	28.0%	28.2%	27.8%	26.0%	31.2%	21.8%
ほとんどしていない	13.8%	20.0%	8.8%	14.4%	24.5%	6.3%	15.9%	24.8%	8.3%
全くしていない	10.0%	17.0%	4.4%	10.8%	19.9%	3.4%	13.0%	21.6%	6.1%
あてはまらない	7.3%	9.6%	5.3%	4.2%	4.8%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.4%	3.5%	1.6%	2.5%	2.9%	2.2%	5.5%	5.5%	5.1%



分析

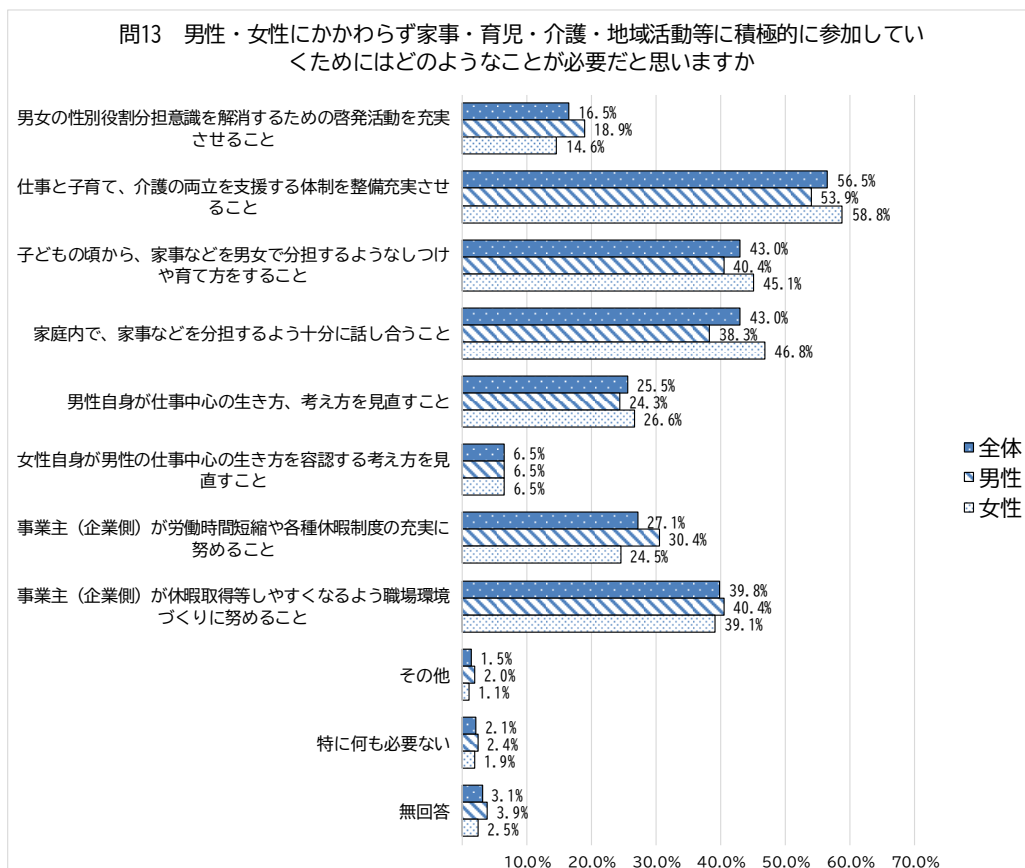
- ・総じていうと、調査を重ねるごとに男性の家事参加（「している」）の割合は上がる傾向にあるが、「ある程度している」とあわせると大きく変化がみられない。
- ・日常的な項目のうち、「ゴミ出し」「ふとん」「ふろ」については男性が行う度合いが高いが、「食事を作る」「高齢者の介護」「子どもの世話」「子どもの教育」では、他の項目と比べ「している（いた）」と答えた男性の割合は多くない。特に介護については男性の参加がまだまだ少ない状況。
- ・男性の回答で「自分の身の回りのことは自分でする」以外の質問では、多くの質問で1割以上の方が「全くしない」と回答してる。

18 問13 男性・女性にかかわらず家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の(1)～(10)の該当するものを3つまで選んで○をつけてください。

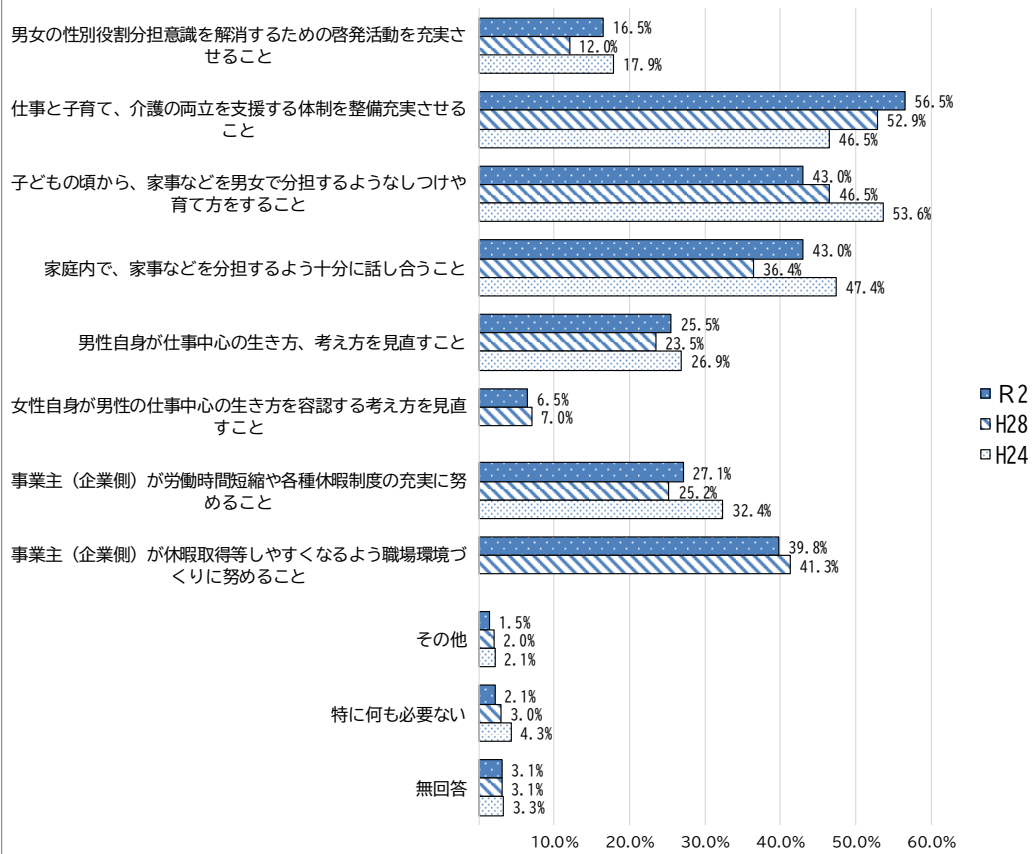
- (1) 男女の性別役割分担意識を解消するための啓発活動を充実させること
- (2) 仕事と子育て、介護の両立を支援する体制を整備充実させること
- (3) 子どもの頃から、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること
- (4) 家庭内で、家事などを分担するよう十分に話し合うこと
- (5) 男性自身が仕事中心の生き方、考え方を見直すこと
- (6) 女性自身が男性の仕事中心の生き方を容認する考え方を見直すこと
- (7) 事業主（企業側）が労働時間短縮や各種休暇制度の充実に努めること
- (8) 事業主（企業側）が休暇取得等しやすくなるよう職場環境づくりに努めること
- (9) その他（具体的に： ）
- (10) 特に何も必要ない

回答の状況

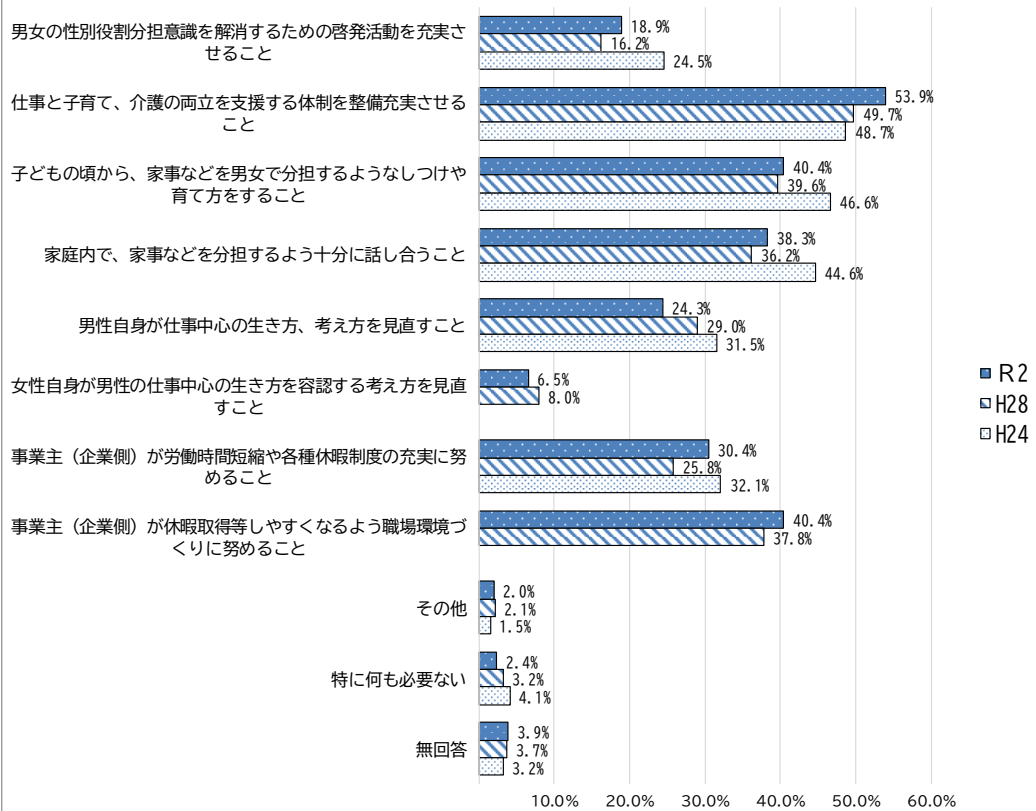
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
男女の性別役割分担意識を解消するための啓発活動を充実させること	16.5%	18.9%	14.6%	12.0%	16.2%	8.6%	17.9%	24.5%	12.7%
仕事と子育て、介護の両立を支援する体制を整備充実させること	56.5%	53.9%	58.8%	52.9%	49.7%	55.4%	46.5%	48.7%	44.6%
子どもの頃から、家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	43.0%	40.4%	45.1%	46.5%	39.6%	52.2%	53.6%	46.6%	59.6%
家庭内で、家事などを分担するよう十分に話し合うこと	43.0%	38.3%	46.8%	36.4%	36.2%	36.6%	47.4%	44.6%	50.0%
男性自身が仕事中心の生き方、考え方を見直すこと	25.5%	24.3%	26.6%	23.5%	29.0%	19.0%	26.9%	31.5%	23.5%
女性自身が男性の仕事中心の生き方を容認する考え方を見直すこと	6.5%	6.5%	6.5%	7.0%	8.0%	6.3%			
事業主（企業側）が労働時間短縮や各種休暇制度の充実に努めること	27.1%	30.4%	24.5%	25.2%	25.8%	24.8%	32.4%	32.1%	32.4%
事業主（企業側）が休暇取得等しやすくなるよう職場環境づくりに努めること	39.8%	40.4%	39.1%	41.3%	37.8%	44.2%			
その他	1.5%	2.0%	1.1%	2.0%	2.1%	1.9%	2.1%	1.5%	2.7%
特に何も必要ない	2.1%	2.4%	1.9%	3.0%	3.2%	2.8%	4.3%	4.1%	4.7%
無回答	3.1%	3.9%	2.5%	3.1%	3.7%	2.6%	3.3%	3.2%	2.9%

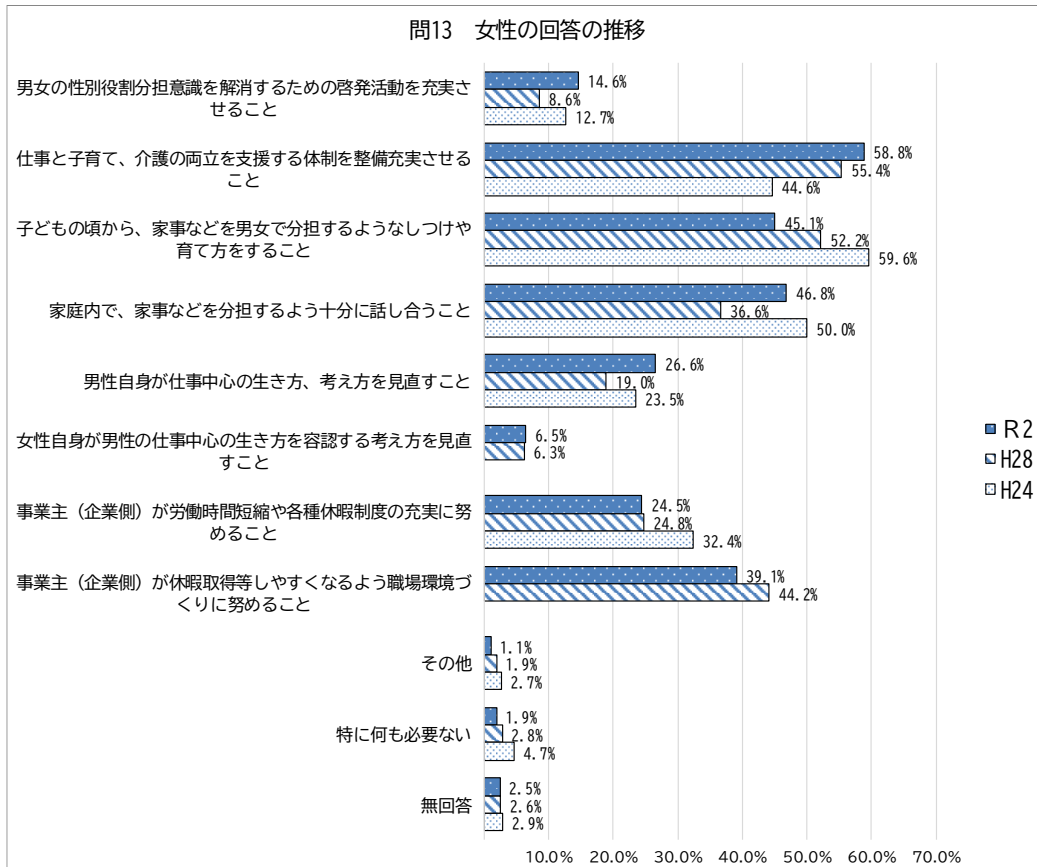


問13 全体の回答の推移



問13 男性の回答の推移





分析

- ・一番多かった意見は「仕事と子育て、介護の両立を支援する体制を整備充実させること」56.5%、次が「子どもの頃から、家事などを男女で分担するようしつけや育て方をすること」と「家庭内で、家事などを分担するよう十分に話し合うこと」であった。
- ・「事業主（企業側）が休暇取得等しやすくなるよう職場環境づくりに努めること」の回答も多く、ワークライフバランス推進への啓発を進める必要がある。

その他の回答

- 子育て支援をもっと充実させるべき、特に障害児に対してのサービス支援を広げるべき（30歳代・女）
- 職場内における仕事内容の取捨選択（50歳代・女）
- お互いに理解して協力する（40歳代・男）
- キャリアについての考え方を変えないとダメ（60歳代・男）
- ヨーロッパの育児制度を見習うべき（休暇等）（30歳代・男）
- 自分自信が今何をすべきか気づく知恵を持つことが必要（60歳代・男）
- 意識を持つか持たないにつきる。（30歳代・女）
- 30～40代のリーダーが率先して男女平等活動のモデルとなって発信していく。（例）小泉進次郎さん育休取得日本は男尊女卑が根付いています。変革期の試みとして、このアンケートが第一歩ですね。（30歳代・女）
- 社会全体がまだ差別というか、区別する傾向がある。これを見直すこと。（30歳代・男）
- (1) かもしれないが学校教育での男女共同参画教育の充実（70歳以上・男）
- 収入増加（40歳代・男）
- 男女にかかわらず、目的が果せるように役割分担なり協力なり、制度、政策の充実がされること（40歳代・女）
- 男性が家事、介護に意識をむけること（30歳代・女）
- 家族というものを形成するためにどう協力し合うか、それぞれが考えるべき、役割分担とかではなく係ではなく、思いやり。手伝うという考えをなくす（20歳代・女）
- 全部（20歳代・女）

19. 人権

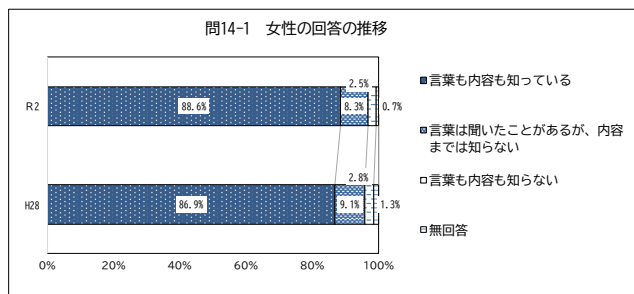
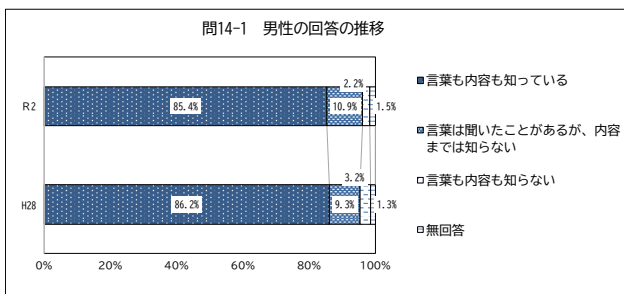
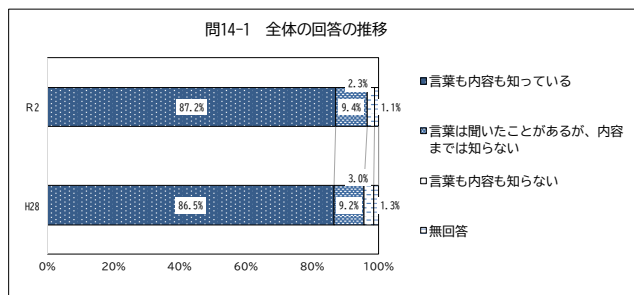
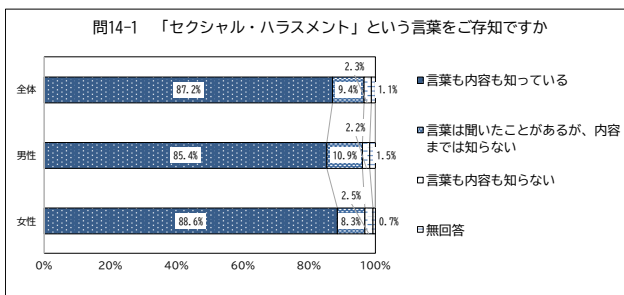
20 問14-1「セクシュアル・ハラスメント」という言葉をご存知ですか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 言葉も内容も知っている
- (2) 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- (3) 言葉も内容も知らない

※「セクシュアル・ハラスメント」とは、相手の意に反した性的な性質の言動。身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的な噂を流すなど様々なものが含まれます。

回答の状況

経年比較	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
言葉も内容も知っている	87.2%	85.4%	88.6%	86.5%	86.2%	86.9%
言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	9.4%	10.9%	8.3%	9.2%	9.3%	9.1%
言葉も内容も知らない	2.3%	2.2%	2.5%	3.0%	3.2%	2.8%
無回答	1.1%	1.5%	0.7%	1.3%	1.3%	1.3%



分析

・「セクシュアル・ハラスメント」の認知度は、前回よりやや認知度が上がっている（86.5%⇒87.2%）。

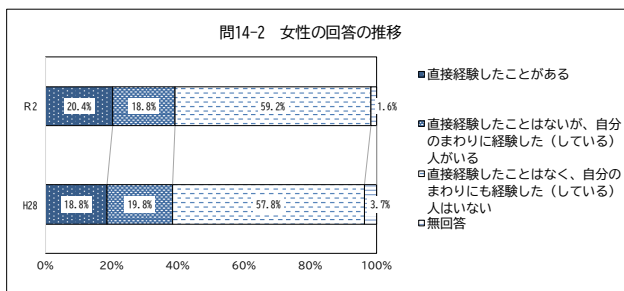
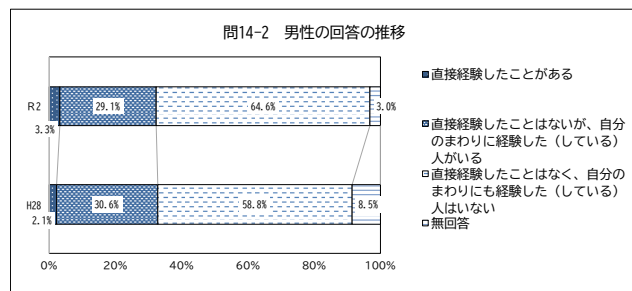
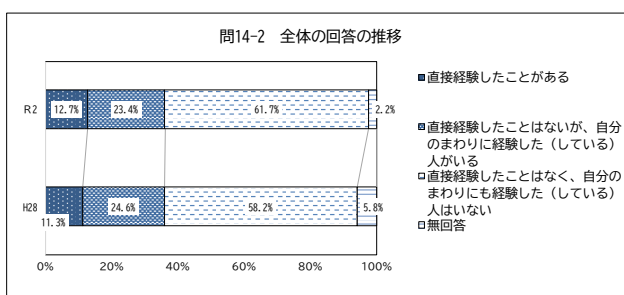
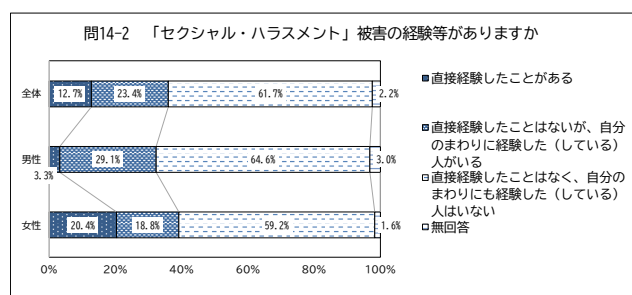
・男女別で見ると、女性の認知度は前回より増えている（86.9%⇒88.6%）が、男性は減っている（86.2%⇒85.4%）。

2 1 問14-2「セクシュアル・ハラスメント」被害の経験等がありますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください

- (1) 直接経験したことがある
- (2) 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- (3) 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいない

回答の状況

	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
直接経験したことがある	12.7%	3.3%	20.4%	11.3%	2.1%	18.8%
直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる	23.4%	29.1%	18.8%	24.6%	30.6%	19.8%
直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいない	61.7%	64.6%	59.2%	58.2%	58.8%	57.8%
無回答	2.2%	3.0%	1.6%	5.8%	8.5%	3.7%



分析

- ・「直接経験したことがある」と答えた人が、全体 (11.3%⇒12.7%)、男性 (2.1%⇒3.3%)、女性 (18.8%⇒20.4%) とともに前回より増えている。
- ・前回、今回とも、「直接経験したことがある」と答えた人の割合は、男性に比べて女性が圧倒的に高い。
- ・「直接経験したことがある」または「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる」と答えた人の割合は、全体及び男女とも、前回とあまり変わらない。

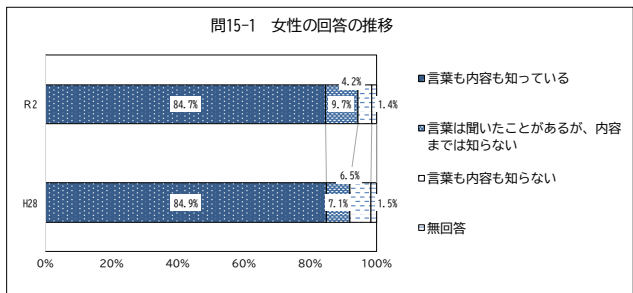
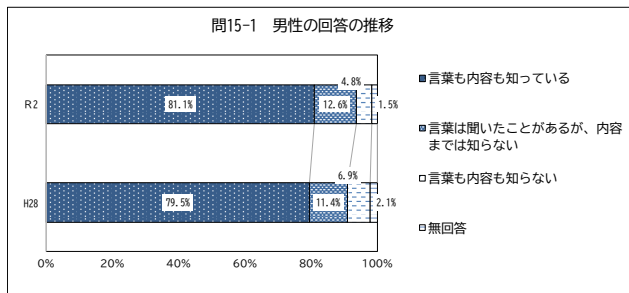
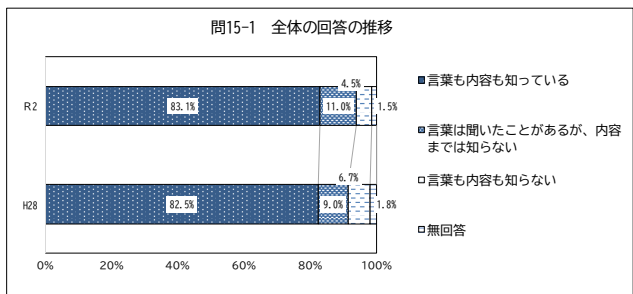
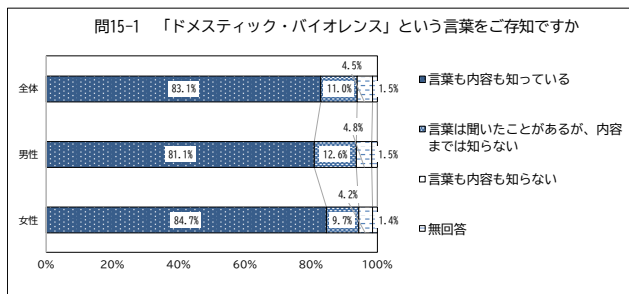
22 問15-1「ドメスティック・バイオレンス」という言葉をご存知ですか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 言葉も内容も知っている
- (2) 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- (3) 言葉も内容も知らない

※「ドメスティック・バイオレンス（DV）」とは、配偶者やパートナーなど親密な関係にある、または、あった異性から身体に対する暴力またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動をさします。殴る、蹴るといった身体的な暴力のほか、精神的暴力（大声で怒鳴る、何を言っても無視する、人前でバカにする等）、性的暴力（嫌がっているのに性行為を強要する、避妊に協力しない等）、経済的暴力（生活費を渡さない、お金の使い方を細かく監視する等）、社会的暴力（行動を監視する等）等様々な形態があります。（出雲市DV対策基本計画から）

回答の状況

経年比較	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
言葉も内容も知っている	83.1%	81.1%	84.7%	82.5%	79.5%	84.9%
言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	11.0%	12.6%	9.7%	9.0%	11.4%	7.1%
言葉も内容も知らない	4.5%	4.8%	4.2%	6.7%	6.9%	6.5%
無回答	1.5%	1.5%	1.4%	1.8%	2.1%	1.5%



分析

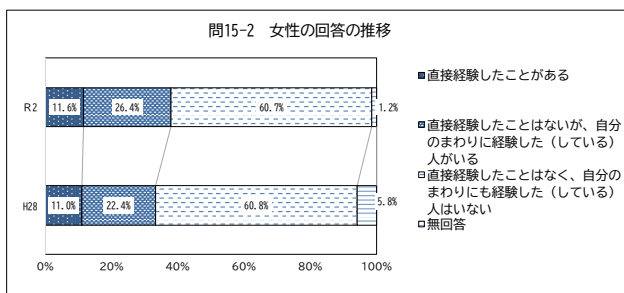
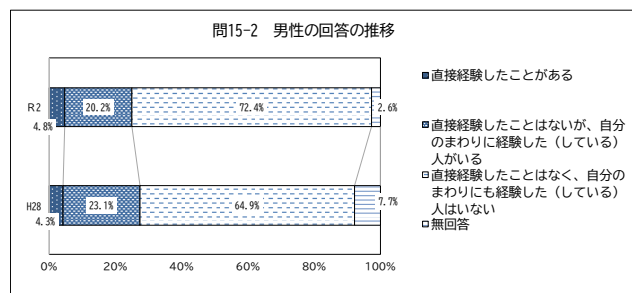
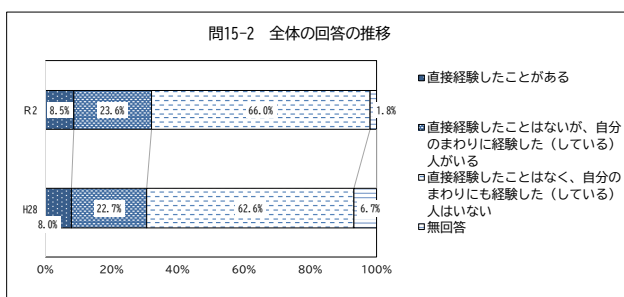
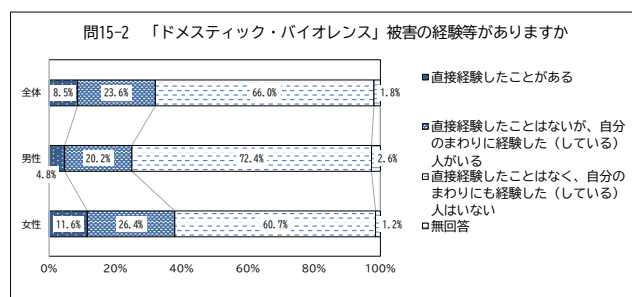
- ・「ドメスティック・バイオレンス」という言葉を、「言葉も内容も知っている」または「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人は前回より増え、95%近くの人が知っていた。
- ・「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人は、全体（9.0%⇒11.0%）、男性（11.4%⇒12.6%）、女性（7.1%⇒9.7%）と増えている。

23 問15-2「ドメスティック・バイオレンス」被害の経験等がありますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください

- (1) 直接経験したことがある
- (2) 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- (3) 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいない

回答の状況

経年比較	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
直接経験したことがある	8.5%	4.8%	11.6%	8.0%	4.3%	11.0%
直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる	23.6%	20.2%	26.4%	22.7%	23.1%	22.4%
直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいない	66.0%	72.4%	60.7%	62.6%	64.9%	60.8%
無回答	1.8%	2.6%	1.2%	6.7%	7.7%	5.8%



分析

・「直接経験したことがある」または「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる」と答えた人は、男性は前回より減少している(27.4%⇒25%)のに対し、女性は増加しており(33.4%⇒38%)、全体的には増加となっている(30.7%⇒32.1%)。

24 問16-1「デートDV」という言葉をご存知ですか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

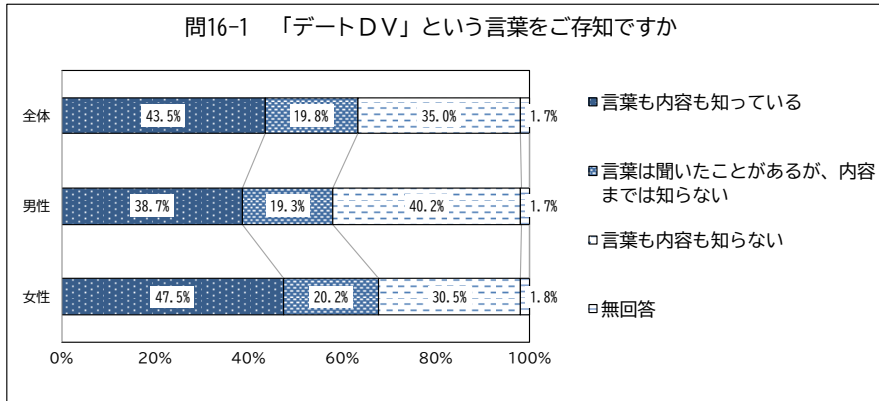
- (1) 言葉も内容も知っている
- (2) 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- (3) 言葉も内容も知らない

新規設問

※「デートDV」とは、恋人(同居していない)間でのDV(ドメスティック・バイオレンス)のことです。DVは大人だけの問題ではなく、恋愛関係にある若者の間でも同じような暴力(デートDV)が起きています。「好きだから、気持ちを通じ合わせたい」「一緒にいたい」というのと、「自分の思いどおりに動いてほしい」「独り占めしたい」と相手をコントロールしたり、「自分のモノ」として扱ったりするのは違うことです。

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
言葉も内容も知っている	43.5%	38.7%	47.5%
言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	19.8%	19.3%	20.2%
言葉も内容も知らない	35.0%	40.2%	30.5%
無回答	1.7%	1.7%	1.8%



分析

・「言葉も内容も知っている」または「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人は、全体（63.3%）、男性（58.0%）、女性（67.7%）となり、全体で95%近くの人が同様の回答をした「ドメスティック・バイオレンス」と比べて、言葉も内容も知らない人が多い。

25 問16-2 「デートDV」被害の経験等がありますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください

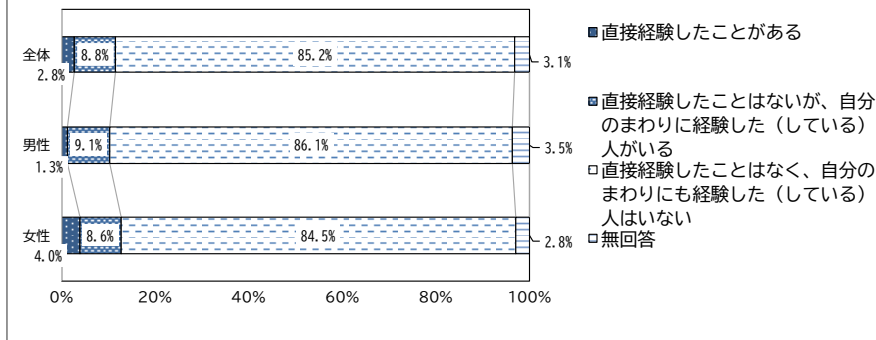
- (1) 直接経験したことがある
- (2) 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる
- (3) 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した（している）人はいない

新規設問

回答の状況

	R2		
	全体	男性	女性
直接経験したことがある	2.8%	1.3%	4.0%
直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる	8.8%	9.1%	8.6%
直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した（している）人はいない	85.2%	86.1%	84.5%
無回答	3.1%	3.5%	2.8%

問16-2 「デートDV」被害の経験等がありますか



分析

- ・「直接経験したこと」または「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」と答えた人は、全体（11.6%）、男性（10.4%）、女性（12.6%）となり、「ドメスティック・バイオレンス」での同様の設問（問15-2）と比べて、全体的に少ない。
- ・「直接経験したこと」または「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」と答えた人は、「ドメスティック・バイオレンス」の被害経験と同様で、男性（10.4%）より女性（12.6%）の方が多い。

26 問17 これまで、ドメスティック・バイオレンスまたはデートDVについて、講習会等を受講したことがありますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

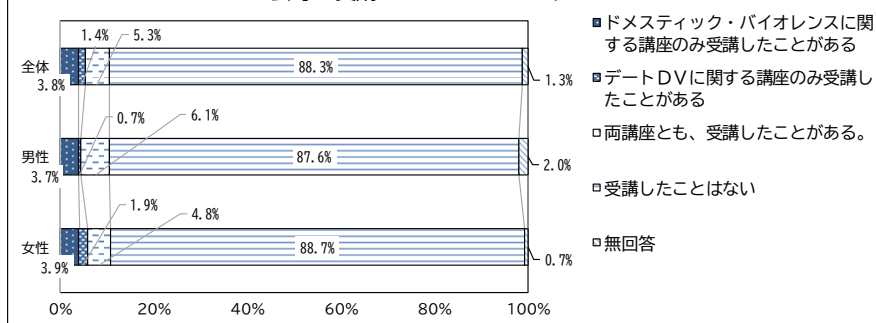
- （1）ドメスティック・バイオレンスに関する講座のみ受講したことがある
- （2）デートDVに関する講座のみ受講したことがある
- （3）両講座とも、受講したことがある。
- （4）受講したことはない

新規設問

回答の状況

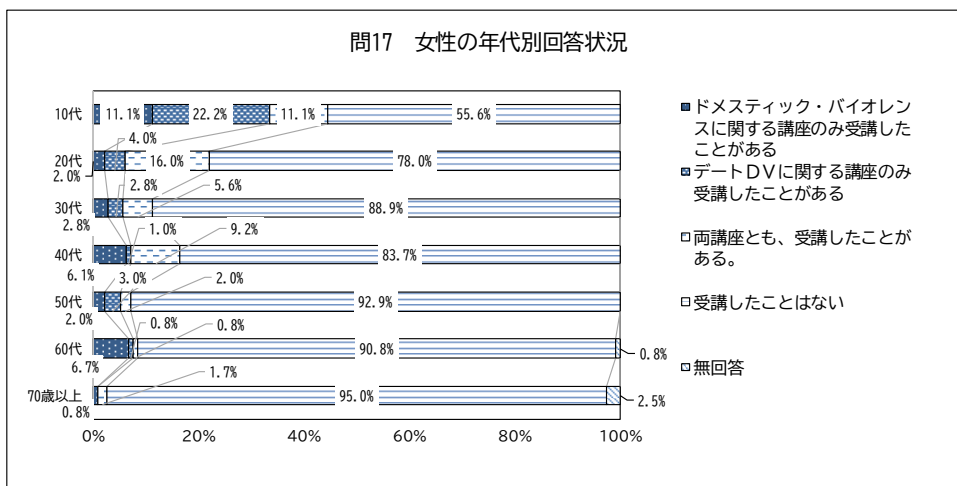
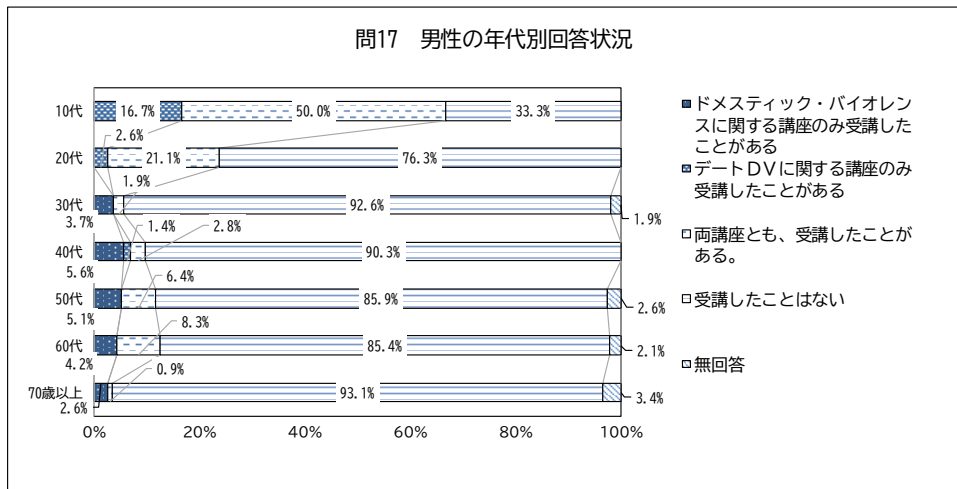
経年比較	R2		
	全体	男性	女性
ドメスティック・バイオレンスに関する講座のみ受講したことがある	3.8%	3.7%	3.9%
デートDVに関する講座のみ受講したことがある	1.4%	0.7%	1.9%
両講座とも、受講したことがある。	5.3%	6.1%	4.8%
受講したことはない	88.3%	87.6%	88.7%
無回答	1.3%	2.0%	0.7%

問17 ドメスティック・バイオレンスまたはデートDVについて、講習会等を受講したことがありますか



年代別集計

	男性							女性						
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
ドメスティック・バイオレンスに関する講座のみ受講したことがある	0.0%	0.0%	3.7%	5.6%	5.1%	4.2%	2.6%	11.1%	2.0%	2.8%	6.1%	2.0%	6.7%	0.8%
デートDVに関する講座のみ受講したことがある	16.7%	2.6%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	4.0%	2.8%	1.0%	3.0%	0.8%	0.0%
両講座とも、受講したことがある。	50.0%	21.1%	1.9%	2.8%	6.4%	8.3%	0.9%	11.1%	16.0%	5.6%	9.2%	2.0%	0.8%	1.7%
受講したことはない	33.3%	76.3%	92.6%	90.3%	85.9%	85.4%	93.1%	55.6%	78.0%	88.9%	83.7%	92.9%	90.8%	95.0%
無回答	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	2.6%	2.1%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	2.5%



分析

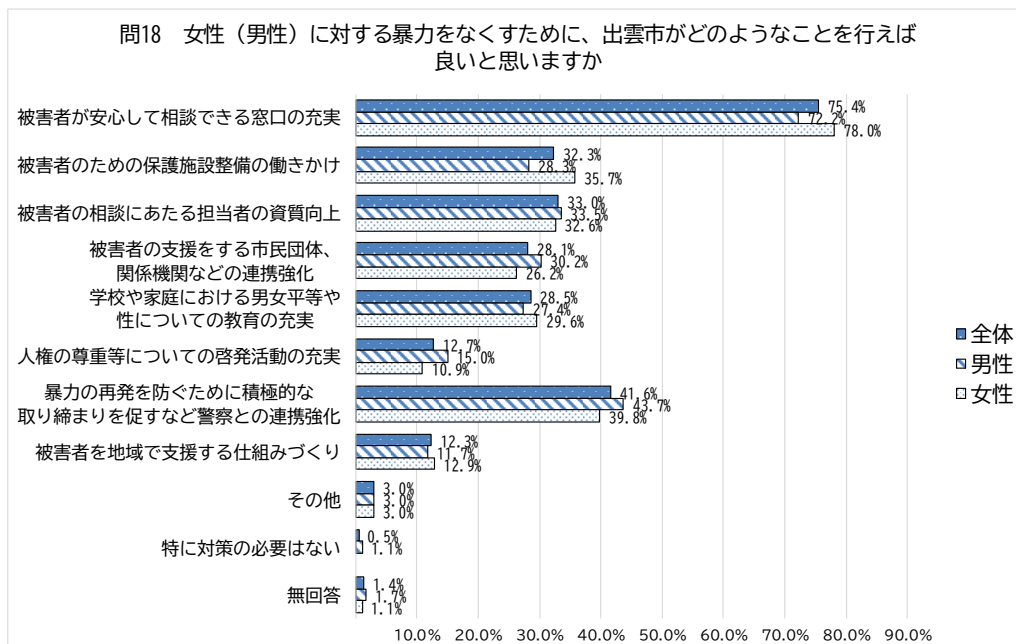
- ・ドメスティック・バイオレンスまたはデートDVの講座を受けたことがある人は、全体で10.5%となり、島根県が行った同じ設問の結果(10.2%)と、ほぼ同じであった。
- ・年代別に見ると、男女ともに10代(男性:66.7%、女性:44.4%)、20代(男性:23.7%、女性:22.0%)の受講経験が多くなっている。また、男性は50代(11.5%)、60代(12.5%)で比較的多い傾向があるのに対し、女性は30代(11.2%)、40代(16.3%)で多い傾向がある。

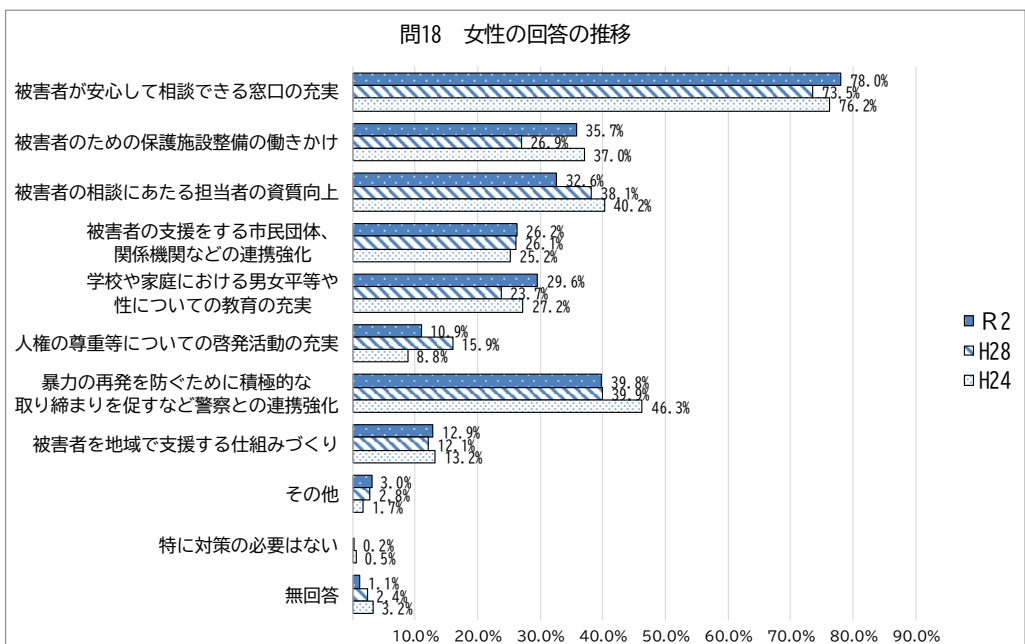
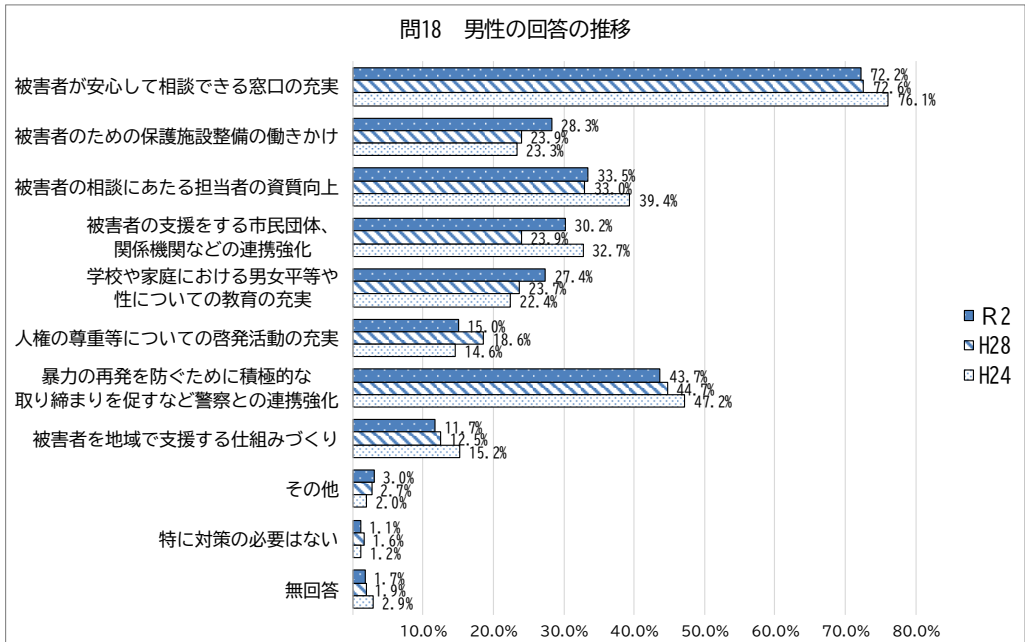
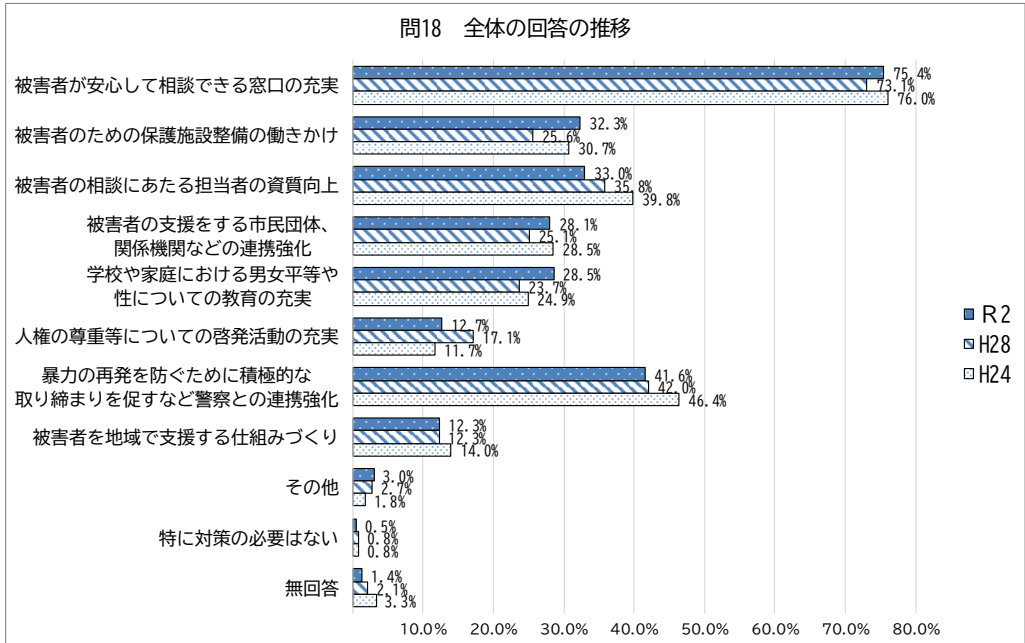
27 問18 女性(男性)に対する暴力などをなくすために、出雲市がどのようなことを行えば良いと思いますか。次の中から主なものを3つまで選んで○をつけてください。

- (1) 被害者が安心して相談できる窓口の充実
- (2) 被害者のための保護施設整備の働きかけ
- (3) 被害者の相談にあたる担当者の資質向上
- (4) 被害者の支援をする市民団体、関係機関などの連携強化
- (5) 学校や家庭における男女平等や性についての教育の充実
- (6) 人権の尊重等についての啓発活動の充実
- (7) 暴力の再発を防ぐために積極的な取り締まりを促すなど警察との連携強化
- (8) 被害者を地域で支援する仕組みづくり
- (9) その他(具体的に:)
- (10) 特に対策の必要はない

回答の状況

経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
被害者が安心して相談できる窓口の充実	75.4%	72.2%	78.0%	73.1%	72.6%	73.5%	76.0%	76.1%	76.2%
被害者のための保護施設整備の働きかけ	32.3%	28.3%	35.7%	25.6%	23.9%	26.9%	30.7%	23.3%	37.0%
被害者の相談にあたる担当者の資質向上	33.0%	33.5%	32.6%	35.8%	33.0%	38.1%	39.8%	39.4%	40.2%
被害者の支援をする市民団体、関係機関などの連携強化	28.1%	30.2%	26.2%	25.1%	23.9%	26.1%	28.5%	32.7%	25.2%
学校や家庭における男女平等や性についての教育の充実	28.5%	27.4%	29.6%	23.7%	23.7%	23.7%	24.9%	22.4%	27.2%
人権の尊重等についての啓発活動の充実	12.7%	15.0%	10.9%	17.1%	18.6%	15.9%	11.7%	14.6%	8.8%
暴力の再発を防ぐために積極的な取り締まりを促すなど警察との連携強化	41.6%	43.7%	39.8%	42.0%	44.7%	39.9%	46.4%	47.2%	46.3%
被害者を地域で支援する仕組みづくり	12.3%	11.7%	12.9%	12.3%	12.5%	12.1%	14.0%	15.2%	13.2%
その他	3.0%	3.0%	3.0%	2.7%	2.7%	2.8%	1.8%	2.0%	1.7%
特に対策の必要はない	0.5%	1.1%	0.0%	0.8%	1.6%	0.2%	0.8%	1.2%	0.5%
無回答	1.4%	1.7%	1.1%	2.1%	1.9%	2.4%	3.3%	2.9%	3.2%





分析

- ・出雲市に求められているものは、要望の高いものから「相談窓口の充実」、「警察との連携強化」、「担当者の資質向上」となっており、以前から変わっていない。
- ・「男女平等や性についての教育の充実」と「関係機関などの連携強化」は、年々増加傾向にある。
- ・その他の回答より、加害者への厳罰化を求める意見が多く見受けられると同時に、加害者の更生の場やケアを求める意見も見受けられた。また、被害者及び加害者とならないための教育の充実を求める意見も多くあった。

その他の回答

- 罰を重くしないと、無くならないと思う。(50歳代・男)
- 加害者側のケア(心身の)(30歳代・女)
- 医師会への働きかけ、診察の際、最初にDV等はないかきく。(60歳代・女)
- 理性で踏みとどまれない場合くりかえす可能性が高く更生はまずしない。性犯罪者も同じくマーキングし特定できるようにする(40歳代・男)
- 加害者に厳罰(40歳代・男)
- 思いやりを育てる(30歳代・男)
- 幼稚園に子どもが入るまではしっかり母親が子どもをみる。景気を良くする。(30歳代・男)
- 加害者の意識改革(40歳代・男)
- DV犯罪者の厳罰化(30歳代・女)
- 警察の初動をしっかりする(30歳代・男)
- TVCMなどのメディア(映像)で出雲市独自のアナウンスをすることケーブルTV以外の民間放送などで、ファミリータイムに!(50歳代・男)
- 各項目大切なことですが、ニュースなどで似たような症例の事件などを拝見すると各関係キカンの限界・人手不足等も未然に防げない原因の一つでもあるかなと思います。まずは必要最低限の防げることから徹底していくことが大切(行うこと)の一つだと感じます。(20歳代・男)
- 加害者をつくらぬような教育(50歳代・男)
- してしまう人に対しての心のケア。(40歳代・女)
- 小学生、中学生、高校生年代ごとの教育(70歳以上・男)
- 加害者の方をどうするかが大切なのは?(教育や対策)(60歳代・女)
- 被害者自身がDVを受けているという自覚をもつこと(40歳代・女)
- 個の尊厳を守る姿勢。1人1人を人権をもつ人間として見ることを公がすべきでは。(40歳代・女)
- ・加害者にならないため、なっていることに気がつくための啓発活動・被害者と加害者2人で参加できる啓発活動(30歳代・女)
- 近所にわからないようにプライバシーを守ってほしいすぐうわさ広がる(50歳代・女)
- 暴力が起こる構造を解消、分析をせず有効な施策が上記にない。(30歳代・男)
- 学校で教える。(20歳代・女)
- 時々ニュース等で相談していた人から暴力をうける等の事を耳にする。その事からするに、なかなか、防ぐ事はむずかしいのか…と思う。理性のきく人が(特に若者は)少なくなってる気がする(40歳代・男)
- わからない(50歳代・女)
- しっかりと法的措置(10歳代・男)
- 加害者が加害者と思っていないケースがあるように思う。加害者になる前の講習会(特に男性への)を行なってほしい。人権、モラル、ルール勉強会等。(60歳代・女)
- 家庭教育の充実を。愛されて育っている人は他人も愛せる。(40歳代・女)
- 子育て中の世代への働きかけそういう暴力をする人は、育った家庭の中に原因→これが起きないためには?その人が自分を大切に生きるためには?が大事だと思います。がある。両親の自尊心の低さ、自己こうてい感の低さ。(30歳代・女)
- 夫婦で現状を受けいれ治療を受けれる環境の場をつくってほしい、当時は専門家の知識もとぼしく離婚の選択しかなかった(50歳代・女)
- 全て(20歳代・女)

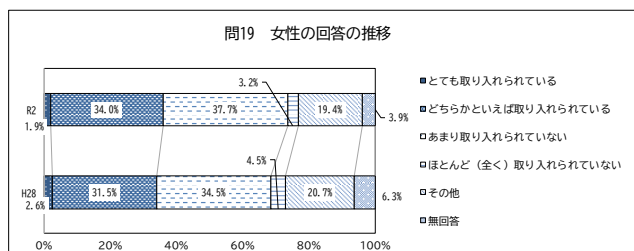
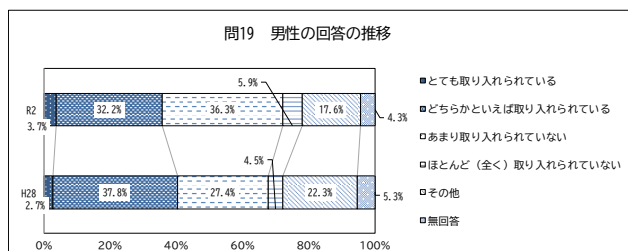
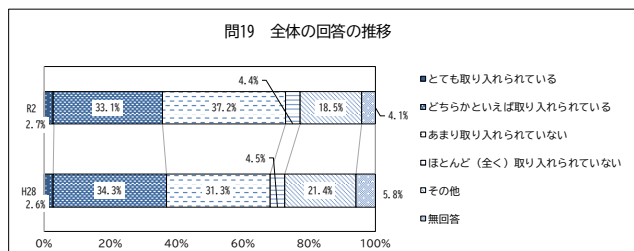
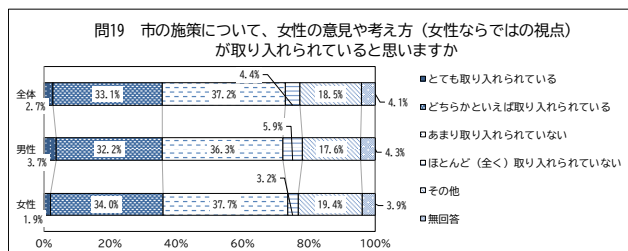
28. 女性の社会参画

29 問19 市の施策について、女性の意見や考え方（女性ならではの視点）が取り入れられていると思いますか。次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) とても取り入れられている
- (2) どちらかといえば取り入れられている
- (3) あまり取り入れられていない
- (4) ほとんど（全く）取り入れられていない
- (5) その他（自由記載： ）

回答の状況

	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
とても取り入れられている	2.7%	3.7%	1.9%	2.6%	2.7%	2.6%
どちらかといえば取り入れられている	33.1%	32.2%	34.0%	34.3%	37.8%	31.5%
あまり取り入れられていない	37.2%	36.3%	37.7%	31.3%	27.4%	34.5%
ほとんど（全く）取り入れられていない	4.4%	5.9%	3.2%	4.5%	4.5%	4.5%
その他	18.5%	17.6%	19.4%	21.4%	22.3%	20.7%
無回答	4.1%	4.3%	3.9%	5.8%	5.3%	6.3%



分析

・「取り入れられていない」（「ほとんど取り入れられていない」と「あまり取り入れられていない」を含めたもの）と回答した割合が41.6%となった。これは男女とも同様の傾向であった。

その他の回答

わからない（153人）

女性がどんな意見を言っているのか分からない（60歳代・男）

活動をしておられるのは知っている。（40歳代・女）

市が何に取り組んでいるか、市長が何をしているか市民に全く伝わっていない。もっと「やっている」という状況をアピールしないといけない（40歳代・男）

特に実感したことはない。(20歳代・女)
女性の意見に内容がわからない(回答者)(70歳以上・男)
市の施策何て、聞いた事もない!あるのさえ知らない!(70歳以上・女)
何を市の施策で実施したのか分からない。(40歳代・男)
わからない。この間自体女性の差別な気が…。(30歳代・男)
実感がない(30歳代・女)
出雲へ戻ってからまだよく判らないが、女性を育てることが重要と思う。(70歳以上・男)
感じることはない(30歳代・女)
市議さんが少ないので、女性の意見や視点を吸い上げ易い体制をつくっていただきたい。(50歳代・男)
正直な所、明確なマニフェストを勉強不足な為知らない方が大きく、分かりやすいアクション等あれば(出されているのかも)有難いです。(20歳代・男)
市の施策が分からない。市の施策があるなら、記載して欲しい(40歳代・男)
出雲に住んで1年ちょっとなので、よくわからない(30歳代・男)
恥ずかしながら市の施策について詳しくなく、お答えできません。申し訳ございません。今後意識して勉強します。(20歳代・女)
母子家庭なのに、祖父や祖母が働いている年収で全て計質されているのには、理解不能。(30歳代・女)
「女性の意見」って何ですか?そこからおかしいと思いますが。(40歳代・女)
不明考えや意見がどの程度発言されているのか承知していない為(70歳以上・男)
市施策が耳に入ってきません(30歳代・男)
その視点で施策をみていなかった。(40歳代・女)
施策で思い当るものがない、すみません(40歳代・女)
どれが女性の意見を取り入れた施策かわからない。女性ならではの視点とは何か?(50歳代・女)
取組みについてのアピールをお願いします、あまりはあくできていないのが現状です(50歳代・女)
女性の社会参画に関する市の施策についての情報が入ってこない(40歳代・女)

30 問20【問19で「(3)あまり取り入れられていない」「(4)ほとんど(全く)取り入れられていない」と答えた方のみお答えください。】

市の施策に女性の意見や考え方が取り入れられていないと思う理由は何ですか。

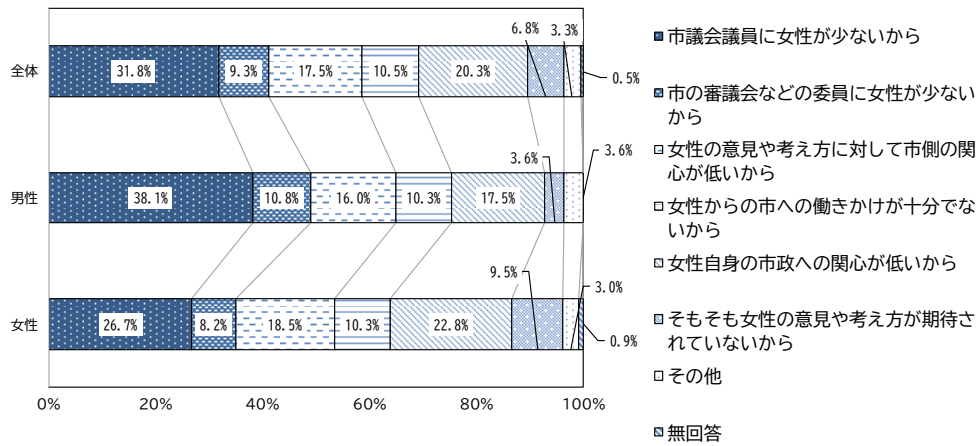
次の中から該当するものを1つ選んで○をつけてください。

- (1) 市議会議員に女性が少ないから
- (2) 市の審議会などの委員に女性が少ないから
- (3) 女性の意見や考え方に対して市側の関心が低いから
- (4) 女性からの市への働きかけが十分でないから
- (5) 女性自身の市政への関心が低いから
- (6) そもそも女性の意見や考え方が期待されていないから
- (7) その他(具体的に:)

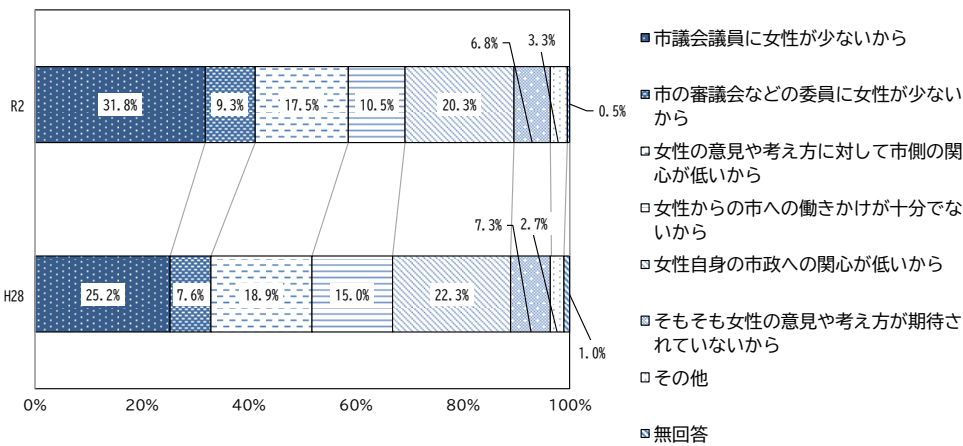
回答の状況

	R2			H28		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
市議会議員に女性が少ないから	31.8%	38.1%	26.7%	25.2%	24.2%	26.0%
市の審議会などの委員に女性が少ないから	9.3%	10.8%	8.2%	7.6%	6.7%	8.3%
女性の意見や考え方に対して市側の関心が低いから	17.5%	16.0%	18.5%	18.9%	27.5%	13.3%
女性からの市への働きかけが十分でないから	10.5%	10.3%	10.3%	15.0%	15.8%	14.4%
女性自身の市政への関心が低いから	20.3%	17.5%	22.8%	22.3%	17.5%	25.4%
そもそも女性の意見や考え方が期待されていないから	6.8%	3.6%	9.5%	7.3%	4.2%	9.4%
その他	3.3%	3.6%	3.0%	2.7%	3.3%	2.2%
無回答	0.5%	0.0%	0.9%	1.0%	0.8%	1.1%

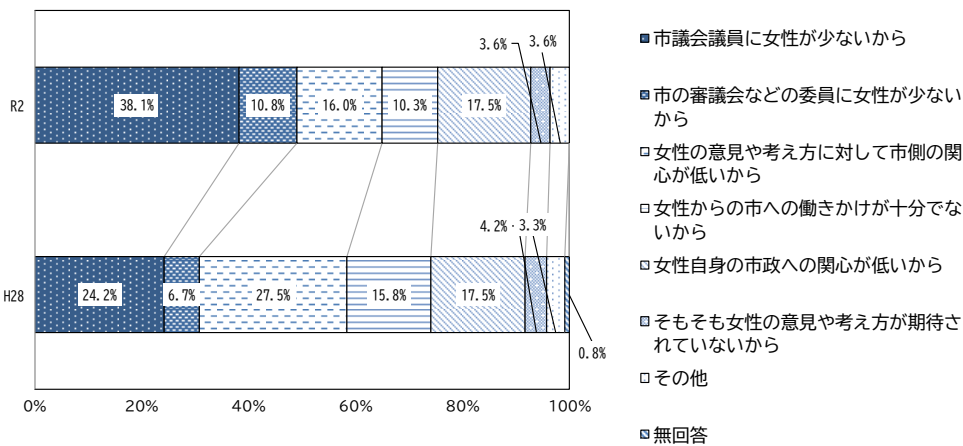
問20 市の施策に女性の意見や考え方が取り入れられていないと思う理由

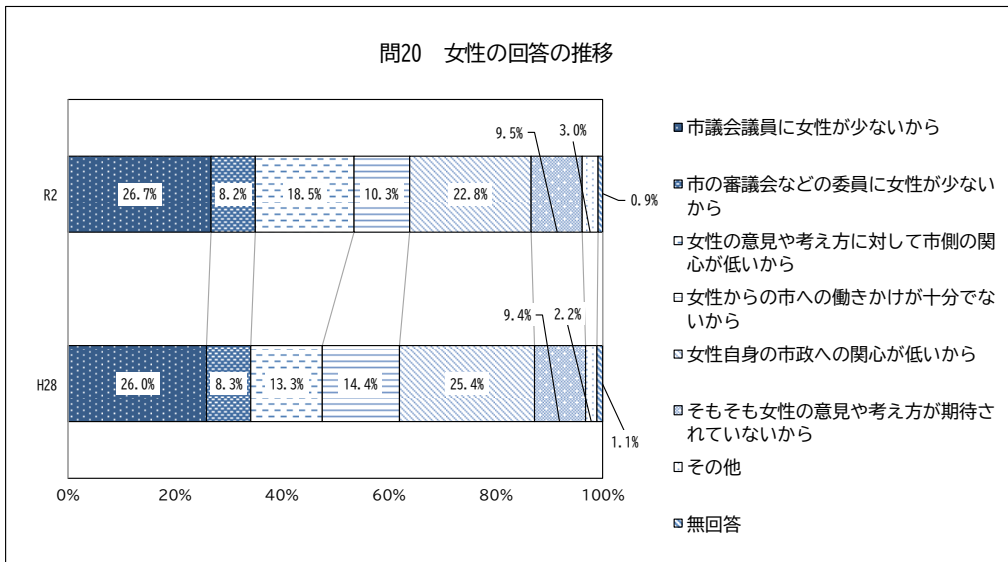


問20 全体の回答の推移



問20 男性の回答の推移





分析

- ・男女とも一番回答の多かった「市議会議員に女性が少ない」は、男性では前回調査から 13.9%ふえて 38.1%が理由として指摘した。
- ・男女とも 2 番が「女性自身の市政への関心が低いから」、3 番が「女性の意見や考え方に対して市側の関心が低いから」の結果となった。

その他の回答

- 出雲市が女性の意見や考え方を取り入れている機会にあまり遭遇したことがない。(50 歳代・女)
- 聞いた事がないから解からない。(50 歳代・男)
- 不明だから(40 歳代・女)
- わからない。(70 歳以上・女)
- 市長が悪い(70 歳以上・男)
- 行動力に欠けるから(30 歳代・女)
- 3 と 4 の中間ぐらいでは?(50 歳代・男)
- 市の対策が住民に聞こえて来ない。(60 歳代・女)
- よく、わからない。(60 歳代・女)
- 施策として女性の意見が反映されているものが具体的でない気がする。(30 歳代・男)
- 意見や考え方を伝える場がない(30 歳代・女)
- 女性の意見と区別し、それを主張すること自体に疑問を感じる。特に主張しているように感じていないから(3) と答えた。(30 歳代・女)
- 直接的に施策の情報を耳にしたことがない為。(50 歳代・男)
- 働ける環境にならない。預けることもできない。元々働いている人だけ尊重されている(30 歳代・女)
- 意見を言う場所がない(30 歳代・男)
- 知らないから(10 歳代・女)
- 市内に移動し半年も経ってないので分かりません。(20 歳代・女)

3 1. 男女共同参画社会の実現

3 2 問 2 1 男女共同参画社会を実現するために、重要だと思われることを次の中から3つまで選んで○をつけてください。

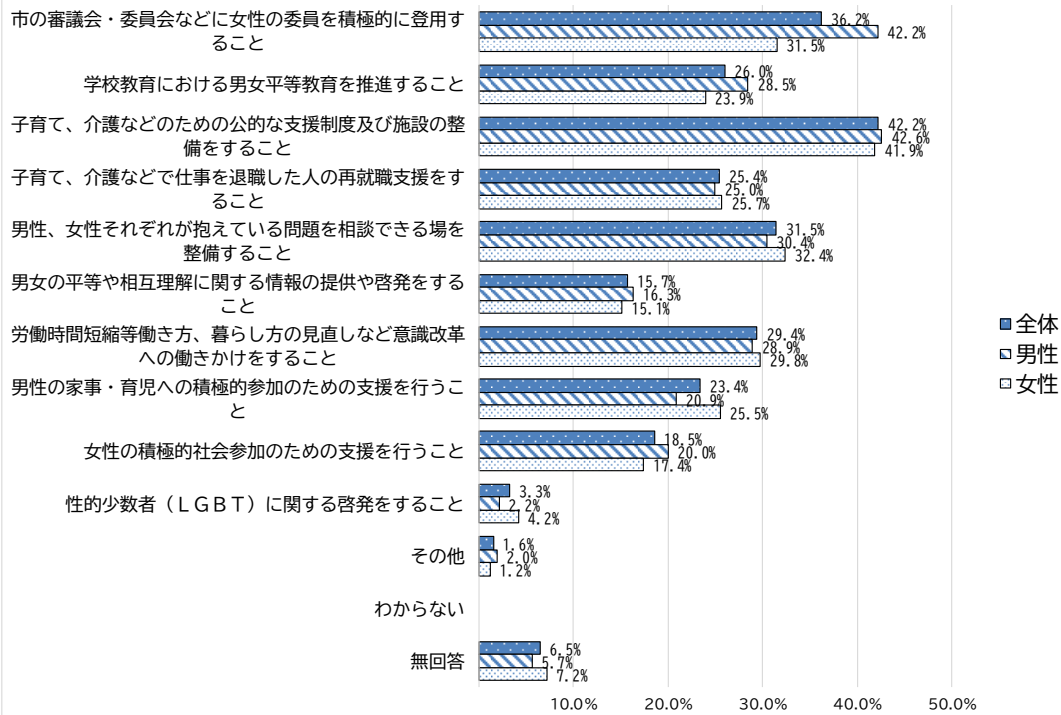
- (1) 市の審議会・委員会などに女性の委員を積極的に登用すること
- (2) 学校教育における男女平等教育を推進すること
- (3) 子育て、介護などのための公的な支援制度及び施設の整備をすること
- (4) 子育て、介護などで仕事を退職した人の再就職支援をすること
- (5) 男性、女性それぞれが抱えている問題を相談できる場を整備すること
- (6) 男女の平等や相互理解に関する情報の提供や啓発をすること
- (7) 労働時間短縮等働き方、暮らし方の見直しなど意識改革への働きかけをすること
- (8) 男性の家事・育児への積極的参加のための支援を行うこと
- (9) 女性の積極的社会参加のための支援を行うこと
- (10) 性的少数者（LGBT）に関する啓発をすること
- (11) その他（具体的に： _____）
- (12) わからない

※LGBT・・・同性愛のLesbian（レズビアン）とGay（ゲイ）、両性愛のBisexual（バイセクシャル）、心と体の性が一致しないTransgender（トランスジェンダー）の総称で、それぞれの頭文字をつなげた略語

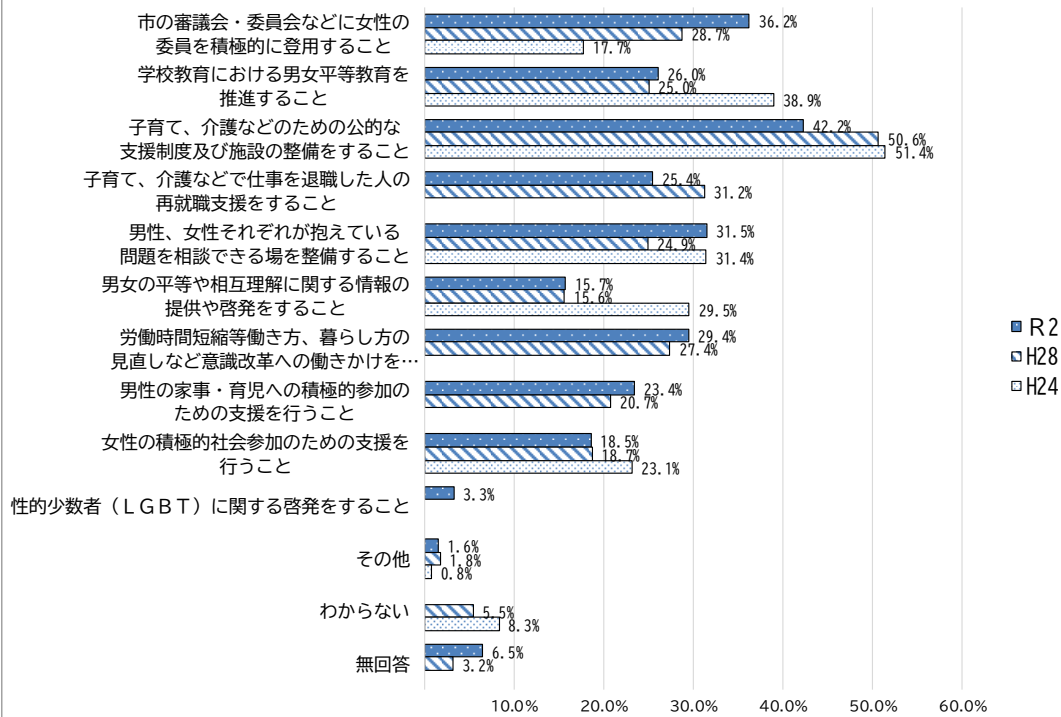
回答の状況

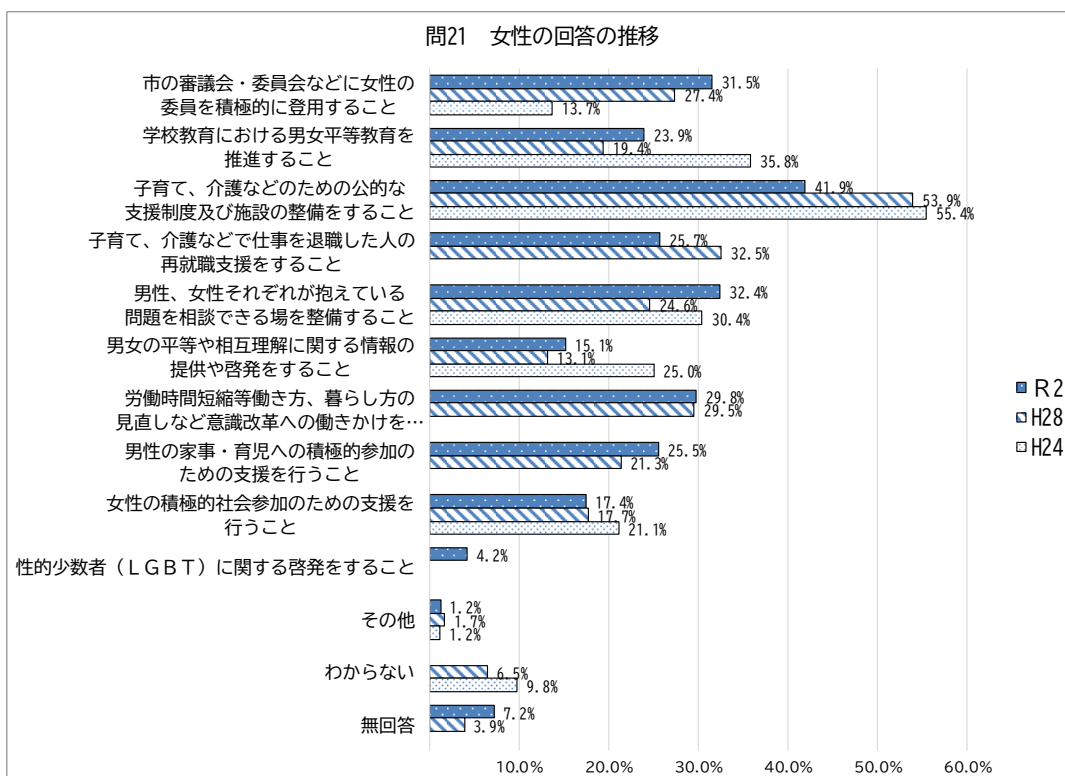
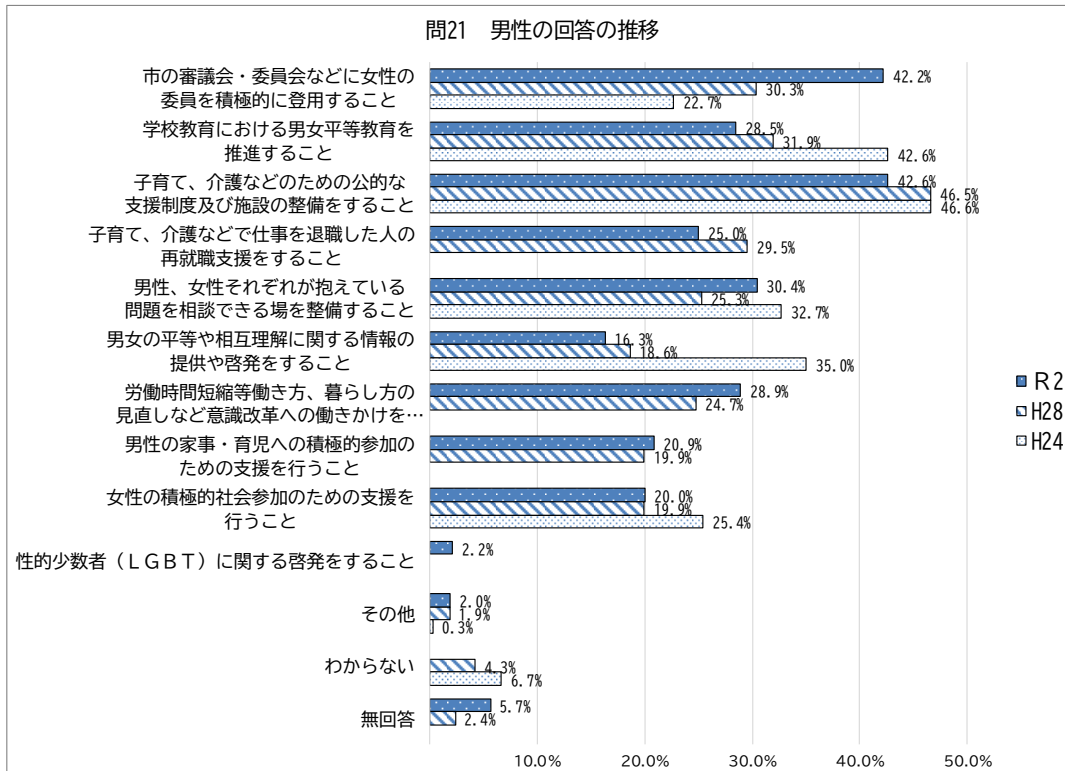
経年比較	R2			H28			H24		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
市の審議会・委員会などに女性の委員を積極的に登用すること	36.2%	42.2%	31.5%	28.7%	30.3%	27.4%	17.7%	22.7%	13.7%
学校教育における男女平等教育を推進すること	26.0%	28.5%	23.9%	25.0%	31.9%	19.4%	38.9%	42.6%	35.8%
子育て、介護などのための公的な支援制度及び施設の整備をすること	42.2%	42.6%	41.9%	50.6%	46.5%	53.9%	51.4%	46.6%	55.4%
子育て、介護などで仕事を退職した人の再就職支援をすること	25.4%	25.0%	25.7%	31.2%	29.5%	32.5%			
男性、女性それぞれが抱えている問題を相談できる場を整備すること	31.5%	30.4%	32.4%	24.9%	25.3%	24.6%	31.4%	32.7%	30.4%
男女の平等や相互理解に関する情報の提供や啓発をすること	15.7%	16.3%	15.1%	15.6%	18.6%	13.1%	29.5%	35.0%	25.0%
労働時間短縮等働き方、暮らし方の見直しなど意識改革への働きかけをすること	29.4%	28.9%	29.8%	27.4%	24.7%	29.5%			
男性の家事・育児への積極的参加のための支援を行うこと	23.4%	20.9%	25.5%	20.7%	19.9%	21.3%			
女性の積極的社会参加のための支援を行うこと	18.5%	20.0%	17.4%	18.7%	19.9%	17.7%	23.1%	25.4%	21.1%
性的少数者(LGBT)に関する啓発をすること	3.3%	2.2%	4.2%						
その他	1.6%	2.0%	1.2%	1.8%	1.9%	1.7%	0.8%	0.3%	1.2%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	4.3%	6.5%	8.3%	6.7%	9.8%
無回答	6.5%	5.7%	7.2%	3.2%	2.4%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%

問21 男女共同参画社会を実現するために、重要だと思われること



問21 全体の回答の推移





分析

・男女共同参画社会形成への対策上位3項目

1. 子育て、介護などのための公的な支援制度及び施設の整備をすること 42.2%
2. 市の審議会・委員会などに女性の委員を積極的に登用すること 36.2%
3. 男性、女性それぞれが抱えている問題を相談できる場を整備すること 31.5%

特に2. と3. は、男女とも前回から増加している。

・今回調査で、「性的少数者（LGBT）に関する啓発をすること」の選択項目を追加した。全体で3.3%の回答があった。

その他の回答

女性が意識を持つ事が大切 女性の為に支援を行う事より (60 歳代 ・男)

家庭で子供の教育をする。 (60 歳代 ・男)

頭の堅い年配の市議会を一掃して、理解のある人達で構成するべき。 (40 歳代 ・男)

きちんと能力で判断し、数字にとらわれない女性登用をすすめるべき数字を上げるためだけに能力に見合わない役職に着けることが逆に男女共同参画の推進の妨げになっている能力の高い女性も多いのに足かせになっている。 (40 歳代 ・男)

小手先の施策では何も変わらないと思う (40 歳代 ・女)

公も個も平等に人を扱う (40 歳代 ・男)

男女共同参画社会の意味が良くわからない (40 歳代 ・男)

家庭での仕事理解 (家事の手順や工夫等) を男性がしていないことが多いので、実際にやってみてもらったり、名もなき家事を知ってもらったりしたい。 (30 歳代 ・女)

解決できる方法は全てだと思う (60 歳代 ・女)

保育環境の充実、預け先がないと仕事どころではない (20 歳代 ・女)

自分が変わらなきゃだめだと思う (60 歳代 ・男)

行政が本気になること (50 歳代 ・男)

だれもが家庭・地域へ時間が手間がとれるように働き方を変えること。を支援してほしいです。男・女ではなくてすべての住民が。 (40 歳代 ・女)

学校での「性教育」を他国や、話題になっている方法などを参考にしてもっと質を上げ、徹底させた方がいい (20 歳代 ・男)

男性が得意なこと、女性の得意なことはあると思います。脳のつくりも違いますし、男性と同じように女性が生きる社会ではなく、お互いを補い合い、男女みんなで共同創造していける社会づくりが必要だと思います。 (30 歳代 ・女)

職場の上司の考え方が昔すぎて子育てするのに休みがとりづらい。 (20 歳代 ・女)

○をつけたのは「特に」という意味でそれ以外も必要 (20 歳代 ・女)

3 3 問 2 2 男女共同参画について、日ごろ感じていらっしゃることを、自由にご記入ください

めんどろな事はしない事は女性の方が多町内の役員でも女性が積極的に参加してもらいたいこのアンケートも私 (男) でなく妻 (女) に出すべき行政が1家の代表は男としている事を改ためるべき (60 歳代 ・男)

「男女共同参画」の市民意識においてはやはり、今一つ男性上位の場面がまだあるのが現状だと思います。この機会にひとりひとりが再確認して「男女共同参画」がぜひ出雲市から発信出来る事を願います。 (50 歳代 ・女)

今さらであるが、新入職員として初めて歓迎会に出席した折、「これからお世話になるのだからお酌をして回りなさい」と言われた時は本当に驚いた。高校まで男女差別など経験したことはなかったので、社会とはこんなものかと思いきらされた。女は男の三尺後と言われて育ったが、社会での扱いはそのとおりで、反発したりするより流れのって生きた方が楽だと思うようになったのは40代のそろそろ社会的責任を感じる頃である。最近では女性の社会参画は当たり前となり、うらやましくもあり、大変だと同情することも多くなった。それでもガラスの天井は今でも存在していると思っている。すこしでも天井が高くなるといいかと思う。 (60 歳代 ・女)

女性に対する支援はこれからも必要であると思う。それと同時に男性もさらに活躍できるような支援も必要であると思う。本当の意味の男女が平等で共に活躍できる社会をつくるための政策を出雲市にはしていただきたいと思う。 (10 歳代 ・男)

平等はそうとうむずかしい問題です。すこしずつ時代にあわせてかえていくしかないと思う。 (40 歳代 ・男)

「男女共同参画」の言葉がなかなか市民一人ひとりに浸透していないのではないかと思う。また、知っていても理解度や解釈の仕方は個人で違うので、理想の男女平等も人それぞれ、なかなか難しい問題だと思います。 (40 歳代 ・女)

少しづつであるが事と次第ではあるが男女の平等差が前進しつつあるのではと思う。 (70 歳以上 ・女)

日頃日常生活をする上でまだまだ男女平等でないと感じる場面は多々あります。男女共同参画においても土壌がきちんと整備され女性がいきいきと働けたり活発な発言ができる明るい出雲市になってほしいと思います。(50歳代・女)

1. 人間(男女)としての働きやすい環境(職場)がととのっていない。(中小企業のトップの考え方が古い。) 2. 議会とか会合に対する、男女参画の、割合見直しが必要。(意見が全て男性向きにまとめられる) 3. 国会議員、県会議員、市議会議員全て50%で十分可能(合併後、~人数減~何か不自由を感じていますか? (70歳以上・男))

女性が社会に出て行くのはよい事だと思いますが子供の教育、子育ては、この近年保育所や幼稚園、小学校での学童保育などに、たよりすぎ。家庭で、しつけるべき事などを疎かにして、子育てを家庭外でもらい家では、寝るだけという(極端)な家庭も、多いような気がします。0才~小学校卒業までの子供のいる家庭が、もっとしっかりと子育てを出来て、社会にも、参加できるような市(出雲市)にしてほしいと思います。→精神的にも、満たされ、安定した心身共に健康な子供達が、未来のより良い出雲市を、築いてくれると思います。(50歳代・女)

男女共同参画についての意見とは若干違うと思いますが、とにかく、結婚式が少ない。結婚が出来る社会、状況を作ることも大切。(60歳代・男)

子供のときの知識、経験が重要で、家庭や学校での教育が大切。(60歳代・男)

いろいろあるが、どうせ良くなるという、あきらめがあるから、なにも言いたくない。そんな経験をしてきたから、そんな考えになる。(50歳代・男)

市に於ては、いろいろ取組みが行なわれていますが、働く者が参画しやすい環境を整備される様望みます。市議会、市の審議会等への女性の参加しやすい環境づくり等々。(70歳以上・男)

特になし。(20歳代・男)

平等と言いつつも、まだまだ男尊女卑の考えが根強く残っている事を感じる場面が多い。これだけ女性が働くのが当然になっても、家庭の事はやはり女性が担うべき、となりがちで、家庭を優先と書いていても仕事をおろそかにしていると思われるのが働いていてつらい。実際に、きちんと仕事はこなしているのに定時で退勤すると、同じ給料をもらっているのに…と言われてしまう。(40歳代・女)

家庭や仕事に関しては男女差はあまりないように感じている。電車も女性専用車両があったり女性が過ごしやすい雰囲気もある。(30歳代・男)

男女では体質や特徴等違う部分もあるので、全く平等にしなくても良く、あまり強調しすぎるのもどうかと思う。昔ながらの慣習も非ととらず、それぞれの質に合った役割的な部分もあるのではないか。その質については個人差もあるので、個々が選べる世の中になれば良い。全く平等にしようとする動きは反対。(50歳代・女)

①会社・企業に於いて、いまだ昔ながらの年功序列制度を採用されていると耳にすることがあります。まずこれ事態がナンセンス!あくまで能力主義で評価・査定するべきである。勿論男女平等が最前提である。②今後の大きな課題として、少子高齢化がある中で、いかに若年層の中から将来を担う能力のある人財を育てるかが、大きなひとつのPointとなりそう。特に女性の台頭が重要ではあるが、その方策が更に重要である。こういう観点からのビジョン設計(未来設計~10年後、~20年後)で未来のあるべき姿を描いておくことが必要である。徹底的な教育制度の確立を期待します。③地元若者への支援。(福利厚生、減税、諸手当等の充実) I・U・Jターナー者への支援。(移住手当等の支援充実) ※別件ですが道路の白線、横断歩道が消えている箇所が非常に目立ちます。特にスクールゾーン内の歩道は重要です。予算をとって是非復元して欲しいです。島根は横断歩道停止率42%全国5位?です。歩道が見えないので車も停まってくれませんあたりまえのことがあたりまえに出来る仕組みづくりを目指していきましょう!(60歳代・男)

別に今の所ありません(60歳代・男)

特になし(50歳代・男)

若い人は、男女は、平等で、家事等当たり前に行うが、お年寄り、そうではなく、古くさい考えがある。若い人ではなく、お年寄りがダメ。(50歳代・女)

特になし(50歳代・男)

○責任ある役職を、女性にお願いしてもことわられる(60歳代・男)

男女は平等であるべき(60歳代・男)

高齢者相手の行事、福祉イベントなど、女性が行なうべきという(適任)という考え方をしている地区です。全てやめてもらいたい!(40歳代・女)

昭和世代の者には、男の子だから女の子だからという意識をなくす事は、とても難しい事です。小さい頃から、言われ続けて育ってきたからです。これからの親さんは「あなたの得意」を伸ばす子育てにして欲しいです。男の子が家事も出さず、女の子が進んで外に出れるよう、心から期待しています。近頃の育メン多めに推進します。息子夫婦や娘夫婦を見ていると、夫が休みにエプロンつけて、洗濯している家事を見ると微笑ましく思います。しかし、妻の居る日々は、同じ仕事から帰宅しても、保育園のお迎えや家事は、妻が正社員からパートに変わって、どの夫婦も妻が中心に家事をしています。これがうちの子供達の生活ですが今の日本の縮図だと思います。(60歳代・女)

世代的に私は比較的男女平等感はありますが、昔からの風習で「男の人は立てなければならない」「ご主人はどう言っておられる?」など、私がYesと言っているのに夫の意見を聞かなければ気が済まない、話が進まないことがしばしばあります。夫の親はDV(夫から妻へ)が当たり前だったようで、義母は暴力をふるわれ言いなりになっていたようです。男に逆らうとは何事か、という義父の考えは根強く、私にも「嫁のぶんざいで」的なことはしょっちゅう言われていました。(酒ぐせの悪さが災いしてのことですが)そのようなことが続くと話をするのも嫌になり、顔を合わせるのも嫌になり、もう自分の主張をするのも面倒になりました。世の中にはそのような経験をしている女性も、立てられて当然と思っている男性も多いはず。根本的な意識はなかなか変えられませんので、ひとこと男女共同

参画と言っても難しい問題だろうなと感じています。幸い私の夫はとても理解のある優しい男性ですので、これからの世代に期待しています。(30歳代・女)

女性が働くことや社会参画については推進されるべき。ただ、子育てだけは、母親にしかできないこともある。例えば母乳育児。子の視点で考えれば、幼い頃は母に家にいてほしい、自分自身がそうだった。仕事は誰かに代わってもらえるが、母の代りはいない。これから大事なものは、育児休業を取っても、元通りに仕事に復帰できる環境を整えることだと思う、しっかり休んで、子供の成長に関わって、親としての仕事をしたうえで、職場に戻れると良い。0才児を保育園に入れるのは個人的に反対。(50歳代・女)

人権尊重の考え方が浸透すれば性差にとらわれず社会はバランスをとった動きができる。男・女よりも各自の社会参画意識の醸成やそれを促す気運の高まりが必要と考える。(50歳代・男)

あまりないが老令期になって、自分自身をあまやかしていけないと叱たべんれいをする日々で少しでも自分のことは最後までしっかりとやりたいと感じている。(70歳以上・女)

仕事をしながら育児をするのはとても大変です。その事を男性はわからない人が大半だと思います少しでも助けになるの事があれば良いと思います(60歳代・女)

特になし(40歳代・女)

特になし(60歳代・男)

特になし(20歳代・男)

今は女性は子どもが出来たら休むから困ると思う人や、逆に子どもが出来た女性もお金をどうしたら良いか、いつのタイミングで伝えればいいのか、休みに入ったら良いのか、と互いに不満がたまって止むおえず退社と言う方が多い世の中ではないかなと思うので安心して休みに入れる、元気な子が生まれる、社会復帰出来るよう会社の体制をみなおしてほしいです。特に介護などは人手がたりないため本当に休みも取りにくく、体も休まりませんこれでは育児休暇も取りずらく休暇後の復帰も不安です。どうにかならないもののでしょうか。(20歳代・女)

毎日忙がしくあわただしい日々のため、そんなことを考えたことはありませんでした。考えても何もおもいつきませんでした。すみません(60歳代・女)

出雲市が更なる活気ある市である様に、元気で、平等で一人ひとりの豊かな人間性があらゆる場面で発揮できるような出雲市であって欲しいと願っています。出雲市は、隣近所がおせっかいしあって仲良く生活していると感じています。このおせっかいはとても大切な事だと思います。あたり前なことです、人と人のつながりで意識合って生活することができているからです。男性も女性もいろいろな立場や分野等で、自分の思いや意見を出し刺激合っていく中で、良さや持っている魅力を発揮していけると思います。コロナがあったことで社会変化もありますが、一人ひとりの良さを大切にしながらそれぞれの課題をもちながら生きていける環境づくり、人づくり、自分らしく生活できる出雲市を私も、力を尽くしていきたいと考えています。(60歳代・女)

ネットでの調査に切替えるなど、このような調査に関わる費用を抑えるべき。データをまとめるための労務コスト面でもムダ。(30歳代・男)

~20代の若者には「男女平等」の考え方が根づいてきたように感じる。少しずつではあるが、様々な政策による効果が出てきたのではないと思う。今後も長期的スパンで活動していけば男女共同参画は実現できるのではないかと感じています。(20歳代・男)

男女平等と男女の役割を混同してはいけないのでは？男女の別では無く人として他人をお互いに思いやることが大切だと思う。自己主張ばかりしないで相手を認めて仲良く暮していきたいものです。(70歳以上・女)

市職員の教育(70歳以上・男)

有休取得が容易に取得できる労働環境の整備が必要だと思う。副業の容認企業の拡大も必要な気がする。(40歳代・男)

男性に比べ女性は仕事以外にも家庭内における役割が多いと感じます。例えば法事等親族が集まる機会があるなら、日程調整から食事の差配、返礼品の購入等付随する諸々の準備をしています。裏方の仕事的な一切切を抱えている状況が多い中、表の仕事(審議会や委員会)への参加を求められると戸惑う女性は現実的に多いと思います。さらに仕事が増えるため(50歳代・女)

日ごろからそこまで考えた事がないので、これから社会人になるので男女共同生活やいろいろな物事に目を向けていきます。(10歳代・男)

女性が働くということ・できれば働かずに子育てに専念したい人が今は働かざるをえない状況にあることはおかしいと思う。国の政策で女性の社会進出を推めてきたへい害のような気がする。・反対に働きたい人で家庭のある人は両立したくても仕事は増えるばかりで、時短とか働き方改革が会社内で進んでいない。家庭内と社会生活・家庭内では若い世代は共同参画が進んでいると思うが60~70代以上の人たちはなかなか考え方が昔のままという感じが町内会で感じる。(60歳代・女)

○そもそも生物学的にオス・メスとして固体差が有り、身体の作りも違うので全て同じとゆう訳には行かない。収入のめんで見ても男性が多くもらえるので、家庭を持てば両方同じと言うわけには行かない。やはり女性は家庭を守り男性をサポートする方が今の時代でもトラブルがなく家庭及び世間と良好に付き合っていると行けると思う。基本男が女、子供を守り日本国を守ると言う教育が大事だと思う。(60歳代・男)

私は、教育系の勉強をしているので前にも男女共同参画について考えたことがありました。以前よりは男女差別や男女で分けて考えたりする風習はなくなってきていると思いますが、まだ一部ではどうしても男性が優位であるという考え方や女性が社会に進出しにくい現実があると思います。男女関係なく誰もが生きやすい社会の実現を目指して、様々な政策や工夫をしていく必要があると思います。自分自身もこのことについて考えていけたらいいと思います。(20歳代・女)

男性も女性も結婚して家庭を築くことに希望がもてず一人暮らし又は親との同居に気楽さをおぼえてしまっていると思う。その子供に今の親たち世代(60才代)がもっと家族をもつことの喜び子供を育てることの喜びを教えるべきではないかと思う。仕事を男女共重要視して年令が進み、気づくと1人ということがよくあると思う。出会いは自分から努力しないと結婚に結びつかない出雲市も若い人(30才~40才)が高齢者になり介護を必要とした時、人員不足で十分に受けられなくなると思う。市が結婚と子育てに支援を充実させるべきかと思う。(60歳代・女)

議会等で数字ばかりおいかけて周りも見せかけの数字を上げることにやっきになっている時点で本質を忘れている。そんな視点でものごとを進めている間は、本当の男女共同参画が進むことはないでしょう(40歳代・男)

仕事の上だと、女性が産休、育休を取られると、他の社員の仕事が増加する。特に中小企業は、少人数で仕事をしているため、一人がぬけると、えいきょうが大きいのが、他の社員でカバーしてでも、仕事を続けることは良いと思う。家ででは、女性が中心になっていることが多いと思う。自分も、家事をまかせているので、女性が働くかんきょうがあまりととのっていないように思う。男女がまったく同じように仕事をしていくのは、むづかしいと思うが、少しでも差が無くなれば良いと思う。(40歳代・男)

小さい子供はお母さんの存在の方が大きいと思います。子育てをする女性が働きやすい社会(男性よりも優遇されている)や職場環境が整えられることを望みます。(30歳代・男)

男性・女性ではなく~が得意なのは男性が多い~が得意なのは女性が多い etc 体力的、本能的、意識的にそれぞれ向いていることがあると思うので得意なことで活躍できる場所があれば良いと思います。名目上、男性が役をうけていて、実質女性が運営することでうまくまわる現場もあると思います。どうしても女性はうわさ話等好きな人が多いと思いますので…。主観です。(40歳代・女)

このアンケートがどのように改善されるのかはわかりませんがどうか、市民の声に寄り添い耳を傾ける市政である事を望みます。初めての(男女共同参画)のアンケート見て、どの様に改善されるのか、この先が期待されます。若い人達だけではなく、生活が■っていて、なかなか駆け込むこともせず泣き寝入りする市民は多い?と思います。税金の■ける物も市民がもう少し1人1人が自分に自身を持って口に出す市民になってもらう事を望みます。影で(お茶する)時は色々として市政の事が出るといざという時は借りたネコになる(出雲人?) (70歳以上・女)

現実に男女で能力等に差がある面はある(一般に)。←年齢や個人の適性による能力差と同じようにというイミです。女子高や女子大は許されてよいのか?男性への不当な差別と誰も声を上げないのはなぜ?ただ、個人差もあり、結局お互いに理解して、協力していくことが大事なのでは?ことさら女性を優遇したりすることを男女協同参画だと思っているのではないか。差別による区別も差別も=すべて悪とみなすジェンダフリーは間違っていると思う。日本人は分かっていない人が多いと思う。男らしく女らしくは100%間違っているとは思わない。直接関係ありませんが、部落差別への行政の手厚い待遇には不満をもっている人も少なからずいます。それについて発言するのはタブーだから誰も声を上げないだけ。何か言ったら徹底的に叩かれるから。ジェンダフリーについても似たようなことがあるのでは→とかいうと「こういう間違った考えをもつ人がいます」とか言うんでしょうね。まあ行政はイイ顔してればいいんじゃないですか、意識調査ですから「こういう意識の低い人もいます」的に捉えられるんでしょうね。鬼滅の刃で主役の「俺は長男だから~」というセリフがありますが、どうお考えになるのでしょうか?(舞台が大正時代だからOKということではなく。)金爆も「女々しくて」歌ってますが?独語や仏語には男性名詞、女性名詞ありますが?(40歳代・男)

田舎ほど女性が前に出るという事を良く思わない雰囲気があると思う女性が気軽に意見が言える社会に早くなってほしい。(60歳代・女)

少しずつ男女の差別化というものが増えてきていると思いますが、それでもまだ昔の考え方で男はこういうべきだ。女はこうするべきだ。という考え方があるな。と感じています。これから年金のこともあるので、できればもっと男女とも働ける(結婚して子供ができてからでも)環境を企業側で作っていつてもらえると、働きたいと思っている人はたくさんいると思うので、助かると思います。(20歳代・女)

特になし!(70歳以上・女)

※特にありません。(70歳以上・女)

女性社員に対して「〇〇ちゃんがいるといい」「〇〇ちゃんを見ているだけでうれしい」など他の社員がいるにも関わらず言っている上司が満額の退職金をもらって関係会社に再就職するなど、理解できない会社上司がいる。部下に対しては、いろいろと作文などして理解度を求めるが、上司には作文を書く事もない。上司や管理者、議員など上に立つ人を判定する人もなく、共同参画のスタート地点にも立っていない気がします。(40歳代・男)

島根は男女どちらも働いている家庭が多いと感じる。もっと働き方が選べる会社が増えると子育てや介護との両立もできていいかもしれない。(20歳代・女)

・小、中、高の先生、相談支援員との面談が土曜日できたら日曜日にも可能になると働きやすいです。子供に障がいがあり、様々利用、相談が関係機関とひんぱんにありました。(ハートピア、CS、学校)ハートピアを利用しましたので、小学生までは親が迎えをしないといけないので残業がある仕事につけないです。小学生まで(9:30~16:30パート月.13日)中学生になり子供自身で電車利用がOKになり正社員に(18時)になりました。が、様々機関の相談が16:30~が最終でした。新入社員でなかなか休みが難しく退職し、現在は9:00~16:00までのパートをしています。子供が高校卒業までは正社員長く働くことは難しいと感じています。・男女共同参画社会を実現するためには、ズ

ームを使つての相談。相談時間の柔軟な対応。送迎の負担軽減。送迎の利用のしやすさなど検討頂けたら働く気持ちはあるが、働けない人が減ると思います。(40歳代・女)

日本は社会への女性の進出数が少ないと思うが、日本の国の昔からの考え方が残っているから女性の考え方に積極的な考えが進まず、延びないと思う。(70歳以上・男)

男は、仕事のみ。女は、もし結婚し、子供を産んだとしても、家事、育児…。女性の方が、大変な事が多いままだと、ますます離婚は多くなることでしょう。(60歳代・男)

家庭内では共働きということもあり、平等に家事をしようと思いがけています。しかし先日家を建てた際、さまざまなところでいまだに家事は女性の仕事だという認識が根強いのだと感じさせられました。例えば、工務店との打ち合わせの際、「奥さんはここでアイロンかけるなど…」という説明をされたり、引き渡しの際に、キッチンの使い方、そうじの仕方は妻に向けて話されたり、しまいには説明書は近くにいた自分ではなく妻に手渡されました。妻はその度に、2人になると憤っていましたので、男性である自分よりも女性はずっとそうした決めつけに出会う場面が日常的に多くあるのだらうと思います。制度を変えるのと違って、人の考えというソフト面を変えるのは難しいことだと思いますが、制度を変えたり、研修の機会をもったりすることで、少しずつでも社会の人の考え方が、従来どおりでなく、より柔軟になってほしいですし、そういう社会にしたいと思います。(30歳代・男)

・女性が結婚や出産・育児で仕事をやめなくてもよいように、正職員として働くことができ、そして、その職場に、出産や育児をしながら働くことができる制度があることを望みます。・男・女による給料の差はないでしょうか？収入の差は、人の上下関係に影響しているように思います。・このアンケートを通して、女性の社会参画が必要だと思いつながら回答していましたが、その反面、男性がやればよいと甘えている部分(町内会役員など…)もあることに気づきました。(50歳代・女)

逆に市の職員の方達にお聞きしたいです！貴方達は、市民の先に立って、何をされていますか？努力は？何年前に、DVの友達の相談に行った時、対応して下さった方が、何人も変わられ、時間だけかかり、後は、けんもほろろでした！こんな、アンケート意味があるのかな？と思います！その時、1人の女性は、ガムを食べて対応して下さいました！職員さんの教育が先では？DVの相談は、結局、警察に行きました！(70歳以上・女)

ブランクがあるとキャリアが積めないという考え方を改めないといけないと思います。色々なこと経験することで多様性が得られ仕事にも、自分の生活にも有益だと言うことを社会が認めなければ男女共同参画は前進しないと思います。LGBTが日本で性的少数者と表されることにも違和感を感じます。誰が少数者と決めたのか、少数者であるから差別されます。それは他の問題も同じですが、男女間であろうと同性間であろうとそうでない関係であろうと相手を大切に思う気持ちを持つことの大切さ、それが自分を大切にすることなんだという教育(家庭・学校・社会)が必要だと思います。男女共同参画という各論ではなく、総論として相手を大切にすることの大切さを共有したいと思います。これは自分にも言えることですが。(60歳代・男)

子どもがいない人のことを考えてほしい質問も子どもがいない人に対しての配りよがない世の中みんなそう。欲しくても出さない人もいます。その事を忘れないで(30歳代・女)

“出産と授乳”は女性にしかできませんが、その他の育児は男性でもできるはず。10ヵ月お腹の中で大切に育て、出産し休みなく育児をしている女性の大変さを理解する機会を与えて欲しい。外での仕事は頑張ってくれても、家庭での仕事は女性の仕事と思っているようで…。産休・育休を取っているから家のことをするのは当たり前なのでしょうか。共働きしている家庭のお母さん…とても尊敬します。(20歳代・女)

なし(50歳代・男)

・社会の中では、まだまだ男性が、中心となって動かしていると思います。女性の総理大臣でも誕生すれば、変わるのでは。(50歳代・男)

特になし(30歳代・男)

男女共に互いに自分達のテリトリーを守ろうとしている。おたがい理解する場を減らしている気がする。(30歳代・男)

私は配偶者を亡くしてから18年になりますが、当分は地域活動に参加する時女性一人という場面が多く、気後れする気持ちがありすごく負担でした。でも実際参加していると、男性はいろんな面でホローしてくれました。平等というのは根づいてきているように思います。同居している息子は別棟で二世帯住宅で暮していますが、食事づくりゴミ出しなどこまめにやっています。人に聞くと最近の若い人はこういう人が多いと言われます。教育のおかげだと思います。(60歳代・女)

女性は仕事第1でなく子育て第1と考える。但し社会活動、学校行事には積極的に参加する。男は妻子を守る為命がけでマンモス狩りに行く。人類誕生よりの摂理、本能である。(70歳以上・男)

在職中のことを想起すれば私自身が「男性中心社会」の中で無反省に過していました。やはり家庭・学校そして社会の中で幼少期から繰返し「男女平等参画」の教育、意義付けを浸透させることが必要だと思います。(70歳以上・男)

男女問わず、平等に扱われる様に、考え方や、その人それぞれあるので、関わるにつれて、情に流されやすいこともあったりそうでなかったりなので。意見に対して、何かアドバイスや、その人の考えを、伝える事も必要ではないでしょうか？(40歳代・女)

元々の性質の違い（考え方や捉え方）から、相互にうまくかみ合わないと感じることがよくあります。伝え方を具体的にしたり、表にしたりしてまとめると理解してもらいやすかったです。反対に女性の場合、感情や気持ちの部分を伝えてからこちらの要求やお願いをすると、積極的に援助してくれることもあります。そういう気質から、男女平等に、とすべてのことをしていくことは難しいことだなどとも思います。しかし、その平等にしていこうという取組をされていることは、ありがたいことだなどと思います。昔に比べると、ずいぶん女性は自由になってきたと思います。しかし、もう一步、みんなが心地よく生活できるように、努力して頂きたいと思います。子どもには、”今よりももっといい社会”であってほしいので。（30歳代・女）

結婚したら・女性は残業（3時間）転勤が難しい。（70歳以上・男）

確かに女性の社会参画は少ないと思います。しかしながら私はその事に関し良いとも良くないとも思っておりません。それは1人ひとりの価値感と生活状況が異なるからです。しかし女性が社会参画しにくい世の中であることは現実です。公私各々が女性が社会参画しやすいように努力しなければならないと思います。口先だけでなく行動が必要です。（60歳代・男）

私は大阪出身です。出雲（地方）は男性は外女性は内と考え方が根づいていると思います。良くも悪くもという意味です（60歳代・男）

男女共同参画を取りあげること自体が問題であると思っています。差別問題にしてもそうですが、根底に差別をしているという事実があるから差別が生まれると思っています。差別していなければ差別という言葉自体生まれません。問題として取りあげる間は男女共同参画は実現しないのではないのでしょうか。何事も問題の本質を見極めていただきたいと思います。（30歳代・男）

男性が役職者になることが多いので、会社の中でも役職者になると立場上業務も多く、仕事優先な生活になる。残業など増え、家庭の時間が充分にとれない。残業時間を法律でもっと規制するなどしたらいいと思う。（30歳代・男）

職場が学校であり、男女平等のもとで、子ども達は学び、職員は仕事ができていると感じている。研修会で、学校を卒業して、社会に出た時に、不平等さを感じる人が多いと聞いた。「これは平等ではない」「おかしい」と考えたり感じたりできる子ども達を育てていくことの大切さを実感している。（40歳代・女）

（こんな回答ですみません。）（50歳代・女）

・情報をきちんと本人達から収集した上で対策をしていかないと的はずれになり、やっている事としながら実はムダになると思う。（60歳代・女）

まだまだ昇進・昇格・教育等に男女で不平等な扱いがあるふし、男女で賃金に格差があるところもある。男性自身が仕事中心の生き方、考え方を直す必要があると思う。（30歳代・女）

息子達含め、若い男達は女性に優しく、嫁の意見に動きすぎますね。少し上の男性は一度座ったら動こうとしない。女性はそれを見て文句を言わずかいがいしく動く事で男性の気を引いている様子もみえる。両者の意識改革は幼少のころに戻って教育しなおさなければいけないかも知れませんが。（60歳代・男）

・介護は女性（妻）がするものと考えている男性があまりにも多く仕事さえしていれば協力するの必要が無いと思っている人が多い。・女性（妻）と共に人生を楽しむという思いが男性には少ない。・女性の仕事男性の仕事がしっかりと分かれている。女性はどうしても、内容的に昔も今も変化が少い。・女性がしっかり社会で働くには、女性としての身体のこと、心の事などしっかり男性にも理解が無いかぎりこの先も今のままだと思います。力も有り、金も有りという女性はなかなか結婚、出産が大変時代（今も昔も）！！それを日本の問題ととらえないで、出雲市から考えてほしい！！変えていって欲しい！！（60歳代・女）

学校では女子優先、社会では男性優先の風調があると思う。（10歳代・男）

・出雲市が男女共同参画に取り組んでいるのは市民はあまりわかっていないと思う。もっと市民にわかるようにするべき。（40歳代・男）

男性の家事・育児参加について、男性側の育った環境が、家事育児をするものでないと社会でいくら呼びかけても、男性側が自分で変えようと思うことはないと思う。（40歳代・女）

特になし（70歳以上・女）

やはり昔の人の意識が男は仕事、女は家庭という固定観念が強く、上層部がそうなのでなかなか職場で女性は大事にされないし、軽く扱われています。また年が上がえらく、年下はいくら実績があっても見下されています。最近それがすごく納得がいかにいます。また、3人目を妊娠した時も、私にすごくひどい言葉を会社の会長は言っていました。そういう状況が残ることじたい、変えていかないといけないと思います。市役所やハローワーク、出雲県土によく行くことがあります。課長、係長クラスに最近本当に女の方が多くなり、すごいと感じています。家庭では核家族だとやはり夫の手伝いは必須であり、ある程度はしてくれます。でも、あまり男も女も半分ずつと思っていると、夫にも負担が多いので、2人でお互いを支える程度でやっています。町内行事等はやはり青年部、消防団、女性部と男女平等とはいきませんよね。子供達が大人になる頃は今以上に年配の考えがやわらかくなっているといいですね。ありがとうございました。（30歳代・女）

特にありません。（40歳代・男）

男だから、女だからという事より、個人の考えを大切に男女共同参画を進めて頂きたいと思います。（50歳代・男）

広報等で色々な情報を発信しておられると思いますが、それらを果してどれ位の方がきちんと読んでおられるのかという点を感じています。（70歳以上・女）

・男女の数的バランスがある程度とれているような組織に変えていく必要がある。議会であれば定数の4割以上は異性にするとか。・公務員とか従業員数がある程度以上の規模の企業とかは育休制度が拡充しているが、小中規模の団体等は育休手当金が払えないので整備されていないのではないかと。（60歳代・男）

出雲市街地は便利で住み良い素晴らしい場所です。市民の声を取り入れるこのような活動を応援します！いじめ・虐待・傷害、殺人事件・自殺…悲しい事件が起こる度当事者の育ってきた過程がどのようなものだったのか気になります。家庭環境は人格形成に大きく影響します。全ての始まりは夫婦から。男女がお互いを尊重し合える信頼関係があってこそ、健全な家庭、そして人間を築けると思います。子育てしやすくなると結婚が増える。結婚が増えると少子化に歯止めがかかる。素敵なまち・出雲になりますように (30 歳代 ・女)

日頃から度々考える機会が必要だと思います。(50 歳代 ・男)

男女共に人を指導できる能力を持つ人々を育てる事を日頃から普通にして、男女と云う事をあまり考えずに人として市民として生きていけるべく、人に優しい市民を多く作るよう皆に推進するような施策を行って頂きたい。人に優しい市を作って頂ければ本当にうれしい。私のように病院通いをしている者は仕事や、行動ができず、申し訳ないのですが、住み易い出雲に最後まで生きたいと思います。共同参画を普通の社会にして、住みよい出雲に下さい。

(70 歳以上 ・男)

ジェンダーフリーだと思いますが、このアンケートの意味がわかりません。(70 歳以上 ・男)

出雲市にはまだまだ以前からの根強い考え方が残っていると思われまます例えば男性(特に父親や一家の大黒柱?)は働くことがあたりまえであり、女性(特に母親や主婦)は家庭を守ることがあたりまえである。現代社会において、男女平等、家庭内においても家事の平等負担があたりまえの様に言われる報道をみるが、実際には難しく、又子育ての面においても母親が家庭にしっかりと腰をすえている方が子供の育つ情緒面においても重要ではないかと感じます。私も3世代同居の嫁であり、妻であり、母親である立場から見ると仕事(正規職員)をしながら3人の子供達の子育てをしています。おじいさん、おばあさんの協力の方が主人の協力よりも強く助けられました。男女共同参画というよりは家族・家庭のあり方が変化している現代の良い策がみいだせたらと思っています。(50 歳代 ・女)

私らが若い頃と比べて(40年くらいも昔)、大きく変化しましたね。男女共意識がお互いに尊重し合い、助け合い、共同作業に努めているように思います。そういうところは、良い時代になったなあ、と思います。(60 歳代 ・女)

LGBT を公表しやすい社会にし、パートナーシップ制度を設ける。(10 歳代 ・女)

公務員だった人が退職されると即行地域の役員になったりする風調はおかしいと思う。また、地域の中での尋話で人を傷つける事が少しも減らない気がする。のどかで自然豊かで素晴らしい地域で生活できるのに地域に住む人達が他人の事をあれこれとお茶を飲みながら話すのは最低だと思う。みんなが一人一人が人を思いやる優しさを持って助け合えたらどんなに素適だろうに。"出雲、"と言う日本一ステキな地域で日本一住みやすい地域であってほしい。私は人の尋話には乗らないと決めています!(60 歳代 ・女)

社会は男女共同参画を提唱しているものの、女性自身が従来からの考え方を脱却しておらず、消極的。(例えば会社での出世欲がなかったり、責任のある仕事から逃避したり)男女共同参画を実現するためには女性自身の意識改革が必要。(50 歳代 ・男)

男女共同参画で支援事業を始めた方が、女性が必要と数人むりやり会員にさせられていた事があります。実際企画している方は男性。会長や副会長は女性に頼み何かあると女性が女性だと差別的発言ばかり。内情をきちんと調べた上で支援金は払ってほしいと思ったことがあります。町内会の会長は地域の方は女性でも良いのでということで女性に決めたところ一部の町内の方より批判をあとから言われた。年寄や未婚者の多い町内なのでこれから先のことを考えると地域の活動すらすべて負担になり過疎化になる。年配の方の男女差別の考え方は変えれない。高齢化が進む中、大事なことは何かを聞くだけでなく実行してほしい。(40 歳代 ・女)

市役所の受付(案内)は女性ですよ。まずはそこを変えてみてはどうですか?(50 歳代 ・女)

共働きの家庭でも、家事・育児は女性が担当している30代の家庭を目にすると、なかなか、男女共同参画社会の実現はむずかしいなと思ってしまいます。議員さん、審議会・委員会など社会的な立場にもっと女性がふえれば変わるのではないかと思います。外国は首相や大臣など女性が進出している。また男性が育児をしている姿(主となって)家事を担当している姿をT.V等で見受けることが多い。日本ももっと、男女共同参画社会になってほしい。(70 歳以上 ・女)

学校教育及び生涯教育による意識改革が最も重要と考えます。しかし、これによって効果が現れるのには数十年かかります。したがって、教育は進めながら、それとともに今できること(問13や18.21のような)を速やかに行うべきだと考えます。(60 歳代 ・男)

職場でも男性の育児休暇が普通にとれるようになってきていると思います。私は7年前に出雲に来ましたが、地域の中での結びつきが強く、よいことでもありますが、他者をよせつけない感じも同時に感じました。(40 歳代 ・女)

男性の育児休暇をもっと取得しやすくする必要があると思う。会社での暗黙のルールをなくすべき。女性が多い職場での雰囲気はどうにかしたい。(陰口や噂話など)(20 歳代 ・女)

普段の生活で女性故に差別されている、という風を感じる事はないが、妊娠、出産を経ても女性で任う子育ての役割の大きさを感じ、仕事とのバランスで悩む事が多い。またコロナ禍にあり、女性の自死数が増え出生数も減少している。普段表面化していない女性がおかれる立場の弱さが表れ、社会的、労働、経済的に大変な状況におかれている女性が多いのではないかと、心配になる。改めて女性や子どもなど弱い立場、仕事や健康上の問題が生活に直接して立ちゆかなくなるもろい状態を社会全体が支えるフィルターが多い社会であればと思う。(40 歳代 ・女)

・男女共同参画は少しずつ長い時代経過によって向上していくと思う(60 歳代 ・男)

上記の事とは、関係ないですが若い人が、出合いの場がコロナの為全然無くなってしまいました。コロナがおさまってから、なるべく早く、男女の出逢いの場を、つなげてほしいと思います。行政としても、ある程度、積きよ的に、相談の場をもうけてあげてほしいと思います(70 歳以上 ・女)

女性が、女性が、ということは男性差別になるのでは?と思う。女性がという割に、女性だからという言いわけをする人が多い。平等にすると力が弱いというのは理由にならなくなります。できないから給料が少ないという職場はまずいですよね。平等ではない。一生なくならない問題ですが、解消はできると思います。(30 歳代 ・男)

無し (20 歳代 ・男)

男女共同参画制度が始まった頃には、あまり意味も判らない乍らに研修会に参加したものの仕事を持っていたから家族中で家事分担して助けてもらい今考えてみればそれが共同参画今でも夫はゴミ出しと月に二回の破碎ゴミ古紙の片付け責任を持ってやっている一つ気になる事は死亡のお知らせで〇〇さんのご主人とか奥様とか？如何なものでしょう男女共同の活動をしているのであればそこら辺からの修正も必要かと思えます (70 歳以上 ・女)

女性は、子育ての能力に優れており、男性は肉体労働に優位していると思う。組織の管理能力は、女性も男性も同じかも知れないので、もっと女性の議員や、校長や、社長が増えれば、汚職やハラスメントが今より少なくなると思う。戦争や犯罪も少なくなると思う。(60 歳代 ・男)

・小学校から働くことと家庭での役割について学ぶ機会をつくり、男女関係なく役割をこなしていける教育を取り入れてほしい。・性教育において、男女で分かれる必要はなく、みんなが男女の違いを同じように学ぶべき。成人しても女性のことを理解していない男性が多すぎる(生理、妊娠、出産、子育てなど…) (20 歳代 ・女)

今は前頃と比べると男性も育児、家事などにも協力的になってきていると思います。でも、女性(母親)はパート、また学校などから子供の病気などで迎えの連絡が入ると行くのはどうしても女性の方。…仕方のない事かもしれませんが… (60 歳代 ・女)

女性は、生理の時、体調をくずす人もいるので、生理休暇を、とりやすくしてほしい。又、子供が生まれ、ある程度大きくなってくれる 2 才ぐらいまで、育児休業がほしい。小さいうちに、(0 才児) 預けて、働いたが、結局風邪をひき通して勤めきらず、独身の時の職場からやめざるをえなかった。子供が幼稚園ぐらいになって、仕事を探したが、やはり短い労働時間のパートで、現在に至る。年金を考えると厚生年金をかけたかったけれど、それもできなかった。子供の事を考えると、どちらかが家に居る為、長らく、家をあける事も出来なかった。子供も大きくなり、子供たちが就職してはいますが、結婚、子育てになった時、そばで支えてくれる、パートナー以外の人達おじいさん、おばあさんの支えは、大きいと思う。私には、なかったのが、是非子供達の支えになってやりたいと思う。おじいさん、おばあさんの役割も大きいと思う。(50 歳代 ・女)

最後の問 22 がわからない…という答で終わってしまいましたが、健康な体、これこそが大事であってだと思えます。(50 歳代 ・女)

3 年前に結婚し、この夏、第 1 子を出産しました。結婚・出産・育児をする中で、根深い男尊女卑(場合によっては逆もありますが…)の意識を感じる事が何度もありました。特に感じるのは、家制度?なるものがいまだにはびこっていることです。“嫁にもらう”という言葉をはじめ、女を所有物?もの?としてしか思われていないのではと感じてしまうような場面に何度も出くわしとても辛い思いをしました。怖いのは、そういう言葉を、当たり前のように、悪気もなく使っているところです。さも当然のようにそう思っている人を目の前に、何を言っても聞き入れてもらえないと絶望しました。全ての家庭がそうではないことは分かっていますが、島根の多くの地域でまだまだそういった意識が根深く、とても残念です。嫁である私が何を言ってもダメだろうな、と感じましたので、できれば市や県や…家族ではない誰か第三者的な存在から、もうそういう時代ではないと祖父母世代に伝えてほしいです。この問題で苦しんでいる若い親世代は、私の周りにも本当に多くいますし、こういったことのわずらわしさから、結婚や出産を面倒くさがる友人も何人もいます。もっと自由に生きていきたいです。大げさではなく、人権問題だと思います。また、公務員、特に学校の教員の勤務時間についても、真剣に見直すべきです。このままでは、学校の教員は、自分の子どもを満足に育てることはとてもとても厳しいです。(20 歳代 ・女)

男女共同参画社会は、少しずつ進んできているようですが、社会全体を見ると、まだまだ男性の方が優遇されているように感じます。もっともっと、女性が声をあげる場所を増やすようにしてほしいです。幼稚園、保育園などの不足で女性は出産をすると働きたくても働けない人もたくさんいて、男女平等ではないと思います。国や県、市の助けが、一番必要です。配偶者からのDVや、子供へ虐待を相談する場所があっても、自分から(被害者)なかなか相談しにくいこともある。地域のみんで、見守りや近所付き合いが大切だと思う。(60 歳代 ・女)

男女共同参画については(雇用均等法も含め)法律までであるのに、長年効果が見えないように思う。制度は整備されつつあるのかもしれないが、私たちはあまり内容を知らない。そこには”意識”の問題が大きく関わっていると思う。長年働いた職場では、来客があった時、お茶出しに呼ばれるのは若い女性と決まっていたし、家庭でも客の相手をするのは夫、給仕をして話にわり込まないのは女性の私である。日本ではどうしたって(特に地方では)家長制度は残っており、主=男性、雑事=女性の図式はなかなかなくなるならない。育児、家事、介護等、家庭に関わることは女性の仕事という男性は多いが、それらは全然雑事ではなく、仕事との両立はとても難しい。私は育児は実家の母に頼り、家事は一人で、介護はついに早期退職をした。夫の協力は得られなかったが、夫はそれを当然と思っていたようだ。そして、そのことを性による差別とは全く思っていないだろう。男性には多かれ少なかれそのような意識があるのではないか。能力のある人や働ける人が、どんどん社会で活躍できる世になれば出雲市にとっても大きな価値になるだろう。まずはもっと広報をしてほしい。(60 歳代 ・女)

特になし (70 歳以上 ・男)

役所の職員がワークライフバランスをどのように実現させているか模範となる例を示したらいいと思う (20 歳代 ・男)

あまりにも早く、デジタル系の社会へ進化して行く様で「昭和」をなつかしく思うこの頃です。男女の問題でも古き良き習慣もあったはず。でも昔そうだったからこれから先も…では、進歩しないのではないのでしょうか?「個の時代」も大事ですが、協調性のある家庭・自治会・会社・地域であってほしいです。乱筆・乱文でスミマセン… (60 歳代 ・男)

男女高齢者社会に入っている出雲市でも日ごろ何か考える必要に成っていると思います。(70 歳以上 ・男)

私達の世代は女性中心に介護、家事、育児等するのは当然のように育ちました。供働きの今は家族みんなの協力が当然の時代です。小さい頃からの教育も必要ですし、社会の整備が重要だと思います (60 歳代 ・女)

男女の特性、個性を、理解、尊重し、お互いに協力的でありたいと思い、又、そう願っている。(60歳代・女)
性の違いによる役割や果たせる成果は大切にしながら、様々な場面(職場、家庭、地域)において、男女ともに自分の能力が発揮できるとよいと思います。(50歳代・女)

特になし(70歳以上・男)

○趣味の会の役員会(ほぼ60才以上)で、女性が意見を出す事が謙虚さが無いという風潮があった。男尊女卑という日本古来の風潮が物事の根底に今も根強く残っているのでは?と感じます。だからこそ、子供の教育(性教育も含め)の重要性を感じます。(60歳代・女)

よくわかりません。(60歳代・男)

高齢者が多い地域では昔からの風習にこだわる部分、所?がある。若い者の意見は通らない。その中で大事な話は男性が決めるといったような雰囲気があるような気がする。(高齢者の中で)そういった古い考え方を変えていくことが大切なのではないかと思う(40歳代・男)

とくにありません(30歳代・女)

経済的に豊かなくても安心してすごせる出雲市。仕事や時間に追われることなく家庭や地域の子どもたちと十分にふれ合いお互いの存在を認め合い尊重してすごせる出雲市。日本の中でとり残されたとしても出雲市に住んで幸せだと思えるような古めかしさの残っている出雲市でも良いと思う。ゆったりとした時間と空間の中で男女とも同様に権利を主張でき責任・義務を負いながら助け合って生活できる社会ができると良いと感じている。科学の発展・進歩はいくらあっても良いが経済の成長ばかりを追うことがないようにすることが人と人との心を結び、お互いを思いやる心のゆとりをもつことにつながるのではないかと思います。(50歳代・男)

常日頃より男性間、女性間それぞれで難しい問題と向き合い生活を過ごされていることと存じます。また解決に向けて動かれている関係機関の方々も大変な思いをされていることも現状として大きな問題の一つでもあるかと感じます。少しでも良くする為にはやはり、現場の声が一番(生の声)であるかと思えます。少しでも声をあげたい、聞いてほしいと思われる方もたくさんいるかと思うのでまずは生の声をきいてそれを少しでも実現できるよう、マイナスな面とプラスの面の両面から説明、アクションをしていくことができれば見えてくる景色も変わってくるのではと感じます。少しずつできることから一歩ずつ男女平等は厳しくとも何か一つでも男性にとっても女性にとっても自分らしく生活できる社会が送れば素敵だと思えます。(20歳代・男)

子どもを育てることが難しい社会な気がする。職場に子どもを預けておける場所があればいいのに。夫が家事・育児に協力的でない上、理解が足りず言動の心配りが足りないので精神的に参ってしまうという声や経済的に育てるのが難しかったり、勤務時間が長く子どもと一緒にいる時間をあまり取れないという声をよく聞く。保育園に入所できず待機児童も多いと聞く。結婚して子どもを産みたい女性はたくさんいると思うけど今のままでは無理だと思う。男女問わず悩みを相談する所をもっと充実してほしいし知られてほしいと思う。男性にも色々なタイプの人がいるし女性にも色々なタイプの人がいるのでいくつか多様性を認められる社会になればいいと思う(20歳代・女)

・男女に限らず差別偏見が多い地区だと思う。(60歳代・男)

若い世代の時はよいだろうが、年金制度が崩壊しかけているこの時代、高齢となった時に手元に何も無いということになると本当に大変だと思う。結婚する時には男性に未来をたくし一緒に歩んでいても高齢となった時に格差がみられるはず。平等とはいいながらも違いははっきりしていると思っている。離婚後の生活はとて大変で今後高齢者となった時の生活に対しても不安しかない。(男女共同参画)については現代社会この言葉がすでに古いと思う。もっと様々な今の出雲市の市民生活全体から掘り下げて考えてほしい。離婚後の子育ては本当に地域に支えられやってくれたのでそれに対しては本当にありがたく思っています。一人前に育った子供達もそれぞれに社会貢献しています。でも本当に大変で今は子供達だけが家でお金なんてありませんよ。不安しかない。(50歳代・女)

能力のある方は男女関係なく色々な立場で子供達をささえてほしいです。核家族が多い分リタイヤなされた皆様の力を再びためすときと思います。子供達の指導など。農家も体力は衰えたといっても皆様、自分たちに合った作業を今までの経験を生かして70代80代の方々頑張っています。壁は大きくとも男女共同参画はいつも独自案を作って皆んなが能力をためし、発っできる様、うもれている人を引き出して、キラッと光る笑顔が自然と出る街作りのリーダーをまずは育成してほしい!!(60歳代・女)

完全な平等はかえって不便に思う(50歳代・女)

今の時代女性も高学歴となり社会的にも認められつつありますが、まだまだ男性優位な社会にみえます。一部の人が国をも私物化しているような政治の世界にももっと女性が参加し物言える時代になることを望みます。コロナ禍で皆生きていくのに精一杯ではありますがやはり私達一人一人が感心を持って生活をしなければと思います。若者にも期待していますが話合う場があるのでしょうか皆で知恵を出し合いよりよい世の中になりますように祈っております。(70歳以上・女)

社会参加には男性がまだまだ重要視されていると思う。(50歳代・女)

結局、国、県、市それぞれが本気で考え本気で取組まなければ何事も進まない。市民の意見として提案しても、ほぼ何も物事が進んでいない。財政が厳しいのに、民間企業のようにコストカットできない。金がないなら工夫すればいいと思うけど、市長の力がないのでしょうか。男性は男性の役割、女性は女性の役割が古代からあったはず。それを平等にすることは動物として無理があると思う。(その部分については)(50歳代・男)

私は現代に於て女性の晩婚化又結婚感の喪失の方が問題ではないかと危惧しています。特に都会では会社での立場上結婚がなかなか出来ないあるいは結婚生活が面倒臭い、今の自由な立場を満喫したい、その為に会社で働き続けなければならない。その為に社会では男女平等でなければならないと権利を主張している事の方が大きいのではないかと感じています。男女共同参画社会を築いていくにはまず会社、コミュニティー団体などの長がそこで働く1人1人と良く対話し1人1人の意見を大切にしていける、そして結婚、出産、育児に挑もうとする人を一番大切にしていける。今の出産、子育て制度について、我々昔の時代とは並べものにならない程の国や地方自治からの援助があり、本当に恵まれていると思います。その制度を有効的に利用し、社会に戻った時には自然に受け入れ、子育て世代に心を配り、能力主義により男女差別をしないよう長は配慮していく。家庭に於ては男女の特性の違いをお互いに尊重し、感謝し合いながら出来ない事を補い合って助け合って家庭を守り子供を育てて行く。理想論かも知れませんが、1人1人の心の変革、お互いを思いやる気持ちが今の日本人には一番必要と感じています。(60歳代・女)

やはり出産など子供の関係しているところが大きいと思います。子育て等。(30歳代・男)

「男女共同参画社会」の実現を認識するなら今までの男性社会をきちんと清算しこれからの「男女共同参画社会」にするために今までの女性の参画が足らなかった分野に女性を又、男性の参画が足りなかった分野に男性をというのがまともな手順と思うが現実には女性の参画を促すコールばかりのように感じる。男性と同じ目線で全ての仕事をというのが男女共同参画ではない。特別の能力があったり、頑張る人だけではなく普通の男性と同じように普通の女性が評価されることが必要であると思う。(70歳以上・女)

全ての方に対して思いやりの気持ちがあれば自然と優しくなれる世の中になると思っています。(60歳代・女)

女性の方がもっと積極的に社会参加してほしい。(70歳以上・男)

子育てと仕事の両立ができるような働き方改革が社会全体として必要と感じる。(20歳代・女)

日ごろ男女共同参画という言葉がなかなか聞きなれない事があり、今回のアンケートによって考えさせられる事だと思いました。今後、男性・女性関係なくあらゆる分野で活躍できる社会となってほしいです。また、そうなるためにも学校などの教育をもっと取り入れる事を願っています。(30歳代・男)

・男性の育ち方や職業経験により、男性の方が男女平等の意識が育っていないと思われまふ。家庭でも女性の意見や考え方を尊重しカバーしなくても認めて一緒に生活できる男性が増えてほしいと思います。各々の家で男性中心で女性は従ってうまく生活している家もありますが、各家の考え方で良いのなら家の中はうまく行くと思いますが、社会的な場面で男性中心、女性の意見は聞かない社会は平等ではないと思います。学校教育でも男女平等という言葉は習っても実際の平等とは社会全体変わらないと女性の発言や行動は望めないと思います。(70歳以上・女)

問18の欄にも記載したが、市役所職員の質が悪い。“お役所仕事”で困る。市役所に行っても、少しでも時間が過れば知らん顔。市民の為に市役所はあるのではないのか？公務員という立場でえらそうにしている態度が目につく。働き方改革で、残業なしで帰宅しないというのはわかるが、態度があまりにも悪い。それが、他のいろいろな政策対応で出ている。直接迷惑をかぶった事はないが、話を聞くので早急に見直しをしてはどうか？形だけでなく質を高めて欲しい。アンケート等も大切だが、意見をとりまとめる“市役所”が変わらなければ、何もならないと思う。(40歳代・女)

別になし。(40歳代・男)

私の住んでいる町内では葬儀の手伝い等女性はお茶出し、片付けをしています。その中で特に60~70代男性はそれを当り前の様に指示されとても違和感があります。出雲は割と昔ながらの習慣が強く残っていて良いと思う事も多いですが立場的に女性が下に見られ「女のくせに!!」と思われる場面が多い様に思います。時間がかかるかもしれませんが若い世代から今回のテーマの様に男女共同参画について興味を持ってもらえるといいかもしれません。(50歳代・女)

女性が仕事をする時、自分自身で“女性だから”と甘えている人がある限り本当の意味での男女共同参画はできないのではないかと思います。仕事でも社会参加でもまず、自分自身の考え方を変えていく事が大切なのではないでしょうか。仕事も社会参加も男女の差がなくなるのはまだまだ先のような気がします…。(40歳代・女)

特になし(40歳代・男)

義父母(92才と90才)の介護と自分自身の腰痛のため54才で看護師を退職し間もなく丸5年になります。仕事も30年余り出来ましたので自分自身の夢や目標は果たしたのかな~と思います。しかし、まだ59才。もう少し社会の一員として働いてみたいとも思っています。しかし現実にはきびしく嫁として家を守り義父母の介護に専念するしかないのかな?とも思っています。男女平等に社会活動等出来るといいと思う一方で、自分自身も年を重ね体力や気力も減退。今は夫が外で仕事や地域活動等ほとんどやってくれているのでそれはそれで安心かな~と思います。自分自身の年齢や体調、義父母の体調によって気持ちがゆれ動く毎日です。(50歳代・女)

人それぞれ個性がある過度に女性を社会参加させるあるいは過度に女性を擁護する必要はないと思う。まさに男女平等、別けへだてなく能力に応じた社会参加活用であるべきと思う。男性には男性の特性(たとえば体力等)女性には女性の特性(たとえばやさしい等)がある。それまで否定する必要はない。「男らしく」「女らしく」と言う言葉まで否定されるのは何んか変だなあと感じる。(70歳以上・男)

男女が対等な立場でお互いに協力し合い、社会からの支援を受けながら家族としての役割りを果たし、各々の活動が有利にできるようになれば良い(60歳代・男)

男女に関係なく出来る事は夫々がすれば良い(70歳以上・男)

地域・町内等の会合に夫婦共に参加できる雰囲気があると良いと思う。(60歳代・男)

早くこういう事を考えなくても良い時代が来ると良いですね。男女が平等なのが当たり前な時代で、男女が平等になるにはどうすれば良いかなんて考える必要がない時代が来てほしい。(30歳代・男)

改めて質問に回答するという事は、とても勉強(考える)ことが出来ました。(70歳以上・男)

特になし (20 歳代 ・ 男)

DV に関して、当たり前のようにする人は弱い心の持ち主だと思います。弱さから自分より弱いと思う相手にしてしまうのだと思います。「相談して下さい」と言ったところで、そんな勇気もなく、社会では出来る人を演じる人は多いと思います。「被害者を守る」と言いながら結局何もしてもらえないのが現状なのでは？男女共同参画という言葉は毎年耳にしますが一体何がどう変わっているのか…「10 年前はこうだったけど今はここまで変わりました」という事も見えてないような。「女性の働きやすい職場作り」と言いつつ、やはり男性からの理解は薄く、結局受け入れてもらえるには時間がかかると思います。職場環境＝家庭環境になるのでは…。結局は子供の頃の環境が大人になった時にどの様な感情で居られるか、行動が出来るか、だと思います。「きちんとあいさつの出来る人に悪い人はいない」みたいな。(40 歳代 ・ 女)

パートナー (配偶者) が普段から全く家事をしない。私はフルタイムで働きながら、育児＋家事をし、日々不満を感じているが配偶者は、大変そうな姿を見ても、家事育児は女の仕事だと思いこんでいる。自分から男女共同参画の講演会に行くはずもなく、行くような業種でもないの、TV の CM 等誰もが目につく、耳に入るような形で情報を流してほしいと思う。女性が働きやすいよう職場の休暇がもっと取りやすくなるようにしてほしい。有給は 5 日以上はとらないといけないという風になっているが、逆に 5 日しかとってはいけないという空気になっている。せめて 10 日以上、もしくは全てとらないといけない、有給が余ったら買いつけてもらえる等にしてほしい。女性同士のマタハラも実際にある。どういう言動がマタハラにあたるのか、具体的な情報を流してほしい。(30 歳代 ・ 女)

最近出雲市へ転居して来たので当市の状況がまだわかりません。よって十分なご協力ができなくてすみません。(60 歳代 ・ 男)

特になし (20 歳代 ・ 男)

社会の体制整備とともに、学校教育や社会教育 (家庭教育) 等、教育の果たす役割が大きいと思います。(50 歳代 ・ 男)

平等とかどうしたらいいかわからん。自分では気をつけていると思ってるのに、受け取り側からしたら平等でないように感じる。いろんな人間いるから難しい！！(20 歳代 ・ 男)

○男性、女性、ともに、生まれながらの特性があり、役割があります。それを、ひくつになることなく良い意味で認め、家庭、社会で、役割を果たしていくことが、大切であると思います。そのためには、男女おたがいが、おたがいを、尊重し、リスペクトしあう関係性の構築が必要です。これには、生まれた時からの教育が重要です。それが、平等性を常に、持ち、おぎない合う社会が、思やりと優しさに満ちた世の中につながるのではないのでしょうか。また、LGBT についても、特別視せず、個人の役割に目を向け、尊重しあえる、世界になると良いですね。(50 歳代 ・ 女)

「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会」というのは理想であり、大いに賛成だが異性を敵視している人が上に立つとパワハラの問題が発生しやすいため男性、女性それぞれが抱えている問題を相談できる場を整備することが大切と感じる。(50 歳代 ・ 男)

自治会や町内会の役員は男性だらけ。身近なところが何も変わらないのに、社会全体が変わるはずありません。アンケートをとるだけではなく、出雲市がリーダーシップをとって本気で男女共同参画に取り組むべきです。(40 歳代 ・ 男)

汚してすみません。女性の社会参画や DV 対策 (被害者が女性が多いので) は、男性がきちんと理解し、意識していないと変らないと思うのです。女性の活躍推進とか女性が輝くとかの女性が頑張れでは無く、普通に男性も女性もその人らしい生き方が出来る社会になるのが良いと思っています。そのために個々を認めていく政策や教育を推められたらと思います。(60 歳代 ・ 女)

地域、自治会活動等に女性の参画を期待したい。高齢化が進み地区でのお世話係、リーダーとしてまとめ役を引き受ける人が少なくなり、様々な行事など衰退しています。周囲を見れば当地区では元気な女性、積極的に行動して頂ける方がいます。過去にこだわらず皆で良く話し合い、協力する体制を作れば女性がもっと前面に出て頂けると思います。(70 歳以上 ・ 男)

日本は男性中心の社会でしたが近年女性の地位も上がり、女性の出番も多くなりました。なごやかで明るい社会を作るには男性は男性らしく女性は女性らしくお互いの立場を尊敬して助けあって行くことが大切だと思います。(70 歳以上 ・ 女)

特にありません。(70 歳以上 ・ 女)

私は女性の比率が高い職場で働いているため責任者も女性であつたりします。なので、普段は男女共同参画について大きな不満や疑問を抱くことはありません。男性は働くもので女性は家庭を守るものというのは確かに古い考えだと思いますが、仕事も家事も両立できる本能在備わっているのは女性だと学んだことがありますし、個人の自由だと私は考えます。いずれにしても、男性は男性らしさを、女性は女性らしさを常にもって年をとりたいと思います。(30 歳代 ・ 女)

「男女共同参画」「…社会」とはよく聞いておりますが実際この調査書を読み書きしながら自分なりの意見や考えを記入しました男女平等、共同で明かるい出雲市になりますよう願っています。(70 歳以上 ・ 女)

若い方達は夫婦で協力しあい子供出産後に夫の方が育休をとって家庭、子供の世話をするということが少しずつですが浸透してきつつあると思います。しかしまだ地域性というか外に出て仕事、地域のことは男が出てすれば良いという考えがまだ根強く残っていると思います。男女共同参画についての研修会、講演を何度もくり返し行ない考え方を改善できれば良いと思います。(50 歳代 ・ 女)

特にありません。(70 歳以上 ・ 女)

私の職場は、社長は男性ですが、従業員の男女比は、女性の方が多く、仕事の作業面でも、内容の面でも、比較的女性従業員の意見が反映されていると感じています。また、重労働を伴う作業が多いため、その際には、男性従業員を中心に作業を行うなど、男女共に互いの良さを活かせる職場であり、家庭、子どもを持つ女性も十分に働ける環境だと思います。女性従業員のほとんどが既婚者で、小さいお子さんがいらっしゃいます。そのため、保育園の送り迎えの時間や、学校行事などを優先して出勤、退勤時間を調節したり、休みが取りやすくなっています。そのため、小さいお子さんがいらっしゃる方にとってはとても良いと思いますが、その方々の仕事の穴を埋めるのは、私たち未婚の従業員です。ただでさえ労働時間が約 11 時間と長く、その上、お子さんがいらっしゃる方の予定が優先されるため、休みも取りづらい状況です。「結婚したい」「子どもがほしい」という夢がある私にとって、自分の時間がとれない、彼と会う余裕がないという今の状況は、とても不安です。男女共同参画によって女性が仕事と家庭を両立することが実現されている反面未婚の女性が「仕事中心」になり、プライベートがおろそかになってしまうのは元も子ありません。男女だけでなく、「既婚者」も「未婚者」も平等な社会を作っていただければうれしいです。(20 歳代・女)

男性はいつも強きで物事を言ってくると思う。格下に見ている様な感じがする。(30 歳代・女)

家事、育児の負担が女性に大きく片よったままの現状では女性の活躍は限られた人にならざるを得ない。特に子育ての時期の男性の意識改革は必須と思う。一般女性の経験、意見や考え方をもっと取り入れて市の施策に生かす、そして、女性も働きやすい場を作って欲しい。家事や子育てが楽になり働く場が充実してくれば子供の数も増えるのではありませんか。今は仕事の為に、子供を産まない、結婚しないという女性を良く耳にします。男性、女性が協力してより住みやすい出雲市になる事を望んでいます。(70 歳以上・女)

男性側の意識・協力や社会・企業等での支援制度の拡充はもちろんのことであるが、女性の側も社会を支えるために責任ある役割を果たそうという積極的な姿勢を示してもらいたいと思う。多くの場合にしり込みされることが多いのを残念に思う。(70 歳以上・男)

現在の 50 代 - 60 代の男は母親から家事をすることについて教育されていない人達が多いと思いますが世代交替すれば徐々に変わっていくこともあるかと思います。ただ私達世代も男の子に積極的に家事について教えていなかったかもしれません。フルタイムで働き単身赴任もしたりとゆっくりむき合う時間がなかった事もあります。(60 歳代・女)

平等がいいと思いますが、偏見がなくなればいいなと思います。(20 歳代・女)

男女共同参画とは具体的にどういう事をされるのか、よくわからないのですが。まずは広報、周知されるべきではないでしょうか。(60 歳代・男)

特になし(20 歳代・男)

男女共同又男女平等、いつの世に成っても互いの意見を尊重しあえる社会に。(60 歳代・男)

特にありません。(30 歳代・その他)

男性にしか出来ない仕事、女性にしか出来ない仕事もあると思います。自分に都合の良い事ばかりでなく、全体を見て行動する事が大事だと思います。男女で分けるのではなく、お互いにフォローやケアが出来る事が大事で、良い事ばかりでなくお互いの大変な所を知る事が大事で、それを知る事をしない事が問題だと思う。(40 歳代・男)

女性が出産、育児休暇後、ストレスをかかえる事なく職場復帰できる環境を作る事が大事だと思う(50 歳代・男)

男女の平等や男女共同参画等、社会では色々言われておりますが、地方では高齢の方がまだまだ、仕切っておられるので、世代交替が進まないが無理なのかと思ったりもします。(70 歳以上・女)

子育てをする年代の人への対応配慮。仕事をしながらつとめやすい職場環境の充実をはかってほしいものです(60 歳代・女)

男女共同参画について、あまり関心が持てていなかったもので、このアンケートを機にもっと関心を持ちたいと思います。少しでも多くの市民が関心持てるように改善して頂いて、どんな取組みをしているのが分かるようにして頂けたらなと思います。(30 歳代・女)

時間の流れが早くてついて行けなくなり勉強する事が多くなりました。多くの人達が我慢できなくなっているように思います。何事にもけじめを取り自分に自信をつけて前向きに生きて行ってほしい。(70 歳以上・女)

夫は家事、育児に気持ち的には協力的であるが、長時間労働のため“時間”を確保することがそもそも難しい。会社に人員の余裕がなかったりで、社員の“個”を優先させる仕組みづくりがなされていない。子供を育てていくのには日本は女性の負担が大きすぎる。したことはないが介護でもそうなのではないか？と感じているので将来に不安を覚える。私が仕事をもっとしたいと思って子供にさみしい思いをさせてまではしたくない。そうすると、ありがたい姿では全くない。現在は結婚前から勤めている職場で短時間勤務をしながら家事、育児はほとんど自分がしている。夫が“お父さん”をするのはもっぱら夫が休日のみである。そういった面で子育ての難しさを感じている。(30 歳代・女)

そもそも男女共同←この名前が変です。男に生まれようが女に生まれようが自分の幸せのためにあらゆる活動をだれもが行ってよいという権利があるはず。自治体や国は現状の数字をきちんと把握しておられるのでは？(非正規雇用の数字、母・父子家庭の貧困率、女性の年金の額など。) どうしたいのですか？私たちは個人で啓蒙でもできます。権力をもった方々が少しでも憲法に定められた個の尊厳が守られるよう働いて下さい。子どもは 1 人では大きくなれません。愛情をかけるのは大人と周りです。それがきちんとできる環境を作って下さい。(40 歳代・女)

まだまだ男性が優位が根強い地域だと感じています。もっと女性も意見を言いやすく、約束された(守られた)生活が出来ればと思います。相談もしやすい信頼できる場所があって欲しいと思います。(50 歳代・女)

「市の施策に女性の意見が取り入れられているか」等、このアンケートに答えるまで考えたことがなかった。他人事としてとらえず、自分や身近な人の問題として男女共同参画について考えようと思った。会社では男性も育児休暇を取得できることになっているが、実際は100%女性が取得している。制度はあるのに平等に使われていない。意識改革には時間がかかると思う。上に立つ人が積極的に制度を利用すべきである。(40歳代・女)

私は、今二児の父をしています。妻は産休をもらって生活していますが、もうすこし産休手当などをあつくりしていただけたらうれしく思います。友達にも結婚して子どもを作りたいという人がいますがなかなか仕事を休んで子どもを育てるのをためらっているなどの話を聞いたりするので出雲市として子育てをしやすい地域作りをしていただきたい。(20歳代・男)

男女とも高令者になっても家にばかり居なくて色々の企画に参加してお互に交流する事が大切な事と思います。又、親しい友達を作る事に又色々のグループに出掛けて広く交際して行くことが人生の楽しみも元気も出ると思います。(70歳以上・女)

興味、時間的、余裕のある女性が参画出来る場所の啓発、機会を積極的に立案されると良いと思います。(70歳以上・女)

○男性・女性の両方が社会環境の変化に合わせて、自らの考え方・行動・言動を見直していくことが重要と感じている。(70歳以上・男)

男女と区別するのではなく、「人」として、個人の特性や個性で合う仕事、やることを決めていければいいと思う。ただ、私自身も、女性がいつもこうしているから、自分もそうなんだと思うこともあり、小さい頃からの教育が一生の考えに根づくと思う。(30歳代・女)

出雲は家庭でも地域でも男性社会だと思っています。昔からの一と言われ、親、祖父母との同居により直らない慣習のような気がします。(50歳代・女)

性別や年齢に関係なく、多くの人が輝ける社会だと良いと思います。(40歳代・女)

男女共同と言いつつ、今だ、女性の進出が少ない。能力がある女性は、どんどん、活躍すべきであるが、何故か、男性優位である。企業(働く職場)での女性の立場は、依然として、低い水準とされている。子供の頃からの教育等の取り組みも必要と考える。男女間の賃金格差もあると思う。地域においても、自治会長や、社協の会長等々、「オナではだめだ!!」等の声も聞くことがある。一方的に男性が悪いということでもないかもしれない。もっと、自信を持ち、女性も発言したり、問題点を提案し、工夫し、認めてもらうことも必要である。とにかく、田舎は「ひかえめな女性」が好まれる。出すと「やられる、潰される傾向がみられる」男性も、女性も意識を上げていくことが■ ■となっている。しかしこれからの若い世代に期待もしているところである!!(70歳以上・男)

LGBTへの理解。人は人だと思います。マイノリティであるとかないとか、どっちでも良くて、その人はその人。LGBTだからきもちわるいとコトバで聞くのはつらいです。育休・産休制度の充実。職場(over50がほぼ)では産後3ヶ月で働いていたと自慢されます。男性の育休の取り方をもっと広めてほしいです。男女が平等にできることが増えますように。(20歳代・女)

男女共同参画といわれて久しいが、実際はあまりかわっていないように思える。女性も自分からでいていくことにためらいがある。まだまだ女が家のことをするのは当たりまえの考えがはびこっている限りほど遠いと思う(60歳代・女)

リーダー(市長)の考え方が大事リーダーシップが必要。(60歳代・女)

三世代で同居しています。世代間でのズレを感じる事があります。私(嫁の立場)が実母の所へ泊まりに行くという時と姑が「またか」と嫁な顔をします。女は嫁に入ったらもう実家に帰れないというような昔からの考えが根づいているようで悲しくなります。(40歳代・女)

女性の幸福に視点をあて過ぎており、男女の本質的な幸福に対する視点が不足している。問題の因果関係を整理し問題を起こしているシステム構造に対して変革を促すような取り組みが無い。ある施策が別の問題を引き起こすことに無責任だと感じる。システム思考を勉強するべきだ。(30歳代・男)

特になし(60歳代・男)

男女共同参画とか女性の社会参画と言われる時点ですでに女性、男性と区別した考え方だと思います。性別関係なく、その人個人の能力や考え方、状況に合った社会参加(また家庭での役割)をしていけばいいと思います。現時点では古い考え方がまだまだあって不都合なこともたくさんありますが、これからの子供たちは親や社会の新しい考え方を教えて聞かせて体験することで自然と区別のない世の中になるのではないのでしょうか。家庭でも会社でも社会生活の中でも個人々の得意なことを受け持ち分担していけばいいのであって、…すべきとか…らしくとかという考え方は徐々に薄れていくと思います。ハラスメントについては経験がない分勝手なことを言うようですが強い心を持って相手に対しても強い態度を見せることで相手にも変化が期待出来ないのでしょうか?ハラスメントをする人たちは大にして小心者です。最初に強い態度を見せることが大切だと思います。(50歳代・女)

時代の流れと共に変化して来たとは言え、出雲という地域は特に保守的で封建的な部分が残っていて“家庭の事は基本的に女性がして、外の事は男性がする”という考え方が根強くあると思います。女性が社会で活躍するという事に対して男女共に否定的な偏見があり社会参画しづらくしているという事があると思います。私は“女性の方はすごいな”と感心させられる事が多々あります。特に年齢を重ねるにつれて、輝きを増しているのは女性でどちらかと言えば男性は守りに入っている様に感じます。そのパワーを社会活動に活かしてもらえればと思います。しかしながら最終的には女性だから男性だからではなく適材適所という言葉がある様にその人の考え方、能力が重要だと思います。その為にも男女平等であり、男性中心の社会をもう少し女性の方の参画ができる社会であってほしいと思います。(60歳代・男)

男女平等といいながらまだまだ日常生活でも男性が優遇されている事が多々あります。なかなか昔ながら…の考え方の人か減少するとは思えません。(40歳代・女)

男性だから、女性だから、という考え方はもう古いと思う。どちらにも、自由な選択肢があると思うし、男性、女性とはまたちがう LGBTQ の人たちも、すべての人が暮らしやすくなるまち作りや社会を目指していけたらと思う。また普段かかえている悩みや相談しづらいことをオープンに話せる空気、コミュニティ作りは、もっと必要だと思う。家という単位で悩みをかかえているところが多いのではないかと思うし、人に頼るのは迷惑をかける、という思考が社会全体にあると思う。男女共同参画とは話がずれたが、人に助けられながらときには助けながら、家族だけでなく、地域や社会がつながりあっていくことが、多くの人が安心して暮らしていくカギになるのではないかと思う。(20 歳代・女)

以前、意見を言ったら「女のくせして」と返されて、それ以後、会合に出席しても何も言わない様になった。(60 歳代・女)

昔からの悪しき慣習にとらわれずに、時代に合ったやり方を考え、工夫して実行することが大切と思う。(60 歳代・男)

20 代以上の人に男女平等に、女性ばかりに家事をさせるななどと、啓発などしても今さらで、変わらないと思います。やはり、小さい頃から言ってきたり、学校教育での講習会(講演会)が必要だと思います。DVですが、DVを見た子ども達のケアも必要です。自分自身も、父親から母親にDVされているのを小さい頃から見ただけで、DVを受けた人も、もちろん、それを見た子ども達も、すぐに、相談できる場の情報提供が必要。自分の職場は、女性が重いものを持つ、運ぶのがあたりまえで男性は、ほとんどしなくていいという現状。他の職場でもいろいろあると思いますが、言ったところで変わらないですね。個人、企業の考え方なので無理ですね。(無回答・女)

私自身 70 才も過ぎると男女共同参画も大事だとは思いますがなかなかやっつけられる自信もなく参画には参加したくありません。高齢化になりしづらいたくありません!(70 歳以上・女)

男女共同参画は聞いた事はありませんこのアンケートに色々ありますけど私はDVなど経験をしたことはありません私も職人の妻ですので言葉は少し悪いですけどVDをしたことはありません女性も又市政の事もわかりませんですけど私もアンケートにお答が出来ませんが何もわからずに申し訳ありません(70 歳以上・女)

やはり男は外で仕事、女は家庭という意識が強いただそれがダメなのかもよく分からない(40 歳代・男)

職場では、この教育がなされているので男女差別がなくなってきつつあるように思う。が地域・家庭ではまだまだ男尊女卑の社会である。高齢者が昔からの風習を引きつづけているように思う。地域の役職は男性が多い、地域ならず出雲市もそう思う。女性も今までの感覚から「男性に任せておけばいいわ!」という考えが多い。なかなか改革は難しいが、このままだといつまで経っても変わらない。意識改革が必要である。そのためにはこのように刺激を与えてくれる母体が必要である。(70 歳以上・女)

核家族での子育ては、夫婦で協力してという事が男性も自然とわかってくると思うが、とかく同居していると、夫の親がすすんで行くため、なかなか夫の気づきが少ないこともあると思う。そのため、妻が一生懸命に家事をこなしながら、夫が子供に対して関心をしめすためには…と考えると夫のスマホ中心の生活→子供に目を向けてもらうには、子供から父親に対して、関心を持たせるように声かけをしていくことが自然にうまくいくのかな…と感じている。夫に対して、あれこれ思うのではなく、子供と遊び感かくで関わる事が大事なのかな…と思うのです。(40 歳代・女)

個人、家庭によって色んな考えがあるので、好きにすればよい。私は、家庭を守り、育児をしっかりしたいという思いがあり子育て中は、専業主婦だった。田舎では、女性が正社員で働いている家が多く、逆に「何で若いのに働かないのか?」と言う地域の人何人もいて、PTA役員・地域の役員など押しつけられたり逆に専業主婦には生活しにくい地域だと思った。お互いの価値感違うのでそれを、認めあえるといいと思う。しかし、出雲は、かなりきびしいと思います。(50 歳代・女)

出産後の女性が、満足して働いていない。子育てとの両立は難しそう。まだ島根県、特に出雲は、子供にとって祖父母が近くに住んでいるため、他県と比べて、比較的孩子を一時的に預かるなど手伝いがあるため、女性も働きやすさはあると思う。(30 歳代・男)

もっと、いろんな面で市に相談出来る(年寄り、病人、一人暮らしの人達)場所、担当者の人を増やして、本当に生活出来ているのかとか、どうしているのかとか?少しは、気にしてほしい。みんな元気になってそれから男女共同参画でしょう(60 歳代・男)

女性が働きやすい雰囲気職場が増えると良い。結婚、出産(妊娠)などを報告しにくい雰囲気があったりもする。(20 歳代・女)

昔からある古い考えを無くしていく必要がある。そのためには、議会に若い人をもっと取り入れていくべきだと思う。物を教える人だったり人のうえに立つような人が古い考えをもっているとその下にいる人はその考えにしたがうしかないなので、もっと人のうえに立つような人が積極的に改革を目に見える形で行ってほしい。(10 歳代・男)

出雲地区周辺の国際化も進む事もその個人、男女、家庭国際化していく観点も取り込んで議論してほしいと考えます。(50 歳代・男)

性教育は真剣に話づらい話題で、かつ以外と浸透しておらず「分かったつもり」になっていることが多いと思う。(20 歳代・男)

正直市で行なわれている男女共同参画の詳細な内容は把握しているわけではないのですが、まだまだこの地域では女性は女性らしくおとなしくとの概念が根強くあるように思います。この地域の特徴なのか、良きにつけ悪しきにつけ少々逸脱すればうわさ等に悩まされる事もあるのでは?……。一般市民の方が率先しての言動も良いとは思いますが、まずは公的な方々(公職的だった方々)からの言動、助言を頂き導いて頂けたら参画しやすいのではと思います。世代間の考え方の違いもあるでしょうから、改善されるには、かなりの時間(年数)がかかるように思います。少々的是ずれの意見かもしれませんが、日頃思っている事を書かせて頂きました。失礼致しました。(60 歳代・女)

特にありません。(40歳代・女)

これからの時代は、男女平等でないといけない。(社会や家庭や教育現場) (20歳代・男)

男性・女性それぞれの役割について、どのような考え方をするかは個人の自由。ただ社会生活を送る上で、平等にすべきことは、当然平等にすべきで、これは個人の思考とは関係ない。平等をあまりにかかげても、体力的な違い、出産等女性しかできないこともあり、フォローは行政が行えば良い。やりたいことが意識の低さによって妨害されることはあってはいけないと思います。(40歳代・女)

どちらが出ても良いと思う。その時の仕事、会議内様におうじて男でも女でも良い。(70歳以上・女)

年々、家庭でも社会でも男女の平等性を感じれるようになってきていると思います。(30歳代・女)

男女共同参画の会議をされている人々にみりよくを感じない差別を生ませないためには啓発活動をして人々の思考は変わらない。他人に対してどのように接する事ができて、何が答えであるのかどうすればよろこばれるのかを教えるには子供の時しかないと思う。大人になって固まった思考を変えるのはむづかしい。教育の中で、差別という発想がない接し方をあたり前のように伝える事ができているのでしょうか？規則ばかりの教育、きょうそう、など。DVなどの相談窓口の人々が被害者をより傷つけているパターンもあります。社会全体としてのメンタルサポートをプロに依頼しない限り、一時しのぎの行動では。むだな経費と時間をつかってしまうだけだと思います。あるていど教育されたプロが集団で取り組まないと根本的な解決にむすびつかないと思います。形式ではなくて、暮らしの見直しが必要。生き方、食べ物、生活環境など。(40歳代・女)

女性が仕事をするためには協力者が必要です。以前は親との同居がありましたが、最近は核家族となってきたため男性も必然的に家事を分担するようになり女性も仕事を続けられています。私は現在70才代に入っています。女性が家を守り、男性が外にでて働くというのを子供の頃から見てきた私には多少違和感を持っています。しかし女性、男性どちらでも能力に合ったことを選択することは、今この社会の中でとても必要で大事なことではないかと感じています。(70歳以上・女)

出雲市では男女共同参画に関する市民意識は低いと思われる。特に私の住んでいる農村(専業農業、ブドウ、花卉、野菜)は農家が多く高令者が町内会等に出席が多く、古い習慣、しきたりが抜けられず若い世代がやりにくい事、改善したい事がなかなか出来かねている。会合等は男性の出席で女性はほとんど出ない。家庭、地域での世代交代が出来ていない現状である。良い事は継続し、改善すべき事は、したいと若い世代が思ってもなかなか出来かねている現状である。そんな中での男女共同参画は、地域、町内の中では、とても無理な現状であるように思われる。(70歳以上・女)

なし(40歳代・男)

最近はいつ頃から制度が変わって男女差別なしですか？それ以来、それぞれの場でみなさんが、頑張っておられる様に見受けます。只、その中での実態では、スムーズに受け入れられているかどうかは気になります。本当にみんなが、気持ち良く、進んで行く上で1人々が相手の立場を考えられれば良いですね。(60歳代・女)

前職は建設業で、男性社会だった。今は、小売業だが、こちらは、女性が多く働いている。現在の仕事では女性の意見は、かなり多く取り入れられている。職種の中では、女性が、入り易い業種もあり、今ひとつ難かしいようにも感じている。(60歳代・男)

男性優位という古い考え方が残っている地域性やまた狭い地域では人の目を気にしたり行動できにくい事はまだまだ改善されにくい事だと感じます。特に家庭の中でも、男女平等という事を知識としては十分知っていても本人の考えはまた別でありまだ女性を自分の支配下に置くという考えは現実的には変わらず無理だと思います。外面と内面の差が大きい人だと理解されにくい点もあります。(60歳代・女)

古い慣習にとらわれず女性の多様な視点での考え方を重視し、地元の自治会をはじめ地方公共団体も女性幹部をどんどん登用したが今の時代にあっている。男社会では小児化問題の声を上げているが、本気に考えていない。人口増加こそ経済発展の元である。若物が案心して子育てできる社会を作るべきです。例えば義務教育卒業まで医療をはじめ孝育費を無料にし、若物家庭の援助をする。何分若物は給料が安く子供を育てるは無理たという意見を会社に勤務時複数人から聞いた。私も退職後、洗濯、洗濯干し等家事の一部を毎日行っている。但し、ごみの分別と搬出は以前から行なっていて我家では「ごみ大臣」と呼ばれている。(60歳代・男)

アンケートを記入するにあたり、改めて日頃から無関心でいたことを痛感し、反省しました。言葉は聞いていて知ったつもりでも意味をきちんと理解していなかったりわかったつもりがそうではなかった等々思い知らされました。行政からはいろいろな形で発信されていますが、それを自分の事としてとらえずに聞き流したり見なかったりしていたように思います。もっと関心を持たなければと思いました。責任逃れのように恐縮ですが、これから次世代を担う方々にもっと関心を寄せていただけたらと思います。(70歳以上・女)

なし(50歳代・男)

特になし(30歳代・男)

女性が家で家事をし男性が外で仕事をしお金を稼ぐという考えがなくなり得意な方やどちらかでき方がやるとう考えが一般的になるとよいと思っております。(30歳代・女)

男女は平等であるべきと常に思っている。男だから、女だから、男なのに女なのという言葉は意識して使わないようにしている。社会では男性が役職についていることが多い。それでも有能であれば女性も重要なポストに就く機会は以前に比べると増えてきていると思う。自分もそうなのだが、家庭があるとそちらを優先してしまう。特に子どものことが最優先になってしまう。夫は仕事が忙しく手伝ってはくれるけれども任せることはできない状態であった。下の子が10才になるまでは専業主婦であった。以前、他県で教職に就いていたことがあったので島根県の非常勤講師をさせてもらっているが、家庭との両立を考えると常勤は難しいと思うこの頃である。(時間的にも体力的にも)

そういえば先日、「1982年生まれキム・ジョン」という韓国映画を観た。自分より若い世代の話であったが、あまり環境としては変わっていないのだなと感じた（外国映画ではあったが…）（50歳代・女）

女性活躍という言葉あまり好きではありません。女性が働きやすい環境をつくるというのはいいことだと思いますが言葉だけみると、女性は、何もしてこなかった、もっと活躍せよと、言われているようでなんかすっきりしません。女性の視点というのもよくわかりません。私の視点であって、女性の代表でも何でもありません。LGBTの人もいるので男女共同参画という言い方も変わってくるかも。世の中男と女だけじゃない。みんなが暮らしやすい世の中になるといいと思います（50歳代・女）

子育てに関してだと男性は仕事をしているので育児はあまりしないという考えがあると感じる。仕事をしているので育児をしないという考えを改めて、どちらもやるという考えをもつことが大切だと思う。（30歳代・男）

男女共同参画といい、職場において、女性に役職がつくことが多くなってきました。それに伴い仕事量も増え、勤務時間も増加しました。しかしながら、家庭での担う役割はかわらないように思います。もう少し、男性も家庭のこと、介護のことを自分のこととしてとらえてくれれば、女性が外で働きやすいと思います。（30歳代・女）

特になし（50歳代・女）

母親（妻）がしている家事・育事を父親（夫）が”手伝う”という認識でいることが理解できない。イクメンという言葉が一時期流行っていたが、正直男尊女卑な言葉だなと思った。育事をしている男性はほめられて女性あたりまえ2人の子どもじゃないの？女性だけが育てる側にまわるのおかしくない？と思う。自分は独身なので自身にそういう経験ないですし引っ越して半年も経ってないので出雲がどうか分かりませんが男女が平等で協力し合い思いやれる街であってほしいですね。（20歳代・女）

年れいが上にいくにつれ、理解してくれないイメージがある。上司にあたる50代くらいの人たちを対象にした、説明会をひらいたらどうか。（20歳代・女）

家事もですが、特に介護は家に居る女性がするものだと思うがちだと思います。家庭によって色々だとは思いますが、男性は仕事で時間が無ければ、せめて労いの言葉だけでも介護者にかけてほしいと思います。（60歳代・女）

男女平等は正直よく分かりません。私自身の上司も女性で、女性がトップにいる環境にいることが多いです。男、女という区別でなく、その人らしさが活かせる社会であるといいなと思っています。（30歳代・女）

仕事、育児、家事、介護を男女一緒に担うことで補い合える社会を実現を目指して頂きたい。（30歳代・男）

性別によって「こうあるべき」という考えが根強くあると思うので男女平等という本来あたり前のことを実現するには道のりは長いと思います。とはいっても、世の中は少しずつ動いているので若い世代は間違った認識をもたない、シニア世代は自分の中の偏った固定概念を自覚して自分になかった考えや認識を認めて理解するのが第一歩だと思います。様々な人（性別、外見、内面、etc）がいることを認めて理解し、それぞれが働きやすく生活しやすく生きていきやすい世の中になればと思います。パートナーシップ制度の導入も希望しています。（20歳代・女）
